

ISSN 0910-7282

大阪府立図書館紀要

第45号

2017年3月

Bulletin of Osaka Prefectural Library No.45

大阪府立中之島図書館

大阪府立中央図書館

目 次

大阪府立中央図書館 蔵書評価（報告）	中央図書館 資料情報課	P 1
大阪府立中央図書館の20年	吉川 逸子	P 54
「図書館を学ぶ相互講座」の歩み（年表）	藤井 兼芳 志保田 務	P 70
大坂水帳所在目録 平成28年7月1日現在	梶原 修	P 83
翻刻『大阪御城代勤行』（一）	佐藤 敏江 小笠原弘之 北川 敬子 上村 厚貴 苗村 昌世 八木 美恵 日置 将之 山田 瑞穂	P 139
翻刻『大阪城代勤方條々記』（一）	佐藤 敏江 八木 美恵	一頁
編集後記		

大阪府立中央図書館 蔵書評価（報告）

平成 28 年 3 月

中央図書館 資料情報課

はじめに

大阪府立図書館（以下「府立図書館」）は、府域の図書館ネットワークの核として、広域のかつ総合的な視点から府民と資料・情報をつなぎ、府民の“知りたい”という気持ちにこたえ、“学びたい”という意欲を育み、豊かで活気あるくらしと大阪における新たな知識と文化の創造に寄与すること、という「使命」の下に 5 つの基本方針を掲げ、その<基本方針 2>を、

大阪府立図書館は、幅広い資料の収集・保存に努め、すべての府民が正確な情報・知識を得られるようサポートします。

としている。すなわち蔵書構築がサービスの基盤であるという認識のもと、資料収集方針に基づき、府域の中核的図書館として府民への直接サービスを行うとともに、府域市町村立図書館のバックアップのための資料収集および蔵書構築に取り組んできたところである。

この蔵書構築の取組みを評価するものとして、来館者アンケートによる「蔵書満足度」を指標のひとつとして用いているが、府域図書館のバックアップといった府立図書館固有の役割を反映した蔵書評価としては、これだけでは十分とは言えない。そこで、平成 25 年度から 27 年度にかけての大阪府立図書館第二期活動評価の中で蔵書評価に取り組むこととし、大阪府立中央図書館（以下「中央図書館」）の蔵書について多角的に検討し、分析を行った。本報告は、主に平成 26 年度・27 年度にかけて行った調査・分析を報告するものである。

本報告は、1. 蔵書の概要 2. 受入図書分析 3. 利用状況分析 4. 分野ごとの資料評価の 4 部で構成されている。

1 では中央図書館所蔵資料の特徴（傾向）および評価の前提となる現状を概観するため、平成 8 年の中央図書館開館時と平成 26 年度末の蔵書冊数を確認し（1.1）、他府県立図書館との蔵書構成の比較（1.2）や、国立国会図書館レファレンス協同データベースで公開されている参考資料と中央図書館所蔵状況との比較分析（1.3）を行った。

2 では平成 24 年度～26 年度に受け入れた日本語図書（児童書を除く）の特徴（傾向）を確認するため、購入分（2.1）と寄贈分（2.2）の別に分析するとともに、平成 26 年度に購入した図書について府内市立図書館 5 館との比較分析を行った（2.3）。

3 では利用状況の分析として、出版年からみた中央図書館における貸出図書の分析（3.1）、中央図書館で受け入れた資料の平成 23 年度～25 年度の累積貸出回数による分析（3.2）、複写利用状況の分析（3.3）を行った。

さらに4では、収集資料の質的評価を行うため、「法情報」分野の外部リストとの比較による所蔵資料調査および外部有識者による評価（4.1）、および「医療情報」分野における外部リストや他館作成パスファインダーとの比較による所蔵資料調査および外部有識者による評価（4.2）を実施した。

【内容】

はじめに

1. 蔵書の概要

1.1 中央図書館の蔵書について

1.2 他府県との比較からみた蔵書の現況（平成25年度）

（1）分類別所蔵冊数

（2）受入図書に占める購入と寄贈の割合

1.3 参考資料の所蔵状況

2. 受入図書の分析

2.1 購入図書の分析（平成24年度～26年度）

（1）購入冊数・価格と出版点数・価格の比較（全体）

（2）購入冊数・価格と出版点数・価格の比較（分類別）

2.2 寄贈図書の分析（平成24年度～26年度）

（1）寄贈図書の割合と流通形態

（2）寄贈者の分析

2.3 府内市立図書館における購入図書との比較（平成26年度）

（1）府立図書館と市立図書館の購入図書の比較

（2）府立図書館と市立図書館で重複購入している図書

3. 利用状況の分析

3.1 出版年からみた貸出図書の分析

3.2 累積貸出回数による分析（平成23年度～25年度）

（1）貸出回数0回の分類内訳

（2）購入年度別 貸出回数別の冊数（帯出区分が「貸出可」の資料）

3.3 複写利用状況の分析（平成27年度上半期）

4. 分野ごとの資料評価

4.1 法情報分野の資料評価

（1）「法律図書総目録2014」掲載図書の所蔵調査

（2）外部有識者による評価

4.2 医療情報分野の資料評価

（1）外部で作成された資料リストによる蔵書分析

（2）外部有識者による評価

おわりに

1. 蔵書の概要

1.1 中央図書館の蔵書について

中央図書館は、大阪府立中之島図書館（以下「中之島図書館」）旧蔵書約 49 万冊、大阪府立夕陽丘図書館旧蔵書約 58 万冊の合計約 107 万冊の蔵書を受け継いで平成 8 年 5 月に開館した。開館 19 年後の平成 27 年 3 月末現在の蔵書は、一般図書約 183 万冊、児童書約 15 万冊の合計約 198 万冊となっている。19 年間の増加率はおよそ 185%である。

これは、中央図書館が資料保存機能と府城市町村図書館支援機能を重視するという収集方針に沿って、図書は基本的に永年保存として収集に努めてきたことによるものである。

なおこの数字には、平成 22 年度に吹田から中央図書館に移転した国際児童文学館の蔵書は含まない（以下、本報告を通して同様である）。（【表 1】参照）

【表 1】

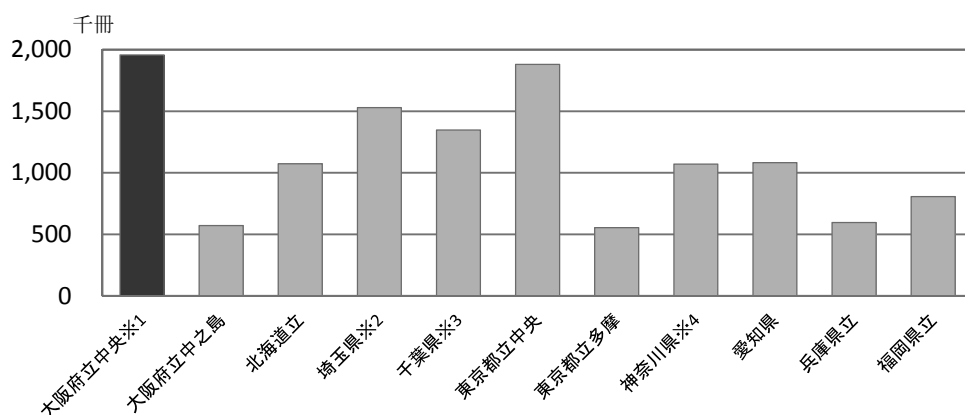
* 概数（単位：冊）

	平成8年5月(a)	平成25年3月末	平成26年3月末	平成27年3月末(b)	増加率(b/a)
一般図書	1,000,000	1,780,000	1,810,000	1,830,000	183%
児童書	70,000	142,000	147,000	150,000	214%
計	1,070,000	1,922,000	1,957,000	1,980,000	185%

1.2 他府県との比較からみた蔵書の現況（平成 25 年度）

平成 26 年 3 月 31 日現在の蔵書数は、1,957,349 冊であり、1 館あたりの蔵書数としては、全国の都道府県立図書館中で最多である。また都道府県としても、府立図書館の蔵書はもう 1 館の中之島図書館と合わせて 2,583,000 冊で、東京都立図書館の 2 館合計 2,435,000 冊を上回り、全国 1 位となっている。

【グラフ 1】人口 500 万以上の府県立図書館蔵書冊数（平成 26 年 3 月 31 日現在）



* 『日本の図書館 2014』（日本図書館協会）より

※1 大阪府立中央は、国際児童文学館を除く ※2 埼玉県は浦和、熊谷、久喜の県立 3 館合計

※3 千葉県は中央、西部、東部の県立 3 館合計 ※4 神奈川県は、県立、県立川崎の 2 館合計

他の府県立図書館と比較した中央図書館の蔵書の特徴を、いくつかの観点から確認する。

(1) 分類別所蔵冊数

人口 500 万以上の府県立図書館における分類別所蔵冊数は、表 2 のとおりである。

- ・府立図書館は、全分野を扱う中央図書館に対し、中之島図書館はビジネス支援、大阪資料・古典籍に特化しており、その分担が分類別割合に表れている。
- ・分担収集を行っている東京都立多摩、神奈川県立川崎は所蔵分類に顕著な特徴が現れているほか、大阪府立中央は他館に比べてやや 3 類が多いことが分かる。

【表 2】人口 500 万以上の府県立図書館の蔵書冊数（分類別）平成 26 年 3 月 31 日現在

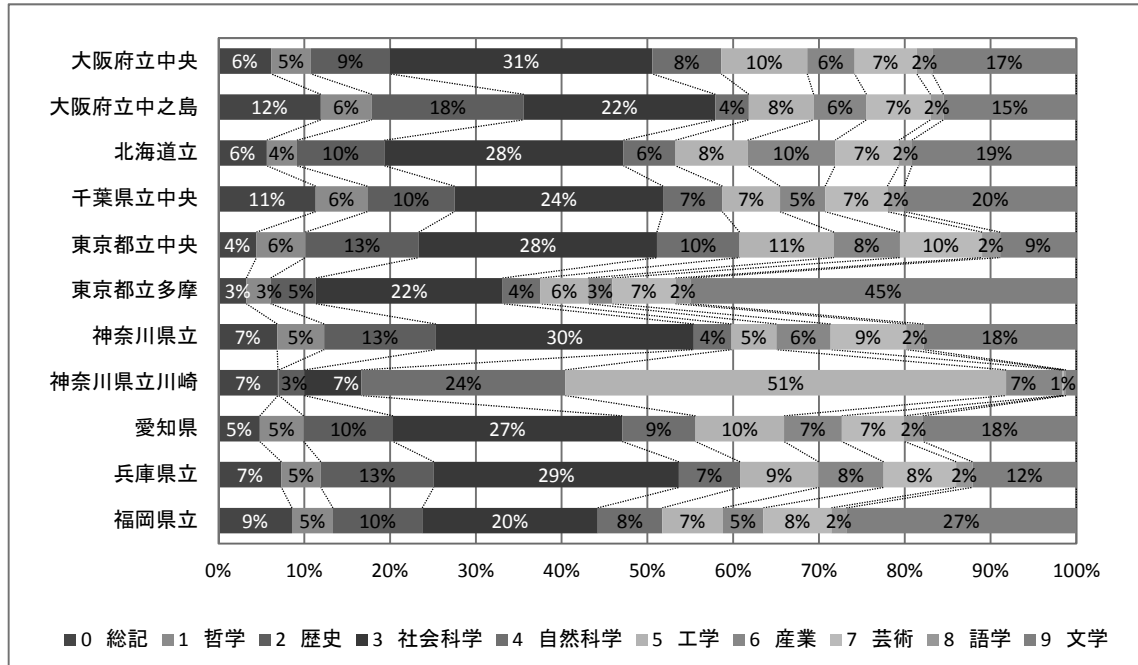
	大阪府立 中央	大阪府立 中之島	北海道立	千葉県立 中央	東京都立 中央	東京都立 多摩
0 総記	104,007	56,498	55,002	73,272	52,539	9,736
1 哲学	78,162	28,211	34,203	39,097	67,444	8,482
2 歴史	155,816	83,902	99,553	65,697	157,001	15,720
3 社会科学	516,877	105,833	271,964	157,205	329,372	65,088
4 自然科学	135,960	18,528	59,209	44,770	114,038	13,160
5 工学	169,417	35,826	82,147	43,483	130,520	16,714
6 産業	93,177	29,156	99,454	34,017	91,196	8,319
7 芸術	122,649	35,346	72,600	47,040	113,592	22,092
8 語学	30,445	7,192	14,760	12,651	24,951	5,146
9 文学	283,919	73,365	187,026	129,778	105,451	134,520
合計	1,690,429	473,857	975,918	647,010	1,186,104	298,977

	神奈川県立	神奈川県立川崎	愛知県	兵庫県立	福岡県立
0 総記	40,330	15,053	50,325	43,760	62,155
1 哲学	32,128	292	53,663	27,373	34,746
2 歴史	76,635	6,407	108,920	78,493	75,517
3 社会科学	176,778	14,447	279,333	170,300	148,347
4 自然科学	25,873	51,718	89,504	42,549	54,574
5 工学	30,647	111,684	107,980	54,541	51,316
6 産業	37,220	14,326	70,461	45,125	34,217
7 芸術	51,843	328	76,400	50,421	57,626
8 語学	11,848	536	22,227	11,336	12,576
9 文学	104,775	2,626	187,287	72,224	194,569
合計	588,077	217,417	1,046,100	596,122	725,643

*各館「要覧」「事業概要」より作成。児童書、郷土資料、雑誌など、館によって分類別冊数に含まれないカテゴリが存在するため、表の合計欄の数値と全蔵書数とは一致しない。東京都立（中央・多摩）は、日本語一般書の冊数（外国語図書を含まない）。人口 500 万人以上の都道府県のうち、埼玉県立は、

分類別所蔵冊数が示されていないため表に含めていない。

【グラフ 2】人口 500 万以上の府県立図書館蔵書冊数の分類別割合



※データは【表 2】による

(2) 受入図書に占める購入と寄贈の割合

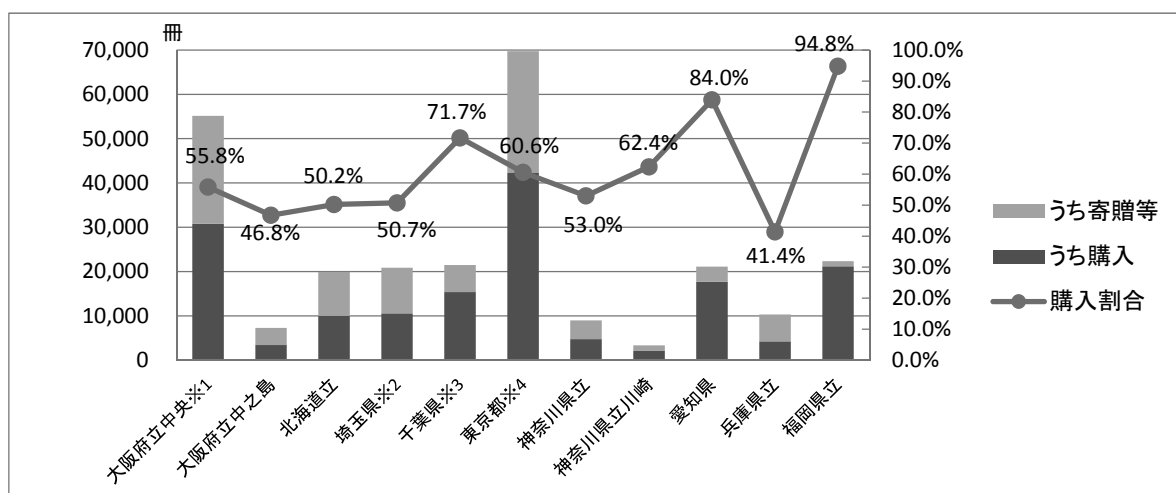
人口 500 万以上の府県立図書館における平成 26 年度受入図書に占める「購入」と「寄贈等」の割合は、【グラフ 3】のとおりである。「日本の図書館」調査項目は「受入冊数」「うち購入」の 2 項目であるため、購入以外の受入を寄贈等によるものと仮定した。

受入冊数に占める購入冊数の割合は、50%台の館が 4 館（大阪府立中央、北海道立、埼玉県、神奈川県立）と最も多いが、兵庫県立の 41.4%から福岡県立の 94.8%までかなり幅があることがわかる。上記の中では大阪府立中央の購入割合はちょうど中間に位置している。

一方、寄贈等による受入実数を比較すると、大阪府立中央（24,356 冊）は東京都立 2 館合計（27,505 冊）に次いで第 2 位、大阪府立 2 館合計（28,245 冊）では全国第 1 位となっている。

単年度の比較ではあるが、中央図書館の購入割合は年度毎にさほど大きな変動はないため、中央図書館の蔵書規模が大きいのは、購入のみならず寄贈等の受入の多さにもよることが分かる。

【グラフ3】人口500万以上の府県立図書館受入図書に占める購入割合（平成25年度）



* 『日本の図書館 2014』（日本図書館協会）より

※1 大阪府立中央は、国際児童文学館を除く ※2 埼玉県は浦和、熊谷、久喜の県立3館合計

※3 千葉県は中央、西部、東部の県立3館合計 ※4 東京都は、中央、多摩の2館合計

1.3 参考資料の所蔵状況

蔵書評価について大阪府立図書館協議会活動評価部会の委員から、「中央図書館の参考資料の所蔵状況を、他館のレファレンス事例で使用されている参考資料と比較してみることも、中央図書館の現在の客観的な「位置」を確認するための一つの方法ではないか？」とのアドバイスを頂いた。そこで、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」から7都道県立図書館計10館の事例の参考資料を抜き出し、中央図書館の所蔵と比較分析を行った。

【表3】レファレンス事例数・のべ資料数（平成27年10月現在）

事例作成館	レファレンス事例数	のべ資料数	
愛知県	20	109	* 事例作成日： 平成22年4月1日 ～平成27年3月31日
神奈川県立	142	773	
神奈川県立川崎	101	354	* 内容種別： 「郷土」以外すべて
千葉県立西部	28	98	
千葉県立中央	193	791	
千葉県立東部	45	173	
東京都立中央	67	335	
福岡県立	364	1,592	* 「参考資料(Reference materials)」欄が空欄の場合は、「回答(Answer)」の中から資料名を抜き出した。
兵庫県立	1	12	
北海道立	188	1,127	
合計	1,149	5,364	

本項では【表3】のべ資料数5,364のうち、ISBNが判明し重複を削除した2,491タイトルを調査対象とした。(回答内にISBNの記載がない場合、事例作成館OPACや各種データベースによりISBNを確認した。)

① 調査方法と結果

- i 調査対象資料2,491タイトルのISBNを中央図書館所蔵データと機械的に突合した結果、同一ISBNの図書2,015冊(80.9%)を所蔵。(【表4】A)
 - ii iで同一ISBN資料の所蔵がなかったものについて、ISBN以外の条件で所蔵調査をしたところ、
 - ・ISBNの誤植または書誌データにISBNの記載なし
 - ・販売品(ISBNあり)と非流通品(ISBNなしまたは異ISBN)の違い
 など、ISBNは不一致だが同一内容の図書を35冊(1.4%)所蔵。(【表4】B)
 - iii ISBNは異なるが同内容の元版を64冊(2.6%)所蔵、異なる出版者等から発行された異版を6冊(0.2%)所蔵。(【表4】C,D)
- i、ii、iii合計で2,120冊(85.1%)を所蔵していることが分かった。

【表4】所蔵調査結果一覧

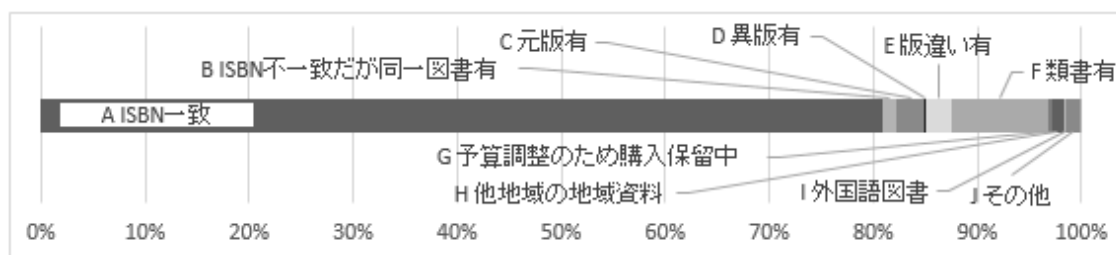
		冊数	割合	内容の同一性
A	ISBN一致	2,015	80.9%	○
B	ISBN不一致だが同一図書有	35	1.4%	○
C	元版有	64	2.6%	○
D	異版有	6	0.2%	○
小計(A-D)		2,120	85.1%	
E	版違い有	59	2.4%	△
F	類書有	231	9.3%	△
小計(A-F)		2,410	96.7%	
G	予算調整のため購入保留中	9	0.4%	
H	他地域の地域資料	29	1.2%	
I	外国語図書	5	0.2%	
J	その他	33	1.3%	
K	中之島図書館に有(元版、版違い含む)	5	0.2%	○(△)
合計(A-K)		2,491	100.0%	

【表4】具体例および解説

- B: 『漁業センサス』(販売分出版者は農林統計協会、非流通分出版者は農林水産省大臣官房統計部)
- C: 『安政江戸地震災害誌』(佐山守著 海路書院 2004刊)は、東京都総務局行政部 1973年刊初版を所蔵。
- D: 『樞ノ木は残った』上巻 山本周五郎著 新潮社 1989刊は、同出版者『山本周五郎全集』1982刊『山本周五郎長篇小説全集』2009刊のほか、出版者違いのものも所蔵。

- E: 『地球の歩き方リゾート 317』(地球の歩き方編集室 // 編集ダイヤモンド・ビッグ社 2004 刊) は、2002、2006 刊と、シリーズ番号変更後の 2012 刊を所蔵。
- F: 『日本童謡唱歌大系全 6 巻』(東京書籍 1997 刊) は、類書の『童謡唱歌名曲全集全 10 巻』(名著出版 1989 刊) を所蔵。
- G: 『日系移民資料集 第 4 期』(日本図書センター) は第 2 期まで購入済
- H: 郷土レファレンスは調査対象から除外したが、地域性の高い事例が一般事例として登録されていた。
(『迷ったときの医者選び福岡』(南々社 広島 2003 刊) 『北海道教育雑誌』(北海道教育委員会) など)
- I: 外国語図書 5 点のうち 1 点は、事例作成館でも未所蔵のため、国立国会図書館の所蔵を紹介。
- J: 『学研ハイベスト教科事典』(学研 2010 刊)、『小学生のための読解力をつける「読書紹介文」ノート』(書き込み式: 中島克治著 小学館 2010 刊) など学習参考書、書き込み式ワークブック等、中央図書館では収集対象外の資料を含む。

【グラフ 4】所蔵調査結果一覧



※データは【表 4】による

② 調査結果の分析

分析の結果をみると、ISBN が一致する資料で約 80%、ISBN が一致しなくても版違いや類書等、内容的にカバーできると考えられる資料まで含めると、他館のレファレンス事例で引用されていた資料の約 97%を中央図書館で所蔵しており、他館と比較しても十分な参考資料を所蔵していると考えられる。

今回は、機械的に書誌同定するための条件として、最も共通する可能性の高い ISBN を用いたが、ISBN が付いている図書であってもレファレンス事例の回答に ISBN が記載されていないものが散見された。そこでまず、抜き出した参考資料の ISBN を調査したが、各事例作成館の目録方法の違いなどにより、書誌同定が難しいケースがあり、相当の調査時間を必要とした。ISBN 導入前の刊行物や、出版年が新しくても ISBN の付与されていないものも多数あり、所蔵調査や資料同定の難しさが改めて浮き彫りになった。

他館の事例で引用されていた資料のうち未所蔵の資料が一部あったが、「ある特定の資料を所蔵していないこと」が必ずしも当該質問に対して「中央図書館で回答不能」となるわけではないことにも留意する必要がある。

たとえば、中央図書館では収集対象外である学習参考書が他館の回答の中で用いられた事例に、「児童書で、旧かなづかいと現代かなづかいの違いについて書かれている本はあるか。」という質問があった。回答であげられた6タイトルのうち、中央図書館では、学習参考書『学研ハイベスト教科事典』を除く5タイトルを所蔵しており、この5タイトルにより一定の回答が可能であることが確認できた。

このほか、楽譜や歌詞に関する調査相談については、回答の多くがウェブサイト「楽譜ネット」を参照し、該当の情報が掲載されている資料名を特定したのち、自館で所蔵していない場合は他館の所蔵を紹介している。また、「特定の主題の小説にどのようなものがあるか」といった質問の場合、事例作成館で所蔵しているかどうかは、必ずしも焦点ではないため、質問者の意図を汲み、資料名リストを回答する際には、事例作成館で未所蔵の資料も含まれることもあり得る。例えば中央図書館が未所蔵の資料を用いて回答されていた、「お菓子が大事な要素として登場する小説を紹介してほしい。」という質問に対しては、事例作成館と同様の資料名リストの作成が可能である。

また質問によっては、事例作成館では未所蔵のため回答に使用されなかった資料を中央図書館では所蔵しており、回答可能という可能性もあることを考えると、中央図書館は回答に必要な参考資料をほぼ遜色なく所蔵していると言えるであろう。

2. 受入図書の分析

2.1 購入図書の分析（平成 24 年度～26 年度）

近年受け入れた資料について検証するため、平成 24 年度～26 年度に中央図書館で購入した日本語一般図書（児童書を除く日本語図書）について分析を行った。

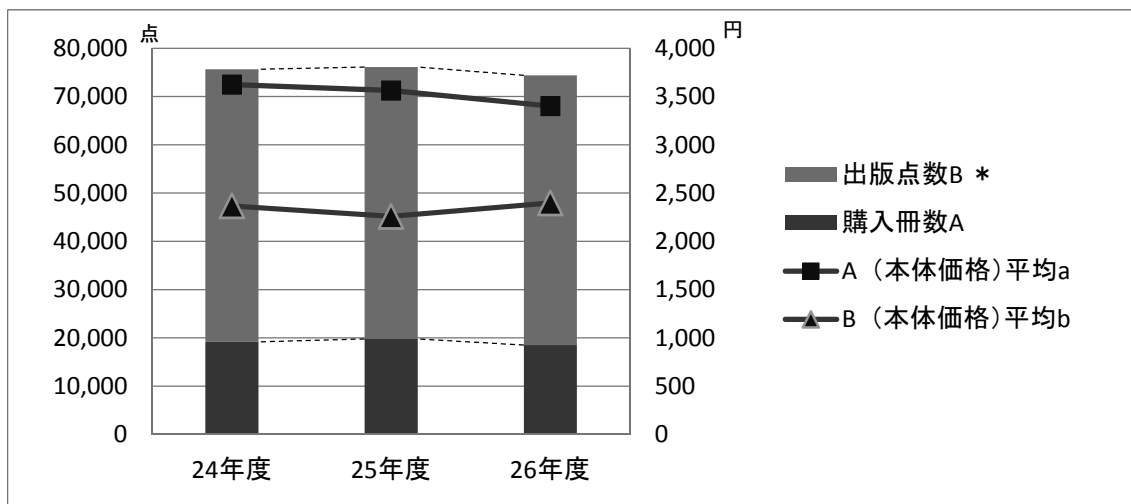
（1）購入冊数・価格と出版点数・価格の比較（全体）

【表 5】平成 24-26 年度に中央図書館で購入した日本語一般図書

	24 年度	25 年度	26 年度
購入冊数（冊） A	19,178	19,783	18,513
本体価格 合計（円）	69,487,320	70,465,195	62,954,289
本体価格 平均（円） a	3,623	3,562	3,401
a の指数 (H24=1)	1.00	0.98	0.94
出版点数（点） B *	75,643	76,097	74,381
本体価格 平均（円） b	2,367	2,258	2,397
b の指数 (H24=1)	1.00	0.95	1.01
a/b	1.53	1.58	1.42
新刊カバー率 (A/B)	25.4%	26.0%	24.9%

* 出版点数 B、平均価格 b は『出版年鑑 2015』より。B は児童書・学習参考書を除く。

【グラフ 5】平成 24-26 年度に中央図書館で購入した日本語一般図書



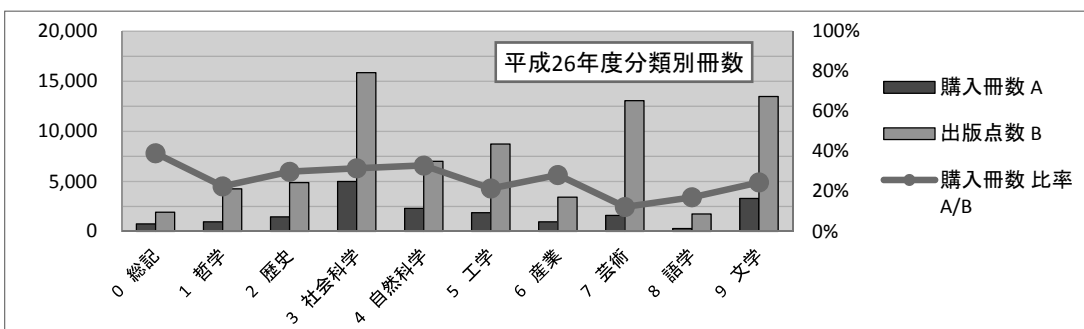
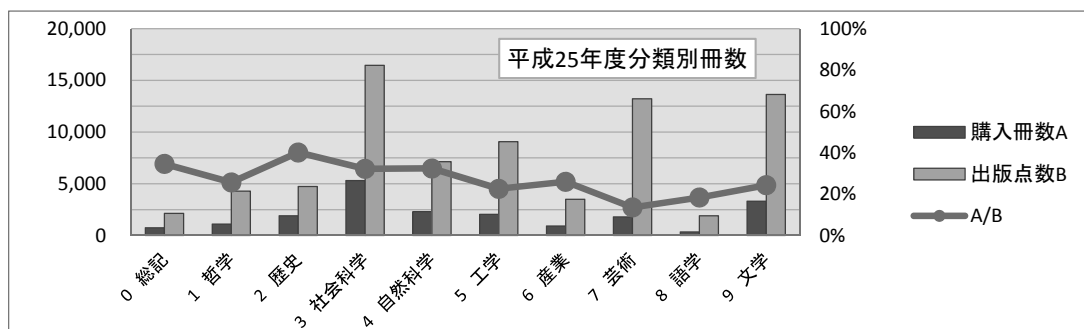
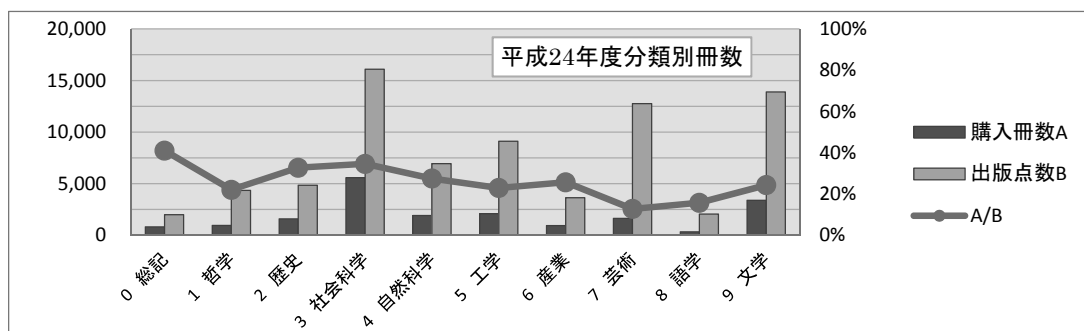
- ・平成 24～26 年度の（児童書・学習参考書を除く）出版点数 B は、平成 25 年度をピークに 24 年度、26 年度の順に少ないが、平均本体価格 b は逆に平成 25 年度が最も低く、24 年度、26 年度の順に高い。
- ・この間、中央図書館で購入した図書の平均本体価格 a は年度毎に下がっている。

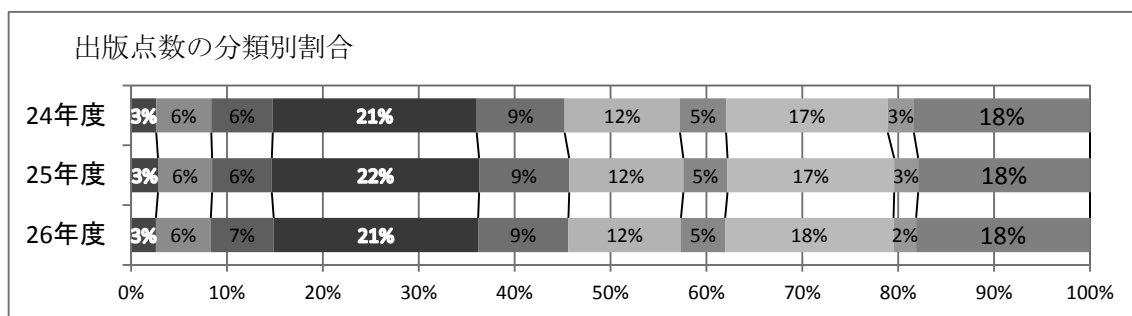
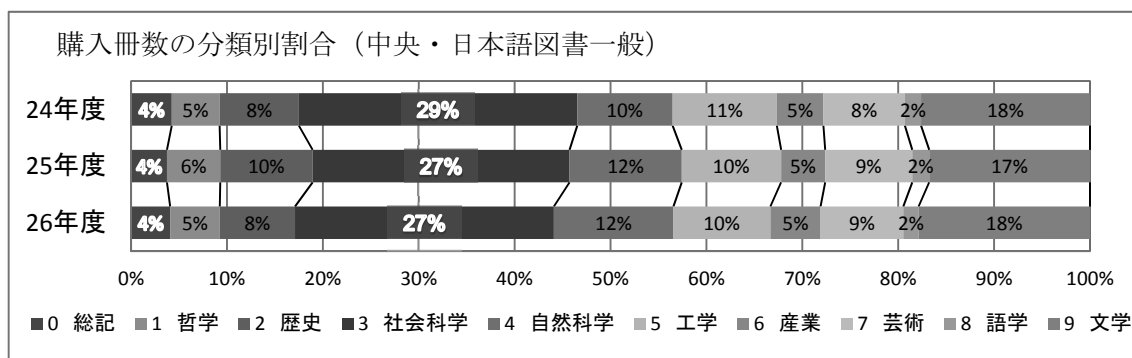
- ・また購入分の平均本体価格 a は、全出版点数（ただし児童書・学習参考書を除く）の平均本体価格 b の 1.4～1.5 倍強である。これは中央図書館が収集方針に沿って比較的高額な参考図書や専門書類の収集に努める一方、低価格の文庫本、新書、実用書、コミック等の購入を抑えている結果が反映されたものと考えられる。
- ・新刊カバー率は各年度の資料購入費および入札による納入価格率の双方に影響されるが、やはり毎年のシーリングによる資料購入費減額の影響は大きく、26 年度が最も低い結果となった。以上についてさらに詳細に検討するため、(2)では分類別での分析を試みた。

(2) 購入冊数・価格と出版点数・価格の比較（分類別）

① 購入冊数と出版点数の比較（分類別）（平成 24 年度～26 年度）

【グラフ 6】中央図書館で購入した日本語一般図書の冊数と出版点数（分類別）





（【グラフ6】の数値データは【巻末表①】参照）

<前提>

- ・可能な限りオリジナルなコンテンツを幅広く収集するため、貸出可能な元版（旧版）等を所蔵している場合は、新装版、復刻版、文庫等は購入しない。また、内容がほとんど変わらない改訂版、新版等は購入を見送ることが多い。
- ・学生向け教科書として出版されたもの、問題集およびコミックは基本的に収集対象外である。

<購入比率が高い分野>

- ・分類別出版点数Bに占める購入冊数Aの比率(A/B)を比較すると、平成24、26年度は0類「総記」が最も高く、平成25年度は2類「歴史」が最も高い。
- ・3年間を通じて0類、3類「社会科学」が30%超と高く、さらに平成25、26年度は4類「自然科学」が3類をやや上回っている。
- ・平成24、25年度は2類も30%超と高かったが、26年度はわずかに30%を下回った。
- ・0類のうち特に「情報科学」に関しては、急速に進展する情報通信技術の動向や、それらの社会的受容に関する図書など、利用者からの希望も多いため、意識して新刊を購入している。また、図書館や書誌学、出版関係のものや目録類は積極的に収集している分野である。
- ・2類は参考図書、専門書を積極的に購入しているほか、住宅地図等を毎年継続して購入している。一方、ガイドブックは発行点数・種類とも多いため例年は購入タイトルを厳選して収集しているが、平成25年度は新しいシリーズをセット購入したことが、購入比率のアップにつながった。

- ・3類は中之島図書館が購入するビジネス関係資料がとくに多い分野であり、基本的に複本を購入せず、府立2館を通じて1冊のみ購入するという方針に沿って、実務書はなるべく中之島図書館で購入し、研究書は中央図書館で購入するという緩やかな分担収集を行っている。
- ・3類のうち学習指導や教科別教育方法等に関わるものは、積極的には購入していない。
- ・なお、平成25,26年度は4類の購入比率が30%を超えている。これは、25年度に医学分野の基礎的な資料である「診療ガイドライン」をまとめて購入したことや、25年度以降、旧版発行から5年程度を目安に、医療情報分野における既所蔵資料の更新に努めたことが影響していると考えられる。

<購入比率が低い分野>

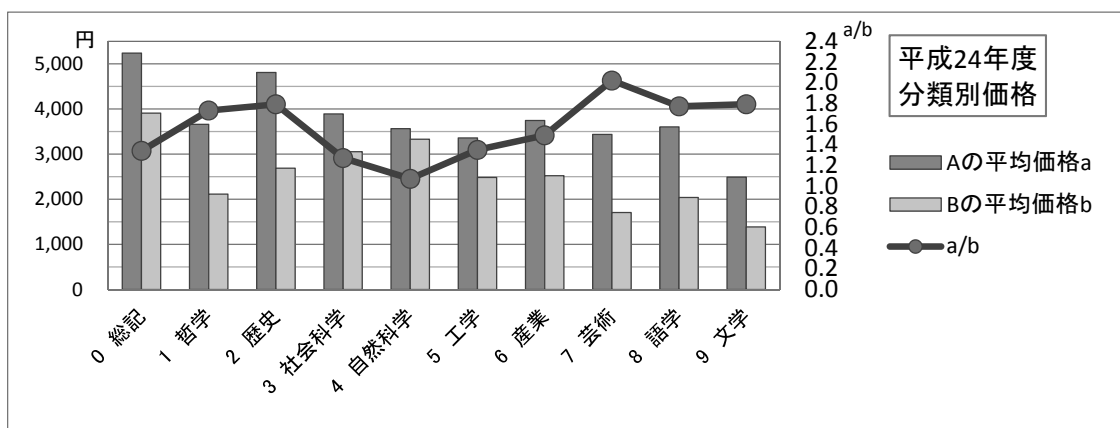
- ・3年間を通じて購入比率が最も低いのは7類「芸術」、その次が8類「言語」である。
- ・7類「芸術」にはコミックが含まれるが、収集方針に基きほとんどが収集対象外である。また、類書を所蔵していれば購入を見送るケースが比較的多く、とくに趣味に関する実用書は府域の市町村立図書館での購入実態を考慮して購入を控えるようにしている。なお、楽譜は基本的に収集対象外である。
- ・8類「言語」は、数多く出版されている外国語学習方法等に関するものは基本的に購入対象外であり、辞書や言語学の専門書を中心に購入していることが購入比率の低さに表れていると考えられる。

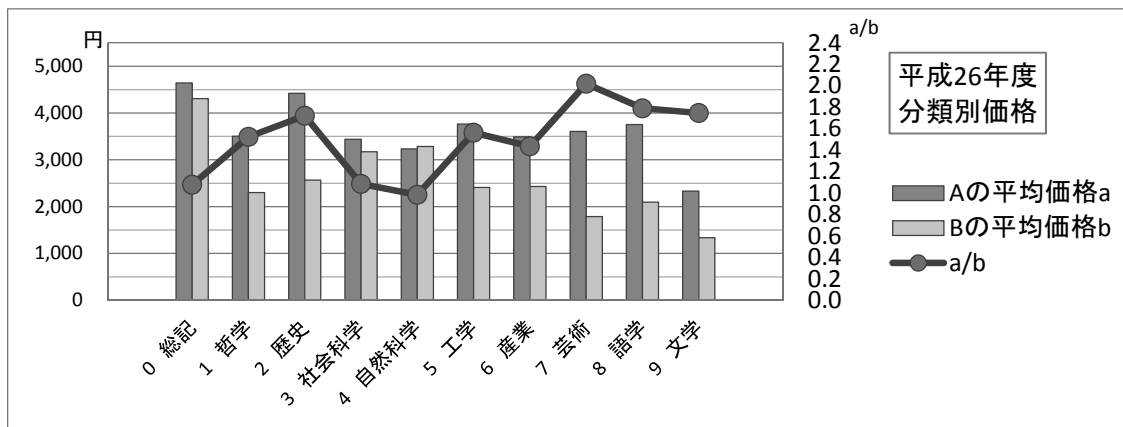
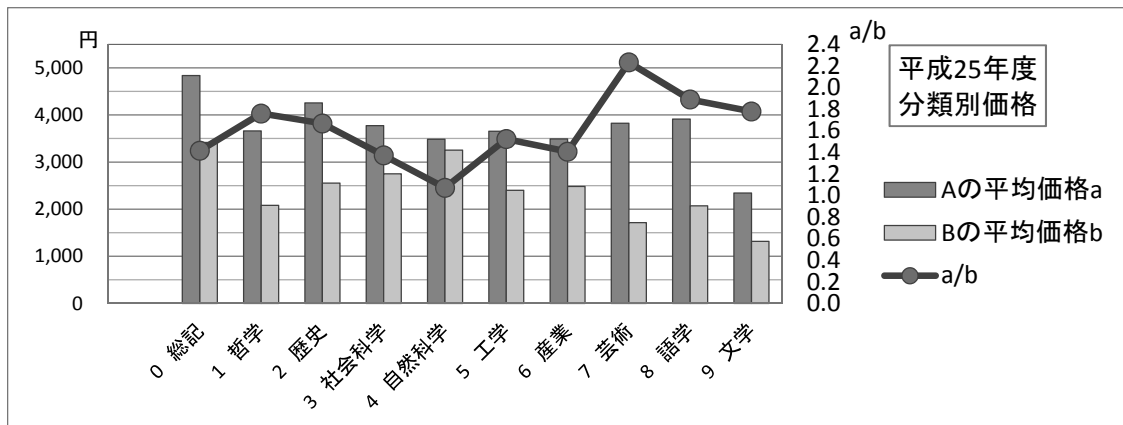
② 購入平均価格と出版平均価格の比較（分類別）（平成24年度～26年度）

（児童書・学習参考書を除く）出版平均価格bに対する購入平均価格aの指数(a/b)を分類別に比較し、出版全体の平均価格と比較して購入単価が高い（a/bが大きい）分野と、購入単価が低い（a/bが小さい）分野を検証した。

【グラフ7】中央図書館で購入した日本語一般図書の平均価格と出版平均価格（分類別）

*A：購入一般図書 B：出版全体（ただし児童書・学習参考書を除く） / いずれも本体価格





(【グラフ7】)の数値データは【巻末表①】参照)

<購入単価が高い分野>

- ・出版全体の平均と比べて購入単価が最も高いのは3年間を通じて7類「芸術」である。
- ・7類は先にも述べたように基本的にコミックを購入しない一方、府城市町村立図書館のバックアップを念頭に置き、市町村立図書館からのリクエストにも配慮しつつ高額な図録や写真集、研究書、復刻資料等を購入している結果だと考えられる。
- ・8類「言語」も総じて高く、これは購入比率の項で述べたとおり辞書や言語学の専門書を中心に購入している結果が表れていると考えられる。

<購入単価が低い分野>

- ・出版全体の平均と比較して購入単価が最も低かったのは3年間を通じて4類「自然科学」であり、購入単価が出版全体の平均価格を下回った。
- ・4類の購入単価が全体の平均価格を下回った要因としては、自然科学分野は高額な参考図書類が多く刊行されるが、これらは、予算上、改訂版刊行のつど購入することが困難なため一定の間隔をあけて購入するケースが少なくないことや、高額な資料が多い研究者向けの医学専門書は基本的に収集対象外としていることが考えられる。

- ・3類「社会科学」も総じて低い。3類は出版物の平均価格が比較的高いことに加え、中央図書館で購入を見送る廉価帯のものがあまり多くないことも、購入単価との乖離が少ない要因ではないかと考える。
- ・また平成26年度は0類「総記」が低いが、これは平成26年度の0類平均価格が、それ以前に比べて上昇（平成24年度比110%、平成25年度比126%）した反面、26年度は24年度と比較すると単価2万円以上の高額資料の購入点数が半減（24年度82冊、26年度41冊）したことにより購入単価が抑えられた影響もあると考えられる。

2.2 寄贈図書の分析（平成24年度～26年度）

近年受け入れた資料について検証するため、平成24年度～26年度に中央図書館に寄贈があり受け入れた日本語一般図書（児童書を除く日本語図書）について分析を行った。

（1）寄贈図書の割合と流通形態

①受入図書のうち、寄贈図書の占める割合

【表6】日本語一般図書の中に占める寄贈の割合

	24年度		25年度		26年度	
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合
購入	19,178	69.8%	19,783	70.3%	18,513	74.5%
寄贈	8,309	30.2%	8,370	29.7%	6,336	25.5%
計	27,487	100.0%	28,153	100.0%	24,849	100.0%

*寄贈冊数には、紛失等による弁償を含まない。

- ・1.2において、中央図書館の蔵書規模の大きさは、購入のみならず寄贈等の受入の多さにもよると述べたが、【表6】のとおり、寄贈図書は3年間を通じて受入図書全体の約30%から25%程度を占めている。このことは、収集方針に基づいて、必要な資料を幅広く収集するため、購入のみならず寄贈図書の受入にも努めてきた結果を反映したものと考える。

(注)1.2【グラフ3】では平成25年度の中央図書館受入図書に占める購入割合が55.8%であり、のこる寄贈等の割合は44.2%となるが、【グラフ3】には児童書および寄贈合本雑誌等も含むため、上記【表6】の寄贈図書割合とは一致していない。

②寄贈図書のうち、非流通品の占める割合

本項では寄贈図書のうち価格表示がない非売品資料を非流通品、価格表示のあるものを販売品と定義し、双方の割合を比較した。

【表 7】非流通品、販売品の割合

	24 年度		25 年度		26 年度		24 年度に対する 26 年度の受入冊数割合 (b)/(a)
	冊数 (a)	割合	冊数	割合	冊数 (b)	割合	
非流通品	5,782	69.6%	5,283	63.1%	3,937	62.1%	68.1%
販売品	2,527	30.4%	3,087	36.9%	2,399	37.9%	95.0%
計	8,309	100.0%	8,370	100.0%	6,336	100.0%	76.3%

- ・3年間を通じて、非流通品は寄贈図書全体の約6割強～7割を占めている。
- ・ただし、年度を追って非流通品の受入冊数が減少しており、26年度は24年度の68.1%である。これは寄贈図書全体の受入冊数の減少率76.3%を上回っている。この要因のひとつには、近年、統計や調査報告書類の電子公開が進んだことにより、冊子体の刊行が中止される傾向があるように思われる。

(2) 寄贈者の分析

寄贈資料の中には毎年刊行され寄贈される統計や研究紀要等もあるが、大学や行政、研究機関等の調査研究成果などは、刊行状況が把握しにくい上、そもそも寄贈していただくかどうか不明であるなど、受け入れるかどうかの選書以前に、入手の可否の段階で不確定な要因が多い。ここでは調査対象期間中に受け入れた資料の寄贈者を類別し、特に大阪府域における資料保存機能の指標となる府域市町村立図書館旧蔵書の受入などに注目して分析を試みた。

【表 8】対象期間に寄贈があった寄贈者内訳

大分類	寄贈者数	割合
大学・図書館・教育研究機関等	1,460	36.3%
官公庁等	1,046	26.0%
その他	1,517	37.7%
計	4,023	100.0%

*大学・図書館・教育研究機関等には、国公立私立を問わず大学・図書館（文書館・文学館等を含む）・美術館・博物館・学会等研究機関を含む。図書館協議会もここに含めた。

*官公庁等には外国政府や自治体、独立行政法人など関連団体も含むが、国公立の大学・図書館・教育機関等は除いた。

*その他には、上記2分類以外の企業、出版者、団体の他、著者等個人を含む。

【表 9】 寄贈者別の寄贈冊数

大分類	24 年度		25 年度		26 年度	
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合
大学・図書館・教育研究機関等	3,166	38.1%	4,168	49.8%	2,288	36.1%
うち府域市町村立図書館旧蔵書	722	8.7%	1,317	15.7%	482	7.6%
官公庁等	1,874	22.6%	1,651	19.7%	1,328	21.0%
その他	3,269	39.4%	2,551	30.5%	2,720	42.9%
計	8,309	100.0%	8,370	100.0%	6,336	100.0%

- ・市町村立図書館の資料除籍のタイミングは一樣ではなく、また事前調査のうえ中央図書館で所蔵していない資料のみを寄贈していただいている等の理由により、年度によって寄贈受入冊数にはばらつきがあるが、大阪府域の資料保存センターとしての役割を果たすべく努力している。
- ・ただし、書庫狭隘化に対して長期的な対策が必要になり、従来に比べると受入を厳選せざるを得なくなったため、特に平成 26 年度の寄贈受入冊数は減少している。

【表 10】 大分類：「官公庁等」の内訳

	24 年度		25 年度		26 年度	
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合
大阪府および関連団体	466	24.9%	452	27.4%	285	21.4%
大阪府内自治体および関連団体	165	8.8%	166	10.1%	182	13.7%
国および関連機関	536	28.6%	433	26.2%	518	39.0%
その他自治体および関連団体	690	36.8%	593	35.9%	338	25.5%
外国政府および関連機関	7	0.4%	7	0.4%	5	0.4%
国際機関	10	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
計	1,874	100.0%	1,651	100.0%	1,328	100.0%

- ・大阪府においても、冊子体の刊行物そのものが減少傾向にあるなかで、今後も可能な限り冊子体の収集に努めるとともに、ポーンデジタルの行政資料については引き続き「大阪府立図書館おおさか e コレクション」の中の「大阪の行政資料」のサイトで提供する予定である。

【表 11】大分類：「その他」の内訳

	24 年度		25 年度		26 年度	
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合
編著者等	276	8.4%	207	8.1%	188	6.9%
編著者以外の個人	911	27.9%	621	24.4%	877	32.2%
法人・団体等	2,082	63.7%	1,723	67.5%	1,655	60.9%
計	3,269	100.0%	2,551	100.0%	2,720	100.0%

- ・その他の大半は、法人等各種団体からの年報等の寄贈であるが、著者からの著作の寄贈や、著者以外の個人からの蔵書の寄贈も相当数あることがわかる。
新刊はもちろん、欠号となっていた資料が補完されることもあり、著者をはじめ多くの寄贈者に支えられ蔵書を形成してきた一面を窺うことができる。

2.3 府内市立図書館における購入図書との比較（平成 26 年度）

府県立図書館である府立図書館は、府城市町村立図書館とは異なる役割を有し、そのことは収集する資料にも違いをもたらすと考える。その点について検証するため、府内の 5 つの市立図書館のご協力をいただき、平成 26 年度に購入した図書（児童書を含む）の比較分析を行った。

調査方法は、次のとおりである。

- ①府内 5 市から提供いただいた、「平成 26 年度購入図書」の ISBN データ（以下、「提供データ」）と、府立図書館の 26 年度購入図書の ISBN データを比較し、府立図書館と 5 市との間で購入図書にどの程度重複が見られるのか、重複している図書または重複しなかった図書の特徴は何かを分析した。

現在書店を通じて流通している図書にはほとんどのものに ISBN データが付与されているため（*）、おおよその傾向がつかめるものとする。

* 一例として、株式会社図書館流通センター（TRC）が作成する TRC 新刊全件マークにおいては、2016 年 3 月 20 日までに作成され、かつ出版年が 2014 年であるマーク 93,839 件のうち、87,285 件（全体の 93.0%）に ISBN データが付与されている（府立図書館取込データをもとに確認）。

- ②提供データに対し、以下の条件で整理を行い、分析対象データを作成した。

- ・同一館の提供データ中に ISBN の重複がある場合は複本とみなして削除し、ISBN が館ごと一意となるように加工した。
- ・ISBN は 2006 年までは 10 桁、2007 年以降は 13 桁の規格となっているが、館により、また当該図書を受け入れる際に使用するマークデータの違い等によって 10 桁と 13 桁のデータが混在するケースがあることから、データの突き合わせにあたっては、10 桁

データと 13 桁データの共通部分となる「国記号から 9 桁」で一致するものを同一図書とみなした。

- ISBN から書誌を確認し、出版年月が 2014 年 4 月～12 月であるものを分析対象データとした。書誌データにおいて出版月が判明しないもの（図書現物に発行月に関する表示がないもの）については、オンライン書店等の情報を参照して発売月で代用した。出版年月に対してこうした絞り込みを行った理由は、
 - 蔵書の補完のために発行年が古い資料を購入するケースは、当該館に特有の事情によるイレギュラーな収集であり、他館における購入対象には通常含まれない。
 - 年度末に刊行される図書は、各館への納品時期や予算の状況により翌年度に購入される（すなわち館として購入するが当該年度の購入図書には含まれない）等の「揺れ」が生じる。
 といった影響を除き、できるだけ各館共通の選定対象となり得る集合を分析対象とするためである。
- 提供データの中には外国語資料も含まれていたが、公共図書館における外国語資料の購入は少数であり、他館との比較調査による有意な結果は得られないであろうと考え、分析対象から除外することとし、近似的に「日本国内で発行された図書」（ISBN の国記号（13 桁 ISBN における 4 桁目）が「4：日本」であるもの）に限定した。

②の方法により整理して作成した分析対象データの概要は、次のとおりである。

	提供データ件数 (重複除去後)		分析対象データ (ISBN 突合、 出版年月 2014. 4~12、国記号 4)
大阪府立	24,083	⇒	36,837 件
A 市	54,865		
B 市	20,144		
C 市	8,621		
D 市	16,483		
E 市	6,508		

* 5 市はいずれも各市立図書館全館。ただし、D 市は新館（平成 27 年 8 月開館）開館準備として購入した図書を除く。大阪府立は、中央図書館と中之島を合わせた件数

この分析対象データをもとに、いくつかの観点で分析を行った。

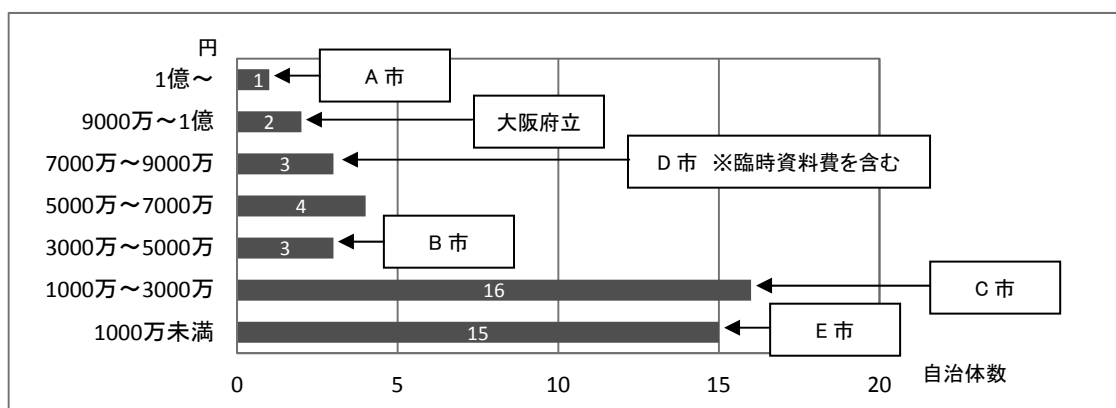
なお、5 市の平成 26 年度の図書受入冊数および図書購入費は、以下のとおりである。

【表 12】平成 26 年度受入冊数および図書購入費決算額

自治体	平成 26 年度受入冊数 (冊)			平成 26 年度決算額 (千円)	
	図書	図書のうち 購入冊数	購入割合	図書館費の うち資料費	資料費のうち 図書費
大阪府	55,606	32,063	57.7%	119,824	94,492
A 市	187,566	142,613	76.0%	251,686	193,738
B 市	30,806	29,026	94.2%	42,396	37,663
C 市	10,190	9,606	94.3%	16,733	15,323
D 市	35,011	31,158	89.0%	110,902	88,546
E 市	8,352	6,994	83.7%	9,507	8,323

* 大阪公共図書館協会 (OLA) 「予算・奉仕概況」による。D 市の平成 26 年度決算額には、臨時資料費 53,991 千円を含む。

【グラフ 8】大阪府内平成 26 年度図書購入費 (決算額) 別自治体数



* 大阪公共図書館協会 (OLA) 「予算・奉仕概況」による。

(1) 府立図書館と市立図書館の購入図書の比較

①価格帯による購入図書の比較

各館の購入図書を価格帯別に集計したのが、【表 13】、【グラフ 9】である。

A 市を除く市立図書館では、3,000 円未満の図書が 95%～99%を占める。A 市で 88.4%、府立図書館は 74%である。

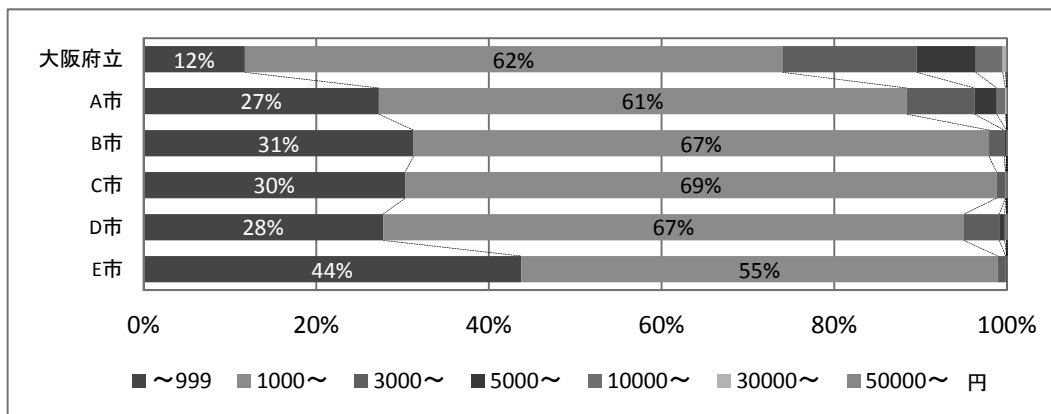
一方、1 万円以上の高額図書は、調査対象の自治体全体で 738 冊購入しているが、そのうち府立図書館で購入したものが 605 冊と全体の 82%を占めている。

予算規模の大きい A 市を除く 4 館では購入図書のほとんどすべてが 3,000 円未満のものに集中している一方、そうした府域市町村立図書館をバックアップする府立図書館が高額図書の購入を担っていることが確認できる。

【表 13】 価格帯別購入タイトル数

	1,000円未満	1,000～2,999円	3,000～4,999円	5,000～9,999円	1万～3万円未満	3万～5万円未満	5万円以上	総計
府立	1,962 11.7%	10,406 62.3%	2,599 15.6%	1,141 6.8%	522 3.1%	51 0.3%	32 0.2%	16,713 100.0%
A市	8,937 27.3%	20,051 61.1%	2,568 7.8%	848 2.6%	329 1.0%	48 0.1%	11 0.0%	32,792 100.0%
B市	3,891 31.3%	8,289 66.6%	219 1.8%	30 0.2%	8 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	12,437 100.0%
C市	1,854 30.3%	4,193 68.5%	62 1.0%	2 0.0%	9 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	6,120 100.0%
D市	2,728 27.8%	6,613 67.3%	402 4.1%	62 0.6%	23 0.2%	2 0.0%	0 0.0%	9,830 100.0%
E市	1,707 43.7%	2,154 55.2%	36 0.9%	5 0.1%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3,903 100.0%
全体（重複を除く）	9,577 26.0%	21,971 59.6%	3,246 8.8%	1,305 3.5%	635 1.7%	70 0.2%	33 0.1%	36,837 100.0%

【グラフ 9】 購入図書の価格帯別タイトル数の割合



※データは【表 13】による

②分類による購入図書の比較

各館の購入図書を分類別に集計したのが、【表 14】、【グラフ 10】である。

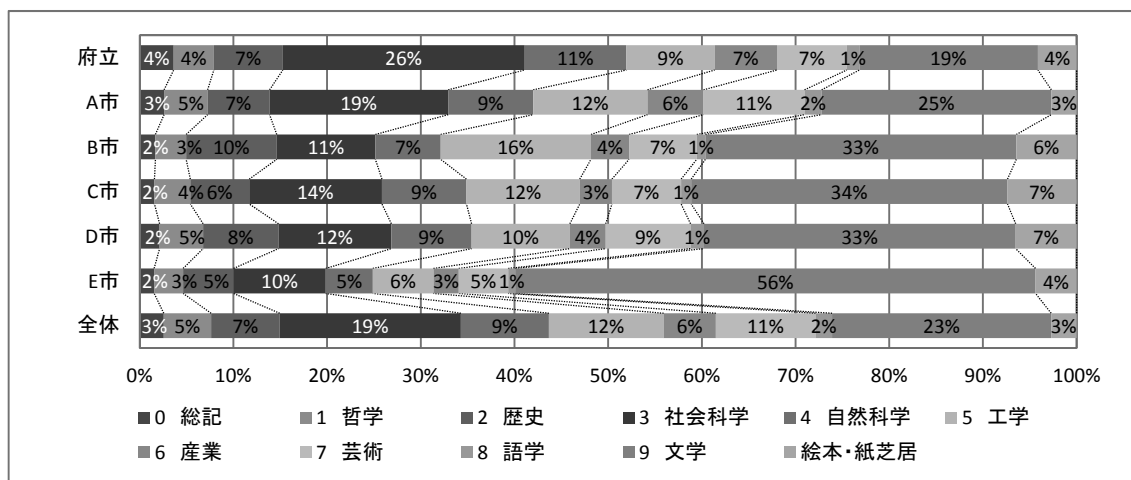
A市を除く市立図書館では、全体の3分の1から半数を9類「文学」が占める。9類は、A市で4分の1、府立図書館は5分の1である。

予算規模の小さな市では9類「文学」の割合が大きくなる傾向があるのに対し、府立図書館では3類「社会科学」が最も多くなるなど9類以外も幅広く購入しており、この点からも市町村立図書館の蔵書を補完していると言えるであろう。

【表 14】 分類別購入タイトル数

	府立	A市	B市	C市	D市	E市	全体
0 総記	605 3.6%	850 2.6%	208 1.7%	96 1.6%	209 2.1%	60 1.5%	948 2.6%
1 哲学	717 4.3%	1,527 4.7%	409 3.3%	235 3.8%	457 4.6%	121 3.1%	1,861 5.1%
2 歴史	1,231 7.4%	2,169 6.6%	1,202 9.7%	384 6.3%	791 8.0%	210 5.4%	2,695 7.3%
3 社会科学	4,315 25.8%	6,250 19.1%	1,309 10.5%	867 14.2%	1,183 12.0%	384 9.8%	7,122 19.3%
4 自然科学	1,812 10.8%	2,978 9.1%	867 7.0%	552 9.0%	842 8.6%	196 5.0%	3,464 9.4%
5 工学	1,578 9.4%	3,997 12.2%	1,995 16.0%	741 12.1%	1,031 10.5%	253 6.5%	4,511 12.2%
6 産業	1,110 6.6%	1,961 6.0%	506 4.1%	210 3.4%	376 3.8%	105 2.7%	2,055 5.6%
7 芸術	1,246 7.5%	3,540 10.8%	899 7.2%	452 7.4%	891 9.1%	206 5.3%	3,915 10.6%
8 語学	226 1.4%	598 1.8%	116 0.9%	65 1.1%	141 1.4%	30 0.8%	654 1.8%
9 文学	3,183 19.0%	8,039 24.5%	4,126 33.2%	2,067 33.8%	3,270 33.3%	2,167 55.5%	8,615 23.4%
絵本・紙芝居	690 4.1%	883 2.7%	800 6.4%	451 7.4%	639 6.5%	171 4.4%	997 2.7%
合計	16,713 100.0%	32,792 100.0%	12,437 100.0%	6,120 100.0%	9,830 100.0%	3,903 100.0%	36,837 100.0%

【グラフ 10】 購入図書の分類別タイトル数の割合



※データは【表 14】による

(2) 府立図書館と市立図書館で重複購入している図書

分析対象データ 36,837 件について、自治体間の重複の状況を調べたのが【表 15】である。

1 自治体のみの所蔵となっていたタイトルは 13,523 件 (全体の 36.7%)、2 自治体のみの所蔵となっていたタイトルは 12,025 件 (全体の 32.6%) であり、この両方で 25,548 件、全体の約 70%を占める。一方、調査対象の自治体すべてで所蔵していたタイトルは 1,172 件、全体の 3.2%である。

1 自治体のみの所蔵タイトルのうち、府立図書館のみの所蔵となっているタイトルは 2,461 件 (全体の 6.7%)、A 市立図書館のみの所蔵となっているタイトルは 9,904 件、26.9%となっている。

【表 15】所蔵自治体数別タイトル数

所蔵自治体数	タイトル数	割合	内訳 (%は合計に対する割合)
1 自治体	13,523	36.7%	府立のみ 2,461 (6.7%)、A 市のみ 9,904 (26.9%)
2 自治体	12,025	32.6%	府立・A 市 6,732 (18.3%)
3 自治体	5,179	14.1%	
4 自治体	3,037	8.2%	
5 自治体	1,901	5.2%	
6 自治体	1,172	3.2%	
合計	36,837	100.0%	

いくつかのカテゴリについて、価格帯別の分布を確認すると、【表 16】のとおりである。

【表 16】価格帯別購入タイトル数

	1,000 円 未満	1,000～ 2,999 円	3,000～ 4,999 円	5,000～ 9,999 円	1 万～3 万円未満	3 万～5 万円未満	5 万円 以上	総計
全体 (重複を 除く)	9,577 26.0%	21,971 59.6%	3,246 8.8%	1,305 3.5%	635 1.7%	70 0.2%	33 0.1%	36,837 100.0%
府立所蔵								
府立のみ 所蔵	62 2.5%	972 39.5%	641 26.0%	449 18.2%	293 11.9%	22 0.9%	22 0.9%	2,461 100.0%
全館所蔵	238 20.3%	929 79.3%	4 0.3%	0 0.0%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%	1,172 100.0%
A 市所蔵 (他 市所蔵を含む)	1,863 13.3%	9,296 66.2%	1,944 13.8%	687 4.9%	221 1.6%	29 0.2%	10 0.1%	14,050 100.0%
A 市未所蔵	37 18.3%	138 68.3%	14 6.9%	5 2.5%	8 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	202 100.0%
府立未所蔵								
A 市のみ所 蔵	3,376 34.1%	5,712 57.7%	543 5.5%	145 1.5%	108 1.1%	19 0.2%	1 0.0%	9,904 100.0%
A 市未所蔵	541 39.1%	810 58.6%	23 1.7%	3 0.2%	5 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1,382 100.0%

府立図書館のみが購入したタイトル2,461件のうち337件(13.7%)は1万円以上の高額図書であり、逆に3,000円未満のタイトルは1,034件(42%)となっている。

一方、A市のみの購入となっている9,904件は、3,000円未満のタイトルが9,088件(91.8%)を占める。具体的なタイトルを確認すると、シリーズ名に「文庫」とあるもの1,997件(20.2%)、シリーズ名に「ムック」とあるもの286件(2.9%)、楽譜類が多く含まれる分類76(音楽)377件(3.8%)といった、府立図書館が積極的に収集していない資料群が多く含まれており、両者それぞれの役割に応じた収集を行っていることが分かる。

重複して購入している資料を見ると、府立図書館を含む調査対象すべての自治体で重複して購入した1,172件の内訳は、【表17】のとおりであり、約64%は9類・文学、約10%は絵本となっている。

【表17】すべての自治体で購入した1,172タイトルの分類別・価格帯別内訳

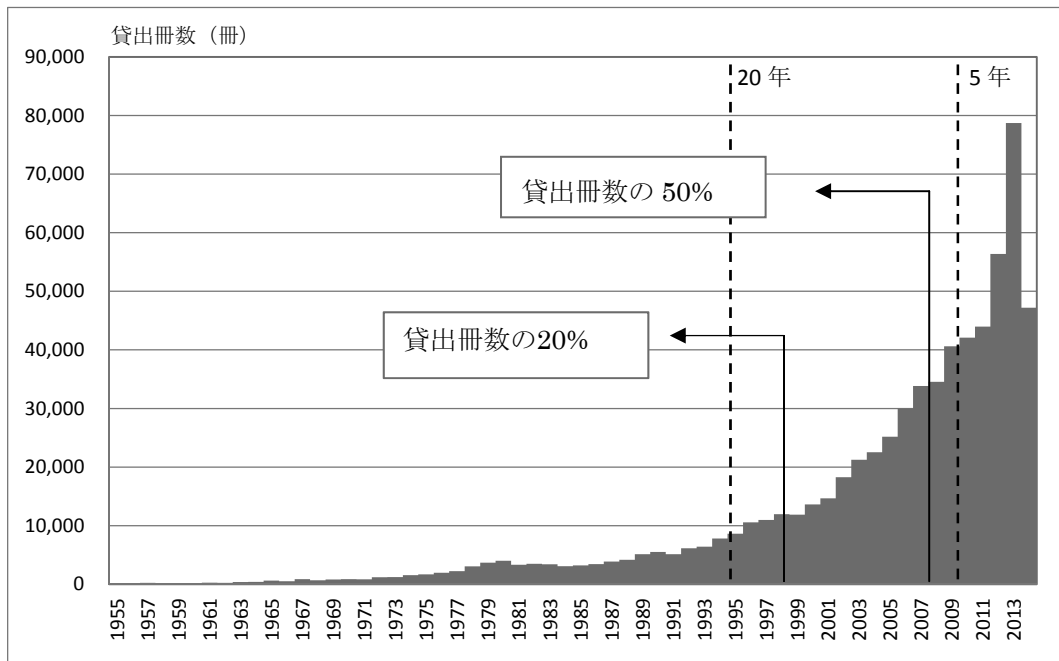
分類	0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	絵本	総計
1,000円未満	4	4	9	25	12	8	3	10	3	150	10	238
1,000～2,999円	16	6	40	64	36	31	10	21	3	597	105	929
3,000～3,999円	1					2				1		4
21,000～21,999円	1											1
総計	22	10	49	89	48	41	13	31	6	748	115	1172
割合	1.9%	0.9%	4.2%	7.6%	4.1%	3.5%	1.1%	2.6%	0.5%	63.8%	9.8%	100.0

3. 利用状況の分析

3.1 出版年からみた貸出図書の分析

府立図書館に受け入れた資料は原則として永年保存である。刊行年の古い資料の利用は、府立図書館の利用のひとつの特徴であると思われるが、その実態を確認するために、平成26(2014)年1月～12月の間に貸出された図書（個人および団体に館外貸出された図書）の出版年の分布を調査した。

【グラフ11】 貸出図書の出版年分布（平成26年1月～12月・中央図書館貸出分）



※図書館情報システムから抽出したデータにより作成（データは次ページ【表18】による）。

- ・ 貸出冊数の約40%は、直近5年以内に刊行された新しい図書が占めるが、一方で貸出冊数の15～20%は、刊行後20年以上経過した図書であり、刊行年の古い資料も相当数実際に利用されている。
- ・ 刊行年の古い資料の貸出例として、1955年～1959年までに刊行された図書で、平成26年1月～12月までに中央図書館での貸出回数が多かったものを挙げる。

11回 『宗教とは何か 誰でも修養』伊福部隆彦著、学風書院、1957.3 NDC160.4

6回 『近代財政の理論 その批判的解明』武田隆夫著、時潮社、1956.3 NDC341

5回 『古い国からの新しい手紙』ヘレン・K・ニールセン著、暮しの手帖社、1955
NDC293.09

5回 『砂防特論』伊吹正紀著、森北出版、1955 NDC656.5

5回 『核兵器と外交政策 アメリカ・ベストセラー全集』H.A. キッシンジャー[著]、
日本外政学会、1958 NDC319

【表 18】貸出図書の出版年分布（平成 26 年 1 月～12 月・中央図書館貸出分）

出版年	貸出冊数	割合	割合(累積)	出版年	貸出冊数	割合	割合(累積)
1955	164	0.02%	0.02%	1990	5,516	0.82%	10.03%
1956	212	0.03%	0.06%	1991	5,123	0.77%	10.79%
1957	238	0.04%	0.09%	1992	6,148	0.92%	11.71%
1958	210	0.03%	0.12%	1993	6,424	0.96%	12.67%
1959	211	0.03%	0.15%	1994	7,800	1.17%	13.84%
1960	203	0.03%	0.18%	1995	8,628	1.29%	15.13%
1961	275	0.04%	0.23%	1996	10,576	1.58%	16.71%
1962	243	0.04%	0.26%	1997	10,988	1.64%	18.35%
1963	372	0.06%	0.32%	1998	11,950	1.78%	20.13%
1964	421	0.06%	0.38%	1999	11,890	1.78%	21.91%
1965	622	0.09%	0.47%	2000	13,618	2.03%	23.94%
1966	533	0.08%	0.55%	2001	14,674	2.19%	26.13%
1967	871	0.13%	0.68%	2002	18,283	2.73%	28.86%
1968	684	0.10%	0.79%	2003	21,243	3.17%	32.04%
1969	817	0.12%	0.91%	2004	22,534	3.37%	35.40%
1970	885	0.13%	1.04%	2005	25,172	3.76%	39.16%
1971	835	0.12%	1.16%	2006	29,985	4.48%	43.64%
1972	1,203	0.18%	1.34%	2007	33,828	5.05%	48.69%
1973	1,235	0.18%	1.53%	2008	34,559	5.16%	53.86%
1974	1,562	0.23%	1.76%	2009	40,599	6.06%	59.92%
1975	1,707	0.25%	2.02%	2010	42,083	6.29%	66.21%
1976	1,954	0.29%	2.31%	2011	43,982	6.57%	72.78%
1977	2,248	0.34%	2.64%	2012	56,372	8.42%	81.20%
1978	3,063	0.46%	3.10%	2013	78,696	11.75%	92.95%
1979	3,692	0.55%	3.65%	2014	47,201	7.05%	100.00%
1980	4,023	0.60%	4.25%	合計	669,504		
1981	3,322	0.50%	4.75%				
1982	3,493	0.52%	5.27%				
1983	3,405	0.51%	5.78%				
1984	3,080	0.46%	6.24%				
1985	3,225	0.48%	6.72%				
1986	3,435	0.51%	7.24%				
1987	3,869	0.58%	7.81%				
1988	4,192	0.63%	8.44%				
1989	5,128	0.77%	9.21%				

* 図書館情報システム抽出データより、「個人貸出可」としている 1955 年以降の刊行図書の貸出冊数について作成(1954 年より古い資料も、団体貸出では貸出されている)。個人貸出と団体貸出の両方を含む。出版年の 1 の位が不明のものは各年代先頭に含めた（「[199-]」は「1990」に）。出版年不明分(96 点)は除いた。

3.2 累積貸出回数による分析（平成23年度～25年度）

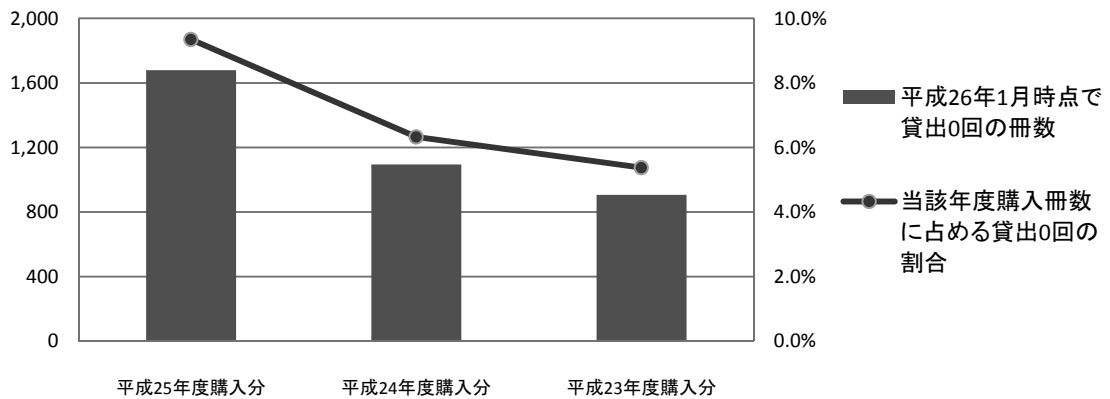
（1）貸出回数0回の分類内訳

平成27年1月時点において、各年度に購入した日本語一般図書で貸出可能な資料（「貸出可」の資料）のうち、データ抽出時点までの累積貸出回数が0回のもの（冊数）と、購入冊数全体に占める割合は次のとおりである。

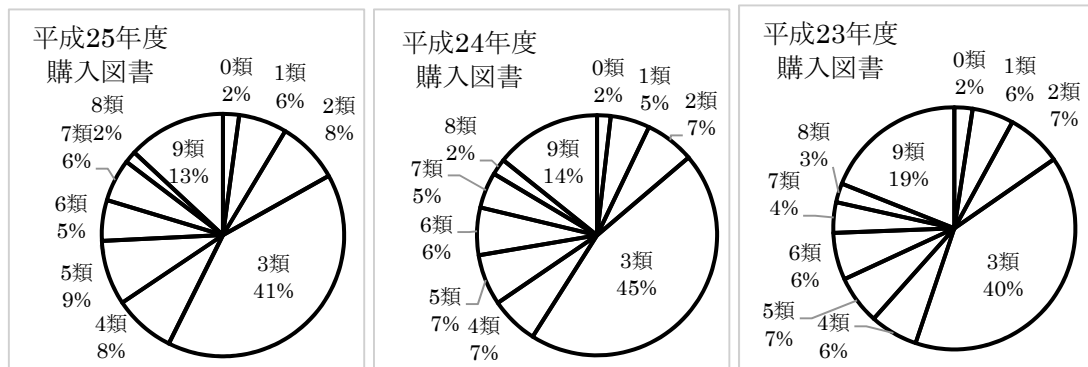
平成25年度購入分（17,968冊中）	1,679冊（9.3%）
平成24年度購入分（17,309冊中）	1,095冊（6.3%）
平成23年度購入分（16,857冊中）	906冊（5.4%）

すぐに利用のないものも、多くは数年のうちに貸出されていることが分かる。

【グラフ12】各年度購入図書の平成27年1月時点での貸出回数0回の冊数



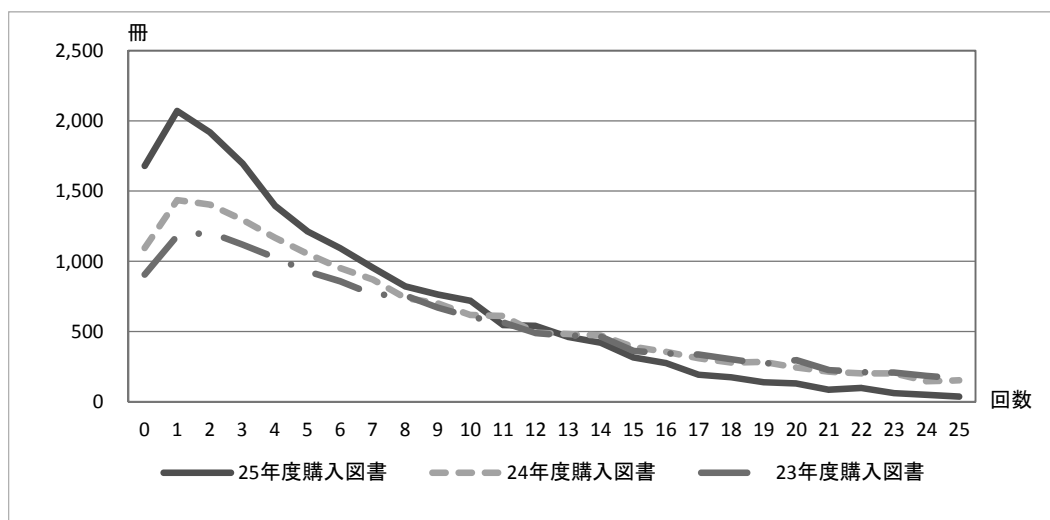
【グラフ13】各年度購入図書の平成27年1月時点での貸出回数0回分類別内訳



- ・各年度購入分とも共通して3類の割合が最も多く、つぎに9類が多い。
- ・上記以外の分類の割合についても、各年度ともほぼ同じ傾向が見受けられる。

(2) 購入年度別 貸出回数別の冊数（帯出区分が「貸出可」の資料）

【グラフ 14】各年度購入図書の平成 27 年 1 月時点での貸出回数別冊数



- ・平成 25 年度購入分は貸出 0 回が多く、貸出回数最多の 39 回まで急激な右下がりのカーブを描いている。
- ・平成 24 年度購入分、平成 23 年度購入分と年度を経るごとに貸出 0 回の冊数が減少する一方、最多貸出回数が 53 回、77 回と増えていくため、グラフの曲線は徐々に緩やかな右下がりとなっている。

3.3 複写利用状況の分析（平成 27 年度上半期）

蔵書の貸出以外の利用状況を確認するため、館内での複写利用回数を調査した。

- ・調査期間：平成 27 年 4 月 10 日～10 月 2 日（約 6 か月）
- ・1 回以上複写利用された資料の延べ冊数：6,965 冊

調査期間が比較的短かったため全体の 82%は 1 回のみでの複写利用である。【表 19】

複写利用が多かった資料は住宅地図で計 772 冊、全体の約 11%であった。【表 20】

なお住宅地図の複写利用については、調査期間のうち 3 か月間（6, 8, 9 月）中之島図書館が休館していたことの影響があった可能性がある。

【表 19】

複写回数	冊数	割合
13	1	0.01%
12	2	0.03%
11	7	0.10%
10	6	0.09%
9	13	0.19%
8	22	0.32%
7	37	0.53%

複写回数	冊数	割合
6	47	0.67%
5	52	0.75%
4	128	1.84%
3	258	3.70%
2	684	10%
1	5,708	82%
計	6,965	100%

【表 20】

	冊数	延べ複写回数
大阪府精密住宅地図（1972-2008 刊）	542	1,523
ゼンリン住宅地図大阪府（2000-2015 刊）	130	335
ゼンリン住宅地図（大阪府以外）（1976-2015）	100	132
計	801	2,028

大阪府内住宅地図（1972-2015 刊）のうち、1 冊当り複写回数が 4 回以上あったタイトル計 282 冊の出版年代は、【表 21】のとおり 1980 年代が 31%と最も多く、続いて 1990 年代、2000 年以降、1970 年代の順であった。

【表 21】大阪府内住宅地図（1 冊当り複写回数 4 回以上）のタイトル数および割合

	1970 年代	1980 年代	1990 年代	2000 年～	計
タイトル数	51	88	74	69	282
割合	18%	31%	26%	24%	100%

複写 4 回以上の資料は、住宅地図を含む比較的ポピュラーな資料の複写利用が多い。【表 22】

【表 22】

複写回数	書名	出版年	貸出区分 * 空欄は禁帯出
13	大阪府内住宅地図	1978	
12	大阪府内住宅地図（2 タイトル）	1978-2005	
11	大阪府内住宅地図（7 タイトル）	1979-2001	
10	大阪府内住宅地図（6 タイトル）	1975-2008	
9	大阪府内住宅地図（12 タイトル）	1974-2011	
9	帝国データバンク会社年鑑 2015(西)	2014	
8	大阪府内住宅地図（21 タイトル）	1973-2011	
8	角川日本地名大辞典 27 大阪府	1983	
7	大阪府内住宅地図（33 タイトル）	1974-2008	
7	古今和歌集全評釈 上	1998	貸出可
7	制振工学ハンドブック	2008	
7	よみがえる中世 3 武士の都鎌倉	1989	貸出可
7	東商信用録 平成 26 年版上巻	2014.9	
6	大阪府内住宅地図（42 タイトル）	1972-2011	
6	ゼンリン住宅地図(奈良市)	2011	
6	業種別審査事典 3,6	2012	
6	日本歴史地名大系 28-[2]大阪府の地名	1986	
6	帝国データバンク会社年鑑 2015(西)	2014	
5	大阪府内住宅地図（46 タイトル）	1972-2010	
5	路線価図 [1994]大阪府 1	1994	

複写回数	書名	出版年	貸出区分 * 空欄は禁帯出
5	古今和歌集全評釈 下	1998	貸出可
5	道元禅師全集 1	2002	貸出可
5	大阪府神社名鑑	1971	
5	日本図誌大系 [4-1]近畿	1977	
5	新選中学校社会科地図	1959	
4	大阪府内住宅地図 (112 タイトル)	1973-2011	
4	日本列島二万五千分の一地図集成 4	1992	
4	路線価設定地域図 平成 3 年分 13-1 大阪府	1991	
4	日本の私鉄 14 京浜急行	1982	貸出可
4	道元禅師全集 2	2004	貸出可
4	現代教育方法事典	2004	
4	王権と武器と信仰	2008	貸出可
4	税務訴訟資料 第 188 号	1993	府内可
4	建築統計年報 平成 22 年度版	2011	
4	業種別審査事典 8	2012	
4	建築統計年報 平成 23 年度版	2012	
4	新古今和歌集全注釈 2	2011	貸出可
4	交通事故損害額算定基準	2012	
4	八尾市史 近代 本文編	1983	
4	国史大辞典 8	1987	
4	民事交通事故訴訟損害賠償額算定基準 2014 上	2014	
4	帝国データバンク会社年鑑 2015(東)	2014	

つぎに平成 24～26 年度に購入した日本語図書で禁帯出としている資料（貸出可以外のものすべて）のうち、上で分析した「複写利用の多い資料」以外ではどのような資料が複写されているかを確認するため、複写回数が 1 回だった 208 件を分析した。

【表 23】

NDC	0 類	1 類	2 類	3 類	4 類	5 類	6 類	7 類	8 類	9 類	計
冊数	3	1	74	61	21	21	11	6	7	3	208
割合	1.4%	0.5%	35.6%	29.3%	10.1%	10.1%	5.3%	2.9%	3.4%	1.4%	100%

【表 23】 のとおり最多は 2 類 36%、次が 3 類 29%となっており、その中で特に多いのは、

- ・ 2 類：住宅地図 49 冊、ブルーマップ 8 冊、道路地図 9 冊
- ・ 3 類：路線価図 5 冊

であったが、そのほかは各分野の各種事典、辞典、統計類、年鑑、白書等、基本的な参考資料が複写利用されていた。（参照：【巻末表②】）

4. 分野ごとの資料評価

1～3において、中央図書館の直近の収集資料および蔵書全体についての数量的な把握を試みたが、蔵書評価ということからすれば、量的な評価とあわせて、収集された資料および蔵書総体としての「質」についての評価が求められるであろう。

しかしながら、総合図書館として、あらゆる分野についての資料を収集対象とする中央図書館では蔵書の質的な状況を「全体」として把握することは極めて困難であると言わざるを得ない。

このことから、「客観的な質的評価」の試みにあたっては、分野を限定し、外部で作成された資料リストによる蔵書分析と、当該分野の外部有識者による第三者評価を実施することとした。

今回評価の対象とした分野は、法情報分野（平成26年度実施）と医療情報分野（平成27年度実施）である。当該分野を選択した理由はつぎのとおりである。

- ・中央図書館利用者（政策立案支援サービス等を含む）から寄せられるレファレンスが
多い分野であること。
- ・今後とも公共図書館が課題解決型サービスとして取り組むべき分野だと考えること。
- ・法情報分野については、中央図書館は、社会科学分野の充実に努めていた旧大阪府立
夕陽丘図書館の蔵書とともに、収集方針も基本的に引き継いだため、相応に充実して
いるだろうとの想定を確認する必要もあること。
- ・医療情報分野については、ニーズの高まりとともに近年力を入れて収集に努めている
分野であるが、この分野の情報の特徴として、一般向けの入門的なものから医療従事
者向けの高度に専門的なものまで、またエビデンスに基づいた客観的な内容であるも
のからそうとは言い切れないものまで、質的な振幅が大きいと言われており、中央図
書館蔵書の「質」を「公共図書館／府県立図書館の蔵書」という観点に照らして確認
する必要があること。

4.1 法情報分野の資料評価

(1) 「法律図書総目録2014」掲載図書の所蔵調査

出版されている法情報関連の図書をどの程度収集できているかを把握するため、法律関係の図書の出版目録である『法律図書総目録』（一般社団法人法経書出版協会）を使用し、同目録掲載タイトル（平成25年10月以降刊行の図書）の所蔵状況を調査した。

【調査方法】

- ・法経書出版協会ウェブサイト
「法律書・経済書・経営書総目録」<https://www.houkeimokuroku.jp/>
に掲載されている図書の所蔵状況を調べる。
- ・調査日 平成26年7月

・調査日における掲載図書タイトル数は、4,312件

- ・法律全般にかかる参考図書、双書・講座等について、高い所蔵割合となっている。
- ・個別分野については、おおよそ半分程度（40～60%程度）の所蔵となっている。収集対象としていない「学生向け教科書」「資格試験用図書」を購入していないほか、類書が存在する場合選択が厳しくなること、頻繁に重版が発行されるものは利用頻度に応じ買い控えること等によるものと考えられ、概ね収集方針に沿った適切な選書ができていると考えられる。

【表 24】「法律図書総目録 2014」掲載図書の所蔵状況（平成 26 年 7 月現在）その 1

※「大分類」「小分類」は同目録の基準による。「所蔵タイトル数」「所蔵割合」は、リスト掲載タイトルのうち、ISBN の記載があるものについての所蔵状況を調査したものである。

※各小分類を利用対象区分（例：「学生向け」「研究書」等）で集計した詳細は【巻末表③】を参照

大分類	小分類	リスト掲載タイトル数	ISBN 記載タイトル数	所蔵タイトル数※			所蔵割合 (%) ※		
				府立合計	中央	中之島	府立合計	中央	中之島
法律一般	法律全般に亘る辞典（事典）	37	37	26	18	8	70.3	48.6	21.6
	論集・随筆	48	48	34	34	0	70.8	70.8	0.0
	法学教育	35	35	8	7	1	22.9	20.0	2.9
	双書・講座	21	21	18	18	0	85.7	85.7	0.0
	法令・判例集	74	48	7	7	0	14.6	14.6	0.0
	司法事情	26	25	15	15	0	60.0	60.0	0.0
	司法制度・行政	31	31	19	17	2	61.3	54.8	6.5
資格試験	司法試験	65	65	7	7	0	10.8	10.8	0.0
	司法書士	11	11	1	0	1	9.1	0.0	9.1
	行政書士	3	3	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	その他-資格試験	43	43	4	0	4	9.3	0.0	9.3
法学	法学一般	118	118	50	49	1	42.4	41.5	0.8
	法学方法論	4	4	3	3	0	75.0	75.0	0.0
基礎法	法哲学	40	40	23	23	0	57.5	57.5	0.0
	法思想史	16	16	8	8	0	50.0	50.0	0.0
	法社会学	18	18	6	6	0	33.3	33.3	0.0
	比較法学	8	5	2	2	0	40.0	40.0	0.0
法制史	日本法制史	41	41	12	12	0	29.3	29.3	0.0
	東洋・西洋法制史	18	18	3	3	0	16.7	16.7	0.0
	外国の法律一般	26	26	15	15	0	57.7	57.7	0.0
憲法	憲法学	126	126	65	65	0	51.6	51.6	0.0
	日本の憲法	134	134	62	61	1	46.3	45.5	0.7
	外国の憲法	36	36	19	19	0	52.8	52.8	0.0
	国会法・選挙法	4	4	3	3	0	75.0	75.0	0.0
行政法	行政法一般	122	121	66	64	2	54.5	52.9	1.7
	租税法	50	48	22	21	1	45.8	43.8	2.1
	地方自治法	38	38	14	14	0	36.8	36.8	0.0

大分類	小分類	リスト掲載タイトル数	ISBN 記載タイトル数	所蔵タイトル数※			所蔵割合 (%) ※		
				府立合計	中央	中之島	府立合計	中央	中之島
	警察法	4	4	3	3	0	75.0	75.0	0.0
	文化・教育法	10	9	4	4	0	44.4	44.4	0.0
	外国の行政法	5	5	2	2	0	40.0	40.0	0.0
民法	民法理論・民法学	116	108	38	38	0	35.2	35.2	0.0
	財産法	22	22	4	4	0	18.2	18.2	0.0
	民法総則	50	50	13	13	0	26.0	26.0	0.0
	物権法	62	60	21	18	3	35.0	30.0	5.0
	債権法（債権総論・各論）	136	135	62	57	5	45.9	42.2	3.7
	家族法	77	72	33	33	0	45.8	45.8	0.0
	親族法	17	16	4	4	0	25.0	25.0	0.0
	相続法	26	24	11	11	0	45.8	45.8	0.0
	民事特別法	62	47	19	17	2	40.4	36.2	4.3
	外国の民法	23	23	12	11	1	52.2	47.8	4.3
	民事訴訟法	民事訴訟法	108	107	58	52	6	54.2	48.6
強制執行法		27	27	17	15	2	63.0	55.6	7.4
家事裁判法・人事訴訟手続法		4	4	1	1	0	25.0	25.0	0.0
倒産法		23	23	15	8	7	65.2	34.8	30.4
商法	商法理論・商法学	8	8	7	5	2	87.5	62.5	25.0
	商法総則	17	17	5	4	1	29.4	23.5	5.9
	会社法	180	180	106	46	60	58.9	25.6	33.3
	企業法	31	31	20	9	11	64.5	29.0	35.5
	商行為法	12	12	6	6	0	50.0	50.0	0.0
	保険法	20	20	13	12	1	65.0	60.0	5.0
	海商法・海法	3	3	1	1	0	33.3	33.3	0.0
	金融法	59	59	35	23	12	59.3	39.0	20.3
	外国の商法	15	15	13	5	8	86.7	33.3	53.3
刑法	刑法理論・刑法学	71	71	41	41	0	57.7	57.7	0.0
	刑法総論	65	65	37	37	0	56.9	56.9	0.0
	刑法各論	35	35	12	12	0	34.3	34.3	0.0
	刑事政策・犯罪学・行刑・矯正	71	71	48	47	1	67.6	66.2	1.4
	法医学	4	4	2	2	0	50.0	50.0	0.0
	刑事特別法	4	4	3	3	0	75.0	75.0	0.0
	外国の刑法	10	10	8	8	0	80.0	80.0	0.0
刑事訴訟法	刑事訴訟法	115	114	62	61	1	54.4	53.5	0.9
	少年法	16	16	11	11	0	68.8	68.8	0.0
	外国の刑事訴訟法	16	16	8	8	0	50.0	50.0	0.0
労働法	労働法一般	133	131	80	59	21	61.1	45.0	16.0
	労働基準法	17	17	12	6	6	70.6	35.3	35.3
	労働組合法	2	2	2	2	0	100.0	100.0	0.0
	労働諸法	19	19	13	9	4	68.4	47.4	21.1
	外国の労働法	10	10	7	5	2	70.0	50.0	20.0
社会保障法	社会保障法	55	47	27	25	2	57.4	53.2	4.3

大分類	小分類	リスト掲載タイトル数	ISBN記載タイトル数	所蔵タイトル数※			所蔵割合(%)※		
				府立合計	中央	中之島	府立合計	中央	中之島
産業・経済法	独占禁止法	35	35	24	17	7	68.6	48.6	20.0
	農林水産業法	1	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	鉱工業法	1	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	公害法・工業関係法	6	2	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	運輸法	10	10	3	3	0	30.0	30.0	0.0
知的財産法	知的財産法	121	121	83	69	14	68.6	57.0	11.6
環境法	環境法	43	41	22	22	0	53.7	53.7	0.0
消費者法	消費者法	17	17	12	9	3	70.6	52.9	17.6
情報・メディア法	情報・メディア法	25	25	17	14	3	68.0	56.0	12.0
国際法	国際法一般	76	75	37	31	6	49.3	41.3	8.0
	国際条約	31	31	16	14	2	51.6	45.2	6.5
	国際機関法	6	6	1	1	0	16.7	16.7	0.0
	国際紛争の処理	16	16	8	7	1	50.0	43.8	6.3
	国際私法	24	24	15	14	1	62.5	58.3	4.2
	国籍法・外国人法	18	18	11	11	0	61.1	61.1	0.0
	国際経済法	20	20	15	11	4	75.0	55.0	20.0
	国際取引法	21	21	13	6	7	61.9	28.6	33.3
法律事務・書式	訴訟	40	39	24	22	2	61.5	56.4	5.1
	不動産	28	19	5	5	0	26.3	26.3	0.0
	商事	34	34	19	15	4	55.9	44.1	11.8
	その他-法律事務・書式	36	31	14	7	7	45.2	22.6	22.6
その他	その他-その他	48	45	26	19	7	57.8	42.2	15.6
政治一般	政治一般	51	51	32	31	1	62.7	60.8	2.0
政治学・政治思想	政治理論・政治学	85	85	47	47	0	55.3	55.3	0.0
	政治思想史	47	47	28	28	0	59.6	59.6	0.0
政治史・各国の政治	政治史	40	40	27	27	0	67.5	67.5	0.0
	各国の政治	108	108	68	68	0	63.0	63.0	0.0
	政治家の伝記	18	12	9	9	0	75.0	75.0	0.0
国家の形態・政治体制	国家の形態	9	9	6	6	0	66.7	66.7	0.0
	選挙・政党	11	11	10	10	0	90.9	90.9	0.0
	民族問題	10	10	7	7	0	70.0	70.0	0.0
行政・地方自治	行政学	29	29	12	12	0	41.4	41.4	0.0
	行政管理	1	1	1	1	0	100.0	100.0	0.0
	行政組織	1	1	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	行政事務・監査	1	1	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	地方制度・条例	24	24	8	8	0	33.3	33.3	0.0
	地方行政・行政事務	37	37	25	25	0	67.6	67.6	0.0
	都市政策・まちづくり	22	21	11	10	1	52.4	47.6	4.8
外交・国際関係	外交・国際関係	191	191	98	98	0	51.3	51.3	0.0
総計		4,295	4,181	2,162	1,913	249	51.7	45.8	6.0

(2) 外部有識者による評価

外部有識者による第三者評価の試みとして、法情報学の専門家に中央図書館 3 階社会・自然系資料室の法律分野の書架を実際にご覧いただき、講評していただいた。

なお事前資料として、中央図書館で受付けた法情報関係レファレンス記録 (2011-2014)、および政策立案支援サービス (P-support) の法律関係レファレンス事例 (2012-2014) を見ていただき、中央図書館への利用者のニーズ、および対応状況をお伝えした。

講評の概要は、次のとおり。

日時	: 平成 26 年 12 月 11 日 (木)
外部有識者	: 法学研究科講師 (専攻科目: リーガル・リサーチ、法律図書館学)
場所	: 社会・自然系資料室
	開架・参考図書 (法律分野)
	・ 合本雑誌 (法令全書、判例集、法律雑誌合本タイトル)
	・ NDC320~329 の書架
	・ 新着雑誌 (法律分野)
	・ オンラインデータベース端末
	準開架 ・ 判例バックナンバー

① 全般的な印象

【図書】

- ・ 参考図書も単行本もよく集められている。
- ・ 勤務先の大学図書館で学生の閲覧用に開架している図書と比べ、蔵書構成としては概ねよく整備できていると思う。
- ・ 個別六法などでは、大学にないものも所蔵している (『船員六法』『鉄道六法』等)。
- ・ 一般向けにビジュアルに解説しているような入門本は、大学ではほとんど所蔵していないが、公共図書館では専門的な資料への橋渡しのためにもあるとよいと思う。
また、遺産相続や境界線トラブル、また自分で訴訟を起こす人向けの入門書の需要があるのは理解できる。入門書は版を重ねているものを選べばよいだろう。
- ・ 刊行年の古いものなど役割を終えた資料もあるかもしれないが、歴史的な意味があり、古い資料も利用できるようにしておくことは意味がある。

【雑誌】

- ・ 基本的なものはしっかりと収集できている。
- ・ 市町村では所蔵が難しいので府立図書館で所蔵していることが望ましい、というようなタイトルについても収集できている。
- ・ バックナンバーについても、必要なタイトルがしっかり所蔵されている。判例集などデータベース化された資料でも、一部の図表等が未収録だったり、電子化されたデータが

誤っているケースもある（データが紙媒体と異なる場合は紙媒体が正しいと注記しているものもある）ため、紙媒体の保存には意味がある。

【オンラインデータベース】

- ・法律分野のデータベースは、大学も府立図書館と同じタイトルを導入している。一般のリーガル・リサーチにはこれだけあれば十分と思われる。
- ・大学は複数アカウントで契約しているので 1ID での提供は少ないようにも思われるが、大学でも法学部学生・院生の人数に比して夏休み等では 1 日の利用が少ない日もある。導入費用は高額であり、利用のバッティングがあまり生じていないのであれば問題ないだろう。

② 収書、その他資料についてのアドバイス

- ・法学研究者等の記念論文集（退官記念、古希記念等）は、執筆者の意識も高く資料的価値は高いと言われているが、一般に高額なため、予算の状況によっては公共図書館での収集を見送り、近隣の大学図書館を案内することも考えられる。
- ・法律関連図書（特に逐条解説やコンメンタール）は、法律の改廃、新判例の出現により改訂が発生し、その都度更新していく必要がある。
- ・版を重ねている図書は一定の評価を受けている資料である可能性が高い。しかしその一方で教科書として利用されているのか、毎年のように改訂されているものもあるので注意が必要である。
- ・個別六法は、通達も一緒に掲載されていることがある。特にその分野の調査を行う人には便利。また、過去の六法全書も、その当時の法令の条文が見やすいので有用である。

4.2 医療情報分野の資料評価

（1）外部で作成された資料リストによる蔵書分析

- ①「日本医書出版協会書誌データ」（一般社団法人日本医書出版協会）掲載図書の所蔵調査
出版されている医療情報関連の図書をどの程度収集できているかを把握するため、医学関係の図書の出版目録である『医学書総目録』（一般社団法人日本医書出版協会）の書誌データを使用し、同目録掲載タイトルの所蔵状況を調査した。

【調査方法】

- ・『医学書総目録』の書誌データとして日本医書出版協会が提供する「日本医書出版協会書誌データ」（2015年10月現在）に収録されている図書のうち、ISBNデータが付与されている資料を対象として中央図書館所蔵状況を調べる。

対象資料数：17,169件

- ・調査日 平成27年12月4日

対象資料の価格帯別所蔵状況は、【巻末表④】のとおりである。

- ・全体 17,169 件に対する府立図書館の所蔵タイトル数は 2,850 件、全体の所蔵割合は 16.6%である。価格帯別の所蔵割合は、価格が 5,000 円以下の図書では 18.8%、5,000 円から 10,000 円の図書は 13.8%、10,000 円から 50,000 円の高額図書では 10.7%となっている。
- ・分野別では、「基礎医学」分野、「医学一般」分野、「公衆衛生」分野等は 25%から 50%の比較的高い所蔵割合となっている。一方、より専門の度合いが高いと思われる臨床医学の所蔵割合は概ね数%から 10%台と低い水準にとどまっており、医療従事者向けの高度かつ高額な医学書ではなく、一般の利用者向けの資料を選定してきた結果が反映されている。
- ・臨床医学の中でも、社会的な関心が高いと考えられる分野（「癌・主要一般」「感染症・AIDS」「アレルギー」「老年医学」「小児外科学」「移植・人工臓器」等）は、所蔵の割合が高い。また、中央図書館資料選択基準において意識的に収集している「鍼灸療法技術」の所蔵割合も高くなっており、概ね収集方針に沿った適切な選書ができているものと考えられる。

② 他府県立図書館が作成した医療健康分野のパスファインダー掲載図書の所蔵調査

医療情報関係の図書をどの程度収集できているかを把握するため、都県立図書館 4 館（東京都立中央、埼玉県立久喜、鳥取県立、岡山県立）が作成した医療情報分野のパスファインダーを使用し、所蔵調査を行った。

調査日 平成 27 年 10 月

調査対象 1,200 冊（のべ 1,374 冊のうち重複タイトル 174 冊を除く）

調査対象 1,200 冊のうち、中央図書館で所蔵している図書は全体の 52.9%（635 冊）であった。

未所蔵分 47.1%（565 冊）の中には見計らい後、返品された図書が 183 冊（33.7%）あり、その大半は類書が多数発行されている健康法・家庭療法に関する図書（例：『糖尿病を治すおいしい食事』『お灸で冷えとり“温熱効果”で体質がみるみる変わる』等）に該当するため購入を見送ったものと考えられる。また高額図書の中には、主に大学等の機関で所蔵されている専門的な資料であったため、購入されなかったと考えられるものがある。

（例：『図説漢方医薬大事典 全 4 巻』講談社 1982.5 ¥120,000 / 『世界ヘルスケア・医療統計データ』エムディーアイ・ジャパン 2003.3 ¥60,000）

パスファインダー別の所蔵割合を見ると、鳥取県立図書館の「自殺対策」について調べる「看護研究の調べ方」は、9 割以上を所蔵しており、東京都立中央図書館の「健康・医療情報」も約 9 割を所蔵している。なお東京都立中央図書館の医療情報分野のパスファインダー全 12 件中 6 件については 7 割以上を所蔵している。

一方、所蔵の少なかった分野「冷え症」（岡山県立）や「歯と健康」（東京都立中央）に

については、上述の健康法・家庭療法に関する図書や、府城市町村立図書館でも比較的購入されている一般向けの入門書が多く含まれており、中央図書館での受入を見送ったものが少なからずあることが分かった。

全体的に見ると、都道府県立図書館として一定の水準の蔵書構築ができていないのかと考える。

【表 25】他館パスファインダー掲載図書の中央図書館所蔵状況（平成 27 年 10 月現在）

作成館	パスファインダー名	掲載タイトル数(a)	所蔵タイトル数(b)	所蔵割合(b)/(a)
東京都立中央	健康・医療情報 (H26.3)	58	52	89.7%
	動物由来感染症 (H21.9)	21	17	81.0%
	インフルエンザ (H23.1)	32	25	78.1%
	ここから調べる (H27.6)	214	156	72.9%
	麻疹 (H21.9)	17	12	70.6%
	食と健康 (H25.7)	27	19	70.4%
	アンチエイジング (H24.11)	21	13	61.9%
	心の健康 (H27.1)	24	13	54.2%
	うつ病 (H23.7)	39	19	48.7%
	乳がん (H25.10)	19	9	47.4%
	メタボリックシンドローム (H24.7)	15	7	46.7%
歯と健康 (H24.5)	14	2	14.3%	
埼玉県立久喜	健康・医療情報リサーチガイド@埼玉 (H27.3)	79	65	82.3%
鳥取県立	「自殺対策」について調べる (H22.11)	25	24	96.0%
	看護研究の調べ方 (H27.6)	25	23	92.0%
	「薬」について調べる (H26.3)	18	15	83.3%
	一般的な医療・健康情報の調べ方 (H27.6)	47	36	76.6%
	「がん」について調べる (H26.3)	10	6	60.0%
	「インフルエンザ」について調べる (H26.3)	12	7	58.3%
	「慢性腎臓病 (CKD)」について調べる (H26.3)	16	9	56.3%
	「うつ病」について調べる (H26.3)	20	10	50.0%
	「乳がん」について調べる (H26.3)	20	11	55.0%
	「認知症」について調べる (H26.3)	19	10	52.6%
	「大腸がん」について調べる (H26.3)	7	3	42.9%
	「不妊」について調べる (H26.3)	21	9	42.9%
	「子宮がん」について調べる (H26.3)	14	6	42.9%
「糖尿病」について調べる (H22.1)	66	24	36.4%	
岡山県立	「インフルエンザ」に関する資料リスト (H26.12)	44	26	59.1%
	「医療・健康情報の探し方」関連図書リスト (H26.11)	80	41	51.3%
	「認知症」に関する資料リスト (H27.3)	96	48	50.0%
	「癌 (ガン)」に関する資料リスト (H27.2)	165	69	41.8%
	「肝臓の病気」に関する資料リスト (H27.4)	42	9	21.4%
「冷え症」に関する資料リスト (H26.1)	47	2	4.3%	
のべ冊数		1,374		
重複を除く実数		1,200	635	52.9%

* パスファインダー名欄 () 内の日付は作成年月

(2) 外部有識者による評価

外部有識者による第三者評価の試みとして、医療情報の専門家に中央図書館 3 階社会・自然系資料室の医療分野の書架を実際にご覧いただき、講評していただいた。

講評の概要は、次のとおり。

日 時 : 平成 28 年 1 月 27 日

外部有識者 : 公立 (府県立) こども病院医学図書室司書

場 所 : 社会・自然系資料室

開架・参考図書 (医学分野)

・一般図書

369<社会福祉。特に高齢者福祉、障がい者福祉等>

378<障がい児教育>

49<主に 493.9 小児科学>

598<家庭の医学>

・新着雑誌 (医学分野)

① 参考書架

- ・「薬」に関する資料は、できるだけ毎年更新することが望ましい。副作用情報は頻繁に変わることで、次々と新薬が登場することが理由。古い情報は「害」になる場合がある。
- ・「抗がん剤」に関する資料も、毎年更新することが望ましい。以前は入院して投与する治療が主だったが、現在は外来治療が主になっている。
- ・医学情報の「賞味期限」はおおよそ 5 年（「診療ガイドライン」の改訂頻度がおおよそ 5 年）であるが、以下の分野は、発行後 5 年以上経過しているものでも有効であることが多い。

画像診断、解剖学、病態生理、メンタルヘルス、漢方、食品・栄養

- ・「ビジュアルシリーズ」のようなものを 1 セット、参考書架にも置けないか。調査の起点になる。
- ・「発行年が直近 5 年以内のものを探しましょう」「最新の情報はインターネットから取得できます」というような掲示をするなど、利用者に注意喚起することが望ましい。発行年の情報を、利用者は見ているようで見ていない。
- ・「健康・医療情報」調査ガイドに記載している免責事項（図書館では、専門家の判断が必要な、個別の健康相談・医療相談は行っていません。個別の健康相談・医療相談は、お近くのお医者さんにご相談ください。）と同じ内容の注意書きを参考図書の書架にも掲示してはどうか？
- ・書架のそばに、台と、鉛筆・メモをそろえられるとよい。

病名や薬の名前は似た名前が多い。覚えて後でメモと思うと間違える恐れあり、その場でメモできる配慮があるとよい。書架の 1 段分を空にして、そこを閲覧台として大きな参

考図書を広げたりメモしたりするスペースとして使うことも考えられる。

② 一般書架

- ・ 493.9 小児科学の棚は資料がとても揃っている。
- ・ NDC は病名からは引けるが、病態からはたどれない。一方で、一般利用者は病名からは探せない。パスファインダー等に人体の絵を描き、「おなかの症状はこの棚」といった視覚から入る形で示すと分かりやすい。
- ・ 書架は、エビデンスに基づく資料と、そうでない資料（ナラティブな資料）が混然一体となっている印象。どの資料がエビデンスに基づくものか見分けられる工夫があるとよい。エビデンスに基づく資料だけの棚、そうでない資料の棚と分ける、エビデンス資料だけ色シールを背に貼付することも考えられる。
- ・ 他館の事例で、闘病記について、主人公が最終的に亡くなる話とそうでないものをシールで区別した例がある。患者への配慮。
- ・ 498.5 の食品・栄養学の分野、とても揃っている。
- ・ 検査値の読み方の資料は、ニーズが高い。
- ・ 598「家庭の医学」と、49「医学」の書架が離れているが、医療健康情報のパスファインダーにフロア図を掲載してそれぞれの書架の位置を出しておくとうい。
- ・ 利用者のプライバシーを守ることは重要。静かな閲覧室でやりとりすると周囲の利用者に会話が聞こえる場合がある。病気等に関する棚などは、他の利用者の目に触れにくい奥まった場所などが望ましいが、なかなか難しいケースも多い。他館の事例として、貸出カウンターに紙袋を用意しておき、病名等がそのまま書名に入っているようなデリケートな資料を手渡す時には紙袋に入れて他の利用者の目に触れないようにしている。また、勤務先の医学図書室では、複写物を利用者に渡す時も使用済み封筒に入れるなど、他の利用者の目に触れないような配慮を行っている。聞き取ったメモも利用者の目の前でシュレッダーしている。静かな BGM をカウンター周りにだけ流す方法もある。会話が他に漏れるのを防ぐ効果がある。
- ・ 閲覧室は、書架の間隔が広く、とても落ち着いた雰囲気である。

③ 雑誌

- ・ とてもよく揃っている。
- ・ 学会誌への問合せに対して現物の提供ができないことが多い、とのことだが、公共図書館で学会誌にまで対応する必要はないと思う。医学図書館を案内すればよい。利用者が看護師の方の場合は、看護協会図書館や医師会の図書館も使える場合がある。

④ データベース

- ・ とても充実している。

おわりに

中央図書館の蔵書評価の取組みとして、いくつかの観点から分析を行ってきた。得られた結果から、資料収集方針に沿った収集および蔵書構築は概ねできているものと考えている。入手できるデータにも限界があり、十分な分析ができたとは考えていないが、これまで実務を通して認識していた中央図書館の蔵書の実態を、改めて数字として確認できたことも多い。

府立図書館は、大阪府の厳しい財政状況を反映した資料購入予算の減少、また収蔵スペースの逼迫等により、今後は受け入れる資料に対し一層厳しい選択が求められると思われる。また、ウェブ情報のみならず、オンラインデータベースや電子書籍といった新たな媒体がますます存在感を大きくする中で、多様化する府民の情報ニーズに公共図書館がいかに対応していくか、今後とも府立図書館としての役割を果たしていくためにはどのような蔵書が求められるのか、引き続き真摯な検討が必要であると考えている。今回の調査結果を今後の検討材料として活用していきたい。

最後に、快く所蔵データを提供くださった府内 5 つの市立図書館、分野ごとの評価において講評をいただいた外部有識者の先生方のご協力に厚くお礼申しあげる。

担 当 （所属は平成 27 年度）

【資料情報課】

仙田ひろ子、 山田瑞穂、 尾崎弘明、 増田景子

【協力振興課】（データ処理協力）

酒井 格、 須賀季夫

【巻末表①】中央図書館の購入日本語一般図書の冊数・価格と出版点数・価格（分類別）

（平成 24 年度） a、b とも本体価格

NDC 分類	購入冊数 (冊) A	出版点数 (点) B	購入冊数 比率 A/B	A の平均 価格 (円) a	B の平均 価格 (円) b	a/b
0 総記	813	1,981	41.0%	5,235	3,905	1.34
1 哲学	956	4,342	22.0%	3,659	2,112	1.73
2 歴史	1,587	4,847	32.7%	4,807	2,686	1.79
3 社会科学	5,569	16,094	34.6%	3,889	3,051	1.27
4 自然科学	1,908	6,935	27.5%	3,564	3,329	1.07
5 工学	2,086	9,104	22.9%	3,357	2,481	1.35
6 産業	932	3,631	25.7%	3,744	2,521	1.49
7 芸術	1,629	12,763	12.8%	3,435	1,703	2.02
8 語学	323	2,053	15.7%	3,603	2,039	1.77
9 文学	3,375	13,893	24.3%	2,487	1,386	1.79
計	19,178	75,643	25.4%	3,623	2,367	1.53

（平成 25 年度） a、b とも本体価格

NDC 分類	購入冊数 (冊) A	出版点数 (点) B	購入冊数 比率 A/B	A の平均 価格 (円) a	B の平均 価格 (円) b	a/b
0 総記	739	2,135	34.6%	4,835	3,417	1.41
1 哲学	1,101	4,289	25.7%	3,660	2,081	1.76
2 歴史	1,904	4,741	40.2%	4,255	2,553	1.67
3 社会科学	5,316	16,457	32.3%	3,773	2,751	1.37
4 自然科学	2,314	7,140	32.4%	3,483	3,253	1.07
5 工学	2,049	9,067	22.6%	3,656	2,401	1.52
6 産業	911	3,505	26.0%	3,490	2,482	1.41
7 芸術	1,795	13,223	13.6%	3,824	1,713	2.23
8 語学	350	1,905	18.4%	3,911	2,071	1.89
9 文学	3,304	13,635	24.2%	2,342	1,317	1.78
計	19,783	76,097	26.0%			

（平成 26 年度） a、b とも本体価格

NDC 分類	購入冊数 (冊) A	出版点数 (点) B	購入冊数 比率 A/B	A の平均 価格 (円) a	B の平均 価格 (円) b	a/b
0 総記	752	1,924	39.1%	4,644	4,309	1.08
1 哲学	960	4,255	22.6%	3,505	2,300	1.52
2 歴史	1,453	4,876	29.8%	4,421	2,569	1.72
3 社会科学	4,998	15,858	31.5%	3,441	3,171	1.09
4 自然科学	2,308	7,007	32.9%	3,233	3,287	0.98
5 工学	1,874	8,736	21.5%	3,764	2,409	1.56
6 産業	967	3,427	28.2%	3,492	2,432	1.44
7 芸術	1,596	13,063	12.2%	3,606	1,786	2.02
8 語学	299	1,751	17.1%	3,754	2,097	1.79
9 文学	3,306	13,484	24.5%	2,331	1,335	1.75
計	18,513	74,381	24.9%			

*24 年度～26 年度とも、購入冊数、購入の平均本体価格は図書館情報システムより作成。出版点数、

出版の平均本体価格は「出版年鑑 2015」より。

【巻末表②】平成24～26年度購入の日本語図書（禁帯出）で、複写回数1回の資料

分類	タイトル	巻次	出版年
007.3	デジタルコンテンツ白書	2013	201309
010.33	図書館用語集		201310
021.2	著作権研究	39(2012年)	201403
182.1	訓読元亨釈書	上巻	201111
203.8	プッツガー歴史地図		201303
210.02	禁裏・公家文庫研究	第4輯	201203
210.6	明治時代史大辞典	3	201302
219.7	奄美諸島編年史料	古琉球期編上	201406
281.033	姓名よみかた辞典	名の部	201408
290.36	人文地理学事典		201309
291.038	伊能図大全	第3巻	201312
291.21	青森県道路地図		201300
291.22	岩手県道路地図		201400
291.24	秋田県道路地図		201300
291.25	山形県道路地図		201400
291.32	栃木県道路地図		201300
291.56	ゼンリン住宅地図三重県津市	2	201308
291.56	ゼンリン住宅地図三重県津市	3	201209
291.56	ゼンリン住宅地図三重県津市	1	201309
291.56	ゼンリン住宅地図三重県伊賀市	3	201306
291.61	ゼンリン住宅地図滋賀県甲賀市	1	201112
291.61	滋賀県道路地図		201300
291.62	ゼンリン住宅地図京都府京都市	9	201111
291.62	ゼンリン住宅地図京都府城陽市		201203
291.62	ゼンリン住宅地図京都府相楽郡笠置町 和東町 南山城村		201204
291.62	ゼンリン住宅地図京都府京都市	10	201104
291.62	ゼンリン住宅地図京都府宇治市		201203
291.62	ゼンリン住宅地図京都府京都市	6	201206
291.63	ブルーマップ大阪市城東区	[2008]	200811
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	11	201109
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府堺市	5	201110
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府堺市	6	201111
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府和泉市		201203
291.63	ブルーマップ大阪市淀川区		201210
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府四條畷市		201204
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府豊中市	1	201206
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府八尾市		201205
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府南河内郡太子町 河南町 千早赤阪村		201205
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府大東市		201206
291.63	ブルーマップ大阪市東淀川区		201211
291.63	ブルーマップ大阪市東住吉区		201212
291.63	ブルーマップ大阪市阿倍野区		201212
291.63	ブルーマップ大阪市北区		201301
291.63	ブルーマップ大阪市此花区		201301
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	24	201304
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府枚方市	1	201311
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府寝屋川市		201312
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府高槻市	1	201402
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	16	201404
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	20	201404
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	8	201407
291.63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	15	201407

分類	タイトル	巻次	出版年
291. 63	ゼンリン住宅地図大阪府箕面市		201408
291. 63	ゼンリン住宅地図大阪府藤井寺市		201406
291. 63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	10	201406
291. 63	ゼンリン住宅地図大阪府豊中市	2	201406
291. 63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	23	201408
291. 63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	21	201408
291. 63	ゼンリン住宅地図大阪府大阪市	24	201404
291. 63	ブルーマップ豊中市	1	201411
291. 64	ゼンリン住宅地図兵庫県伊丹市		201203
291. 64	ゼンリン住宅地図兵庫県宝塚市		201301
291. 64	ゼンリン住宅地図兵庫県神戸市	7-[1]	201205
291. 64	ゼンリン住宅地図兵庫県神戸市	7-[2]	201205
291. 64	ゼンリン住宅地図兵庫県尼崎市	1	201209
291. 64	ゼンリン住宅地図兵庫県西宮市	2	201208
291. 64	ゼンリン住宅地図兵庫県神戸市	5	201207
291. 65	ゼンリン住宅地図奈良県生駒市		201207
291. 65	ゼンリン住宅地図奈良県葛城市		201212
291. 65	ゼンリン住宅地図奈良県御所市		201301
291. 65	ゼンリン住宅地図奈良県大和高田市		201403
291. 66	ゼンリン住宅地図和歌山県西牟婁郡上富田町		201107
291. 66	ゼンリン住宅地図和歌山県和歌山市南		201107
291. 66	ゼンリン住宅地図和歌山県田辺市	2	201301
291. 66	和歌山県道路地図		201300
291. 73	島根県道路地図		201300
291. 83	愛媛県道路地図		201200
292. 2	近代中国都市案内集成	第 12 巻	201201
318. 036	全国市町村要覧	平成 26 年版	201411
318. 2	都市データパック	2014 年版	201407
322. 135	九条家本延喜式	2	201203
323. 97	土地収用裁決例集	平成 24 年度裁決	201406
324. 09	最高裁判所判例解説	平成 22 年度下	201402
332. 106	現代日本経済史年表		201202
335. 035	帝国データバンク会社年鑑	93 版(2013)東日本 2	201210
335. 035	東商信用録	平成 25 年版	201308
335. 035	役員四季報	2015 年版	201410
335. 5	海外進出企業総覧	2012 国別編	201204
335. 57	競争法の国際的執行		201309
338. 7	日本の消費者信用統計	平成 26 年版	201402
345. 5	路線価図	[2012]大阪府 1	201207
345. 5	路線価図	[2012]大阪府 16	201207
345. 5	路線価図	[2013]大阪府 16	201307
345. 5	路線価図	[2014]京都府 2	201407
345. 5	路線価図	[2014]大阪府 1	201407
349. 5	地方税関係通知実例集	平成 26 年	201407
351	データでみる県勢	2014	201312
351	民力	2014	201408
351	データでみる県勢	2015	201412
351. 66	和歌山県統計年鑑	平成 21 年刊行	200912
351. 66	和歌山県統計年鑑	平成 22 年刊行	201010
351. 66	和歌山県統計年鑑	平成 23 年刊行	201110
351. 66	和歌山県統計年鑑	平成 24 年刊行	201210
351. 66	和歌山県統計年鑑	平成 25 年刊行	201310
351. 97	鹿児島県統計年鑑	平成 24 年	201312
360. 8	定本見田宗介著作集	4	201208

分類	タイトル	巻次	出版年
361. 9	OECD 幸福度白書	[1]	201212
364. 4	介護報酬算定 Q&A		201211
365. 7	レジャー白書	2012	201210
365. 7	レジャー白書	2013	201308
365. 7	余暇・レジャー&観光総合統計	2014-2015	201308
366. 059	労働統計要覧	平成 23 年度	201206
366. 28	日雇・失業対策史資料	1	201206
366. 28	日雇・失業対策史資料	2	201206
366. 28	日雇・失業対策史資料	3	201206
366. 28	日雇・失業対策史資料	4	201206
366. 4	賃金センサス	平成 26 年版第 3 巻	201407
366. 46	賃金事情等総合調査	平成 25 年	201404
367. 2	女性の暮らしと生活意識データ集	2014	201406
367. 7	シニア白書	2011	201110
369. 033	21 世紀の現代社会福祉用語辞典		201303
369. 033	社会福祉用語辞典		201304
369. 1	社会福祉士及び介護福祉士法成立過程資料集	3	200805
369. 1	寄付白書	2012	201212
369. 2	生活保護手帳別冊問答集	2014	201408
369. 2	生活保護手帳	2014 年度版	201408
369. 26	介護・看護サービス統計データ集	2015	201410
369. 28	精神保健福祉白書	2015 年版	201411
371. 45	児童心理学の進歩	2014 年版	201406
373. 2	諸外国の教育行財政		201312
377. 21	大学ランキング	2013 年版	201204
377. 21	大学の實力	2013	201209
377. 21	大学ランキング	2014 年版	201304
377. 21	大学の實力	2014	201309
377. 21	大学ランキング	2015 年版	201404
380. 33	野外植物民俗事苑		201209
383. 1	FASHION		201310
383. 8	たべもの語源辞典		201209
385. 6	永代供養墓の本		201211
430. 36	化学便覧	応用化学編 1	201401
440. 59	天文年鑑	2014 年版	201311
470. 38	APG 原色牧野植物大図鑑	2	201303
491. 1	図解解剖学事典		201310
492	今日の治療指針	2012	201201
492. 7	針灸治療大全		201405
492. 8	医療機器・用品年鑑	2012 年版 No. 3	201205
492. 8	医療機器・用品年鑑	2013 年版 No. 1	201306
493. 18	高齢者疾患の解説		201302
493. 72	今日の精神疾患治療指針		201202
494. 5	ホスピス緩和ケア白書	2014	201403
498. 059	国民衛生の動向	2014/2015	201408
498. 51	食品添加物便覧	2012 年版	201212
498. 55	栄養・健康データハンドブック	2014/2015	201404
499. 093	保険薬事典	平成 24 年 4 月版	201203
499. 093	保険薬事典 Plus+	平成 25 年 4 月版	201304
499. 093	保険薬事典 Plus+	平成 26 年 4 月版	201403
499. 1	JAPIC 一般用医薬品集	2013	201209
499. 1	JAPIC 一般用医薬品集	2014	201309

分類	タイトル	巻次	出版年
499. 1	JAPIC 医療用医薬品集	2015	201408
499. 1	JAPIC 一般用医薬品集	2015	201409
501. 48	カーボン製品市場の徹底分析		201112
501. 6	EDMC/エネルギー・経済統計要覧	2014 年版	201402
503. 5	工場ガイド	西日本	201201
505. 9	工業統計表	平成 22 年	201206
509. 29	日本立地総覧	2014 年版	201406
510. 93	公共事業予算	2014 年度	201406
513. 1	土木工事積算標準単価	平成 26 年度版	201408
518. 1	水道統計	第 95-1 号(平成 24 年度)	201403
518. 21	推進工事中機械器具等損料参考資料	2014 年度版	201404
518. 8	滋賀県都市計画地図集	平成 24 年版	201203
526. 3	公共建築工事積算基準	平成 25 年版	201306
535. 8	光学技術の事典		201408
547. 51	EMC・ノイズ対策市場の実態と将来展望	2014	201405
549. 036	電子機器年鑑	2015	201410
549. 8	半導体産業計画総覧	2014-2015 年度版	201409
570	日本における 1 社製造化学品に関する調査	2011 年版	201100
575. 46	LP ガス資料年報	VOL. 49(2014 年版)	201403
575. 6	日本の石油化学工業 50 年データ集		201112
578. 2	ゴム年鑑	2014 年版	201312
586. 059	経済産業省生産動態統計年報	平成 25 年	201407
588. 033	食品産業事典	下巻	201309
603. 6	業種別業界情報	2014 年版	201401
673. 3	自動販売フルオペ事業総合資料	2012 年版 専門オペレーター篇	201210
673. 8	全国大型小売店総覧	2014	201308
673. 8	全国大型小売店総覧	2015	201409
673. 8	日本スーパー名鑑	2015 年版 店舗編 1 巻	201411
673. 8	日本スーパー名鑑	2015 年版 店舗編 5 巻	201411
673. 9	不動産白書	2014	201400
678. 3	関税六法	平成 25 年度版	201308
686. 059	鉄道統計年報	平成 23 年度	201402
686. 21	鉄道要覧	平成 26 年度	201409
686. 52	駅別乗降者数総覧	'14	201410
702. 17	奈良時代の東大寺		201110
709. 1	事典・日本の地域遺産		201301
767. 8	全音歌謡曲大全集	9	200110
773. 033	能楽大事典		201201
778. 09	動画配信ビジネス調査報告書	2014	201405
780. 36	スポーツ大図鑑		201405
810. 33	日本語大事典	下	201411
810. 33	日本語大事典	上	201411
813. 1	岩波国語辞典		201111
813. 1	新明解国語辞典		201201
813. 1	集英社国語辞典		201212
813. 1	学研現代新国語辞典		201212
821. 2	漢字語源語義辞典		201409
910. 4	国文学年次別論文集	近代 4 平成 22(2010)年	201310
918. 68	小田実全集	評論第 28 巻	201303
918. 68	佐々木基一全集	5	201306

【巻末表④】「日本医書出版協会書誌データ」(2015年10月現在)掲載図書の所蔵状況
(平成27年12月現在) ※所蔵数の下段は、掲載数に対する所蔵数の割合(%)

	～5,000円		～10,000円		～15,000円		～20,000円		～50,000円		50,001円～		合計	
	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数
基礎医学														
基礎医学一般	48	23 47.9	6	2 33.3	2	1 50.0	7	6 85.7	2	1 50.0			65	33 50.8
解剖学	95	6 6.3	65	18 27.7	21	8 38.1	8	1 12.5	9	0 0.0	1	0 0.0	199	33 16.6
組織学・発生学	10	1 10.0	21	2 9.5	4	1 25.0	1	0 0.0	1	0 0.0			37	4 10.8
生理学	49	3 6.1	18	3 16.7	3	2 66.7			1	1 100			71	9 12.7
生化学	50	2 4.0	27	9 33.3	2	1 50.0	1	1 100					80	13 16.3
薬理学	17	3 17.6	16	5 31.3	3	0 0.0	1	1 100					37	9 24.3
病理学	22	1 4.5	18	1 5.6	21	2 9.5	24	0 0.0	5	0 0.0			90	4 4.4
病原微生物学(細菌・ウイルス・真菌)	31	7 22.6	21	6 28.6	4	0 0.0	1	1 100					57	14 24.6
医動物学(寄生虫)	2	0 0.0	5	0 0.0	1	0 0.0							8	0 0.0
免疫学・血清学	26	7 26.9	21	6 28.6	3	1 33.3							50	14 28.0
法医学	5	2 40.0	13	6 46.2									18	8 44.4
基礎医学関連科学														
基礎医学関連科学一般	27	9 33.3	11	1 9.1	1	0 0.0							39	10 25.6
生命科学(ライフサイエンス)	110	39 35.5	52	23 44.2	2	2 100	2	2 100		2	1 50.0		168	67 39.9
生物学・分子生物学	60	29 48.3	30	10 33.3	6	3 50.0			1	0 0.0			97	42 43.3
細胞学・細胞工学	21	5 23.8	11	4 36.4			1	0 0.0	1	0 0.0			34	9 26.5
遺伝学・遺伝子工学	27	10 37.0	10	3 30.0	3	0 0.0	1	0 0.0	2	1 50.0			43	14 32.6
人類遺伝学	9	5 55.6	1	1 100	1	0 0.0			1	0 0.0			12	6 50.0
ME(医用工学)・医用材料	116	16 13.8	20	3 15.0	1	1 100			4	0 0.0			141	20 14.2
顕微鏡・電子顕微鏡	3	0 0.0	1	1 100			1	0 0.0					5	1 20.0
実験動物	3	1 33.3	1	1 100									4	2 50.0
臨床医学：基礎系														
臨床薬理学	9	1 11.1	5	0 0.0	1	0 0.0			1	1 100			16	2 12.5
臨床病理学	2	0 0.0	12	0 0.0	3	0 0.0			4	0 0.0			21	0 0.0
臨床細胞学	3	0 0.0	3	0 0.0					1	0 0.0			7	0 0.0
臨床免疫学	5	1 20.0	1	0 0.0	1	0 0.0			1	0 0.0			8	1 12.5
臨床医学：一般														
臨床医学一般	200	33 16.5	51	6 11.8	6	1 16.7	4	0 0.0	3	1 33.3			264	41 15.5
診断学一般	42	7 16.7	33	5 15.2	1	0 0.0	2	1 50.0	2	0 0.0			80	13 16.3
臨床検査診断学	55	7 12.7	30	5 16.7	2	0 0.0	1	1 100					88	13 14.8
画像医学・超音波医学	138	6 4.3	200	3 1.5	30	1 3.3	10	0 0.0	4	0 0.0	1	0 0.0	383	10 2.6
治療一般	15	3 20.0	5	0 0.0	2	0 0.0	7	0 0.0					29	3 10.3

	～5,000円		～10,000円		～15,000円		～20,000円		～50,000円		50,001円～		合計	
	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数
プライマリケア医学	65	14 21.5	28	7 25.0	2	0 0.0							95	21 22.1
救命・救急医学	201	36 17.9	79	11 13.9	10	2 20.0	3	0 0.0	2	0 0.0	1	0 0.0	296	49 16.6
集中治療医学 (ICU・CCU)	41	3 7.3	45	3 6.7	6	1 16.7	1	0 0.0	1	0 0.0			94	7 7.4
放射線医学・核医学	67	13 19.4	50	2 4.0	9	1 11.1	1	0 0.0					127	16 12.6
癌・腫瘍一般	283	87 30.7	109	21 19.3	12	1 8.3	16	4 25.0					420	113 26.9
栄養・食事療法・輸液・輸血	109	19 17.4	22	2 9.1	3	1 33.3	3	1 33.3	2	0 0.0			139	23 16.5
薬物療法	102	21 20.6	26	8 30.8	1	0 0.0	1	0 0.0					130	29 22.3
東洋医学	87	26 29.9	41	12 29.3	8	2 25.0	3	1 33.3	5	0 0.0			144	41 28.5
臨床医学：内科系														
内科学一般	103	16 15.5	63	4 6.3	4	1 25.0	7	0 0.0	11	0 0.0			188	21 11.2
感染症・AIDS	174	47 27.0	41	2 4.9	5	2 40.0	1	1 100	2	0 0.0			223	52 23.3
アレルギー	25	4 16.0	9	3 33.3	1	0 0.0	1	1 100	2	1 50.0			38	9 23.7
内分泌・代謝	71	9 12.7	44	6 13.6	3	0 0.0			1	0 0.0			119	15 12.6
糖尿病	178	26 14.6	42	5 11.9	2	0 0.0	2	1 50.0	1	0 0.0			225	32 14.2
腎臓	189	32 16.9	79	7 8.9	9	1 11.1	4	0 0.0	2	0 0.0			283	40 14.1
血液	76	5 6.6	73	3 4.1	13	0 0.0	3	0 0.0	4	1 25.0			169	9 5.3
膠原病・リウマチ	44	5 11.4	44	3 6.8			2	1 50.0					90	9 10.0
老人医学	53	14 26.4	17	3 17.6	1	1 100	2	0 0.0					73	18 24.7
脳神経科学・神経内科学	219	49 22.4	157	25 15.9	46	14 30.4	20	1 5.0	9	0 0.0			451	89 19.7
精神医学	414	132 31.9	166	49 29.5	27	10 37.0	8	3 37.5	35	1 2.9			650	195 30.0
心身医学・臨床心理学	112	17 15.2	12	2 16.7	3	0 0.0	1	1 100	1	0 0.0			129	20 15.5
呼吸器一般	114	15 13.2	74	5 6.8	11	1 9.1	3	0 0.0	1	0 0.0			203	21 10.3
胸部疾患	14	3 21.4	12	0 0.0	2	0 0.0	1	0 0.0					29	3 10.3
気管食道科学	4	0 0.0	3	0 0.0									7	0 0.0
循環器一般	88	6 6.8	144	5 3.5	36	3 8.3	3	0 0.0	1	0 0.0	1	0 0.0	273	14 5.1
心臓	45	10 22.2	57	2 3.5	7	0 0.0	16	0 0.0	4	0 0.0			129	12 9.3
心電図・心音図・心エコー	74	0 0.0	38	2 5.3	4	0 0.0	1	0 0.0	2	0 0.0			119	2 1.7
血管 (脳血管・心血管・血圧)	37	1 2.7	23	1 4.3	6	0 0.0	1	0 0.0					67	2 3.0
消化器一般	106	19 17.9	74	0 0.0	18	0 0.0	6	1 16.7	5	0 0.0			209	20 9.6
胃・腸	36	4 11.1	51	0 0.0	19	1 5.3	6	0 0.0	1	0 0.0			113	5 4.4
肝・胆・膵	72	18 25.0	42	3 7.1	12	0 0.0	3	0 0.0	2	0 0.0			131	21 16.0
小児科学一般	258	72 27.9	184	34 18.5	22	4 18.2	4	1 25.0	7	0 0.0	1	0 0.0	476	111 23.3
周産期医学 (新生児学)	29	7 24.1	28	1 3.6	2	0 0.0			4	0 0.0			63	8 12.7
皮膚科学	48	9 18.8	96	13 13.5	44	4 9.1	21	1 4.8	40	1 2.5			249	28 11.2

	～5,000円		～10,000円		～15,000円		～20,000円		～50,000円		50,001円～		合計	
	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数
臨床医学：外科系														
外科学一般	37	7 18.9	51	2 3.9	18	0 0.0	13	0 0.0	4	0 0.0			123	9 7.3
脳神経外科学	29	3 10.3	49	1 2.0	56	0 0.0	18	0 0.0	32	0 0.0	1	0 0.0	185	4 2.2
胸部外科学	9	0 0.0	7	0 0.0	7	0 0.0	5	0 0.0	4	0 0.0	1	0 0.0	33	0 0.0
心臓・血管外科学	11	0 0.0	15	0 0.0	6	0 0.0	8	0 0.0	9	0 0.0			49	0 0.0
消化器外科学	22	7 31.8	52	3 5.8	56	1 1.8	8	0 0.0	10	2 20.0	1	0 0.0	149	13 8.7
小児外科学	4	2 50.0	5	2 40.0			1	0 0.0	1	1 100			11	5 45.5
形成外科学	14	6 42.9	22	1 4.5	24	2 8.3	22	0 0.0	17	0 0.0	1	0 0.0	100	9 9.0
移植・人工臓器	6	3 50.0	5	0 0.0					2	1 50.0			13	4 30.8
整形外科	115	23 20.0	172	8 4.7	70	2 2.9	45	5 11.1	70	21 30.0	4	0 0.0	476	59 12.4
災害医学	13	7 53.8	7	5 71.4	1	0 0.0							21	12 57.1
スポーツ医学	78	17 21.8	33	8 24.2	7	1 14.3	4	2 50.0					122	28 23.0
リハビリテーション 医学	285	69 24.2	129	24 18.6	9	2 22.2	3	1 33.3	4	1 25.0	1	0 0.0	431	97 22.5
産婦人科学	67	12 17.9	84	9 10.7	48	5 10.4	10	0 0.0	34	0 0.0			243	26 10.7
眼科学	34	7 20.6	89	2 2.2	84	1 1.2	45	0 0.0	32	0 0.0	2	0 0.0	286	10 3.5
耳鼻咽喉科学・頭頸部 外科学	85	15 17.6	33	4 12.1	23	0 0.0	7	1 14.3	31	0 0.0			179	20 11.2
泌尿器科学	45	12 26.7	31	1 3.2	24	1 4.2	5	0 0.0	4	0 0.0			109	14 12.8
口腔外科学	3	0 0.0	2	0 0.0	2	0 0.0			1	1 100			8	1 12.5
麻酔科学・ペインクリ ニック	168	16 9.5	178	8 4.5	29	1 3.4	12	0 0.0	4	1 25.0	1	0 0.0	392	26 6.6
医学一般														
医学一般	317	101 31.9	13	2 15.4	2	0 0.0	2	0 0.0	1	1 100			335	104 31.0
医学概論	33	8 24.2	20	20 100									53	28 52.8
医療制度（医事法制・ 医療経済）	75	31 41.3	4	1 25.0					2	1 50.0			81	33 40.7
医療社会学	18	9 50.0	1	1 100									19	10 52.6
病院管理学	95	26 27.4	3	0 0.0	1	0 0.0			9	1 11.1			108	27 25.0
医療統計学	117	15 12.8	15	3 20.0	1	1 100			1	0 0.0			134	19 14.2
医学情報学	66	9 13.6	1	0 0.0									67	9 13.4
医学教育	77	8 10.4	14	1 7.1									91	9 9.9
医師国家試験	79	0 0.0	8	0 0.0	6	0 0.0							93	0 0.0
事典・辞典・語学	137	16 11.7	38	12 31.6	12	4 33.3	4	3 75.0	9	2 22.2	4	0 0.0	204	37 18.1
医学史	47	12 25.5	19	8 42.1	5	2 40.0	1	1 100					72	23 31.9
医学随想	61	6 9.8	2	1 50.0									63	7 11.1
衛生・公衆衛生学														
衛生学	2	0 0.0											2	0 0.0
公衆衛生学	44	11 25.0	3	1 33.3									47	12 25.5

	～5,000円		～10,000円		～15,000円		～20,000円		～50,000円		50,001円～		合計	
	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数	掲載数	所蔵数
環境医学・産業医学・疫学	45	14 31.1	7	2 28.6					2	1 50.0			54	17 31.5
地域医療	11	3 27.3	1	0 0.0									12	3 25.0
予防医学・健康管理・患者指導	54	12 22.2	6	3 50.0	1	0 0.0	1	0 0.0					62	15 24.2
食品衛生	9	0 0.0	1	1 100					4	4 100			14	5 35.7
医療技術														
臨床検査技術	94	7 7.4	55	4 7.3			1	0 0.0	1	0 0.0			151	11 7.3
臨床放射線技術	83	2 2.4	58	3 5.2	1	0 0.0	1	0 0.0					143	5 3.5
リハビリテーション技術	556	85 15.3	237	36 15.2	13	3 23.1			3	1 33.3	1	0 0.0	810	125 15.4
鍼灸療法技術	77	23 29.9	29	11 37.9	1	0 0.0	2	1 50.0					109	35 32.1
介護・福祉	193	35 18.1	3	2 66.7									196	37 18.9
看護学														
看護学一般	387	67 17.3	21	8 38.1	4	3 75.0							412	78 18.9
看護管理	95	9 9.5	1	0 0.0									96	9 9.4
看護教育・看護研究	450	83 18.4	24	6 25.0									474	89 18.8
臨床看護・成人看護・老人看護	685	72 10.5	45	10 22.2	19	5 26.3					1	0 0.0	750	87 11.6
小児看護	46	13 28.3	10	2 20.0									56	15 26.8
母性看護	59	12 20.3	9	2 22.2									68	14 20.6
公衆衛生看護・地域看護	82	14 17.1											82	14 17.1
保健・体育														
保健学一般	14	2 14.3	1	0 0.0									15	2 13.3
母性保健・小児保健・育児学	60	12 20.0	3	0 0.0									63	12 19.0
学校保健	13	0 0.0	4	1 25.0									17	1 5.9
体育学一般	63	13 20.6	3	1 33.3									66	14 21.2
栄養学														
栄養学一般	298	32 10.7	14	4 28.6	1	0 0.0	3	1 33.3	2	1 50.0			318	38 11.9
薬学														
薬学一般	176	37 21.0	39	6 15.4	3	2 66.7	3	1 33.3	5	2 40.0			226	48 21.2
基礎薬学	51	9 17.6	32	2 6.3	1	0 0.0							84	11 13.1
薬剤学	8	2 25.0	16	3 18.8	1	0 0.0			1	0 0.0			26	5 19.2
薬物学	9	3 33.3	4	0 0.0									13	3 23.1
処方・薬局	98	25 25.5	13	9 69.2	1	0 0.0	1	0 0.0					113	34 30.1
歯科学														
歯科学一般	30	5 16.7	14	2 14.3	1	1 100	1	1 100	1	0 0.0			47	9 19.1
基礎歯科学	4	2 50.0	8	0 0.0	5	1 20.0	1	0 0.0					18	3 16.7
臨床歯科学	33	4 12.1	27	2 7.4	9	0 0.0	1	0 0.0	3	0 0.0			73	6 8.2
合計	10,714	2,021 18.9	4,471	616 13.8	1,024	112 10.9	444	49 11.0	491	51 10.4	25	1 4.0	17,169	2,850

「大阪府立中央図書館 蔵書評価（報告）」の概要

大阪府立図書館の使命

大阪府立図書館は府域の図書館ネットワークの核として、広域的かつ総合的な視点から府民と資料・情報をつなぎ、府民の”知りたい”という気持ちにこたえ、”学びたい”という意欲を育み、豊かで活気あるくらしと大阪における新たな知識と文化の創造に寄与すること

＜基本方針2＞

大阪府立図書館は、幅広い資料の収集・保存に努め、すべての府民が正確な情報・知識を得られるようにサポートします。

大阪府立中央図書館は、府民の調査研究、教養の向上等に資する資料を収集する。新刊図書は全分野にわたる、基礎的なものから専門的なものまで、幅広く収集する。雑誌は各分野の基本的な雑誌、調査研究に資する学術的な雑誌を収集する。

1. 蔵書の概要

中央・中之島を合わせた蔵書数は全国1位
 (H26年3月末現在)

参考図書の所蔵状況

人口500万以上の府立図書館(北海道、千葉、東京、神奈川、愛知、兵庫、福岡)と比較
 ・社会科学分野がやや多い
 ・奇蹟図書受入実数でも全国第1位
 (H26年度は府立2館合計28,245冊で、受入図書の中半数を超える)

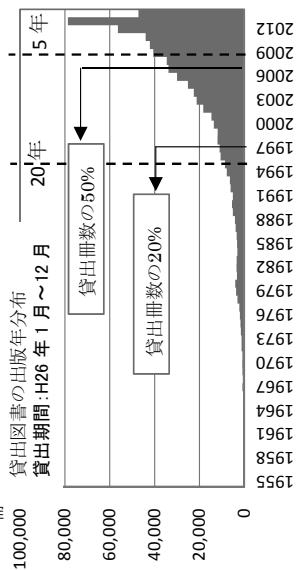


人口500万以上の府立図書館
 蔵書冊数(平成26年3月31日現在)

＜蔵書評価の目的＞

- サービスの基盤である資料収集・蔵書構築の取り組みを、府立図書館固有の役割(府域図書館のバックアップ)もふまえ、多角的に検討・分析

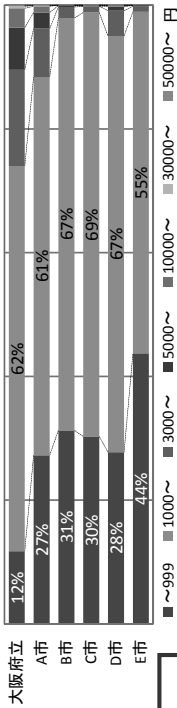
3. 利用状況の分析



古い資料も利用される
 ・刊行後20年以上経過した古い資料も貸出冊数の20%を占める
 ・受入直後に利用がなくても数年のうちに貸出されている

2. 受入図書の分析

府内5市の協力により、H26年度受入図書を比較
 購入図書の価格帯別タイトル数の割合



分担収集できている
 ・単価1万円以上の図書のうち82%を府立のみが購入
 ・府立のみが購入した図書のうち13.7%は1万円以上
 ・予算規模の大きいA市立のみが購入したのは府立が積極的に収集していない分野で3千円未満のものが多く(参考: H27年度は2%)

府立中央購入図書の平均価格は全出版物平均価格の約1.5倍
 しかし、資料購入予算減少により
 ・購入図書の平均価格は年々低下
 ・一般書新刊カバー率は年々低下
 H26年度は25%に届かず
 (参考: H27年度は2%)

4. 分野ごとの資料評価

法情報分野

「法律図書総目録 2014」掲載図書4,312タイトルを調査⇒約半数を所蔵

法情報学の専門家による講評

- 基本的なものは備えており、大学図書館の学生の閲覧用開架図書と比べ概ねよく整備されている。
- 法律関連図書は改訂の都度、更新する必要がある

医療情報分野

「日本医書出版協会書誌データ」掲載図書17,169タイトルを調査⇒16.6%を所蔵。他府県立図書館作成の医療健康分野のデータベース「アインダー」掲載図書を調査⇒52.9%を所蔵

医療情報の専門家による講評

- 資料はよくそろっている。
- 医学情報の「賞味期限」は、おおよそ5年

資料収集方針に沿った収集・蔵書構築は概ねできている。

資料購入予算の減少、収蔵スペースの逼迫の中で、多様化する府民の情報ニーズに応え、府立図書館としての役割を果たすため、引き続き真摯な検討が必要である。

大阪府立中央図書館の 20 年

吉川 逸子（中央図書館）

1. はじめに

2016（平成 28）年 5 月 10 日、中央図書館は開館二十周年を迎えた。

本稿は『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』（以下『百年史』という）(1)に続き、主として 2004（平成 16）年から 2015（平成 27）年までの大阪府立図書館の活動を、中央図書館を中心に振り返るものである。統計数値は 2016（平成 28）年 8 月時点で把握できたものを使用した。

なお、『百年史』巻末の年表の続きとして、「大阪府立図書館 1 世紀からの新たな歩み 年表でたどる 10 年の軌跡」と題する年表が 2004（平成 16）年から 2013（平成 25）年までの 10 年間に補っている(2)。

平成 27 年版『情報通信白書』は「ICT の過去・現在・未来」をテーマに取り上げている(3)。同白書によると、日本でインターネットの商用利用が開始されたのは 1993（平成 5）年である。その後の普及は急速で、2014（平成 26）年末の「携帯電話・PHS」の世帯普及率は 94.6%（うち「スマートフォン」は 64.2%）、「パソコン」では 78.0%、インターネットの人口普及率は 82.8%（ただし、13～59 歳までの年齢層では 90%を超える）と報告されている。通信環境も、電話回線から ISDN、DSL、光ファイバー回線網へと、ブロードバンド化と低廉化が進んだ。2006（平成 18）年の総務省「電子自治体オンライン利用促進指針」により地方公共団体の各種手続もオンライン化が進められた。「図書館の図書貸出予約等」は同指針に定める手続 21 種の筆頭に例示されており、利用件数も最多となっている。

中央図書館が開館した 1996（平成 8）年以降の 20 年間は、コンピュータの急速な普及、インターネットの爆発的な拡大と、それに伴う社会の劇的な変化の時期と重なっている。大阪府立図書館でもこの間、新しいサービスの開始と拡大を経験することになった。情報技術分野でドッグイヤー（dog year）という言葉が聞かれて久しいが、図書館業務でも変化の速さを実感した 20 年であった。

2. 組織・運営体制の変化

2004（平成 16）2 月に百周年を迎えた中之島図書館は、同年 4 月からビジネス支援サービスを開始した。これにより大阪府立の 2 図書館は、総合的な蔵書構築を行い子どもや障がい者へのサービスも担う中央図書館と、ビジネス支援と大阪資料・古典籍を中心とする専門的なサービスに特化した中之島図書館という構成となった(4)。

中央図書館開館当初の委託業務は、清掃・警備・各種設備の点検整備・電話交換等の施設管理や市町村立図書館（図書館未設置自治体の公民館図書室等を含む。以下同じ）への資料搬送、コンピュータ・システムのオペレーション等であったが、その後、オーディオ・ビジュアル（AV）室のカウンター業務（2003（平成 15）年度）、雑誌等の整理業務（2007（平成 19）年度）、書庫管理業務（2008（平成 20）年度）と徐々に対象を拡げた。

2010（平成 22）年、大阪版市場化テストによる民間事業者からの提案を受け、両館で「大阪府立図書館管理運営業務」として包括的委託を開始した。これは大阪府立図書館 2 館の司書業務のうち定型的なものを委託するもので、プロポーザル方式による選定の結果、委託先は株式会社図書館流通センターに決定した。中央図書館での主な業務内容は、1・2

階カウンター業務（利用案内、貸出・返却、利用者登録、新聞閲覧、新聞系データベースの利用対応、所蔵調査等）、書庫出納、書架整理、協力業務（集荷および貸出・返却）、蔵書点検作業、整理系業務（受入入力、装備等）である。業務内容が多岐にわたり、大規模図書館での経験を有する民間スタッフが限られるなか、当初は職員共々の模索が続いた。一般利用者向けのレファレンスでは、利用案内や簡易な所蔵調査を1・2階カウンターの民間スタッフが受け、事実調査や文献調査等を3階（社会・自然系資料室）および4階（人文系資料室）で司書職員が対応することとしたが、利用者にとってはわかりにくく、民間スタッフも切り分けの判断に慣れるまで時間を要した(5)(6)。

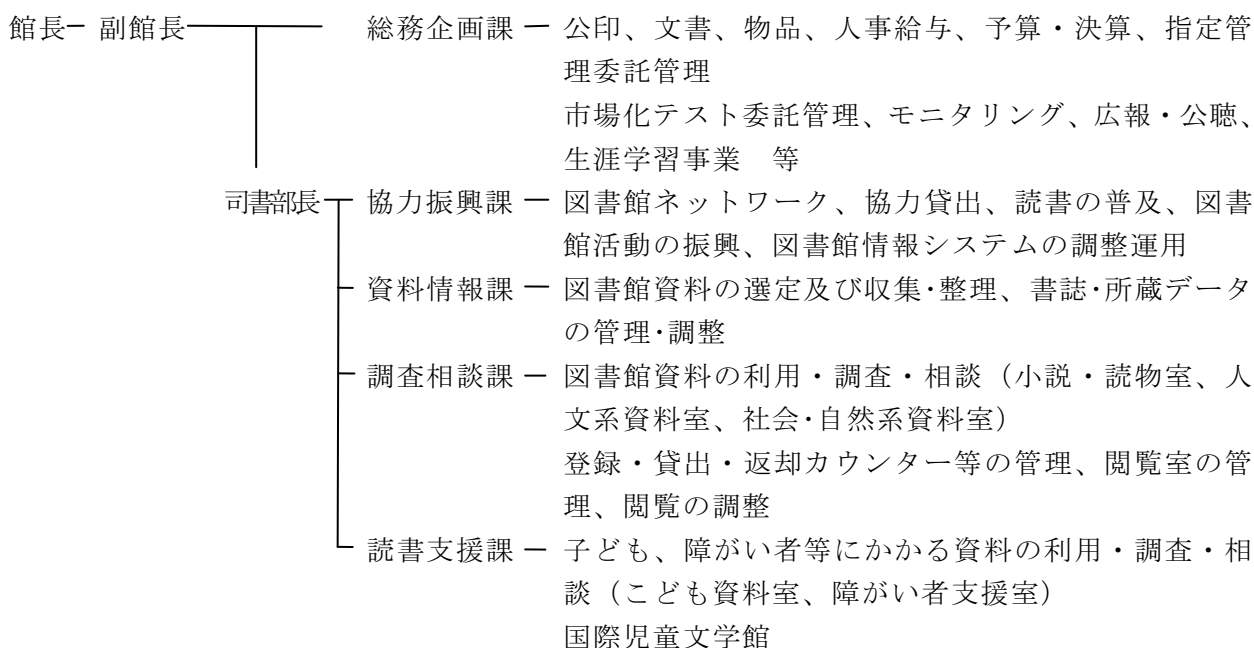
複写業務は行政財産使用許可によるが、2010（平成22）年度からは株式会社カンプリに代わり株式会社図書館流通センターが実施している。包括的委託の開始にあたり各階の機能を再編したが、複写に関しては3階にあった独立した複写室に代わり2階カウンターで受けることとし、利用者自身がコピー機を操作する「セルフ複写」方式も導入した。

同じく2010（平成22）年5月5日には国際児童文学館が、吹田市千里万博公園内にあった大阪府立国際児童文学館の資料約70万点を引き継いで開館、こども資料室と連携して「子どもの読書支援センター」「児童文化の総合資料センター」の機能を推進・強化していくことになった(7)。この移転に先立ち、国際児童文学館閲覧室の改修工事と地下書庫の一部の電動化改修工事等を実施し、地下書庫はほぼ全エリアが電動集密書架となった(8)。

府職員としての司書は、選書、レファレンス、研修、資料展示、子どもへのサービス、国際児童文学館の運営、子どもの読書活動推進、障がい者サービス、府域図書館との連絡調整等に携わる傍ら、新しいサービスやイベントの企画、他機関との連携事業、出前講習の講師等へと業務の幅を広げていくことになった。包括的業務委託の開始に伴い、中央図書館司書部は5課から4課へ、中之島図書館司書部は3課から2課へ再編され、両館で職員計19名、非常勤職員計42名を削減した。

2016（平成28）年4月1日現在の組織と2004（平成16）年以降の主な変遷を次に示す(9)。

中央図書館 組織



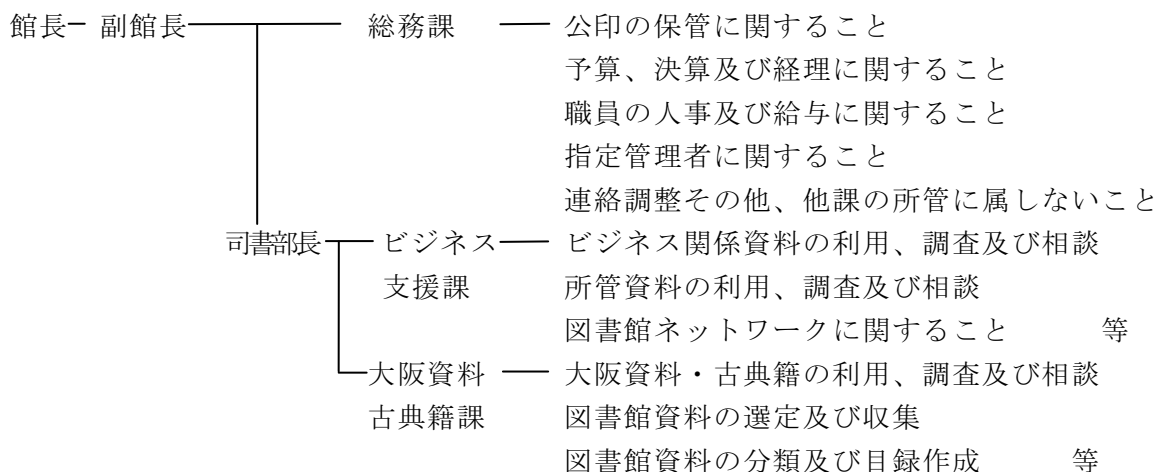
変遷

- ・ 2010（平成22）年、総務課を総務企画課に改称、市場化テスト委託管理業務を担当す

る司書を配置

- ・ 企画協力課を協力振興課に改称、振興係・ネットワーク係を廃止して一課一係とする
- ・ 資料情報課の第一係・第二係を廃止して一課一係とする
- ・ 閲覧第一課および閲覧第二課を調査相談課に再編
- ・ 閲覧第三課を読書支援課に再編。国際児童文学館を設置、対面朗読室を障がい者支援室に改称

中之島図書館 組織



変遷

- ・ 2005（平成 17）年、一般資料課に代わりビジネス支援課を設置、大阪資料課を大阪資料・古典籍課に改称
- ・ 2006（平成 18）年、資料情報課に代わり企画情報課を設置、整理系業務に加え、図書館ネットワーク等業務をビジネス支援課より引き継ぐ
- ・ 2010（平成 22）年、企画情報課を廃止、同課業務のうち整理系業務は大阪資料・古典籍課へ、図書館ネットワーク等業務はビジネス支援課へ移行

なお、中央図書館では 2015（平成 27）年度から施設管理やホール・会議室・駐車場の運営等に指定管理者制度を導入した。指定管理者は「株式会社長谷工コミュニティ・株式会社大阪共立・株式会社図書館流通センター」グループ（代表法人は株式会社長谷工コミュニティ）である。2016（平成 28）年度からは中之島図書館でも指定管理者による施設管理等が始まった。中之島図書館の指定管理者は株式会社アスウェルである。業務内容には図書館との共同企画による文化事業も含まれている。

3. 図書館のあり方を巡って

2008（平成 20）年の図書館法改正により、図書館が運営状況について評価を行い、その結果に基づき運営の改善を図るため必要な措置を講ずること、図書館の運営状況に関する情報を地域住民等に積極的に提供することが努力義務となった。大阪府立図書館では 2010（平成 22）年度から活動評価を開始し、図書館の自己評価と図書館協議会による外部評価を行っている(10)。

これとは別に、2011（平成 23）年 12 月に大阪府市統合本部が設置され、2015（平成 27）年 6 月まで、広域行政・二重行政の仕分けや大都市制度の検討が行われた。大阪府立の中央・中之島図書館と大阪市立中央図書館は「類似・重複している行政サービス（B 項

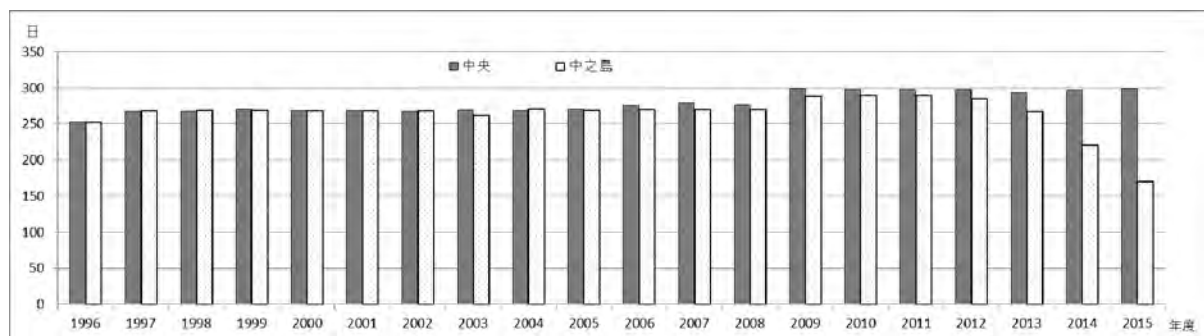
目)」に一旦は仕分けされたが、検証の結果、「施設規模は類似しているが、法的にも設置目的、役割等が異なり、機能分化されている」と整理された(11)。中之島図書館については、2013（平成 25）年度に「大阪府立中之島図書館のあり方検討タスクフォース」により外部有識者も交えた集中的な検討が行われた結果、今後も図書館として建物と蔵書、蓄積されたノウハウを最大限活用していくこととなった(12)(13)。この決定を受けて中之島図書館では、重要文化財部分の耐震補強工事（2014（平成 26）年度終了）、外観の美化と館内の快適性向上を目的としたリニューアル工事が行われ、2015（平成 27）年 4 月には 54 年ぶりに正面玄関からの入退館が復活した。さらにその後 1 年をかけて館内を再編・整備し、2016（平成 28）年 4 月にリニューアルオープンした。

4. 統計から見る 20 年

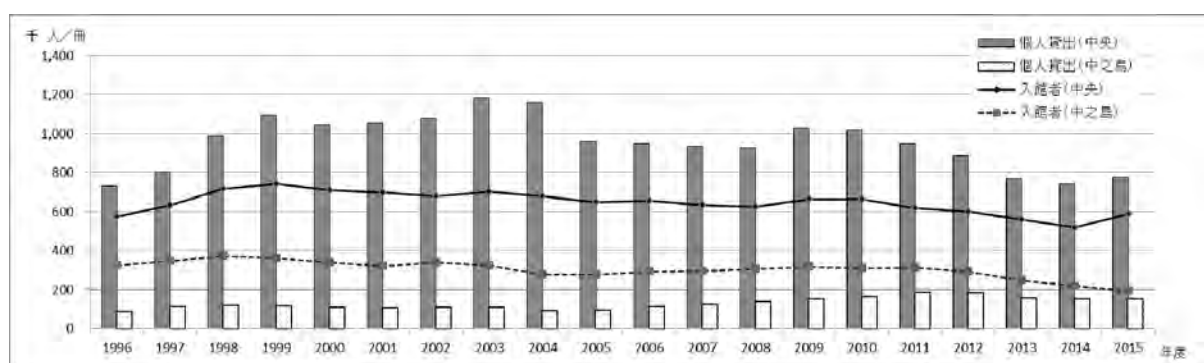
中央図書館が開館した 1996（平成 8）年以後の年間開館日数を【図 1】に、個人貸出冊数と入館者数を【図 2】に示す。

【図 1】年間開館日数（1996～2015）

1996（平成 8）年は 5 月 9 日までの中央図書館開館準備期間中は両館が休館したため、2013（平成 25）年以降の中之島図書館は耐震化工事およびリニューアル工事のため、開館日数が少なくなっている。



【図 2】個人貸出冊数と入館者数（1996～2015）



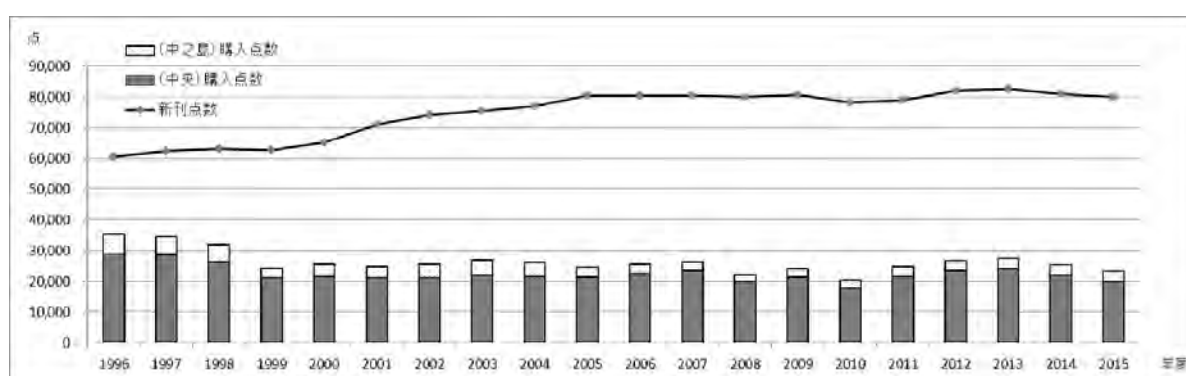
両館とも、館内整理日の縮小、祝日の開館、開館しながらの蔵書点検等により(14)、徐々に開館日を増やしてきたが、入館者数や個人貸出冊数は減少傾向にある。中央図書館の 2015（平成 27）年度の入館者数は 589,999 人で、最多を記録した 1999（平成 11）年度の約 8 割となった。

一方、インターネットを利用したサービスは順調に利用を伸ばしてきた。Web-OPAC からの予約受付は 2006（平成 18）年 1 月の開始であるが、翌 2007（平成 19）年度には、両館内（カウンターおよび館内 OPAC）で受ける予約件数を上回った。その後も増加を続け、2014（平成 26）年度には 20 万件を突破、全予約の 79%を占めることとなった(15)。

中央図書館の蔵書は国際児童文学館の資料（移転時約 70 万点）が加わり、全国の公立図書館中最大の約 278 万冊に達した（2016（平成 28）年 3 月末現在）。しかし、大阪府の厳しい財政状況を反映して資料収集費は減少を続けている。限られた資料費を有効に使うため、2011（平成 23）年度から購入資料の割引率による一般競争入札を実施しているが、【図 3】に示すように、年間約 8 万点にのぼる新刊点数と購入点数との差が広がっており、選書に際しては一層厳しい選択が必要となっている。両館を合わせた一般書の新刊書カバー率は 2015（平成 27）年度実績で 27.4%となった(16) (17)。

【図 3】国内新刊点数と購入点数（1996～2015）

新刊点数は『出版年鑑』による。学習参考書やコミック等、大阪府立図書館では収集しない資料も含む。府立 2 館の購入点数は『日本の図書館』掲載数値を用いたため、外国語図書等を含む。2010（平成 22）年度以降の中央図書館については『日本の図書館』掲載数値から国際児童文学館の購入点数を除いた数値とした。



中央図書館の収蔵能力は 2011（平成 23）年度の地下書庫電動化改修工事により増加したものの、狭隘化は着実に進行している。対策として複本等の除籍と他機関への譲渡を進めているが、その効果には限界があり、将来のためのスペースの確保が課題である。

5. 図書館情報システムの更新と新しいサービス

中央図書館の開館を機に、大阪府立図書館はコンピュータ・システムを導入した。その後、図書館情報システムはほぼ 4 年ごとに交互に、ハードウェア中心の更新と、基幹業務システムのソフトウェアを含む大規模更新を行ってきた。基幹業務システムの更新ごとに第 I 期、第 II 期…とし、システム更新の概略を次に示す。＜システム更新 1＞＜システム更新 3＞がハードウェア中心の更新、＜システム更新 2＞＜システム更新 4＞が大規模更新に相当する。

（第 I 期）

1996（平成 8）年 5 月 コンピュータ・システム運用開始

2001（平成 13）年 7 月 ＜システム更新 1＞

（第 II 期）

2005（平成 17）年 7 月 ＜システム更新 2＞

2010（平成 22）年 1 月 ＜システム更新 3＞

2010（平成 22）年 5 月 中央図書館国際児童文学館の移転開館に伴い、旧施設のシステムを継承

2012（平成 24）年 1 月 国際児童文学館のシステムを更新、図書館と同一システムに移

行

(第 III 期)

2014 (平成 26) 年 1 月 <システム更新 4>

各期の特徴は、第 I 期：大型汎用機と独自開発ソフト、第 II 期：オンプレミスのクライアント=サーバと大幅なカスタマイズを施したパッケージソフト、第 III 期：一部機能へのクラウドサービス導入とカスタマイズを抑えたパッケージソフト、と整理される。第 II 期からシステムは原則 24 時間 365 日の運用である。

各システム更新により新たに実現したサービスを次に示す。システム更新後に順次新しいサービスを開始したケースがあるため、システム更新とサービス開始時期は必ずしも一致しない。<システム更新 1>については通信・放送機構 (TAO) のマルチメディアモデル図書館展開事業の成果も含んでいる。

<システム更新 1>：

大阪府立図書館ホームページの開設、Web-OPAC の公開、「大阪府 Web-OPAC 横断検索」の公開、府内図書館向け e-レファレンスの開始

<システム更新 2>：

携帯対応版 Web-OPAC および英語版 Web-OPAC の公開、館内 OPAC および Web-OPAC からの予約および貸出・予約状況照会サービスの開始、Web 複写サービスの開始

<システム更新 3>：

「マイブックリスト」、貸出期限のセルフ延長、SDI サービスの開始、個人向け e-レファレンスの開始

<システム更新 4>：

web 上の電子図書館「おおさか e コレクション」の公開、Web-OPAC と外部データとの自動連携 (検索結果から国立国会図書館・近代デジタルライブラリ (当時) の全文画像データや書店サイトにリンクする等)、「Web 限定利用者」機能の導入、国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の導入

第 I 期の基幹業務系システムでは、日本目録規則 (NCR) 1987 年版に基づく書誌階層の概念を採用し、図書の書誌データをシリーズ名 (NCR では「集合レベル」)、本書名 (同「単行レベル」)、各巻書名 (同「構成レベル」) の 3 階層で構成していたが(18)、第 II 期以降は階層のない形式に移行した。文字コードは第 II 期よりユニコード (UTF-8) を採用し、ハングルや中国語を含む多言語の目録情報を扱うことが可能になった。日本語図書の書誌データは主に TRC MARC と JAPAN MARC を使用しているが、TRC MARC の周辺ファイルに関しては、第 I 期より内容細目ファイル、第 II 期より個人名典拠ファイル、第 III 期より目次情報ファイルおよび雑誌データを採用し、より詳細な検索が可能となった。

新刊書誌データの取り込みに用いる媒体は磁気テープから CD-ROM へ、さらに web 経由へと変化した。外部データベースへのデータ提供でも、現在は国立国会図書館総合目録ネットワーク (ゆにかねっと) への書誌・資料データの提供のようにシステム連携により自動化しているものがある。平成 28 (2016) 年 12 月現在、外部へ提供しているデータには次のものがある。

- ・ 国立国会図書館 総合目録ネットワーク（ゆにかねっと）（中之島・中央図書館（国際児童文学館を除く）所蔵の和図書の書誌および資料データ）
- ・ 国立国会図書館 全国新聞総合目録（中之島・中央図書館所蔵の新聞書誌データと所蔵情報）
- ・ 国立国会図書館 児童書総合目録（国際児童文学館所蔵の書誌および資料データ）
- ・ 国立国会図書館 視覚障害者等用データ送信サービス（中央図書館作成の音声 DAISY データ）
（以上の4項目は、「NDLサーチ」により提供されている）
- ・ 国立国会図書館 NDLサーチ（「おおさか e コレクション」収録データ）
- ・ 国立国会図書館 レファレンス協同データベース（中之島・中央図書館のレファレンス事例）
- ・ 国立情報学研究所 CiNii Books（中之島・中央図書館所蔵の一部の洋書・雑誌の書誌データおよび所蔵情報）
- ・ 全国漢籍データベース協議会 全国漢籍データベース（中之島図書館所蔵の漢籍の一部の書誌データおよび所蔵情報）
- ・ 国文学研究資料館 日本古典籍総合目録（中之島図書館所蔵の古典籍の一部の書誌データおよび所蔵情報）
- ・ 文化庁メディア芸術データベース（国際児童文学館所蔵のマンガの書誌および資料データ）
- ・ 立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）番付ポータルデータベース（中之島図書館所蔵の芝居番付のうち、「大阪府立中之島図書館 芝居番付閲覧システム」収録データ）

大阪府立図書館が所蔵するユニークな資料のデジタル化と web 公開も着実に進めてきた。現在、「おおさか e コレクション」で「錦絵にみる大阪の風景」「人魚洞文庫」「中之島図書館貴重書」「中央図書館貴重書」「中之島図書館韓本コレクション」の電子画像を提供しているほか(19)、独自サイトで「デジタル画像 フランス百科全書<図版集>」「19世紀 薬用植物の世界」「国際児童文学館所蔵 街頭紙芝居」（いずれも中央図書館所蔵）を公開している。

なお、図書館情報システムとは直接的な関係はないが、インターネットの普及を踏まえた新たな広報形態として、メールマガジンの発行やツイッターによる発信も開始している。(20)

6. 個人利用者向けサービス

2006（平成 18）年 3 月の『これからの図書館像－地域を支える情報拠点をめざして－（報告）』(21)では、貸出中心のサービスを脱却し、地域の課題解決や調査研究の支援へと図書館活動を改革する必要性が指摘されている。新しい図書館サービスを構築していく上で、レファレンスサービスは重要な役割を果たすものである。

中央図書館開館当初には、利用者登録を担当した 2 階の総合カウンターを除く全カウンターで貸出・返却・予約資料の取置を行っていたが、2004（平成 16）年 9 月より一般書の処理を 1 階小説読物室に集約した。これにより、館内の貸出・返却窓口は小説読物室（一般書）、オーディオ・ビジュアル（AV）室（オーディオ・ビジュアル（AV）資料）、こど

も資料室（児童書等）の3カ所となった。3階（社会・自然系資料室）および4階（人文系資料室）はレファレンスに特化することとし、時間を要する相談に備えてカウンター前に利用者用の椅子を設置した。質問への直接的な対応だけでなく、調査ガイドの作成や時宜に即した資料展示等もレファレンスサービスの一環と位置づけ、拡充に努めている(22)。

web 経由でレファレンスを受け付ける「e-レファレンス」は、2003（平成 15）年に府域市町村立図書館を対象にして開始し、2010（平成 22）年に個人利用者にも拡大した（5月試行、12月本格実施）。「e-レファレンス」導入の副次的効果として、レファレンス事例の記録が効率的に行えるようになった。蓄積したレファレンス事例は、2006（平成 18）年7月より「レファレンス事例データベース」として公開し、その後も継続して事例を追加中である。また、国立国会図書館の運営する「レファレンス協同データベース」にもデータを提供している。

館内でのサービスも、インターネットの普及や情報流通形態の変化に伴い変化している。中之島図書館では2002（平成 14）年5月に、中央図書館では同年6月に、利用者用インターネット端末を設置した。中央図書館では当初、端末を2・3・4階に数台ずつ配置していたが、2005（平成 17）年の<システム更新 2>を契機に2階に端末11台を集中し、1人1回30分以内1日4回までとして運用した。1開館日あたりののべ利用者数が90人を超えた年度もあったが、2009（平成 21）年度をピークに利用は減少に転じた。背景にはノート型パソコンやスマートフォン等の持ち運び可能な情報機器の普及があると考えられる。中央図書館では2013（平成 25）年12月末を以て利用者用インターネット端末の運用を変更し、以降は端末を3・4階に移して調査研究目的の利用に供している。

持込み機器によるインターネット利用のために、2010（平成 22）年6月から2・3・4階の一部エリアで無線LAN接続サービスを試行し、8月から本格実施した(23)。2014（平成 26）年1月には対応エリアを拡げ、国際児童文学館を含む館内全域で利用可能とした。利用は継続して増加している。

中央図書館開館当時、2階のデータベース室では、CD-ROMを中心とするオフラインのデータベースを提供した。商用オンラインデータベースの導入は2003（平成 15）年6月であった(24)。その後のインターネット接続環境の拡充に伴い、同室は2005（平成 17）年6月で閉室、現在は各室で主題に応じたデータベースを提供している。国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」は、2014（平成 26）年1月のサービス開始時から各室に配置した端末により利用に供している。

オーディオ・ビジュアル（AV）資料は中央図書館開館を機に大阪府立図書館の収集対象となった。当初は新たな利用者層を呼び込み、館内視聴サービスも含め利用は活発であったが、長年にわたる消耗と環境変化は著しく、ビデオテープの老朽化やLD（レーザーディスク）再生装置の生産中止等の問題が浮上した。予算が限られるなか、幅広い収集やDVD等の新媒体への移行や視聴用機器の更新は困難であった。2014（平成 26）年9月を以てオーディオ・ビジュアル（AV）室を閉室し、館内視聴サービスは終了、資料は精査の上、1階（小説読物室）に移動し貸出利用に供することになった。

中央図書館の生涯学習事業では、展示やイベント、講座等を実施してきた。実施に際してはテーマに沿った図書館資料を展示するなど、図書館全体の利用の活性化を図っている。いわゆる読書離れの顕著な中高生世代に向けた「あなたのおすすめ本のPOP広場」（2008（平成 20）年度開始）、「若者ダンスカーニバル」（2006（平成 18）年度開始）、小学生を対象とする「キッズライフアカデミー」（2012（平成 24）年度開始）等のユニークな企画も定着した。なお、社会教育主事の配置は2012（平成 24）年まで2名、2013（平成 25）以後1名となり、一部業務については委託化や指定管理者による実施に移行した。

7. 団体向けサービス

2006（平成 18）年度より、府職員及び府議会議員の政策立案や行政事務の遂行に必要な資料・情報を提供し、府政の推進と府民サービスの向上に寄与することを目的に、「政策立案支援サービス」（略称 P-support）を開始した。庁内での認知度が上がるにつれ部局の偏りなく利用されるようになり、評価も高い。近年は新規採用職員研修の 1 コマで紹介を行い、一層の認知度向上に努めている。サービスの具体例や満足度調査については別稿に詳しい(25)。

府立高校への協力貸出（試行）は 2008（平成 20）年度から、スクールサービスデーは 2009（平成 21）年度からそれぞれ開始した(26)。2010（平成 22）年度には国際児童文学館の開館を機に「特別貸出用図書セット」の運用が始まっている。これは学校や図書館等を対象に本のセットを貸し出すサービスで、「朝の読書」活動を支援するための「朝の読書用セット」と、調べ学習を支援するための「調べ学習用セット」等を用意している。2016（平成 28）年には、一層の利用の活性化を目指してセットを再編し、対象団体を拡大した。

8. 研修事業

中央図書館開館以前、府域図書館職員を対象とする主な研修には、大阪公共図書館協会（以下 OLA と表記）が企画・実施する「基本研修」「参考業務実務研修会」「児童奉仕参考業務実務研修会」があった。「参考業務実務研修会」は中之島図書館を、「児童奉仕参考業務実務研修会」は大阪府立夕陽丘図書館（1996（平成 8）年 3 月廃止）を会場とし、両館の司書が指導役となる実践形式の研修で、内容や名称を一部変更しながら現在も OLA からの依頼を受けて毎年両館で実施している。

中央図書館では 1997（平成 9）年度から「大阪府図書館職員研修」を開始した。2001（平成 13）年度には「大阪府図書館司書セミナー」と名称を変え、毎年 6 回程度、講義を中心とした研修を継続している。そのほかに定例化した研修には「情報検索出前講習」（後述）、「公立図書館と学校との合同研修」（2010（平成 22）年度開始）、OLA からの依頼を受けて実施する「児童サービス実務研修」（2004（平成 16）年度開始）、「児童サービス基本研修」（2010（平成 22）年度開始）、「児童サービス中級研修」（2013（平成 25）年度開始）、「障がい者サービス基本研修」（2015（平成 27）年度開始）、「障がい者サービス実務研修」（2015（平成 27）年度開始）がある。

「情報検索出前講習」は、2011（平成 23）年 4 月の寝屋川市立中央図書館で実施したものが初回である。それまで、ほとんどの研修は中央図書館を会場としており、市町村によっては職員を出張させることが難しい状況が続いていた。そこで、府立図書館の司書が講師となり、市町村立図書館に出向いて実施するレファレンス研修を企画したものである。各館で所蔵する参考資料が異なるため、基本的にはインターネット上の情報源の活用方法を取り上げ、年 8 回程度開催している。実施に先立って館内で行うリハーサルは、講師担当者のみならずレファレンス担当職員の知識共有の場として貴重なものとなっている。

これらの定例的な研修に加えて、時宜に即した研修を実施している。「図書館員のためのインターネット情報検索セミナー」（2002・2003（平成 14・15）年度）、「電子書籍体験研修会」（2010（平成 22）年度）、「障害者差別解消法施行に向けた図書館のサービスセミナー」（2015（平成 27）年度、日本図書館協会と共催）等である。府域を超えた研修事業としては、「図書館地区別研修」（近畿地区）を 2002（平成 14）年度、2012（平成 24）年度に中央図書館担当で、2003（平成 15）年度、2014（平成 26）年度に中之島図書館担当で実施した。近畿公共図書館協議会研究集会は 2000（平成 12）年度より開催部門を整理統

合し、毎年1回の開催となったが、2007（平成19）年度を中央図書館が、2011（平成23）年度を中之島図書館が担当して実施している。

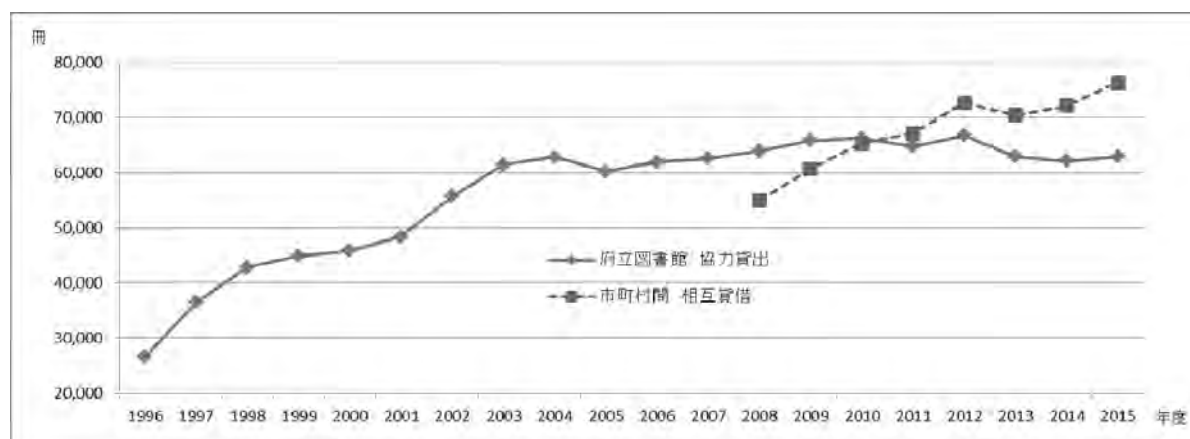
近年、子どもの読書活動推進の取組みや改正学校図書館法の施行を背景に、学校関係者やボランティアの研修ニーズが高まっており、「大阪府図書館司書セミナー」の受講対象を公立図書館職員以外にも拡大したほか、大阪府教育センターが実施する研修への出講や、「子どもの読書活動推進支援員養成講座」等により対応に努めている。

9. 図書館協力業務

中央図書館開館を機に委託による協力車の運行が始まり、府立図書館から市町村立図書館へ貸し出す資料を週次で搬送してきた(27)。また、中央・中之島間は月曜以外の週6日、シャトル便を1往復運行している。市町村立図書館間の相互貸借資料に関しては、資料を運ぶ手段や費用の調達が困難な自治体も多く、協力車による搬送を望む声が寄せられていた。対応策を検討した結果、2008（平成20）年度より1回あたりの搬送冊数に上限を設定した試行を始め、2014（平成26）年10月から本格実施した。その際、コース編成の見直しによりコースあたりの搬送量の平準化を図るとともに、府市連携の議論を受けて大阪府立図書館との搬送を週3回とした。うち1回は大阪市の搬送車が中之島図書館へ来館するものである。試行開始直後の数年は市町村立図書館間の相互貸借が大幅に増加した。2015（平成27）年実績で、市町村立図書館が他館（府立図書館を含む）から借り受ける資料の約7割を協力車が搬送しており、府域の相互貸借に果たす役割は大きい。

【図4】 協力貸出冊数と市町村間相互貸借冊数（1996～2015）

市町村間相互貸借冊数はOLA相互協力委員会調査による



府域市町村立図書館の担当者が集まって情報交換等を行う「協力貸出業務担当者連絡会」は原則年2回開催している。司書職員の協力車への添乗は、2010（平成22）年度以降「巡回相談」と名称を変えた。2012（平成24）年度までは1年間で全コースを2巡していたが、2013（平成25）年度より1巡とし、2015（平成27）年度からは資料搬送とは別の機会に実施している。また、一部の市については、求めに応じて府立図書館の職員を図書館協議会等の委員として派遣している(28)。

情報共有の面では「協力貸出ポータルサイト」（府域市町村立図書館を対象とする認証サイト）や「大阪府内図書館メーリングリスト」も活発に利用されている。「大阪府 Web-OPAC 横断検索」は府域市町村立図書館の Web-OPAC すべてが検索できるよう対応に努めてきた。2016（平成28）年12月現在、府域市町村立図書館で運用中の Web-OPAC40 件を検

索対象としている。

2007（平成 19）年 3 月、府立図書館 2 館と大阪府立大学は「大阪府立中央図書館・大阪府立中之島図書館と公立大学法人大阪府立大学学術情報センター図書館の相互協力に関する協定書」を締結した。これにより、府立大学学術情報センター図書館と府立図書館間での資料の貸借と、府立大学学術情報センター図書館所蔵資料の府域市町村立図書館への貸出が実現した。2007（平成 19）年度から協力車の運行コースに同館を加え、市町村立図書館が同館資料を送料無料で借り受けできる体制を整えた。同時に、シャトル便の経由先である大阪府庁を中継ポイントとして、大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）情報ライブラリー（当時）所蔵資料の搬送も開始した(29)。

10. 子どもへのサービスと子どもの読書活動推進

【図 2】にも表れているとおり、貸出冊数・入館者数等は減少傾向にある。「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行（2001（平成 13）年）され、国全体での取り組みが進められるなか、こども資料室では子どもと保護者の実態に合わせ、新しいサービスを試みてきた。

中央図書館の開館前から子どもの利用者の低年齢化が指摘され、乳幼児サービスの必要性が意識されていた。この状況に応え、乳幼児（3 歳未満児）のためのおはなし会「おはなしゆりかご」を 1999（平成 11）年から、就学前（3～5 歳児）対象の「おはなしぶらんこ」を 2001（平成 13）年から実施した。メンバーを固定した「おはなしゆりかご」に加えて、2002（平成 14）年からは自由参加の乳幼児向けおはなし会「親と子のひろば たんぽぽ」も開始している(30)。

図書館利用が難しい子どもたちへ読書の機会を提供する試みとして、「いろんな国の言葉のおはなし会」（2012（平成 24）年度開始）、「楽しい手話」（2009（平成 21）年度開始）を実施している。2012（平成 24）年度から 2015（平成 27）年度にかけては東大阪市内にある乳児院・児童養護施設での出前おはなし会を実施した(31)。

また、調べ学習に関連してニーズの高い、子ども向けの地域資料を集めた「おおさかコーナー」をこども資料室内に設置し（2012（平成 24）年 3 月）、2012（平成 24）年度からは「こども向け調査ガイド」を作成し利用に供している(32)。

国際児童文学館では、旧施設より引き継いだ新刊紹介講座「紹介と解説 ○○○○年に出版された子どもの本」（○○○○には西暦を示す 4 数字が入る。以下「新刊紹介」という）を開催するほか、貴重な所蔵資料を紹介するための展示・イベントにも力を注いでいる。子どもへの直接サービスはこども資料室が、子どもの読書を支える大人や研究者へのサービスは主として国際児童文学館が担う形ではあるが、「新刊紹介」やおはなし会、「支援員養成講座」の講師等は、国際児童文学館とこども資料室の職員が共に担当している。また、企画展示や講座・講演会等では（一財）大阪国際児童文学振興財団をはじめとする専門機関等と様々な形で連携協力を試みている。

新たな取組みの詳細や得られたノウハウは「児童サービス担当者連絡会」や『はらっぱ』等で情報提供し、府域全体の児童サービスの向上を図ってきた(33)。「児童サービス担当者連絡会」は 2009（平成 21）年度から年 1 回開催している。毎回テーマを設定し、全市町村から事前アンケートの回答を得て情報共有と意見交換を行っている。

『はらっぱ』は図書館の児童サービスや子どもの読書活動推進に関する情報等を掲載する年刊の冊子で、1985（昭和 60）年 2 月、夕陽丘図書館で創刊した。第 20 号（1998（平成 10）年 3 月）を以て休刊していたが、2008（平成 20）年 3 月に 21 号を発行し復刊した。『ほんだな』は 1 年間の新刊絵本・児童書の中から子どもに読んでほしい本、読んであ

げたい本を紹介する年刊の冊子である。夕陽丘図書館で1995（平成7）年まで『なつのほんだな』として発行していたものを2006（平成18）年に復刊、2007（平成19）年にタイトルを『ほんだな』に変更し刊行を続けている。掲載する絵本・児童書の選択は、「新刊紹介」講座の準備とも関連付けて行っている。

なお、中央図書館開館以来、こども資料室で活動してきた「視覚障害児のためのわんぱく文庫」は2016（平成28）年4月、35年にわたる活動を終了した。同文庫の資料の一部は、こども資料室等に引き継いでいる。

11. 障がい者サービス

障がい者サービスに関してもICTの活用による変化は著しく、マルチメディアDAISY等の新しい資料形態やインターネットを介したサービスが広がっている。2009（平成21）年の著作権法改正により、公立図書館でも、障がい者のために録音図書を作成する際の著作権者の許諾が不要になるなど法的整備も進んだ。

中央図書館では2010（平成22）年に担当部門の名称を「対面朗読室」から「障がい者支援室」へ変更した。厳しい財政状況のなか予算の制約は大きいですが、視覚のみならず聴覚や肢体、内部機能、知的等の障がいのある方々へのサービス拡大に努めている。2000（平成12）年度から実施しているパソコンの利用支援に加え、2001（平成13）年度からは視覚に障がいのある方を対象にIT講習会を、2003（平成15）年度からは、視覚・聴覚の両方に障がいのある方、いわゆる「盲ろう者」向けにインターネット講習会を実施している。詳細については別稿を参照いただきたい(34)。なお、別稿にある「デフサービスチーム」は2015（平成27）年度より「ハンディキャップ・サービス検討チーム」と改称し、ピクトグラム等による分かり易い利用案内やホームページの「やさしいにほんご」ページの作成等に活動の幅を拓けている。また、2008（平成20）年度以降、手話通訳者を1名配置し、聴覚に障がいのある利用者への対応を強化した。『百年史』に記述のある「録音図書ネットワーク配信（実証実験）」は、2006（平成18）年に「DAISY録音図書ネットワーク配信サービス」に引き継ぎ、2009（平成21）年3月末をもって終了した。現在は、国立国会図書館「視覚障害者等用データ送信サービス」に中央図書館作成の音声DAISYデータを提供することで全国からの利用を可能としている。

障がい者サービスに関する図書館員向け研修は、前述のほか、毎年度の「大阪府図書館司書セミナー」の1コマを必ず充ててきた。2008（平成20）年度からは、国立国会図書館・日本図書館協会の共催による「障害者サービス担当職員向け講座」に協力し、全国から集まる公立図書館・大学図書館関係者に実習の場を提供している。2012（平成24）年からは「大阪府内公共図書館等障がい者サービス情報交換会」を年1回開催している。府域図書館の実態は様々であるが、障がい者サービスの優れた実践例から学び、相談等ができる機会となっている。

2016（平成28）年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（「障害者差別解消法」）が施行され、公立図書館でも「合理的配慮の提供」が必須となった。新しい情報を共有し課題解決をともに探る場として、研修と情報交換会は今後一層活用されるものと考えている。

12. おわりに

2010（平成22）年は「電子書籍元年」と言われた。6年後の今、通勤電車内では本を開いている人よりもスマートフォンやタブレット端末を「読む」人の方が多い。図書館におけるサービスにはまだ課題が多いが、個人レベルでの電子書籍利用は着実に広がっている。

「Google 等がなかった 1990 年代の前半にレポートや報告書を書く際、情報収集のための手段などが書かれた文献を探しています。」(35)

これは 2016（平成 28）年に中央図書館で受けたレファレンス質問である。生まれた時からインターネットがあった世代が成人し、モバイル端末を使いこなしている。インターネットは日常に欠かせないインフラとなり、検索エンジンを使えば必要な情報の大部分が瞬時に得られるようになった。2016（平成 28）年に出版された『拝啓市長さま、こんな図書館をつくりましょう』の冒頭で、次の会話が小説から引用されている。

「図書館員ってまだこの世にいたんだ？」（中略）

「そういうのって Google がやるのかと思ってた」(36)

「そういうの」とは何だろうか。引用された小説の日本語訳が未刊のため文脈から想像するしかないが、資料や情報の収集と組織化、資料そのものの提供、レファレンス等が考えられる。ただし、Google は検索窓に何かを入力しない限り何も返してこない。読み書き能力が未発達であれば使いこなすのは難しいし、ディープウェブと呼ばれるコンテンツや有料サイトへのアクセスにも課題がある。一方、収集方針に基づいて選ばれた信頼性の高い資料や、ブラウジングから生まれる思いがけない発見、人的サポートも含む調査環境の提供等は図書館ならではのものである。図書館にはまた、子どもと本を結ぶノウハウや子どもの本に関する知識も蓄積されている。

図書館は、蔵書が住民の教養、調査研究やレクリエーション等に資するよう努めてきた。教養、調査研究やレクリエーション等の主体はあくまで利用者である。司書は黒子の的な心性に傾きがちで、PR の能力もあまり期待されてはこなかった。ICT の発達とも相まって、結果的に司書の仕事が見えにくくなっていったのではないかと感じている。

公立図書館は今後とも、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、資料（媒体に関わらず）を収集し、整理し、無料で利用に供する場所（リアルかバーチャルかに関わらず）として社会の要請に応じていこう。大阪府立図書館でも、変化に柔軟に対応しつつ、図書館機能の本質を踏まえて、サービスの向上と府域の図書館振興に努めていきたい。

註・参考文献

（web 参照日は全て 2016 年 12 月 1 日）

(1) 『中之島百年-大阪府立図書館のあゆみ』編集委員会 『中之島百年-大阪府立図書館のあゆみ』 大阪府立中之島図書館百周年記念事業実行委員会、2004 年

(2) 「大阪府立図書館 1 世紀からの新たな歩み 年表でたどる 10 年の軌跡」、『大阪府立図書館紀要』第 43 号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、2015 年

(3) 総務省編『情報通信白書：ICT 白書』平成 27 年版 日経印刷、全国官報販売協同組合（発売）、2015 年

(4) ビジネス支援サービスについては次の文献にまとめられている。藤井兼芳「中之島図書館のビジネス支援—多くの人たちに支えられた 11 年の軌跡」、『ささえあう図書館』勉誠出版、2016 年所収

(5) 光多長温 松尾貴巳『大阪版市場化テストを検証する』 中央経済社、2014 年、149 頁～152 頁

(6) 図書館と事業者の評価が「大阪版市場化テストモニタリング」のサイトで公開されている。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/gyokaku/sijouka/monitaringu-top.html>

(7) この間の経緯と今後の方向性については、次を参照のこと

大阪府立図書館協議会「大阪府立中央図書館国際児童文学館の今後のあり方について」、2013 年

http://www.library.pref.osaka.jp/uploaded/life/1941_1914_misc.pdf

(8)地下書庫は青 (B)・緑 (G)・赤 (R) の3ゾーンに区分けされている。開館当初、電動集密書架は緑 (G)・赤 (R) ゾーンで、青 (B) ゾーンは固定式書架であった。2009 (平成 21) 年度の改修工事により青 (B) ゾーンを電動集密化したものである。

(9)組織図は両館要覧による。

大阪府立中央図書館 要覧 2016

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/yoran/yoranc-2016-index.html>

大阪府立中之島図書館 要覧 2016

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/yoran/yorann16-index.html>

(10)2011 (平成 23) 年度以降は図書館協議会に活動評価部会を設置し、集中的に審議を行っている。

詳細は次のサイトを参照のこと

大阪府立図書館の概要

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/info/summary.html#hyoka>

(11)第 10 回大阪府市統合本部会議資料 (平成 24 年 5 月 8 日)

<http://www.pref.osaka.lg.jp/daitoshiseido/togohonbu/honbukaigi010.html>

(12)「中之島図書館の有効活用について 大阪府立中之島図書館あり方検討 T F 報告」平成 25 年 10 月 9 日付

<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/7576/00155475/tfhoukoku.pdf>

(13)第 22 回大阪府市統合本部会議資料 (平成 26 年 1 月 28 日)

<http://www.pref.osaka.lg.jp/daitoshiseido/togohonbu/honbukaigi022.html>

(14)徳森耕太郎「大阪府立中央図書館における蔵書点検の変遷について」、『大阪府立図書館紀要』第 44 号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、2016 年

(15)『日本の図書館』2015 (日本図書館協会 2016 年)によると、大阪府立図書館の予約数は都道府県立図書館中、最多である。

(16)ここでは一般書のカバー率を便宜上次のように算出している。

購入日本語図書冊数 (当該年度、児童書を除く) / 出版点数 (当該年、『出版年鑑』による。児童書・学習参考書を除く)

複本購入を極力抑えていること、寄贈図書の多くが非市販本であることから、実態に近い数値が得られるものと考えている。

(17)寄贈による資料収集にも従来から注力してきた。図書に関しては、行政資料や社史・団体史等の非市販本を寄贈により蔵書に加えている。雑誌・新聞の中には、中之島図書館の業界新聞のように出版元から無償で提供いただくタイトルも多い。

(18)池内美和子「大阪府立図書館の書誌データ」、『大阪府立図書館紀要』第 33 号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、1997 年

(19)「おおさか e コレクション」

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/oec/index.html>

なお、デジタル化画像の最初の web 公開は 2005 (平成 17) 年の「錦絵にみる大阪の風景」 (独自サイトによる) である。

(20)『中之島図書館メールマガジン』は 2005 (平成 17) 年 9 月創刊、『大阪府立中央図書館メールマガジン』は 2008 (平成 20) 年 9 月創刊。

大阪府立図書館 twitter は 2013 (平成 25) 年 12 月開始

(21)『これからの図書館像 : 地域を支える情報拠点をめざして : 報告』これからの図書館の在り方検討協力者会議、2006 年

(22) レファレンスサービスを紹介するパンフレットも作成し、一層の利用向上を図った。

『図書館の力!! : あなたの「しらべる」応援します!』大阪府立中央図書館 大阪府立中之島図書館、2012年

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/info/lib-ref-chikara.html>

(23)中之島図書館では2009(平成21)年7月に無線LAN接続サービスを開始した。

(24)中之島図書館では2003(平成15)年4月より日経テレコンの利用を開始した。ただし、レファレンス用として相談カウンターでの利用であった。一般利用者向けの提供開始は2004(平成16)年度である

(25)日置将之「大阪府立図書館における政策立案支援サービスの現状について」、『大阪府立図書館紀要』第37号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、2008年

徳森耕太郎「大阪府立図書館における政策立案支援サービスの現状と事例について」、『大阪府立図書館紀要』第40号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、2011年

高萩綾子 木下厚美「大阪府立図書館における政策立案支援サービスの満足度調査報告 ～平成23年度の満足度調査とサービス現状について～」、『大阪府立図書館紀要』第42号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、2013年

(26)大西登貴子 吉川逸子 藤田章子 内田紘子「大阪府立中央図書館における学校支援サービスの取組み」、『大阪府立図書館紀要』第39号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、2010年

(27)協力車に先行して1983(昭和58)年から、中之島図書館により、一部の市町立図書館を対象にした月次の「連絡車」が試行運用されていた。

(28)2016(平成28)年度は両館から計5市へ派遣した。

(29)現在の名称は「大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)」。シャトル便が大阪府庁を経由するのは「政策立案支援サービス」で依頼された資料の受け渡しのためである。

(30)初期の状況は次の文献に詳しい。

脇谷邦子「子どもの読書環境を考える(2)乳幼児への図書館サービス:「おはなしゆりかご」の試みを中心に」、『図書館界』54・6、日本図書館研究会、2003年

なお「おはなしゆりかご」「おはなしぶらんこ」は2009(平成21)年度をもって終了した。

(31)2016(平成28)年度以降はボランティアにより継続されている。

(32)2016年12月現在47種あり、ホームページでも公開している。

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/central/shirabe-k-index.html>

(33)『はらっぱ』No22以降はホームページに全文を掲載している。関連記事は以下の通り

「多言語によるおはなし会 「いろいろな国の言葉のおはなし会」について」、『はらっぱ』No29、大阪府立中央図書館、2016年

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/central/harappa2016-60.html>

「乳児院・児童養護施設におけるおはなし会・絵本の読み聞かせについて」、『はらっぱ』No27、大阪府立中央図書館、2014年

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/central/harappa2014-06.html>

「大阪府立中央図書館における子どもへの地域資料サービスについて」、『はらっぱ』No26、大阪府立中央図書館、2013年

<https://www.library.pref.osaka.jp/central/harappa/26p13.html>

(34)岡田重信 西林正人 杉田正幸「大阪府立図書館の障がい者支援サービスー歴史・現在(1)視覚障がい者サービスの現在」、『大阪府立図書館紀要』第40号、大阪府立中之島図書館 大阪府立中央図書館、2011年

(35)大阪府立図書館「レファレンス事例データベース」および国立国会図書館「レファレンス協同データベース」に事例を公開している。

http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000193789

(36)アントネッラ・アンニョリ著 萱野有美訳『拝啓市長さま、こんな図書館をつくりましょう』 み

すず書房、2016年、13頁～14頁、Sansom,Ian(2011), Galeotto fu il libro (『ガレオットは本』), TEA, Milano からの引用

謝辞

本稿をまとめるにあたり、下記の方々からご教示いただきました。記して御礼申し上げます（敬称略 50音順）。

稲垣房子、宇田陽子、柴田英明、須賀季夫、仙田ひろ子、園田かおり、高萩綾子、徳森耕太郎、苗村昌世、西林正人、日置将之、藤井兼芳、藤田章子、前田章夫、山岡直子、山田瑞穂、脇谷邦子

「図書館を学ぶ相互講座」の歩み（年表）

藤井 兼芳（中之島図書館）

志保田 務（桃山学院大学）

はじめに

大阪府立中之島図書館（以後、中之島図書館）の中にあった食堂が、採算悪化により 2005 年 3 月末に閉鎖し、食堂跡の空間は、物置、寄贈資料の整理作業場所、館内見学時の説明会場程度に使用されるものとなった。ただ、地味ながらその活性化は図られ、たとえば、同時期（同年 4 月）大阪府立大学と統合再編した大阪女子大学の図書館で使用していた椅子 40 脚を受け入れ、廃止の決まった大阪府立文化情報センターからパネル・会議机などを貰い受け、旧食堂用の旧テーブル・椅子と入れ替え、さらに旧厨房を隠すカーテンをつけることなどがなされていた。

しかし、残存の厨房、老朽化した壁や照明は、公開利用に不向きだった。やがて、大阪府の行う業務監査で、この施設の有効活用が問われた。そこで、予算を遣り繰りして厨房設備を撤去、照明設備、天井、壁の塗装を一新した。また、2009 年 3 月には、折り畳み式の長机を新規購入した。内装的には改良されたが、機能性で問題を残した。というのは、閲覧者がこの部屋に入るためには、通路からいったん階段を降り、男子トイレの入り口に至り、その左側の階段を再び上がるという不便な動線のままであった。この階段を上がって入室すると、部屋の中央に到達する。合計でも 30 人（席）の収容にとどまるこの部屋は、階段・通路で分断される室内構造となっており、大規模な講演会には不向きである。そこで、この「食堂跡」は小会合、勉強会などに用いられることとなり、「多目的室」、「ふれあいルーム」へと名称を変更した。（なお、この「ふれあいルーム」は耐震工事期間中の 2013 年 3 月に「自習室」となり、2015 年 12 月以降は「書庫 4-2」となっている。）

「図書館を学ぶ相互講座」は上記の設備条件に適う規模のものであったが、無論、この集会の概要が、次項 1 で詳説する中之島図書館の設ける条件を満たすものでなければならなかった。

1. 図書館を学ぶ相互講座の開始

食堂跡地の有効利用を考える中で、中之島図書館の主たるサービスである、大阪資料・古典籍、ビジネス支援関連の催しを計画・実施するのは本来業務でもあるので当然のこととして、外部と協働していくことについて 3 つの思惑があった。(1) 中之島図書館に利用できるスペースがあることを知ってもらうこと、(2) このスペースを使った事業参加者に、図書館利用者になってもらうこと、(3) 口コミで中之島図書館の PR をしてもらうことであった。ただし、呼びかけをすることもできず、上記の思惑を広く周知することは無理と考えられた。そこで、当面は図書館全般についての定期的な勉強会を、予算の裏付けがなかったために無料で試行していただくことが提案された。

結果として、3 つの条件付きで、大筋認められた。(1) 図書館関連の定期的な勉強会であること

(大阪資料・古典籍、ビジネス支援サービスにとらわれなくてもよいが、時々テーマとして取り上げてほしい。人的協力もする)、(2) 誰もが参加できること(図書館関連団体の会員でなくても、関心があれば誰でも)、(3) 参加者に対価を求めないこと(図書館は主催者に会場・機器を無償提供、配付資料印刷・広報、などの協力を行う)である。いくつかの個人・団体に打診したが、図書館の開館時間内という利用時間の制限、定期的な実施、会員限定などの問題もあり、かなわず、かろうじて開催予定ができたのは「図書館を学ぶ相互講座」(以後、相互講座)と「児童図書館研究会」であった。

2009年4月9日の相互講座第1回開催チラシには、基幹構成員として、杉本節子：相愛大学准教授、志保田務：放送大学客員教授、佐藤毅彦：甲南女子大学教授、杉山誠司：日本福祉大学講師、谷本達哉：羽衣国際大学准教授、前川和子：大阪大谷大学准教授、本山晶子：桃山学院大学講師(※肩書はいずれも当時)が記され、開催にあたっての趣旨「「図書館」に関する知識を、共に学習し、相互に深めようとする連続講座を行います。図書館学教員、図書館員を対象としています。図書館活動に関心をお持ちであれば、自由に参加していただくことができます。無料です。司書資格や単位の修得等とは無関係の講座です。」も併せて記されている。この趣旨は現在も踏襲されている。

ともあれ、2009年4月9日より、相互講座は、主催：図書館を学ぶ相互講座 協力：大阪府立中之島図書館として開始。出席は8名(志保田務、丸本郁子(大阪女学院大)、前川和子、杉本節子、田山健二(図書館流通センター)、井上祐子(元夕陽丘高)、岩崎秀・藤井兼芳(中之島図書館))で、隆琦大我(おもきひろかず)中之島図書館長から祝辞があった。

※開始からの記録を以下に記した。表の、左より2列目は実施月日と曜日、3列目はテーマと発表者(発表者等の所属は当時)、一番右端の列は、参加者数を示す。

平成21年度(2009年度)		図書館を学ぶ相互講座 実施記録	協力：大阪府立中之島図書館
1	4/9(木)	「図書館を学ぶ中之島」発起。 2009年度計画説明／志保田務(講座主催者・図書館情報学博士)	8
2	4/23(木)	情報化社会と図書館の情報サービス／志保田務	9
3	5/7(木)	図書館法と司書養成科目の一新／志保田務	6
4	6/25(木)	司書教諭科目とテキストをめぐって：「学校経営と図書館」「学校指導と学校図書館」を中心に／永井悦重(阪南大非常勤講師)	17
5	7/16(木)	図書館サービスと経営 常世田良(日本図書館協会理事・元浦安市立図書館長)	20
6	7/23(木)	学術情報と情報検索：JDream IIを活用した図書館における情報検索 伊藤祥(科学技術振興機構：JST 係長)	9

7	8/12 (水)	情報資源組織化の実践 1 (民間 MARK 民間書誌データベースの活用をはかる/安川恵美 (桃山学院大学司書講習講師・株式会社図書館流通センターデータ部)	7
8	8/27 (木)	情報資源組織化の構造と資料組織演習 (目録) の改革 杉山誠司 (日本福祉大学講師)	11
9	9/9 (水)	情報資源組織化の実践 2 (目録法): BIBLAS 演習システムを用いての授業計画と実践例/杉本節子 (相愛大学准教授)	10
10	9/24 (木)	図書館情報技術論をめぐって 1 阪下紀子 (大阪成蹊短期大学講師・大阪大谷大学講師)	7
11	10/7 (水)	図書館情報技術論をめぐって 2/志保田務	8
12	10/22 (木)	図書・図書館史を学ぶ: e-ラーニングを軸に 阪田蓉子 (元明治大学教授)	9
13	11/19 (木)	情報資源組織論の構造 (情報資源組織論構想) /志保田務	8
14	11/26 (木)	情報資源組織化の実践 3: 情報検索、主題検索 前川和子 (大阪大谷大学准教授)	10
15	12/24 (木)	「利用者の要求にこたえること」について 佐藤毅彦 (甲南女子大学教授)	12
16	1/14 (木)	図書館利用、支援のチャレンジ/志保田務	7
17	1/28 (木)	パスファインダーを考える/坂本恭子 (大阪女学院図書館副館長)	14
18	2/10 (水)	中之島図書館の地域資料サービスについて 宇円田陽子 (中之島図書館・大阪資料古典籍課)	16
19	2/18 (木)	中之島図書館のビジネス支援サービスについて 高萩綾子 (中之島図書館・ビジネス支援課)	12
20	3/10 (水)	コミュニケーションと図書館の活用: 大阪大谷大学の図書館学生インストラクター/前川和子	11
21	3/25 (木)	図書館活用の達人への道/志保田務	16
出席者合計 227 名			

平成 22 年度 (2010 年度) 図書館を学ぶ相互講座		協力: 大阪府立中之島図書館	
1	4/15 (木)	図書館を相互に学ぶ: 1 年間の収穫と新年度の展望 志保田務 (図書館情報学博士)	11

2	5/1 (土)	歴史の中の中の島図書館／藤井兼芳 (中之島図書館)	8
3	5/13 (木)	図書館法と司書養成 (文部省令科目 2010 年の展望) ／志保田務	8
4	5/29 (土)	情報化社会における図書館司書 : 1990 年代米国カリフォルニア州に起こった司書再教育ムーブメント 前川和子 (大阪大谷大学)	11
5	6/17 (木)	図書館業務における IC タグ導入／楠本昌信 (大東市立西部図書館長)	22
6	6/26 (土)	「アメリカ学校図書館基準」を考える 足立正治 (元甲南高等学校・中学校教諭)	8
7	7/10 (土)	日米における会計・税法情報の調査手法 中田信正 (愛知工業大学大学院客員教授)	7
8	7/22 (木)	大阪市の公文書活動／岸田絹子 (武庫川女子大学)	11
9	8/21 (土)	書店マンが読む『電子書籍の衝撃』／福嶋聡 (ジュンク堂難波店店長)	16
10	9/11 (土)	NDL-OPAC のダウンロード：特に学校図書館の実務に活用 孕石宏嗣 (元四天王寺国際大学)	14
11	9/30 (木)	女性情報と図書館 木下みゆき (大阪府立男女共同参画・青少年センター情報ライブラリー)	13
12	10/9 (土)	日本における学術情報流通／杉山誠司 (日本福祉大学)	13
13	10/21 (木)	情報資源組織化の実践 (民間 MARC) ／安川恵美 (桃山学院大学)	15
14	11/6 (土)	マーク・出版流通 松木暢子 (株式会社図書館流通センター データ事業部データ部長)	15
15	11/25 (木)	視覚障害者サービスの現状／福西敏文 (大阪市立盲学校司書教諭)	11
16	12/9 (木)	「アメリカ学校図書館基準」を考える 2 : 情報リテラシーと学校図書館サービス／柳勝文 (龍谷大学)	13
17	1/8 (土)	フィクションに描かれた図書館のイメージ：日本の最近の事例を中心に 佐藤毅彦 (甲南女子大学)	13
18	1/20 (木)	利用者とのコミュニケーション／藤井兼芳 (中之島図書館)	7
19	2/17 (木)	情報リテラシーとメディアリテラシー／志保田務	11
20	2/24 (木)	図書館業務における IC タグ導入：高槻市立図書館の場合 脇本初美 (高槻市立図書館)	16
21	3/12 (土)	情報資源組織演習の実践／杉本節子 (相愛大学)	11
22	3/24 (木)	図書館活用論の原則とは：講座 1 年のまとめ／志保田務ほか	12

年間出席者合計 266 名（昨年比 +39 名）

平成 23 年度（2011 年度） 図書館を学ぶ相互講座		協力：大阪府立中之島図書館	
1	4/9 (土)	イギリス児童文学と図書館 藤井佳子（奈良女子大学非常勤講師、文学博士）	12
2	4/21 (木)	堺市立図書館における電子書籍の貸出 家禰淳一（堺市立東図書館・日本図書館研究会研究委員・JLA 認定司書）	17
3	5/21 (土)	本は「モノ」としてある～紙の本と電子書籍～ 大本英二（枚方市立中央図書館長）	15
4	6/4 (土)	図書館学教育部会 6 年の功罪 志保田務（桃山学院大学名誉教授、前 JLA 図書館学教育部会長・常務理事）	13
5	6/11 (土)	「影響言語で人を動かす」を訳出、実行して 本山晶子（桃山学院大学非常勤講師、プロスランゲージセンター代表）	13
6	7/2 (土)	国立国会図書館のレファレンスサービス戦略：レファ協 谷本達也（羽衣国際大学准教授、 国立国会図書館レファレンス協同データベース協力委員）	16
7	7/21 (木)	児童文学を学び教えて 三宅興子（元梅花女子大学教授、大阪府立国際児童文学館理事長）	13
8	8/6 (土)	選書ツアー：大学図書館コレクションづくりの可能性 月本一武（宝塚大学図書館）	10
9	8/18 (木)	商工会議所と業界紙／義永忠一（桃山学院大学経済学部准教授）	17
10	9/3 (土)	※9/3 (土)は台風警報発令により、図書館が臨時休館。館要請により「中止」 電子化における図書館サービス・ポリシー 杉山誠司（日本福祉大学大学院事務部主幹、愛知淑徳大学非常勤講師）	中止
11	9/22 (木)	医学情報を提供するという事：大学図書館 中村恵信（大阪府立大学羽曳野図書センター）	6
12	10/8 (土)	司書の醍醐味を日本で、ネパールで ：青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、多文化サービスの実践 山田伸枝（元ネパール国立図書館運営アドバイザー）	17
13	10/20 (木)	図書館学の遠隔教育：放送と Web に携わって 志保田務（放送大学客員教授、八洲学園大学非常勤講師、JLA 理事）	11

14	11/10(木)	さわる絵本がつなぐ子どもたち／小西萬知子（元大阪市立中央図書館）	15
15	1/19(土)	障害者とデジタル資料／立花明彦（静岡県立大学短大部准教授）	6
16	12/1(木)	図書館の空間を活かす／多賀谷津也子（大阪芸術大学図書館）	20
17	12/15(土)	学校図書館考／長倉美恵子（元東京学芸大学教授）	14
18	1/7(土)	海外の図書館よもやま画像／藤井兼芳（大阪府立中之島図書館）	9
19	1/19(木)	JLA 認定司書に挑戦して／谷口智恵（姫路市立図書館、JLA 認定司書）	8
20	2/4(土)	医療情報と患者情報／杉本節子（相愛大学准教授）	18
21	2/23(木)	チェニーとレファレンスサービス／前川和子（大阪大谷大准教授）	11
22	3/10(土)	「大図研を語る」 寒川登（大学図書館問題研究会大阪支部長、日本図書館研究会理事）	15
23	3/22(木)	図書館活用論の原則とは：講座1年のまとめ 志保田務（日本図書館研究会研究委員長、JLA 理事、図書館情報学博士）	19
年間出席者合計 292 名（昨年比 +26 名）			

平成 24 年度（2012 年度） 図書館を学ぶ相互講座		協力：大阪府立中之島図書館	
1	4/14(土)	「図書館サービス」と「図書館システム」 志保田務（図書館情報学博士）	13
2	4/26(木)	公立図書館における健康医療情報サービス／常世田良（立命館大学）	13
3	5/10(木)	情報の記憶装置・図書館 ～私たちが災害を忘れないために～ 村田修身（元大阪府立女子大学）	9
4	5/26(土)	電子化における図書館サービス・ポリシー ：電子書籍に図書館の貸出機能を組み込む／杉山誠司（大阪大谷大学）	19
5	6/21(木)	高齢者への図書館サービスについて／高島涼子（元北陸学院大学）	11
6	6/30(土)	図書館の専門職員制度／渡邊斉志（国立国会図書館関西館）	19
7	7/12(木)	中之島図書館のビジネス支援サービスについて 藤原紀恵（中之島図書館）	13
8	7/21(土)	看護教育における情報活用／中村恵信（神戸松蔭女子学院大学）	15
9	8/4(土)	論文作法、書評法：具体例から学ぶワークショップ／志保田務	18
10	8/23(木)	公立図書館の評価指標：登録関係数字を中心に 石橋進一（JLA 認定司書）	19
11	9/8(土)	ケンタッキー州の公共図書館と図書館学教育／山本貴子（大谷大学）	9

12	9/20(木)	図書館協議会と図書館活動（1）／中道厚子（大阪大谷大学）	8
13	10/6(土)	図書館協議会と図書館活動（2）／藤井兼芳（中之島図書館）	9
14	10/25(木)	大阪府立中之島図書館大阪室におけるサービス 小笠原弘之（中之島図書館）	11
15	11/17(土)	図書館の利用を伸ばす接遇／明石浩（福山市新市図書館）	12
16	11/29(木)	著作権法の新しい改正／南亮一（国立国会図書館関西館）	12
17	12/8(土)	大学院での図書館情報学学習／嶋崎さや香（京大大学院）	7
18	12/20(木)	大学における図書館に関する科目を教えて：情報サービス論 前川和子（元大阪大谷大学）	7
19	1/10(木)	図書館テキストの挿絵を描いて／向畑久仁（画家・元姫路独協大学）	9
20	1/19(土)	学校図書館とメディア教育／大平睦美（京都産業大学）	11
21	2/7(木)	典拠コントロールの周辺 ：近世舞台芸術作品に関する著者名の表示（標目）の考察 月本一武（宝塚大学図書館）	8
22	2/23(土)	大学における情報サービス演習：学生における達成・評価 高階時子（武庫川女子大学）	15
年間出席者合計 277 名（昨年比 -15 名）			

2. 協力事業から共催事業へ

耐震補強工事(工期 2013 年 4 月から 2014 年 12 月)実施に伴う館内諸室の配置換えのために、2013 年 3 月 11 日から 16 日まで、図書館は臨時休館した。3 階全域が工事対象となったため、北翼 3 階にあった自習室(96 席)をふれあいルームに移設(54 席)し、名称を変更した。このため、講座実施は困難になった。2004 年度から始まった、中之島図書館別館のサテライト教室事業は、当初、関西大学・神戸大学が実施、その後、神戸大学から大阪府立大学に代わって実施された。大阪府立大学も 2012 年度末で中之島図書館別館でのサテライト教室事業を終了し、難波の新サテライトへ移動したため、図書館別館に利用可能なスペースができた。ただし、図書館別館の管理主体は図書館ではなく、大阪府教育委員会(2016 年 4 月以降は大阪府教育庁と名称変更)地域教育振興課となっており、図書館別館 2 階講義室は、中之島図書館の事業(図書館単独、もしくは図書館共催)としての利用は可能だが、協力事業での利用は不可であるため、事業実施を、「協力」から「共催」実施に調整・変更、実施回数についても見直しを行い、月 1 回の開催とした。

平成 25 年度（2013 年度） 図書館を学ぶ相互講座 ※1、2 は図書館を学ぶ相互講座で単独実施 ※3 以降、中之島図書館と共催実施			
1	5/25(土)	中央公会堂第 7 会議室 午前 10～12 時 /志保田務（主宰者） 「図書館相互講座で学ぼう」 この講座 4 年間の成果を振り返り、新年度計画を検討し、併せて新刊『図書館サービス概論』（学芸図書）、『情報資源組織法演習問題集』（第一法規）、『情報資源組織論』（ミネルヴァ）の用法を、大阪大谷大学・杉山誠司教授を交え検討。 なお、集会後、前川和子氏、杉本節子氏、川崎秀子氏の記念昼食会も開催。	27
2	6/29(土)	中央公会堂第 8 会議室 午前 10～12 時 大阪府立高校学校図書館はどうなる？ 大阪府立高校の図書室についての事例研究。 市村美保子（大阪府立大正高校学校司書） 林まさ子（元大阪府立泉尾高校学校司書）	22
3	7/27(土)	新しい自治体史・歴史資料のデジタル化と公開方法 堺市史と石川県史のデジタル化の例を紹介。 田山健二（TRC-ADEAC 株式会社代表取締役）	15
4	9/14(土)	電子書籍と浄土教典籍目録（解題目録）の作成から 川崎秀子（佛教大学非常勤講師）	12
5	10/12(土)	YA サービスの日米露比較／漢那憲治（龍谷大学教授）	15
8	10/12(土)	何のために図書館利用者は不満をとнаえるのか／呉東根（啓明大学）	15
6	11/9(土)	学校図書館職員問題の沿革と現代 世羅田順治（大阪府立東淀川高校教諭）	14
7	12/14(土)	街づくりに生きる高齢者の図書館利用 鈴木幾多郎（桃山学院大学名誉教授）	21
8	1/18(土)	ビジネス支援サービスにおける連携事業（事例紹介） 安達明子（大阪府立中之島図書館）	16
9	2/8(土)	生涯学習と図書館協議会／中道厚子（大阪大谷大学教授）	14
10	3/15(土)	中之島図書館大阪室における活動／乾ゆかり（大阪府立中之島図書館）	13
年間出席者合計			184 名

平成 26 年度（2014 年度）図書館を学ぶ相互講座			共催：大阪府立中之島図書館
1	4/12(土)	アメリカ西南部図書館見学報告／志保田務（主宰者）ほか	22
2	5/10(土)	著書『図書館実習 Q&A』を活かして 前川和子（大手前大学教授）、中道厚子（大阪大谷大学教授）ほか	21
3	6/7(土)	(1) IFLA 多文化分科会とアジア図書館 (2) アジア図書館について 深井耀子（相山女学園大学名誉教授） 坂口勝春（アジア図書館事務局長）	19
4	6/7(土)	著書『諭吉の愉快と漱石の憂鬱』を巡って 竹内真澄（京都自由大学理事長、桃山学院大学社会学部教授）	17
5	7/5(土)	ボランティアを軸とした活動とその育成 北西英里（大阪府盲人福祉センター司書）	15
6	7/5(土)	英和辞書の編纂：用例探索の苦心を中心に 三宅亨（桃山学院大学経営学部教授：英語学・ビジネス英語担当）	14
7	8/2(土)	図書館史再考／原田安啓（近大姫路大学教授）	21
8	8/2(土)	図書館関係“認定”瞥見「IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験」 高野真理子（大学図書館支援機構）	17
9	9/13(土)	障害者差別解消法と図書館／立花明彦（静岡県立大学短期大学部准教授） ※日本図書館研究会図書館サービス研究グループ（以後、図書館サービス研究グループと略記）と共催	14
10	9/13(土)	海外図書館近況：米西南部、韓国／常世田良、中村恵信、志保田務ほか	19
11	10/11(土)	韓国文献情報学の最近の動向・韓国の図書館事情 ：韓国十進分類法の最新版編纂にも言及 呉東根（啓明大学校文献情報学部長） ※図書館サービス研究グループと共催	15
12	11/15(土)	増える図書資料にどんな手を打つのか：保存と開架 坂口勝春（アジア図書館） ※日本図書館研究会第 309 回研究例会	18
13	12/20(土)	ADA（Americans with Disabilities Act：アメリカ障害者差別禁止法：1990 年連邦法）制定後の図書館サービスの進展 ：我が国における障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号、障害者差別解消法）：施行をにらんで 立花明彦（静岡県立大学短期大学部准教授）	20

14	1/17(土)	超高齢化の社会デザインと公共図書館の力 鈴木幾太郎 (桃山学院大学名誉教授)	10
15	2/14(土)	重要文化財・賀茂禰宣神主系図デジタルアーカイブ化の現状と大学図書館への期待：MLA 連携の観点から／月本一武 (宝塚大学 宝塚図書館)	13
16	3/14(土)	新しい図書館を作る／常世田良 (立命館大学)	23
年間出席者合計			278 名

平成 27 年度 (2015 年度) 図書館を学ぶ相互講座		共催：大阪府立中之島図書館	
1	5/16(土)	NDC10 版によるテキストの修正案の提示と NCR 新版の改訂状況の瞥見 志保田務	17
S	5/23(土)	「地域、特に公共図書館と大学の連携：試論」 ※生涯学習と高等教育：大学機能の障害学習への活用、その模索 (桃山学院大学 2015 年度協同研究プロジェクト 15 共 248(代表 三宅亨)) 志保田務	16
2	6/20(土)	情報検索資格とその活動域：INFOSTA の情報検索試験を中心に 都築泉 (元大阪工業大学、理学博士)	14
3	7/18(土)	イスラムをその図書館を通して考察する／原田安啓 (近大姫路大学)	11
4	8/8(土)	フランシス・チェニーの魅力発見：日本に図書館サービスを伝えた人 前川和子 (元大手前大学) ※図書館サービス研究グループと共催	15
5	9/12(土)	総合テーマ「高槻市立図書館の挑戦」 ・これからの図書館：高槻市立中央図書館ミュージアム子ども分室 (関西大学児童図書館) に触れて ・JLA2014 年度米国アリゾナ州研修から 尾山由佳 (高槻市立図書館) 片桐由美子 (高槻市立図書館) ※図書館サービス研究グループと共催	14
6	10/31(土)	フルブライト留学記：アメリカ図書館学の資産 長倉美恵子 (元東京学芸大学)	17
7	11/28(土)	アメリカ中西部図書館訪問記 山田美雪 (兵庫県立大学) 石井莉乃 (大学図書館司書)	13
8	12/26(土)	杉山教授の電子書籍研究／家禰淳一 (堺市立中央図書館) ※図書館サービス研究グループ・図書館資料保存研究グループとの共催	20

9	1/23(土)	日本の公立図書館、これから／常世田良（立命館大学） ※図書館サービス研究グループと共催	26
10	2/20(土)	本間一夫生誕百年 新発掘の“本間ノート”等に見る日本盲人図書館構 想と創設準備／立花明彦（静岡県立大学短期大学部） ※図書館資料保存研究グループと共催	12
11	3/26(土)	つなぎひろげる生涯学習と図書館：新テキストの完成を基盤に 中道厚子（大阪大谷大学） ※図書館サービス研究グループと共催	10
年間出席者合計			185名

3. 施設管理が指定管理に変わって

2016年4月1日より、中之島図書館の施設の管理運営に、指定管理者制度を導入。図書館別館2階講義室は、有料での貸室業務も開始され、名称も「多目的スペース3」に変更された。図書館主催の講座、講演会等での同室の利用もあらかじめ調整した回数となった。共催実施してきた相互講座も、この回数の中に組み込みが認められ、継続実施（2016年度は、毎週第3土曜日午前12回の枠組み）できることとなった。

また、定期的に共催にて実施してきたこともあり、中之島図書館ホームページ（トップページ）に、「図書館を学ぶ相互講座」Web ページへのリンクがつけられたバナー設置が認められ、実施内容の確認等が容易になった。ちなみに、「図書館を学ぶ相互講座」Web ページは、2017年3月現在、<http://www.library.pref.osaka.jp/site/nakato/seminar-lib.html> のアドレスにて公開している。

平成28年度（2016年度）		図書館を学ぶ相互講座	共催：大阪府立中之島図書館
1	4/6(土)	NCR 新版の改訂状況瞥見と NDC10 版新版を容れた改訂『情報資源組織論』関係テキストの検討、授業展開の一試案 志保田務（図書館を学ぶ相互講座主宰者）	17
2	5/28(土)	図書館史料の间歇に関する一検討／園田俊介（津島市立図書館） ※日本図書館研究会第320回研究例会 ※図書館資料保存研究グループと共催	20
3	6/18(土)	石塚栄二、自宅内図書館史料その他の記録と保存についての検討 志保田務（図書館情報学博士） 中村恵信（神戸松蔭女子学院大学） 山田美雪（兵庫県立大学） 石井莉乃（大学図書館） ※図書館資料保存研究グループと共催	18

4	7/16(土)	国際発表への挑戦：アジア環太平洋図書館情報学会への架け橋 柳勝文（龍谷大学） ※図書館サービス研究グループと共催	15
5	8/20(土)	デジタル・ネットワーク社会における図書館経営 ：図書館実務を大学院研究に繋いで／家禰淳一（奈良大学） ※図書館サービス研究グループと共催	15
6	9/17(土)	IFLA 学校図書館ガイドラインと世界の学校図書館 大平睦美（京都産業大学） ※図書館サービス研究グループと共催	16
7	10/15(土)	ハンセン病と図書館／立花明彦（静岡県立大学短期大学部） ※図書館サービス研究グループと共催	14
8	11/19(土)	大日本教育会による図書館設立活動／嶋崎さや香（大阪樟蔭女子大学） ※図書館資料保存研究グループと共催	14
9	12/17(土)	21 世紀の図書館職員養成：アメリカとオーストラリアを事例に (1) アメリカ篇／大城善盛（元同志社大学） ※図書館サービス研究グループと共催	13
10	1/21(土)	情報資源組織演習教授法自主研修会の試み／前川和子（大手前大学） ※図書館サービス研究グループと共催	21
11	3/18(土)	「図書館を学ぶ相互講座」を顧みて ～中之島図書館の行事につながって 8 年の歩みと展望 藤井兼芳・志保田務	予 定
年間出席者合計 163 名（3/18 の参加者数は含まず）			

4. あとがき

耐震工事や運営方針の変更により、場所や時間や形を変えつつ実施してきた相互講座も、今年度で 8 年目になり、年度末での延べ参加者数は 1900 人程度と予想される。参加者数もさることながら、たくさんの方々の協力で相互講座を実施することができていることを感謝したい。また、講師や参加者の中には、この間に鬼籍に入られた方もおられる。ご冥福を祈りたい。

紀要掲載の年表であれば、内容や検証について記すのが本来であるのかもしれないが、現在も相互講座は継続中であり、その詳細は当館および「図書館を学ぶ相互講座」関係のホームページでも見ていただくことができるため、今回はとりあえずの記録として記し、総括はもう少し先のこととしたい。

大坂水帳所在目録

平成 28 年 7 月 1 日現在

梶原 修（中之島図書館）

はじめに

この目録は、『大阪府立図書館紀要』第 2 号（昭和 41 年 3 月 1 日発行）に掲載された仲田憲弘著「大坂水帳所在目録」を改訂したものである。ただし、表記上理解しにくい部分や、編集方針を定めていなかった部分を改めた。

（作成時期）

- ・平成 28 年 7 月 1 日現在の所蔵状況であるが、各館において平成 29 年 3 月 31 日までに所蔵することを確定しているものは収録した。また、7 月以降であっても記述内容の変更が確認できたものは、利用効率の向上のために訂正した。今後の改訂については、大阪府立中之島図書館ホームページ内に HTML による当目録を公開する予定である。

（収録対象）

- ・大阪府内公共図書館、大学図書館、博物館のほか、府外の機関でも所蔵がわかるものは収録した。
- ・範囲は、年代を江戸期から明治 10 年まで、地域を江戸期の大阪三郷内とした。例えば、「難波新地五番町 明治七 水帳」 大阪商業大学商業史博物館所蔵 [E-6-281] は近世、大阪三郷の外（難波村）であるため収録しなかった。
- ・浜納屋地坪帳、竈図あるいは書写等の水帳・絵図に類するものについても収録した。

（配列）

- ・配列の順序は、江戸期（主に 18 世紀以降）の町名の 50 音順（「まち」、「ちょう」を除いた文字順）とし、丁目の配列は昇順（少ない数字の丁目から大きい数字の丁目）、上→下、北→中→南の順とした。なお、17 世紀の旧町名および明治期以降の町名について、該当する江戸期の町名に改めて配列し直して、旧町名および明治期の町名は備考欄に記載した。題簽等の目録上の書名表記を採用せず、ある時期の町名で配列しているため、いわゆる書誌的な目録とは違っているため注意を必要とする。丁目の漢数字は「壺」「壹」を「一」、「弍」を「二」等に簡略した表記に置き換えた。町内のうち一部分を

す水帳・絵図は同町内に「うち〇〇」と表記した。

(掲載事項)

目録の掲載事項は、左から水帳または浜納屋地坪地帳の区分、町名、組、現町名、所蔵データ、備考、参考資料掲載頁、17世紀旧町名である。

- ・(浜納屋地坪帳) は、町名の前に浜納屋地坪帳とした欄に○を付けた。
- ・(町名) は、漢字表記および読みを「角川日本地名大辞典」編纂委員会編『角川日本地名大辞典 27 大阪府』 角川書店、1983年(以下、「角川」と略す)と、平凡社地方資料センター編集『日本歴史地名大系 第28巻 大阪府の地名』 平凡社、1986年(以下、「平凡社」と略す)の両方を調査し、一致するものはそのまま記載した。なお、読みで一致しないものは、原則として『大坂町鑑』 大和屋嘉兵衛 柏原屋清右衛門相版 1842(天保13)年に「丁」と記述しているものは「ちょう」、「町」と記述しているものは「まち」と読みをふった。
- ・(組) は、北組を「北」、南組を「南」、天満組を「天満」と表記した。
- ・(現町名) は、「平凡社」の記述および、新修大阪市史編纂委員会編集『新修大阪市史 第10巻 付録 歴史地図』 大阪市 1996年 図5 「天保期の大阪三郷」をもとに、現在の地図と対照した。なお、面積が微細な現町名は割愛した。
- ・(所蔵データ) は、上から作成年、請求記号、水帳本体・絵図の所蔵状況、所蔵館略称の順に記載した。

(作成年) は、水帳本体および絵図に記載された情報による。改訂を書き込んだ小さな紙(帳切)を貼りつけた年代ではない。各ページの1行目の年に作成されたものは作成年の表記を省略し、それ以外の年に作成されたものは作成年を表記し、より近い欄に記載した。

(請求記号)は、水帳本体の記号を[]内に記入し、絵図の記号は()内に記入した。
また、水帳本体と絵図を同一請求記号で所蔵する場合は、[]内に記入した。ただし、請求記号が付与されていないものは[]もしくは()内を空白とした。

(水帳本体・絵図の所蔵状況)は、水帳本体あるいは絵図の所蔵1冊(両方所蔵する場合も)1行とし、同一所蔵館、別の所蔵館に関わらず、同一作成年が複数冊所蔵されている場合は、それぞれの収録範囲が重複しない一部分の場合を除き、同町名の行を分割して記述した。水帳本体のみを所蔵する場合は所蔵館略称のみを記載し、水帳本体および絵図の両方を所蔵する場合は「※」(アスタリスク)を所蔵館略称の前に付し、絵図のみを所蔵する場合は「※のみ」を所蔵館略称の前に付した。また、大阪商業大学商業史博物館所蔵の各竈図は、この目録では、絵図として収録した。

(所蔵館略称)は、次の通り。

商	… 大阪商業大学商業史博物館		
天	… 大阪城天守閣		
市大	… 大阪市立大学学術情報総合センター		
市	… 大阪市立中央図書館		
阪	… 大阪大学大学院経済学研究科経済史経営史資料室		
府	… 大阪府立中之島図書館		
博	… 大阪歴史博物館		
関	… 関西大学総合図書館	(50音順)	

		例)	
		天	大阪城天守閣で水帳本体のみを所蔵
		※ 府	大阪府立中之島図書館で水帳本体と絵図を所蔵
		※のみ 市	大阪市立中央図書館で絵図のみ所蔵

(注) 閲覧の可否、利用の方法、最新の所蔵状況については、各館に問い合わせること。

- ・(備考)は、以下の補助情報を記入した。
 - 1) 17世紀旧町名や明治期の町名で発行された水帳・絵図についてはその町名と名称。
 - 2) 「平凡社」と「角川」の町名の読みの違いのうち、採用しなかった漢字表記および読み。または、他の文献に記載された読みとその出典。
 - 3) 大阪市立中央図書館所蔵『坪数高年番定帳』嘉永二年の収録対象町、丁。(ただし、大阪府立中之島図書館所蔵『大坂北組・南組・天満水帳町数家数役数寄帳』元禄

十三年 [甲和 266]については大坂三郷全範囲を対象とするため記載しなかった。)

- 4) 複数の町丁に関わる水帳・絵図の該当部分。
- 5) 題簽、各館所蔵目録上の名称との違い。
- 6) 洋装書や研究書等の翻刻情報。

・(参考資料)は、「角川」および「平凡社」の掲載頁を記載した。

・(17世紀旧町名)は「初発言上候帳面写」(大阪市参事会編『大阪市史 第5巻』 大阪市参事会、1911年、61頁～89頁)のうち町名が変わったもののみを転記し、そのほかは原則として「平凡社」から引用した。

出典の略号

略号名	史料名	掲載資料
初	初発言上候帳面写	『大阪市史 第5巻』
明	明暦元年水帳奥書写	「平凡社」の各項目より引用
替	大坂町之内町名替り候写	

水帳および絵図のデジタル画像を公開している所蔵館は次の通り。(平成28年12月現在)

所蔵館名 サイト名称	U R L
大阪市立大学学術情報総合センター 近世資料室	http://dlisv01.media.osaka-cu.ac.jp/Jecoh/guidance.html ※ このURLは平成29年3月以降変更される予定。
大阪市立中央図書館 デジタルアーカイブ	http://image.oml.city.osaka.lg.jp/archive/

(参考情報)

水帳とは、いわゆる江戸期の土地台帳といえるもので、町、丁ごとに土地の所有者と間口および奥行き長さ、それに応じた役数が記載されたもの。元和二年に作成(現存は確認できていない)以降、明暦元年、寛文二年、天和二年、元禄七年、享保十一年、宝暦三年、安永七年、寛政十年、文化十二年、文政八年、安政三年に作成されるが、上記以外の年に書写されたもの、明治期に作成されたものもある。安政三年に作成された水帳・絵図は、帳切により訂正され、明治期にも引き続き使用されたものも少なくない。

水帳本体および絵図に記載される対象は町人(土地所有者)であり、借家人については記

載されない。「道修町三丁目 文化十二年 水帳」には色分けで五人組の対象者が書かれた
絵図もあり、その他の情報が記載されるものもあった。

17世紀の道頓堀各町の水帳については、八木滋「近世道頓堀関係史料―遠藤亮平・安井
洋一氏所蔵文書―の紹介」『大阪歴史博物館研究紀要』13（平成27年3月）

http://www.mus-his.city.osaka.jp/education/publication/kenkyukiyo/pdf/no13/BOMH13_14.pdf

も参照されたい。

作成年のみかた

「元禄六」…元禄六年に作成
 作成年の記載がないものは各ページ1行目の年に作成
 享保年間以降で各ページの1行目に該当作成年が
 ないものは年代の近い列に記載

請求記号のみかた

[1]…請求記号(水帳本体または水帳本体と同一請求記号で絵図を所蔵する場合)
 (2)…絵図の請求記号(水帳本体と同一請求記号の場合は省略)
 []()…請求記号を付与されていない所蔵資料

アイオイ - イナリシ

浜納 屋地 坪帳	町 名		組	現町名	所 蔵 デ ー タ							
	町 名 よ み	町 名 漢 字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	あいおいひがしまち	相生東町	北	都島区片町一・二丁目	元禄六 [文書41] 府	宝永五 [文書32] 府						
	あづちまち	安土町三丁目	北	中央区安土町二・三丁目								
	あぶらまち	油町一丁目	北	中央区島之内一丁目、 東心斎橋一丁目								
	あぶらまち	油町二丁目	北	中央区島之内二丁目、 東心斎橋二丁目								
	あぶらまち	油町三丁目	北	中央区島之内二丁目、 東心斎橋二丁目、宗右 衛門町								
	あまがさきちよう	尼崎町一丁目	北	中央区今橋三丁目					[] () ※ 阪		() ※のみ 阪	
	あまがさきちよう	尼崎町二丁目	北	中央区今橋四丁目					[4] 阪		[5] () ※ 阪	
	あわじまち	淡路町二丁目	北	中央区淡路町二丁目								
	あわじまちきれちよう	淡路町切町	北	中央区淡路町三丁目								
	たちうりぼり あわばしちよう	立売堀 阿波橋町	南	西区阿波座二丁目								
	あんどうじまち	安堂寺町一丁目	南	中央区南船場一丁目								
	あんどうじまち	安堂寺町二丁目上半	南	中央区南船場一丁目								
	あんどうじまち	安堂寺町二丁目下半	南	中央区南船場一丁目								
	あんどうじまち	安堂寺町三丁目	南	中央区南船場二丁目								
	あんどうじまち	安堂寺町四丁目	南	中央区南船場二・三丁目								
	あんどうじまち	安堂寺町五丁目	南	中央区南船場三丁目								
	いこまちよう	生駒町	南	中央区谷町六・七丁目								
	いしはいまち	石灰町	南	中央区島之内一丁目								
	いずみまち	和泉町	北	中央区和泉町二丁目								
	いたちぼり	立売堀										
	いなりしんまち	稲荷新町	南	中央区玉造一・二丁目								

最下段のみかた (口は所蔵館略称 例) 府…大阪府立中之島図書館)

□ …本体のみ所蔵

※のみ □…絵図のみ所蔵

※ □ …水帳本体と絵図の両方を所蔵

同一町丁で同一作成年の水帳本体および絵図を複数所蔵している場合は改行して下の欄に記載

アイオイ - イナリシ

所 蔵 デ - タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
					元禄六『京橋片原東町水帳』	59	617	初	京橋片原東町
			[345/120- アス/1] 市			83	452	初 初	安土町六・七丁目 南青屋町
			(E-6-1) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵	87	480		
			(E-6-2) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵	87	480		
			(E-6-3) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵	87	480		
[] (1) ※ 阪	[] () ※ 阪	[] () ※ 阪	[2] (3) ※ 阪			92	439	初	尼崎町
			[345/120- アマ/2] 市						
[345/120- アマ/3] ※ 市	[345/120- アマ/4] 市	(7) ※のみ 阪	[6] 阪			92	440	初	尼崎町
	() ※のみ 阪		[345/120- アマ/5] 市						
	(文書34) ※のみ 府	(文書34) ※のみ 府				103	447		
			[345/120- アワ/6] 市			104	447		
	[E-6-4] (E-6-5) ※ 商		[E-6-6] 商		角川よみ「あわばしまち」	104	521	初	立売堀下之北裏町
			(E-6-7) ※のみ 商		角川よみ「あんどうじちょう」	105	469		
			(E-6-8) ※のみ 商			105	469	初	安堂寺町上二丁目
			(E-6-9) ※のみ 商			105	469	初	安堂寺町下二丁目
			(E-6-10) ※のみ 商			105	469		
			(E-6-11) ※のみ 商			105	470		
			(E-6-12) ※のみ 商			105	470		
			(E-6-13) ※のみ 商			121	495	明	内屋根屋町
			(E-6-14) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵 平凡社よみ「いしばいまち」	129	478	初	灰屋町 石炭町 (安井家文書)
			[345/120- イス/7] 市			139	424	初	伏見和泉町
			(E-6-31) ※のみ 商		平凡社「玉造稲荷新町 たまつく りいなりしんまち」	152	434		

イナリナ - ウチホン

浜納屋地 坪帳	町名		組	現町名	所蔵データ							
	町名よみ	町名漢字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	いなりなかのちょう 稲荷中之町		南	中央区玉造一・二丁目								
いなりねぎまち 稲荷禰宜町は「禰宜町」(ねぎまち)を見よ												
	いなりもんぜんまち 稲荷門前町		南	中央区玉造二丁目								
	いばらきちょう 茨木町		南	中央区博労町二丁目								
	いまばし 今橋一丁目		北	中央区今橋一丁目	元禄六 [文書36] ※府			[文書36] 府			[文書36] ※府	
	いまばし 今橋二丁目		北	中央区今橋二丁目								
	いわたまち 岩田町		南	中央区東心齋橋一丁目、 心齋橋筋一丁目								
	うえさかいまち 上堺町		南	中央区法円坂一丁目、 上町一丁目								
	うえほんまち 上本町一丁目		南	中央区馬場町、大手前 四丁目				寛文～文化 [文書62] 府				
	うえほんまち 上本町三丁目		南	中央区上町、安堂寺橋 町一丁目								
	うえほんまち 上本町四丁目北半		南	中央区安堂寺町一丁目、 上本町西一丁目、 天王寺区上本町一丁目								
	うえほんまち 上本町四丁目南半		南	中央区上本町西二丁目、 天王寺区上本町二・三丁目								
	うちあわじまち 内淡路町一丁目		北	中央区内淡路町二・三 丁目								
	うちあわじまち 内淡路町二丁目		北	中央区内淡路町二丁目								
	うちあわじまち 内淡路町三丁目		北	中央区内淡路町一丁目								
	うちあんどうじまち 内安堂寺町		南	中央区安堂寺町二丁目								
	うちひらのまち 内平野町		北	中央区東高麗橋、内平野町 三丁目、内淡路町三丁目、 大手通三丁目、本町橋								
	うちひらのまち 内平野町二丁目		北	中央区内平野町二・三 丁目			() ※のみ 販				[] () ※ 販	
	うちほねやまち 内骨屋町		北	中央区糸屋町二丁目、 南新町二丁目、徳井町 二丁目								
	うちほんまち 内本町二丁目		南	中央区内本町二丁目								
	うちほんまち 内本町上三丁目		南	中央区内本町一丁目、 谷町三丁目								
	うちほんまちらうざえもんちょう 内本町太郎左衛門町		南	中央区内本町二丁目								

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
			(E-6-172) ※のみ 商		角川よみ「いなりなかのまち」 平凡社「玉造中町 たまつくりな かのちょう」	153	433	

			(E-6-33) ※のみ 商		平凡社「玉造門前町 たまつくり もんぜんちょう」	153	433	
			[345/120- イハ/13] 市		平凡社よみ「いばらぎちょう」	156	462	初 博労中之町
		[] 天	[] 阪	明治十 [345/120-ツホ/90] 市	明治十写『坪数地租帳』	163	438	
			[345/120- イマ/14] 市					
			() ※のみ 阪	明治十 [345/120-ツホ/90] 市	明治十写『坪数地租帳』	163	438	
			[345/120- イマ/15] 市					
			[345/120- イマ/16] 市					
			(E-6-34) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵	169	482	初 西清水町
			[22] 阪			171	429	
寛文～文化 [文書62] 府					寛文～文化『大坂上本町一丁目持 地年代記』	174	428	
			[345/120- ウエ/17] 市			174	429	
			(E-6-35) ※のみ 商			174	495	
			(E-6-36) ※のみ 商			174	495	
			[345/120- ウチ/18] 市	明治三～六 [文書37] 府	明治三～六『[東大組第八区内淡 路町一丁目沽券状]』	181	412	
			[345/120- ウチ/19] 市			181	412	
			[345/120- ウチ/20] 市			181	413	
			(E-6-37) ※のみ 商			182	496	初 藤左衛門町
			[345/120- ウチ/21] 市			183	410	
			[8] 阪			183	411	初 蠟燭町
			[345/120- ウチ/22] 市			183	415	初 上唐物町
			[10] 阪			183	419	
			[345/120- ウチ/23] 市			184	419	
			[9] 阪			184	419	明 太郎左衛門町

ウチホン - オマエ

浜納屋地 坪帳	町名 町名よみ 町名漢字	組	現町名	所蔵データ							
				元和~正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	うちほんまちはしづめちよう 内本町橋詰町	南	中央区本町橋								
	うち 西下宿請所	南	中央区本町橋								
	うちりようがえまち 内両替町	北	中央区東高麗橋								
	うなぎだに 鰻谷一丁目	南	中央区島之内一丁目								
	うなぎだに 鰻谷二丁目	南	中央区島之内一丁目、 東心齋橋一丁目								
	ながほり うわじまちよう 長堀宇和島町	南	西区北堀江一丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市							
	たまつくり えつちゆうまち 玉造越中町二丁目	北	中央区法円坂一丁目、 森ノ宮中央二丁目								
	えどまち 江戸町	北	中央区和泉町一丁目								
○	えどぼり 江戸堀一丁目	北	西区江戸堀一丁目								
	えどぼり 江戸堀二丁目	北	西区江戸堀一丁目								[E-6-40] 商
	えどぼりしたのなしんつきじ 江戸堀下之鼻新築地	北									
	えびすじまちよう 戎島町	北	西区川口一丁目、本田 一丁目								[文書38] 府
	おいまつちよう 老松町	天満	北区西天満四丁目								[甲和1330] 府
	おうてまち 追手町	南	中央区内久宝寺町三丁目								
	おうみちよう 近江町	北	中央区釣鐘町二丁目、 東高麗橋	元禄六 []() ※博				[] 博	[] () ※博	[] () ※博	
	おおかわちよう 大川町	北	中央区北浜四丁目								
	おおさわちよう 大沢町	北	中央区内平野町一・二 丁目								
	おおつまち 大津町	南	中央区徳井町二丁目								
	たまつくり おかやまちよう 玉造岡山町	北	中央区玉造二丁目								

おってまち
追手町は「おうてまち」を見よ

	おのえちよう 尾上町	南	中央区西心齋橋一丁目								
	どうとんぼり おまえまち 道頓堀御前町	南	中央区東心齋橋二丁 目、宗右衛門町	明暦元 [] 博							

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
			[345/120- ウチ/24] 市			184	418	初 初 初	正円町 西入町 太郎左衛門町
			[74] 阪			184	418		
			[345/120- ウチ/25] 市			184	407		両替町（大坂三郷町絵 図）
			(E-6-38) ※のみ 商			186	475		
			(E-6-39) ※のみ 商			186	475		
寛政七 (E-6-295) ※のみ 商					明暦二『長堀惣水帳』のうち北 輪、南輪とも十六・十七丁目か 寛政七 竈図	194	527	初	次郎兵衛町
			[11] 阪			200	430	替	葉山町
			[345/120- エト/26] 市			201	424	初	伏見江戸町
				明治四 [文書94] 府	明治四『南江戸堀一丁目 浜納屋 地坪数帳』	200	511		
						200	512		
			[E-6-301] 商		平凡社の記載は「土佐堀二丁目」 にあり	—	511		
		[345/130- エヒ/27] 市				206	536		
	[甲和1330] ※ 府	[甲和1330] 府				210	551	初	住吉町
			[16] 阪		よみ「おってまち」（天保町鑑）	213	425		
[] () ※ 博	[] () ※ 博	[] () ※ 博	[15] 阪			213	408		
			(345/120- オウ/28) ※のみ 市						
			[12] (13) ※ 阪			220	437	初	十三人町・(北)浜四丁 目
			[345/120- オオ/29] 市						
			[14] 阪	明治 [E-6-299] 商	明治（作成年不明）『東大組ろ組 三番大沢町』	232	411	初	檜物屋町 鶴崎町（増補大坂図）
			[345/120- オオ/31] 市		角川よみ「おおつちょう」	239	417		
			(E-6-41) ※のみ 商			263	432	初	笠屋町 内笠屋町（大坂三郷町 絵図）
			(E-6-42) ※のみ 商			271	476	初	黒谷町、鰻谷西七丁目
	[E-6-43] (E-6-44) ※ 商		[E-6-45] (E-6-46) ※ 商		明暦元『道頓堀裏町水帳』	818	482	明	道頓堀裏御前町 道頓堀裏町
			(345/140- トウ/102) ※のみ 市						

オリヤ - カラモノ

浜納 屋地 坪帳	町 名		組	現町名	所 蔵 デ ー タ							
	町 名 よ み	町 名 漢 字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	おりやまち	折屋町	北	中央区大手通二丁目								
	おわりさかまち	尾張坂町	南	中央区安堂寺町二丁目								
	かいふほりかわちよう	海部堀川町	北	西区鞠本町二・三丁目								
	かざりやまち	錆屋町	南	中央区西心齋橋一丁目								
	かじきまち	梶木町	北	中央区北浜三・四丁目				(17) ※のみ 販	[345/120- カシ/36] 市		[18] (17) ※ 販	
	かしはらちよう	柏原町	南	中央区谷町七丁目								
	かじやまち	鍛冶屋町一丁目	南	中央区島之内一丁目	元禄七 [E-6-52] 商			[E-6-53] (E-6-54) ※ 商	[E-6-55] (E-6-56) ※ 商		[E-6-57] (E-6-58) ※ 商	
	かじやまち	鍛冶屋町二丁目	南	中央区島之内二丁目								
	かしょまち	過書町	北	中央区北浜三丁目								
	たまつくり かせやまち	玉造栞屋町	北	中央区玉造二丁目								
	かなざわちよう	金沢町	南	中央区博労町一丁目								
	かなたちよう	金田町	南	中央区博労町一・二丁目								
	たまつくり かみしみずまち	玉造上清水町	南	中央区上町一丁目								
	かみなんばちよう	上難波町	南	中央区北久宝寺町三丁目、南久宝寺町三丁目、博労町三丁目								
	かめいちよう	亀井町	北	中央区平野町四丁目								
	かめやまちよう	亀山町	北	中央区平野町一丁目								
	たまつくり かやのきちよう	玉造栢木町	南	中央区玉造二丁目								
	からものまち	唐物町一丁目	南	中央区船場中央一丁目、久太郎町一丁目								
	からものまち	唐物町二丁目上半	南	中央区船場中央一丁目、久太郎町一丁目								
	からものまち	唐物町二丁目下半	南	中央区船場中央二丁目、久太郎町二丁目								

所 蔵 デ - タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
			[345/120-オリ/32]市			277	413	
			(E-6-47)※のみ 商			278	496	
[E-6-48]商						284	518	初 海部町橋詰裏町
			(E-6-49)※のみ 商			289	475	
			[] () ※ 博					
(17)※のみ 販 [345/120-カシ/37]市	[19]販	[20]販	[21] (17)※ 販 [345/120-カシ/39]市			290	438	
[345/120-カシ/38]市								
		(E-6-50)※のみ 商	(E-6-51)※のみ 商			291	495	明 堀之外大黒町
[E-6-59] (E-6-60)※ 商	[E-6-61]商	[E-6-62] (E-6-63)※ 商	(E-6-64)※のみ 商 [文書65]府		宝暦十 大阪市立中央図書館(手書き翻刻簡易製本[345/140-シユ/77]もあり)	293	479	明 南鍛冶町一丁目
			(E-6-65)※のみ 商			293	480	明 南鍛冶町二丁目
			[345/120-カシ/40]市			293	436	初 北浜二丁目
			[345/120-タマ/85]市		角川よみ「かしやちょう」	293	432	
			[345/120-カナ/41]市			312	462	初 博労町一丁目
			[345/120-カネ/42]市		平凡社よみ「かなだちょう」	313	462	明 博労町二丁目
			(E-6-66)※のみ 商			323	430	
			[345/120-カミ/43]市			327	459	
			[23]販 [345/120-カメ/44]市			333	446	初 平野町拾丁目 初 屋ぶた町 水溜町(延宝七水帳奥書写)
			[24]販			333	412	初 檜物屋町
			[345/120-タマ/86]市			337	433	
			[345/120-カラ/45]市			340	454	
			[345/120-カラ/46]市			340	454	初 唐物町二丁目
			[345/120-カラ/47]市			340	454	初 唐物町二丁目

カラモノ - キタナヘ

浜納屋地 坪帳	町名 町名よみ 町名漢字	組	現町名	所蔵データ							
				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	からものまち 唐物町三丁目上半	南	中央区船場中央二丁目、久太郎町二丁目								
	からものまち 唐物町三丁目下半	南	中央区船場中央二丁目、久太郎町二丁目								
	からものまち 唐物町四丁目	南	中央区船場中央三丁目、久太郎町三丁目								
	かわらまち 瓦町二丁目	北	中央区瓦町一・二丁目	明暦元 [E-6-300] 商							
	かんざきちょう 神崎町	北	中央区神崎町								
	きくやまち 菊屋町	南	中央区心齋橋筋二丁目	明暦元 [] 博				[菊屋町13] ※府	[菊屋町23] ※府		[菊屋町72] ※府
	きたかわやまち 北革屋町一丁目	北	中央区船越町一丁目								
	きたかわやまち 北革屋町二丁目	北	中央区船越町一・二丁目								
	きたかんしろうまち 北勘四郎町	南	中央区南船場四丁目								安永四 [文書69] 府
	きたきゅうたろうまち 北久太郎町一丁目	南	中央区久太郎町一丁目								
	きたきゅうたろうまち 北久太郎町二丁目	南	中央区久太郎町一丁目								
	きたきゅうたろうまち 北久太郎町三丁目	南	中央区久太郎町二丁目								
	きたきゅうたろうまち 北久太郎町四丁目	南	中央区久太郎町二・三丁目								
	きたきゅうほうじまち 北久宝寺町一丁目	南	中央区北久宝寺町一丁目								
	きたきゅうほうじまち 北久宝寺町二丁目	南	中央区北久宝寺町一丁目								
	きたきゅうほうじまち 北久宝寺町三丁目	南	中央区北久宝寺町二丁目								
	きたきゅうほうじまち 北久宝寺町四丁目	南	中央区北久宝寺町二・三丁目								
	きたきゅうほうじまち 北久宝寺町五丁目	南	中央区北久宝寺町三丁目								
	きたしんまち 北新町一丁目	北	中央区北新町一丁目								
	きたしんまち 北新町二丁目	北	中央区北新町一丁目								
	きたしんまち 北新町三丁目	北	中央区北新町二丁目								
	きたたにまち 北谷町	南	中央区谷町四丁目								
	きたなべやまち 北鍋屋町	北	中央区淡路町二・三丁目								

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
			[25] 阪			340	455	初 唐物町三丁目
			[345/120- カラ/48] 市			340	455	初 唐物町三丁目
			[345/120- カラ/49] 市			340	455	
						355	449	
			[26] 阪			358	428	初 南聚楽町 明 中聚楽町
[菊屋町116] ※ 府	[菊屋町172] ※ 府		(E-6-67) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵 明暦元『道頓堀裏町水帳』	364	484	初 南傾城町 初 南傾城東之筋 初 南傾城中之町
			[345/120- キタ/50] 市		安政三[345/120-フナ/163] 大阪 市立中央図書館所蔵 『北革屋町 一丁目』を墨消し、『船越町一丁 目』に訂正	380	409	初 北革屋町
			[345/120- フナ/163] 市					
			[27] 阪			380	409	初 北革屋町
			(E-6-68) ※のみ 商		安永四 坪数のみ記載、年次不詳 坪割覚あり 府[文書69]	381	470	初 西樽屋町 初 塩町切丁
			[28] 阪			381	455	
			[345/120- キタ/51] 市			381	456	
			[29] 阪			381	456	
			[345/120- キタ/52] 市			381	456	
			[345/120- キタ/53] 市			381	458	
			[345/120- キタ/54] 市			381	458	
			[345/120- キタ/55] 市			381	458	
			[30] 阪			381	459	
			[345/120- キタ/56] 市			381	459	
			[345/120- キタ/57] 市			385	416	紺屋町(宝暦町鑑)
			[345/120- キタ/58] 市			385	416	紺屋町(宝暦町鑑)
			[345/120- キタ/59] 市			385	416	紺屋町(宝暦町鑑)
			[345/120- キタ/60] 市			387	424	
			[345/120- キタ/61] 市			389	447	

キタハマ - キヨウマ

浜納 屋地 坪帳	町 名 町 名 よ み 町 名 漢 字	組	現町名	所 蔵 デ ー タ							
				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	きたはま 北 浜 一 丁 目	北	中央区北浜一丁目								
	きたはま 北 浜 二 丁 目	北	中央区北浜二丁目								
	きたほりえ 北 堀 江 五 丁 目	北	西区北堀江四丁目								
	きたわたなべまち 北 渡 辺 町	北	中央区本町四丁目								
	どうとんぼり きちざえもんちよう 道頓堀 吉左衛門町	南	中央区道頓堀一丁目	明暦元 大 大 阪	延宝七 () ※のみ 博						
○	どうとんぼり きちざえもんちよう 道頓堀 吉左衛門町	南	中央区道頓堀一丁目								
	たまつくり きのくにまち 玉 造 紀 伊 国 町	北	中央区法円坂一丁目、 上町一丁目								
	どうとんぼり きゆうざえもんちよう 道頓堀 久左衛門町	南	中央区西心齋橋二丁目	明暦元 大 大 阪							
○	どうとんぼり きゆうざえもんちよう 道頓堀 久左衛門町	南	中央区西心齋橋二丁目								
	きょうばし 京 橋 二 丁 目	北	中央区大手前一丁目								
	きょうばし 京 橋 三 丁 目	北	中央区天満橋京町								
○	きょうばし 京 橋 三 丁 目	北	中央区天満橋京町								
	きょうばし 京 橋 四 丁 目	北	中央区北浜東								
	きょうばし 京 橋 五 丁 目	北	中央区北浜東								

きょうばしどおり
京橋通二丁目 安政三 水帳は「京橋三丁目」(きょうばし三ちょうめ)を見よ 京橋通二町目は明治以降の町名
きょうばしかたはらひがしまち
京橋片原東町 文禄六 水帳は「相生東町」(あいおいひがしまち)を見よ 京橋片原東町は17世紀旧町名

	きょうまちぼり 京 町 堀 一 丁 目	北	西区京町堀一丁目						[] () ※ 阪	[] () ※ 阪	[] () ※ 阪
									[36] 阪		

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
			[345/120-キタ/62] 市	明治十 [345/120-ツホ/90] 市	明治十写『坪数地租帳』	392	434		
			[345/120-キタ/63] 市						
			[31] 阪	明治六 [文書271] 府	明治六『東大組第拾二区北浜二丁目地券表』 明治十写『坪数地租帳』	392	435		
			[32] 阪	明治十 [345/120-ツホ/90] 市					
			[345/120-キタ/64] ※ 市						
			[] () ※ 博			394	530		伏見長屋町・葉山町・外山町(元禄十三年三郷水帳寄帳)
			[345/120-キタ/65] 市		角川よみ「きたわたなべちょう」	397	460	初	北渡辺町一・二・三丁目
	[E-6-69] (E-6-70) ※ 商		[E-6-71] (E-6-72) ※ 商	明治七 [E-6-283] (E-6-284) ※ 商	『大大阪』第3巻6号「道頓堀を中心としての町名について 附 明暦元年北南道頓堀水帳の発見」に翻刻掲載 明治七『南大組第十四区道頓堀西櫓町水帳』、絵図『西櫓町之図』	818	491		
			[345/140-トウ/104] ※ 市						
			[345/140-トウ/103] 市						
			[345/120-タマ/87] ※ 市		角川よみ「きのくにちょう」	323	429		
	[E-6-73] (E-6-290) ※ 商		(E-6-289) ※のみ 商	明治七 [E-6-293] 商	明治十 [E-6-288] 商	『大大阪』第3巻6号「道頓堀を中心としての町名について 附 明暦元年北南道頓堀水帳の発見」に翻刻掲載 明治七『南大組第八区久左衛門町水帳』 明治十『第貳大区六小区久左衛門町一筆限簿』	404	492	
			[345/140-トウ/106] ※ 市						
			[345/140-トウ/105] 市						
			[33] 阪			407	403		
[332. 1/ N14/1-51] 市大			[33] 阪		安政三 大阪大学[33] 『京橋通二丁目』内容は近世の京橋三丁目				
			[34] 阪			407	403		
[332. 1/ N14/1-50] 市大		[332. 1/ N14/1-55] 市大							
			[345/120-キヨ/66] 市		安政三 大阪市立中央図書館『京橋貳街目水帳：并京橋三丁目合併』内容は近世の京橋四丁目	407	403		
			[] 阪						
			[35] 阪			407	404		

[] () ※ 阪	[] () ※ 阪	[] 阪				408	516		
[] () ※ 阪	[] () ※ 阪								

キヨウマ - ココウ

浜納 屋地 坪帳	町 名		組	現町名	所 蔵 デ ー タ								
	町 名 よ み	漢 字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七		
	町 名												
	きょうまちほり		北	西区京町堀一丁目	元禄六か (文書10) ※のみ 府								
	ぐそくやまち		南	中央区松屋町住吉									
	くのすけちょう		南	中央区島之内一丁目									
	くのすけちょう		南	中央区島之内一丁目									
	くるままち		南	中央区南船場三丁目									
	どうとんぼり くらうえもんちょう		南	中央区道頓堀一・二丁目	明暦元 大大阪								
○	どうとんぼり くらうえもんちょう		南	中央区道頓堀一・二丁目									
	げんざえもんちょう		南	中央区北久宝寺三丁目									
	こうづまち		南	中央区島之内二丁目									
	こうづごうえもんちょう		南	中央区道頓堀一丁目									
	こうらいばし		北	中央区高麗橋一丁目									
	こうらいばし		北	中央区高麗橋二丁目									
	こうらいばし		北	中央区高麗橋二・三丁目									
	こかわちょう		北	中央区粉川町									
	たまつくり こくぶちょう		北	中央区森ノ宮中央一丁目									
	こくまち		北	中央区石町一・二丁目									
	ごこうまち		北	中央区南船場四丁目									
○	ごこうまち		北	中央区南船場四丁目									

所 蔵 デ - タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
					元禄六『大坂城定番記録』内 作成年不詳	408	516	
			[37] 阪			429	428	初 具足屋五郎兵衛町
			(E-6-74) ※のみ 商		角川よみ「くのすけまち」	433	476	替 九之助町上半・下半
			(E-6-75) ※のみ 商			433	476	
			(E-6-76) ※のみ 商			446	471	初 山伏町、芝居町
	[E-6-77] (E-6-78) ※ 商		[E-6-80] (E-6-79) ※ 商	明治七 [E-6-274] (E-6-275) ※ 商	『大大阪』第3巻6号「道頓堀を中心としての町名について 附 明暦元年北南道頓堀水帳の発見」に翻刻掲載 明治七『南大組第十四区九郎右衛門町水帳』、同年絵図『九郎右衛門町地所絵図』	448	493	道頓堀川塩屋町（道頓堀川塩屋町五人組帳）
			[345/140- トウ/108] ※ 市		安政三 大阪商業大学商業史博物館所蔵 『道頓堀湊町・道頓堀九郎右衛門町続建家場絵図』は難波御蔵入堀沿いの浜納屋の絵図			
			(E-6-238) ※のみ 商					
			[38] 阪			460	459	初 北久宝寺町五丁目 初 伝馬町
			(E-6-82) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	467	479	初 西高津町
			(E-6-81) ※のみ 商		平凡社よみ「ごえもんちょう」	468	488	
			(E-6-292) ※のみ 商		[安政三] (E-6-292) 『高津五右衛門町[入込建家]』			
				明治十 [345/120-ツホ/90] 市	明治十写『坪数地租帳』	472	441	
			[39] 阪	明治十 [345/120-ツホ/90] 市	明治十写『坪数地租帳』	472	441	
			[] 阪					
			[40] (41) ※ 阪		安政三 『三井文庫論叢 第17号』に翻刻・研究あり	472	441	
			[345/120- コウ/67] ※ 市		安政三 大阪市立中央図書館所蔵 本体2冊および付図を合綴			
			[345/120- コカ/68] 市			480	427	初 北聚楽町二丁目
			[345/120- タマ/88] 市			487	431	初 東伊勢町 伏見清水町（大坂三郷町絵図）
	[甲和682] 府	[甲和682] 府	[42] 阪					
			[345/120- コク/69] 市		安政三 大阪市立中央図書館所蔵 [345/120-コク/69] 題簽は『石町壱丁目』	489	406	
			[345/120- コク/70] 市					
			(E-6-83) ※のみ 商			490	469	明 横堀伏見町 初 伏見町 伏見勘左衛門町（大坂三郷町絵図）
		[332.1/ N14/1-7] 市大		明治八 [文書50] 府	明治八『改正拝借浜地帖』 横堀七丁目			

コニシ - シモシミ

浜納屋地 坪帳	町名 町名よみ 町名漢字	組	現町名	所蔵データ						
				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七
	こにしまち 小西町	南	中央区島之内一丁目							
	こびきちょうなかのちよう 木挽町中之丁	南	中央区心斎橋筋一丁目							
	こびきちょうみなみのちよう 木挽町南之丁	南	中央区心斎橋筋二丁目							
	ごふくまち 呉服町	北	中央区伏見町三・四丁目							
	さいわいちよう 幸町四丁目	南	浪速区幸町三丁目	宝永三 [文書71] 府			[文書71] 府	[文書71] 府		[文書71] 府
○	さいわいちよう 幸町四丁目	南	浪速区幸町三丁目							
	さいわいちよう 幸町五丁目	南	浪速区幸町三丁目							[E-6-87] 商
	さかたちよう 坂田町	南	中央区安堂寺町一丁目							
	さかべちよう 酒辺町	南	中央区東心斎橋二丁目、宗右衛門町							
	さくらまち 桜町	南	中央区安堂寺町一丁目							
	さぶろうえもんちよう 三郎右衛門町	北	中央区瓦町三丁目							
	さわらぎちよう 榎木町	北	中央区南本町四丁目、船場中央四丁目、久太郎町四丁目							
	しおまち 塩町一丁目	南	中央区南船場一丁目							
	しおまち 塩町二丁目	南	中央区南船場一丁目							
	しおまち 塩町三丁目	南	中央区南船場二丁目							
	しおまち 塩町四丁目	南	中央区南船場二・三丁目							[Kj18-0-95-1] ※九州大学 附属図書館
	しけんまち 四軒町	北	中央区高麗橋三・四丁目、伏見町四丁目							
	しちろうえもんちよう 七郎右衛門町一丁目	北	中央区北浜四丁目、今橋四丁目、高麗橋四丁目	寛文二 [文書45] 府						
	しちろうえもんちよう 七郎右衛門町二丁目	北	中央区高麗橋四丁目、道修町四丁目、平野町四丁目、淡路町四丁目	寛文二 [文書45] 府	延宝七 [文書45] 府	元禄六 [文書45] 府		[文書45] ※ 府		(文書45) ※のみ 府
	しままち 島町一丁目	北	中央区島町一丁目							
	しままち 島町二丁目	北	中央区島町二丁目							
	たまつくり しもしみずまち 玉造下清水町	南	中央区玉造一丁目							

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
			(E-6-84) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	496	478	初	堀詰材木町
			(E-6-86) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	498	483	初	九之助丁木挽町
		[木挽町20] ※ 府	(E-6-85) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	498	484	初	九之助丁木挽町
			[43] (44) ※ 阪			499	443	初替	瓢箪町 伏見呉服町
[文書71] 府	[文書71] 府					517	698		
		[文書72] 府							
		[E-6-88] 商				517	698		
			(E-6-89) ※のみ 商			526	495	明	上樽屋町
			(E-6-90) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	527	481	明初	南樽屋町 下樽屋町切丁
			(E-6-91) ※のみ 商			537	494	明	上魚屋町
			[345/120- サフ/71] 市			545	450		
			[345/120- サフ/72] ※ 市		[安政三]大阪市立中央図書館所蔵『[榎木町水帳絵図]』本体奥書文化十二まで	553	463	初	七郎右衛門町、長浜町 西笹町(延宝七水帳奥書写)
			(E-6-92) ※のみ 商			562	471		
			(E-6-93) ※のみ 商			562	471		
			(E-6-94) ※のみ 商			562	471		
			(E-6-95) ※のみ 商			562	471	初	塩町筋下半町
		[E-6-96] (E-6-97) ※ 商	[45] (46) ※ 阪		角川よみ「しけんちょう」	570	442	初	上人町
			[47] 阪		寛文二 一町目から四町目が「七郎右衛門町一丁目」に該当	574	462	初	七郎右衛門町
			[345/120- シチ/73] ※ 市						
			[48] (49) ※ 阪		寛文二 五町目以降が「七郎右衛門町二丁目」に該当	574	463	初	七郎右衛門町
					『七郎右衛門町二丁目水帳並諸記録』[205-184]国立国会図書館所蔵未確認				
			[345/120- シマ/74] 市			589	407	替初	島町三丁目 島町
			[345/120- シマ/75] 市						
		嘉永四 (E-6-98) ※のみ 商	[50] 阪		嘉永四『町中竈絵図』	589	407	替初	島町一・二丁目 島町
			(E-6-99) ※のみ 商			599	433	初	元稲荷下清水町

シユモク - ススヤ

浜納屋地坪帳	町名		組	現町名	所蔵データ							
	町名よみ	町名漢字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	たまつくり	しゅもくまち	北	中央区上町一丁目								
	玉造	撞木町										
	じゅらくまち		北	中央区粉川町								
	聚楽町											
	じゅんけいまち		南	中央区南船場一丁目								
	順慶町一丁目											
	じゅんけいまち		南	中央区南船場一丁目								
	順慶町二丁目											
	じゅんけいまち		南	中央区南船場二丁目								
	順慶町三丁目											
	じゅんけいまち		南	中央区南船場二・三丁目								
	順慶町四丁目											
	じゅんけいまち		南	中央区南船場三丁目	元禄七 [E-6-105] (E-6-106) ※商				[E-6-107] 商	[E-6-108] (E-6-109) ※商		
	順慶町五丁目											

じゅんけいまちどおり 順慶町通四丁目 明治七 水帳は「順慶町五丁目」（じゅんけいまち五ちょうめ）、「浄国寺町」（じょうこくじまち）、「初瀬町」

	じょうかくまち		北	中央区安土町三丁目								
	浄覚町											
	じょうこくじまち		南	中央区南船場四丁目								
	浄国寺町											
	じょうちんまち		南	中央区東心齋橋一・二丁目								
	常珍町											
	しょうにんまち		北	中央区高麗橋三丁目								
	上人町											
	ながほり しらがまち		南	西区新町三丁目、北堀江三丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市							
	長堀白髪町											
	しろがねまち		南	中央区東心齋橋一丁目								
	白銀町											
	ながほり じろべえちよう		南	中央区南船場二丁目、東心齋橋一丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市	万治三 [345/140-ナカ/134] 市	寛文二 [345/140-ナカ/145] 市	元禄七 [345/140-ナカ/135] (同/142) ※市	[345/140-ナカ/136] ※市	[345/140-ナカ/137] (同/143) ※市	宝暦七 (345/140-ナカ/144) ※のみ	[345/140-ナカ/138] ※市
○	ながほり じろべえちよう		南	中央区南船場二丁目、東心齋橋一丁目							宝暦七 [345/140-ナカ/130] 市	
	長堀次郎兵衛町											
	ながほり しんさいちよう		南	中央区南船場三丁目、心齋橋筋一丁目、東心齋橋一丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市							
	長堀心齋町											
○	ながほり しんさいちよう		南	中央区南船場三丁目、心齋橋筋一丁目、東心齋橋一丁目								
	長堀心齋町											

すえよしばしどおり 末吉橋通三丁目 明治八 改正拜借浜地帖は「長堀次郎兵衛町」（ながほり じろべえちよう）、「長堀心齋町」（ながほり しんさいちよう）

すえよしばしどおり 末吉橋通四丁目 明治八 改正拜借浜地帖は「長堀杏拾丁目」（ながほり じゅつちようめ）、「長堀平右衛門町」（ながほり へいえもん）

	すおうまち		南	中央区心齋橋筋一・二丁目、西心齋橋一・二丁目								
	周防町											
	すずきまち		南	中央区法円坂二丁目、内久宝寺町二丁目								
	鈴木町											
	すずやまち		南	中央区谷町三丁目								
	錫屋町											

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
			(E-6-100) ※のみ 商			613	430		
			[345/120- シユ/76] 市			613	426	初 北聚楽町一丁目	
			(E-6-101) ※のみ 商			613	468		
			(E-6-102) ※のみ 商			613	468		
			(E-6-103) ※のみ 商			613	468		
			(E-6-104) ※のみ 商			613	468		
[E-6-110] (E-6-111) ※ 商	[E-6-112] (E-6-113) ※ 商	[E-6-114] ※ 商	[E-6-115] (E-6-116) ※ 商 [345/140- シユ/78] 市	明治五 [E-6-298] 商	明治七 (E-6-276) ※のみ 商	安政三 大阪市立中央図書館(手 書き翻刻簡易製本[345/140-シユ /77]もあり) 明治五『沽券記「元順慶町五丁 目・元浄国寺町・元初瀬町」』 明治七『順慶町通四丁目』	613	468	

(はつせちょう)を見よ 順慶町通四丁目は明治以降の町名

			[] ※ 阪				615	452	初 安土町八・九丁目
			(E-6-117) ※のみ 商	明治五 [E-6-298] 商	明治七 (E-6-276) ※のみ 商	明治五『沽券記「元順慶町五丁 目・元浄国寺町・元初瀬町」』 明治七『順慶町通四丁目』	616	468	
			(E-6-118) ※のみ 商			嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵	619	481	
		[51] (52) ※ 阪	[53] 阪				621	442	
						明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪 二十~二十五丁目、南輪二十~二 十五丁目か	626	528	初 白髪山両裏權屋町
			(E-6-119) ※のみ 商			嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市 立中央図書館蔵	628	477	初 銀屋町
[345/140- ナカ/139] ※ 市	[345/140- ナカ/140] ※ 市	[345/140- ナカ/141] ※ 市	(E-6-120) ※のみ 商			明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪 六・七丁目、南輪六・七丁目	874	473	初 七左衛門町 コンタ丁、中橋丁(近世 大坂地図)
[345/140- ナカ/131] 市	[345/140- ナカ/132] 市	[345/140- ナカ/133] 市		明治八 [文書50] 府		明治八『末吉橋通三丁目 改正拜 借浜地帖』			
			(E-6-121) ※のみ 商			明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪 八・九丁目、南輪八・九丁目	875	473	
				明治八 [文書50] 府		明治八『末吉橋通三丁目 改正拜 借浜地帖』			

を見よ 末吉橋通三丁目は明治以降の町名

ちょう)を見よ 末吉橋通四丁目は明治以降の町名

			(E-6-123) ※のみ 商				652	484	初 明 道頓堀雪踏屋町 南新雪踏町
			[345/120- スス/79] 市			角川よみ「すずきちょう」	657	425	上さかいまち(大坂三 郷町絵図)
			[345/120- スス/80] 市				657	420	

浜納屋地坪帳	町名		組	現町名	所蔵データ							
	町名よみ				元和～正徳				享保十一	宝暦三	明和四	安永七
	町名漢字				明暦元	寛文二	天和元					
	よこほり すみやまち	南	中央区西心齋橋一・二丁目	[E-6-124] 商	[E-6-125] 商	[E-6-126] [E-6-127] ※ 商		[E-6-128] [E-6-129] ※ 商	[E-6-130] [E-6-131] ※ 商		[E-6-132] [E-6-133] ※ 商	
	横堀炭屋町								[文書76] 府			
○	よこほり すみやまち	南	中央区西心齋橋一・二丁目									
	横堀炭屋町											
	すみよしやちよう	南	中央区松屋町住吉									
	住吉屋町											
	するがまち	南	中央区神崎町									
	駿河町											
	せきまち	南	中央区島之内一丁目									
	関町											
	どうとんぼり そうえもんちよう	南	中央区宗右衛門町、心齋橋筋二丁目	明暦元								
	道頓堀宗右衛門町			大大阪								
○	どうとんぼり そうえもんちよう	南	中央区西心齋橋一・二丁目									
	道頓堀宗右衛門町											
	ながほり せいべえちよう	南	西区新町四丁目	明暦二								
	長堀清兵衛町			[345/140-ナカ/146] 市								
	ぜんざえもんちよう	北	中央区平野町三丁目									
	善左衛門町											
	たいほうじまち	南	中央区西心齋橋一丁目								[E-6-148] 商	
	大宝寺町											
	ながほり たかはしちよう	南	西区北堀江四丁目	明暦二								
	長堀高橋町			[345/140-ナカ/146] 市								
	たかまちよう	南	中央区東心齋橋一丁目、心齋橋筋一丁目									
	高間町											
	たしまちよう	南	中央区谷町七丁目									
	田島町											

たちうりぼり
立売堀 からはじまる地名は 立売堀（北側）（南側）を除き 立売堀をはずした地名で配列 例) 立売堀阿波橋町 ⇒ 阿波橋町

	たちうりぼり (きたがわ)	南	西区立売堀一・二丁目								
	立売堀(北側)二丁目										
	たちうりぼり (きたがわ)	南	西区立売堀二・三丁目	寛文十一		元禄七		[E-6-17]	[E-6-18]	[E-6-20]	[E-6-21]
	立売堀(北側)三丁目			[E-6-15] 商		[E-6-16] 商		商	(E-6-19) ※ 商	商	(E-6-22) ※ 商
○	たちうりぼり (きたがわ)	南	西区立売堀二・三丁目						宝暦七		
	立売堀(北側)三丁目								[E-6-29] 商		
○	たちうりぼり (みなみがわ) にしのちよう	南	西区立売堀四・五丁目								[文書60] 府
	立売堀(南側)西之丁										
	たちばなどおり	北	西区南堀江四丁目								
	橘通六丁目										

所 蔵 デ - タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
[E-6-134] (E-6-135) ※ 商	[E-6-136] (E-6-137) ※ 商	[E-6-138] (E-6-139) ※ 商	(E-6-140) ※のみ 商			660	487	
[E-6-141] 商	[E-6-142] 商					660	487	
			[54] 阪			667	428	初 住吉屋藤左衛門町
			(E-6-143) ※のみ 商					
			[55] 阪			667	428	初 明 中聚楽町 南聚楽町
			(E-6-144) ※のみ 商			670	479	明 初 刃物鍛冶町 九之助町筋之内鍛冶屋 町
	[E-6-145] 商		[E-6-146] (E-6-147) ※ 商	明治七 [E-6-277] (E-6-278) ※ 商	『大大阪』第3巻6号「道頓堀を中心としての町名について 附 明暦元年北南道頓堀水帳の発見」に翻刻掲載 明治七水帳『地所持主人名録』、 絵図『宗右衛門町之図』	686	490	
			[345/140- トウ/110] ※ 市					
			[345/140- トウ/109] 市			686	490	
					明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪 二十六～二十八丁目か	668	528	
			[56] (57) ※ 阪			677	446	
[E-6-149] (E-6-150) ※ 商			(E-6-151) ※のみ 商			704	477	
					明暦二『長堀惣水帳』のうち南輪 二十六～二十八丁目か	717	528	
			(E-6-152) ※のみ 商			719	475	明 縷谷七丁目
			(E-6-153) ※のみ 商		角川よみ「たじまちょう」	732	495	明 堀之外島町

			[文書58] 府			142	523	灰ヤ町（明暦大坂三郷 町絵図）
			[文書58] 府					
[E-6-23] (E-6-24) ※ 商	[E-6-25] (E-6-26) ※ 商	[E-6-27] (E-6-28) ※ 商						立売堀北側中丁（明暦 大坂三郷町絵図）
[文書245] 府						142	523	
			[E-6-30] 商			143	524	
			嘉永六 (25849) ※のみ 三井		嘉永六 三井文庫本館(史料館)所 蔵 『橋通六丁目借家絵図』	736	533	

タニ トウニン

浜納屋地坪帳	町名		組	現町名	所蔵データ							
	町名よみ	町名漢字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	たにまち		北	中央区谷町一丁目								
	谷町一丁目											
	たにまち		北	中央区谷町一・二丁目								
	谷町二丁目											
	たにまち		北	中央区谷町二・三丁目	延宝七 [文書46] ※府		元禄六 [文書46] 府		[文書46] 府			
	谷町三丁目											
	たまきちょう		南	中央区谷町六丁目								
	玉木町											

たまつくり
玉造からはじまる地名は 玉造をはずした地名で配列 例) 玉造 上清水町 ⇒ 上清水町

	たまやまち		南	中央区東心斎橋一・二丁目								
	玉屋町											
	たんばやちょう		南	中央区松屋町								
	丹波屋町											
	つむらきたのちょう		北	中央区淡路町四丁目								
	津村北之町											
	つむらなかのちょう		北	中央区瓦町四丁目								
	津村中之町											
	つむらにしのちょう		北	中央区瓦町四丁目								
	津村西之町											
	つむらひがしのちょう		北	中央区瓦町三丁目								
	津村東之町											
	つむらみなみのちょう		北	中央区備後町四丁目								
	津村南之町											
	つりがねちょう		北	中央区釣鐘町一・二丁目								
	釣鐘町											
	つりがねかみのちょう		北	中央区釣鐘町一丁目								
	釣鐘上之町											
	てしまちょう		北	西区西本町二丁目	元禄六 [文書48] 府							
	豊島町											
	でんまちょう		南	中央区北久宝寺三丁目								
	伝馬町											
	どうじましんち		天満	福島区福島一・二丁目								[E-6-157] (E-6-158) ※商
	堂島新地五丁目											
	どうじましんふなまち		天満	福島区福島三丁目、玉川一丁目					[E-6-159] (E-6-160) ※商	(E-6-161) ※のみ商		[E-6-162] (E-6-163) ※商
	堂島新船町											
○	どうじましんふなまち		天満	福島区福島三丁目、玉川一丁目								
	堂島新船町											

どうとんぼり
道頓堀からはじまる地名は 道頓堀裏町を除き 道頓堀をはずした地名で配列 例) 道頓堀 宗右衛門町 ⇒ 宗右衛門町

どうとんぼりうらまち
道頓堀裏町 明暦元 水帳は「道頓堀 御前町」(どうとんぼり おまえまち)、「道頓堀 布袋町」(どうとんぼり ほていまち)、

	どうにんまち		南	中央区島之内一・二丁目								
	道仁町											

所 蔵 デ - タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
			[60] (61) ※ 阪			742	405		
			[345/120- タニ/81] 市						
			[345/120- タニ/82] 市			742	406		
			[345/120- タニ/83] 市						
			[345/120- タニ/84] 市		元禄六、享保十一 後世付けた表紙の題簽貼り間違えあり	742	406		
			(E-6-154) ※のみ 商			746	495	明	北折屋町

			(E-6-155) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	751	481	初	南新町
			(E-6-156) ※のみ 商		角川よみ「たんばやまち」	762	496	初	撞木橋丹波屋新左衛門町、源助町
			[62] 阪		角川よみ「つむらきたのまち」	785	447	初	津村入屋敷
			[345/120- ツム/92] 市		角川よみ「つむらなかのまち」	785	448	初	津村入屋敷
			[345/120- ツム/93] 市		角川よみ「つむらにしのまち」	785	448	初	津村入屋敷
			[345/120- ツム/94] 市		角川よみ「つむらひがしのまち」	786	448	初	津村入屋敷
			[345/120- ツム/95] 市		角川よみ「つむらみなみのまち」	786	448	初	津村入屋敷
			[345/120- ツリ/97] (同/98) ※ 市	明治六 [文書47] 府	明治六『大阪東大組第拾壹区之内釣鐘町式丁目地券帖』	788	408	初	戎之町
			[345/120- ツリ/100] (同/99) ※ 市		安政三[345/120-ツリ/100] 大阪市立中央図書館題簽『釣鐘町二丁目』				
			[63] 阪		安政三 大阪大学 題簽『釣鐘町一丁目』、奥書は「釣鐘町上之町」	788	408	初	戎之町
			[345/120- ツリ/96] 市						
					表記は『豊鳴町』	794	521	初 初	四郎兵衛町 戎町
			[345/120- テン/101] 市		平凡社よみ「てんまちょう」	809	459		馬屋町(天保町鑑)
						814	751		
(E-6-164) ※のみ 商	(E-6-165) ※のみ 商	(E-6-166) ※のみ 商			角川よみ「どうじましんふねちょう」	815	751		
		[E-6-167] 商							

「菊屋町」(きくやまち)、「南塗師屋町」(みなみぬしやまち)を見よ 道頓堀裏町は17世紀旧町名

			(E-6-168) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵 角川よみ「どうにちょう」	819	479		わたや町(天保町鑑)
--	--	--	--------------------	--	--	-----	-----	--	------------

トキワ ー ナカホリ

浜納 屋地 坪帳	町 名 町 名 よ み 町 名 漢 字	組	現町名	所 蔵 デ ー タ						
				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七
	ときわまち 常 磐 町 一 丁 目	北	中央区常磐町一丁目							
	ときわまち 常 磐 町 二 丁 目	北	中央区常磐町一丁目							
	ときわまち 常 磐 町 三 丁 目	北	中央区常磐町二丁目							
	ときわまち 常 磐 町 四 丁 目	北	中央区常磐町二丁目							
	とくいちょう 徳 井 町	北	中央区徳井町一丁目							
	どしょうまち 道 修 町 一 丁 目	北	中央区道修町一丁目							
	どしょうまち 道 修 町 二 丁 目	北	中央区道修町一丁目							
	どしょうまち 道 修 町 三 丁 目	北	中央区道修町二・三丁目				[328-212] 府	[328-278] 府		
	どしょうまち 道 修 町 四 丁 目	北	中央区道修町三丁目				[328-278] ※ 府	[328-278] ※ 府		
	どしょうまち 道 修 町 五 丁 目	北	中央区道修町四丁目	元禄六 [345/120-トシ/124] ※ 市				[345/120- トシ/125] ※ 市	[67] (68) ※ 阪	
	ながほり とんだやちよう 長 堀 富 田 屋 町	南	西区新町二丁目、北堀 江二丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市						
	ながまち 長 町 六 丁 目	北	浪速区日本橋三・四丁目							
	ながまち 長 町 七 丁 目	北	浪速区日本橋四・五丁目							
	ながまち 長 町 八 丁 目	北	浪速区日本橋五丁目							
	ながまち 長 町 九 丁 目	北	浪速区日本橋五丁目							
	なかせんばまち 中 船 場 町	北	中央区淡路町四丁目							
	なかつちよう 中 津 町	南	中央区島之内一丁目、 東心齋橋一丁目							

なかのちよう
中町 は「稲荷中町」(いなりなかのちよう)を見よ

ながほり
長堀 からはじまる地名は 長堀拾丁目を除き、長堀をはずした地名で配列 例) 長堀心齋町 ⇒ 心齋町

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
	[E-6-169] 商		[345/120- トキ/116] 市			823	420	替	伏見立売町一丁目
		[E-6-170] (E-6-171) ※ 商				823	421	替	伏見立売町二丁目
			[345/120- トキ/117] 市			823	421	替	伏見立売町三丁目
			[345/120- トキ/118] 市			823	421	替	伏見立売町四丁目
			[345/120- トキ/119] 市			823	417	初	北本町、九郎右衛門町、伏見権助町、すげた町（宝暦町鑑）
		() ※のみ 博	[64] 阪			826	444		
			[64] 阪						
			[65] 阪						
			[345/120- トシ/120] 市			826	444		
	[328-278] ※ 府	[328-278] ※ 府	[328-278] ※ 府						
		[328-278] ※ 府	[345/120- トシ/121] ※ 市			826	445		
			[66] 阪		安政三 大阪大学所蔵 奥書は元禄六まで、帳切は明治まで				
			[345/120- トシ/122] 市						
			[345/120- トシ/123] 市			826	445		
[345/120- トシ/126] ※ 市	[345/120- トシ/127] ※ 市	[69] (70) ※ 阪	[71] (72) ※ 阪						
		[345/120- トシ/128] ※ 市				826	445		
					明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪十八・十九丁目、南輪十八・十九丁目か	875	528	初	新兵衛町
			(E-6-173) ※のみ 商			876	696	替	長町谷町、名呉町（摂津名所図会大成）
			(E-6-174) ※のみ 商			876	697	替	長町尾張坂町
			(E-6-175) ※のみ 商			876	697	替	長町笠屋町、長町清助町
			(E-6-176) ※のみ 商			876	697	替 初	長町茂助町 長町、新助町、甚左衛門町、喜左衛門町、毛皮屋町、谷町、尾張坂町、清助町（笠屋町）、茂助町
			[345/120- ナカ/129] 市			859	447		
			(E-6-178) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	864	480	明 初	清水町上之丁、大工町

ナカホリ - ニシササ

浜納屋地坪帳	町名		組	現町名	所蔵データ							
	町名よみ	漢字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	ながほり	堀	南		明暦二 [345/140-ナカ/146] 市							
	ながほり	堀拾丁目	南	中央区南船場三・四丁目、心齋橋筋一丁目、西心齋橋一丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市							
	ながらまち	柄町	天満	北区天満一丁目					[] 博	[] 博		
	なるおちよう	鳴尾町	天満	北区天神西町								
	なんばしんち	難波新地一丁目	北	中央区千日前一丁目								
	なんばしんち	難波新地二丁目	北	中央区千日前一丁目、難波三丁目								
	なんばしんち	難波新地三丁目	北	中央区難波四丁目								

なんばしんち
難波新地四番町 明治七 水帳絵図 は「難波新地二丁目」(なんばしんち二ちょうめ)を見よ 難波新地四番町は明治以降の町名

	たまつくり にえもんちよう	玉造 仁右衛門町	北	中央区上町一丁目、玉造二丁目								
	たまつくり にしいせまち	玉造 西伊勢町	北	中央区森ノ宮中央二丁目								
	にしきまち	錦町一丁目	北	中央区大手通一丁目								
	にしきまち	錦町二丁目	北	中央区大手通一丁目								
	にしこうづまち	西高津町	南	中央区高津一・二丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地一丁目	南	中央区日本橋一丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地二丁目	南	中央区日本橋一丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地三丁目	南	中央区日本橋一丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地四丁目	南	中央区日本橋二丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地五丁目	南	中央区高津三丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地六丁目	南	中央区高津三丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地七丁目	南	中央区日本橋二丁目、高津三丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地八丁目	南	中央区日本橋二丁目、高津三丁目								
	にしこうづしんち	西高津新地九丁目	南	中央区日本橋二丁目、高津三丁目								

にしさかまち
西坂町 明治七 水帳 は「元伏見坂町」(もとふしみさかまち)を見よ 西坂町は明治以降の町名

	にしさかまち	西 笹 町	北	中央区北久宝寺町四丁目、南久宝寺町四丁目、博労町四丁目								
--	--------	-------	---	-----------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
					『長堀惣水帳』北側・南側とも一町目から二十八町目までと末町を掲載 各町にも記載	874		
			(E-6-177) ※のみ 商	明治八 [文書50] 府	明治八『末吉橋通四丁目 改正拜借浜地帖』 明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪十・十一丁目、南輪十と十一丁目の大部分か	874	474	初 紹意町
	[] 博	[] () ※ 博				883	551	初 北長柄四丁目
	[文書106] 府					897	549	初 天満十丁目裏町
			[E-6-179] (E-6-180) ※ 商			903	500	
			[E-6-181] (E-6-182) ※ 商	明治七 (E-6-280) ※のみ 商	明治七『難波新地四番町』	903	500	
			[E-6-183] (E-6-184) ※ 商			903	500	

			(E-6-122) ※のみ 商			907	431	日向町 (天保町鑑)
			[73] 阪		角川よみ「にしせいせちよう」	911	431	
			[345/120- ニシ/147] 市			917	413	初 呉服町 替 上呉服町
			[345/120- ニシ/148] 市			917	413	明 初 上西呉服町 初 呉服町
			北の部(E-6-194) 南の部(E-6-195) ※のみ 商		角川よみ「にしこうづちよう」	919	498	
			(E-6-185) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-186) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-187) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-188) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-189) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-190) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-191) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-192) ※のみ 商			919	499	
			(E-6-193) ※のみ 商			919	499	

			[345/120- ニシ/149] 市			922	463	初 七郎右衛門町、七軒町
--	--	--	---------------------------	--	--	-----	-----	--------------

ニシタル - ヒカシヤ

浜納屋地 坪帳	町名 町名よみ 町名漢字	組	現町名	所蔵データ							
				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	にしたるやまち 西樽屋町	天満	北区西天満三丁目								
○	にしたるやまち 西樽屋町	天満	北区西天満三丁目								

どうとんぼり にしやぐらまち

道頓堀 西樽町 明治七 水帳、水帳絵図 は「道頓堀 吉左衛門町」(どうとんぼり きちざえもんちょう)を見よ 道頓堀 西樽町は

	にっぽんばし 日本橋一丁目	北	中央区日本橋一丁目								
	にっぽんばし 日本橋二丁目	北	中央区日本橋一丁目								
	にっぽんばし 日本橋三丁目	北	中央区日本橋一丁目								
	にっぽんばし 日本橋四丁目	北	中央区日本橋二丁目								
	にっぽんばし 日本橋五丁目	北	中央区日本橋二丁目								
	にほんまつちょう 二本松町	北	西区北堀江四丁目	寛文二 [] 博	元禄六 [] 博	元禄十二 () ※のみ 博					
	ねぎまち 禰宜町	南	中央区玉造二丁目								
	のうにんばし 農人橋一丁目	南	中央区農人橋一丁目								
	のうにんばし 農人橋二丁目	南	中央区農人橋二丁目	元禄七 [文書78] ※ 府				[文書78] ※ 府	[文書78] ※ 府		[文書78] ※ 府
	うち 伊勢上人屋敷	南	中央区農人橋二丁目					[文書104] 府	[文書104] 府		[文書104] 府
	のうにんばしざいもくちょう 農人橋材木町	南	中央区材木町								[E-6-201] 商
	のうにんはしづめちょう 農人橋詰町	南	中央区農人橋二・三丁目								
	ばくろうまち 博労町	南	中央区博労町三丁目	明暦元 [甲和1332] ※ 府	寛文二 [甲和1332] 府	延宝七 [甲和1332] ※ 府	元禄七 [甲和1332] ※ 府	[甲和1332] ※ 府	[甲和1332] ※ 府		[甲和1332] ※ 府
	ながほり はしもとちょう 長堀橋本町	南	中央区南船場一丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市							
	はつせちょう 初瀬町	南	中央区南船場四丁目								
	はまちょう 浜町	北	中央区淡路町四丁目、 瓦町四丁目								
	はりまちょう 播磨町	南	中央区安堂寺町二丁目								
	たまつくり はんにゆうまち 玉造半入町	北	中央区玉造二丁目								

ひがしさかまち

東阪町 明治七 水帳 は「元伏見坂町」(もとふしみさかまち)を見よ 東阪町は明治以降の町名

	ひがしよこほりがわかみのくちしんつきじ 東横堀川上之口新築地	北	中央区北浜一丁目								
--	-----------------------------------	---	----------	--	--	--	--	--	--	--	--

どうとんぼり ひがしやぐらまち

道頓堀 東樽町 明治七 水帳 は「道頓堀 立慶町」(どうとんぼり りゅうけいまち)を見よ 道頓堀 東樽町は明治以降の町名

所 蔵 デ - タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
	文化五 [文書108] 府	[文書110] 府			文化五『丁中坪数帳』	925	550	初 樽屋町
		[文書109] 府						

明治以降の町名

			(E-6-196) ※のみ 商			936	491	替	長町一丁目	
			(E-6-197) ※のみ 商			936	491	替	長町二丁目	
			(E-6-198) ※のみ 商			936	491	替	長町三丁目	
			(E-6-199) ※のみ 商			936	491	替	長町四丁目	
			(E-6-200) ※のみ 商			936	491	替	長町五丁目	
						937	531			
			(E-6-32) ※のみ 商		平凡社「玉造禰宜町 たまつくり ねぎまち」	944	433			
	[文書77] ※ 府		[345/120- ノウ/150] 市			947	422	初	農人橋四丁目	
[文書78] ※ 府	[文書78] ※ 府	[文書78] ※ 府	[文書78] 府			947	422	初	農人橋三丁目	
			[75] 阪		安政三 大阪大学所蔵 明治五年 宮橋家（伊勢上人屋敷のこと）屋 敷編入水帳あり					
						947	422			
		[E-6-202] 商				947	425	初	大和材木町	
			[345/120- ノウ/151] 市			947	423	初 初	農人橋二丁目 農人橋川端幾右衛門町	
[甲和1332] ※ 府	[甲和1332] ※ 府	[甲和1332] ※ 府	[345/120- ハウ/152] 市		明暦元・寛文二・延宝七 『馬 責場町水帳』	966	462	初	馬責場町 博労町五丁目（大坂三 郷町絵図）	
			(E-6-203) ※のみ 商		明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪 一丁目～五丁目	875	472	明 初 替	長堀菅田屋町 末吉孫左衛門町、牧九郎兵衛町 長堀町一丁目	
			[E-6-204] [E-6-205] ※ 商	明治五 [E-6-298] 商	明治七 (E-6-276) ※のみ 商	明治五『沽券記「元順慶町五丁 目・元浄国寺町・元初瀬町』 明治七『順慶町通四丁目』	979	468	初	吉野町
			[345/120- ハマ/153] 市		角川よみ「はままち」	992	463	初	七郎右衛門町 津村浜町（明暦大坂三 郷町絵図）	
			(E-6-206) ※のみ 商		角川よみ「はりままち」	999	496	初	播磨鍛冶町	
			[345/120- タマ/89] ※ 市		角川よみ「はんにゆうちょう」	1009	432			

			[345/120- ヒカ/155] 市			1027	434		
--	--	--	---------------------------	--	--	------	-----	--	--

ヒシヤ - ハイエモ

浜納屋地坪帳	町名 町名よみ 町名漢字	組	現町名	所蔵データ							
				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	たまつくり ひしやちよう 玉造菱屋町	北	中央区上町一丁目、玉造二丁目								
	ひやつかんちよう 百貴町	北	中央区瓦町二丁目								
	ひらのまち 平野町一丁目	北	中央区平野町一丁目								
	ひらのまち 平野町二丁目	北	中央区平野町一・二丁目								
	ひらのまち 平野町三丁目	北	中央区平野町二・三丁目	元禄六 () ※のみ天							
	たまつくり ひらのぐちちよう 玉造平野口町	南	中央区玉造1丁目、天王寺区玉造元町、玉造本町								
	びんごまち 備後町三丁目	北	中央区備後町一丁目						[文書52] ※ 府		[文書52] ※ 府
	ふじのもりちよう 藤森町	南	中央区和泉町一丁目								
	ふしみまち 伏見町	北	中央区伏見町三・四丁目								
	ふしみさかまち 伏見坂町	南	中央区玉造一丁目								
	ふしみりようがえまち 伏見両替町二丁目	北	中央区農人橋一丁目								
	ふしみりようがえまち 伏見両替町四丁目	北	中央区農人橋二丁目								
	ふだのつじちよう 札之辻町	南	中央区上本町西三丁目、天王寺区上本町三丁目								
	ふなこしちよう 船越町	北	中央区船越町二丁目、東高麗橋								

ふなこしちよう
船越町一丁目 は「北葎屋町一丁目」(きたかわやまち)を見よ 船越町一丁目は明治以降の町名

	たちうりほり ふるかねまち 立売堀古金町	南	西区阿波座一丁目、立売堀一丁目								
	ふるかわ 古川一丁目	天満	西区川口二・三丁目	宝永三 [大阪天満組古川町書目(年寄)文書/9]				[同左/10] 関		[同左/11] 関	
	ふるてまち 古手町	北	中央区道修町四丁目					[82] 阪	[345/120-フル/164] 市		[83] (84) ※ 阪 [345/120-フル/165] ※ 市
	ぶんごまち 豊後町	北	中央区大手通三丁目、本町橋								
	ながほり へいえもんちよう 長堀平右衛門町	南	中央区南船場四丁目、西心齋橋一丁目、西区新町一丁目、北堀江一丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市							
○	ながほり へいえもんちよう 長堀平右衛門町	南	中央区南船場四丁目、西心齋橋一丁目、西区新町一丁目、北堀江一丁目								

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
			(E-6-207) ※のみ 商		角川よみ「ひしやまち」	1032	430	初 初 玉造越中町四丁目 大路町 とろ町(明暦大坂三郷絵図)
		文政十二 [E-6-208] 商				1045	450	
			[76] (77) ※ 阪			1058	445	初 平野町一・二丁目
			[345/120- ヒラ/156] 市					
			[345/120- ヒラ/157] 市			1058	446	明 初 西平野町、東平野町 平野町三・四・五丁目
			[345/120- ヒラ/158] 市					
			[78] (79) ※ 阪			1058	446	初 平野町六・七・八・九 丁目
			(E-6-209) ※のみ 商			1056	434	
[文書52] ※ 府		[文書52] ※ 府				1061	450	
			[80] 阪		角川「藤之森町 ふじのもりま ち」	1075	424	初 伏見藤之森町
			[345/120-フシ/161] (同/162) ※ 市			1076	433	
			(E-6-210) ※のみ 商			1075	434	
			[345/120- フシ/159] 市		角川よみ「ふしみりょうがえちよ う」	1076	421	
			[345/120- フシ/160] 市			1076	421	
	[E-6-211] (E-6-212) ※ 商	[E-6-213] (E-6-214) ※ 商	(E-6-215) ※のみ 商			1077	495	明 堀之外札之辻町
			[81] 阪			1080	409	初 内鍛冶町 内鍛冶屋町(難波雀)

[345/130- イタ/8] 市	[345/130- イタ/9] 市	[345/130- イタ/10] 市	[345/130-イタ/11] (同/12) ※ 市			1087	521	初 立売堀裏古金町
	() ※のみ 博	[文書85] 府						
	[同左/12] 関	[同左/13] 関			平凡社「古川町一丁目」	1087	538	かりがね島(大阪府全志)
[345/120- フル/166] ※ 市	[345/120- フル/168] ※ 市	[85] 阪	[345/120- フル/169] ※ 市			1088	445	初 初 道修町筋又市町 四拾軒町
[345/120- フル/167] ※ 市			[345/120- フル/170] 市					
	[文書255] ※ 府	[文書255] ※ 府	[86] 阪			1089	414	
				明治四 (E-6-279) ※のみ 商	明暦二『長堀惣水帳』のうち北輪十 二丁目～十五丁目、南輪十一丁目 の一部～十五丁目か 角川よみ「ながほり へいうえもん ちよう」	875	474	初 宗無町
				明治八 [文書50] 府	明治八『末吉橋通四丁目 改正拝借 浜地帖』			

ホクハン - ミイケト

浜納屋地 坪帳	町名		組	現町名	所蔵データ							
	町名よみ	町名漢字			元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	ぼくはんまち	ト半町	南	中央区島之内一丁目								
	どうとんぼり	ほていまち	南	中央区西心齋橋二丁目、心齋橋筋二丁目、宗右衛門町	明暦元 [] 博							
	道頓堀	布袋町										
	ほんまち	本町一丁目	南	中央区本町一丁目	元禄七 (E-6-221) ※のみ商							
	ほんまち	本町三丁目	南	中央区本町二・三丁目								
	ほんまち	本町四丁目	南	中央区本町三・四丁目								
	ほんまち	本町五丁目	南	中央区本町四丁目								
	ますやまち	升屋町	北	中央区備後町三丁目、安土町三丁目						[E-6-222] (E-6-223) ※商		[E-6-224] 商

ませんばまち (読み不明)
馬責場町 明暦元、寛文二、延宝七 水帳・絵図は「博労町」(ばくろうまち)を見よ 馬責場町は17世紀旧町名

	まつえちよう	松江町	南	中央区南新町二丁目、徳井町二丁目								
	まつおちよう	松尾町	北	中央区糸屋町一丁目								
	まつばらちよう	松原町	南	中央区西心齋橋一丁目								
	まつやまちうらまち	松屋町裏町	南	中央区松屋町								
	まつやまちおもてちよう	松屋町表町	南	中央区松屋町								
	まつやまちよう	松山町	南	中央区内久宝寺町四丁目、粉川町								
	まめのはちよう	大豆葉町	北	中央区高麗橋四丁目								
	たまつくり	まるはちよう	北	中央区森ノ宮中央一丁目								
	玉造丸葉町											
	まんねんちよう	万年町	南	中央区谷町六丁目								
	みいけどおり	御池通二丁目	天満	西区北堀江一丁目								
	みいけどおり	御池通三丁目	天満	西区北堀江一・二丁目								
	みいけどおり	御池通五丁目	天満	西区北堀江三・四丁目	宝永三 [345/130-ミイ/176] 市					[345/130- ミイ/177] ※市		[345/130- ミイ/178] ※市
	みいけどおり	御池通六丁目	天満	西区北堀江四丁目	宝永三 [345/130-ミイ/182] 市					[345/130- ミイ/183] ※市	[345/130- ミイ/184] ※市	[345/130- ミイ/185] ※市

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
			(E-6-216) ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵 平凡社よみ「ぼくはんちよう」	1097	478	
	[E-6-217] (E-6-218) ※ 商		[E-6-219] (E-6-220) ※ 商		明暦元『道頓堀裏町水帳』	819	483	初 道頓堀裏御前町 南畳屋町(延宝七水帳 奥書写)
			[345/140- トウ/111] ※ 市					
			[文書86] ※ 府			1110	452	
			[345/120- ホン/172] 市			1110	453	
			[87] 阪			1110	453	
			[345/120- ホン/173] 市			1110	453	
[E-6-225] (E-6-226) ※ 商	[E-6-227] (E-6-228) ※ 商	[E-6-229] (E-6-230) ※ 商			角川よみ「ますやちよう」 平凡社「枳屋町」	1118	451	初 北青屋町
		[文政] (E-6-291, 294, 296) ※のみ 商			作成年不明も大阪商業大学目録に [文政]とあり 竈図、同[E-6- 297]絵図 作成年不明			

			[345/120- マツ/174] 市			1120	417	初 伏見納屋町	
			[88] 阪		角川よみ「まつおまち」	1121	415	初 糸屋町、上糸屋町	
			(E-6-231) ※のみ 商			1127	484		
			(E-6-233) ※のみ 商			1128	496	明 松屋町南裏町 松屋町裏町(元禄七水帳 奥書写)	
			(E-6-232) ※のみ 商		角川、大阪商業大学目録の表記 「松屋町表丁」	1128	496	初 松屋町	
				明治二 [文書102] 府	明治二『東大組式拾番組家数役数 人数増減帳』	1129	427	初 西聚楽町 替 松屋町北裏町	
			[58] (59) ※ 阪			1130	442		
			[345/120- マメ/175] 市						
			[89] 阪			1130	431	替 玉造南新町	
			(E-6-234) ※のみ 商			1131	495	明 南折屋町	
			[文書111] 府			1132	529		
			[文書111] 府			1132	529		
[345/130- ミイ/179] ※ 市	[345/130- ミイ/180] ※ 市	[345/130- ミイ/181] ※ 市		明治二 [コハ/33/35] 市	明治三 [コハ/33/34] 市	明治二・三『沽券状帖』	1132	530	
[345/130- ミイ/186] ※ 市	[345/130- ミイ/188] ※ 市						1132	530	
	[345/130- ミイ/187] 市								

ミツテラ - ミナミキ

浜納屋地 坪帳	町名		組	現町名	所蔵データ							
	町名よみ				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	町名漢字				承応四 [三津家45] 府	延宝八 [文書87] 府	元禄七 [文書87] 府					
	みつでらちよう		南	中央区心齋橋筋二丁目、西心齋橋二丁目			元禄七 [文書87] 府					[文書88] 府
	三津寺町											[文書88] 府
	みどうまえちよう		北	中央区備後町三丁目								(三津家47) ※のみ 府
	御堂前町											
	みどうまえちよう		南	浪速区湊町一丁目	明暦元							
	御堂前町				大大阪							
○	みどうまえちよう		南	浪速区湊町一丁目								
	道頓堀湊町											

みなみえどぼり
南江戸堀一丁目 明治四 浜納屋地坪数帳は「江戸堀一丁目」(えどぼり一ちょうめ)を見よ 南江戸堀一丁目は明治以降の町名

	みなみかさやまち		南	中央区東心齋橋一・二丁目								
	南笠屋町											
	みなみかわやまち		北	中央区糸屋町一・二丁目								
	南革屋町											
	みなみかわらやまち		南	中央区松屋町、瓦屋町一・二・三丁目	元禄八 [345/140- ミナ/197] 市		享保年中 (345/140- ミナ/206) ※のみ 市	[345/140- ミナ/198] 市	[345/140- ミナ/200] (同/209) ※ 市			[345/140- ミナ/201] (同/210) ※ 市
	南瓦屋町					(345/140- ミナ/212) ※のみ 市	享保年中 [345/140- ミナ/199] 市					
○	みなみかわらやまち		南	中央区松屋町、瓦屋町一・二・三丁目					宝暦七 [345/140- ミナ/192] 市			
	南瓦屋町								宝暦八 [345/140- ミナ/193] 市			
	みなみかわらやまち		南	中央区瓦屋町一丁目、松屋町								
	南瓦屋町一丁目											
	みなみかわらやまち		南	中央区瓦屋町一・二丁目								
	南瓦屋町二丁目											
	みなみかわらやまち		南	中央区瓦屋町二丁目								
	南瓦屋町三丁目											
	みなみかわらやまち		南	中央区瓦屋町二・三丁目								
	南瓦屋町四丁目											
	みなみかわらやまち		南	中央区瓦屋町三丁目、高津一・二丁目								
	南瓦屋町五丁目											
	みなみかんしろうまち		南	中央区南船場三・四丁目								
	南勘四郎町											
	みなみきゆうたろうまち		南	中央区久太郎町一丁目								
	南久太郎町二丁目											
	みなみきゆうたろうまち		南	中央区久太郎町二丁目								
	南久太郎町三丁目											
	みなみきゆうたろうまち		南	中央区久太郎町二・三丁目								
	南久太郎町四丁目											

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
	[文書87] 府	[文書87] 府	(E-6-235) ※のみ 商	明治 [文書92] 府	明治『南大組第八区三津寺町沽券記』作成年不明	1147	485		
	[文書87] ※府	[文書87] ※府	[三津家49] 府						
		(三津家48) ※のみ 府	嘉永元 [文書89] 府						
			[345/120- ミト/189] 市			1151	451	初	北青屋町
	[E-6-236] 商		[345/140- トウ/113] ※市		『大大阪』第3巻6号「道頓堀を中心としての町名について 附 明暦元年北南道頓堀水帳の発見」に南側木津組として翻刻掲載	1156	697	初 初	道頓堀木津組町 樋屋敷町
			(E-6-237) ※のみ 商						
			[345/140- トウ/112] 市		安政三 大阪商業大学商業史博物館所蔵 『道頓堀湊町・道頓堀九郎右衛門町続建家場絵図』は難波御藏入堀沿いの浜納屋の絵図				
			(E-6-238) ※のみ 商						

			[文書93] 府		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1161	482	明 初	南新笠屋町 道頓堀笠屋町
			(E-6-239) ※のみ 商						
			[345/120- ミナ/190] 市			1163	415	初	上鍛冶屋町
[345/140- ミナ/202] (同/207) ※市	[345/140- ミナ/203] (同/208) ※市	[345/140- ミナ/204] (同/211) ※市	[345/140- ミナ/205] (同/213) ※市		南瓦屋町の一丁目から五丁目を収めるが、享保年中(同/206)は1-4丁目、(同/212)は2.4.5丁目、寛政十(同/207)は1-4丁目、文化十二(同/208)は1-4丁目を収録、(同/214)水帳絵図断簡あり	1163	496	初 初	瓦町 瓦町裏町
	[345/140- ミナ/194] 市	[345/140- ミナ/195] 市	[345/140- ミナ/196] 市						
			(E-6-240) ※のみ 商			1163	496		
			(E-6-241) ※のみ 商			1163	496		
			(E-6-242) ※のみ 商			1163	496		
			(E-6-243) ※のみ 商			1163	496		
	(345/140- ミナ/191) ※のみ 市		(E-6-244) ※のみ 商			1163	496		
			(E-6-245) ※のみ 商			1163	471	替 初	勘四郎町 山伏町
			[90] 阪			1163	456		
			[345/120- ミナ/215] 市			1163	457		
		(文書95) ※のみ 府	[] 天			1163	457		

ミナミキ - ミナミワ

浜納 屋地 坪帳	町 名 町 名 よ み 町 名 漢 字	組	現町名	所 蔵 デ ー タ							
				元和～正徳			享保十一	宝暦三	明和四	安永七	
	みなみきゆうたろうまち 南久太郎町五丁目	南	中央区久太郎町三丁目								
	みなみきゆうたろうまち 南久太郎町六丁目	南	中央区久太郎町三丁目								
	みなみきゆうほうじまち 南久宝寺町一丁目	南	中央区南久宝寺町一丁目								
	みなみきゆうほうじまち 南久宝寺町二丁目	南	中央区南久宝寺町一丁目								
	みなみきゆうほうじまち 南久宝寺町三丁目	南	中央区南久宝寺町二丁目								
	みなみきゆうほうじまち 南久宝寺町四丁目	南	中央区南久宝寺町二・三丁目								
	みなみこめやまち 南米屋町	南	中央区島之内一丁目、東心齋橋一丁目								
	みなみこんやまち 南紺屋町	南	中央区東心齋橋一丁目、心齋橋筋一丁目					[文書247] 府			
	みなみしんまち 南新町一丁目	南	中央区南新町一丁目								
	みなみしんまち 南新町三丁目	南	中央区南新町二丁目								
	みなみたけやまち 南竹屋町	南	中央区島之内二丁目								
	みなみたたみやまち 南畳屋町	南	中央区東心齋橋二丁目、心齋橋筋二丁目								
	みなみたにまち 南谷町	南	中央区谷町五丁目								
	みなみといやまち 南問屋町	南	中央区島之内二丁目								
	みなみとんだまち 南富田町	天満	北区西天満三丁目					[文書112] 府		[文書112] 府	
	みなみなべやまち 南鍋屋町	北	中央区瓦町二・三丁目								
	みなみぬしやまち 南塗師屋町	南	中央区東心齋橋二丁目、宗右衛門町	明暦元 [] 博							
	みなみのうにんまち 南農人町一丁目	南	中央区農人橋二丁目								
	みなみのうにんまち 南農人町二丁目	南	中央区農人橋一丁目								
	みなみほりえ 南堀江二丁目	南	西区南堀江一・二丁目							明和二 [文書97] ※ 府	
	みなみほりえ 南堀江四丁目	南	西区南堀江三丁目					[三津家46] 府			
	みなみほんまち 南本町四丁目	南	中央区南本町三丁目								
	みなみもめんまち 南毛綿町	南	中央区心齋橋筋二丁目、西心齋橋二丁目								
	みなみわたなべちよう 南渡辺町	北	中央区本町四丁目、南本町四丁目、船場中央四丁目、久太郎町四丁目								

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名	
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社		
			[345/120-ミナ/216]市			1163	457	初	拾三軒町
			[甲和607]府			1163	457	初初	南久太郎町五丁目下半町 拾三軒町
			[345/120-ミナ/217]市						
			[345/120-ミナ/218]市			1164	461		
		[文書228]※府	[345/120-ミナ/219]市			1164	461		
			[345/120-ミナ/220]市			1164	461		
			[345/120-ミナ/221]市			1164	461		
	文政四(E-6-247)※のみ商	(木挽町21)※のみ府	(E-6-248)※のみ商	嘉永六(E-6-246)※のみ商	嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵 文政四、嘉永六 竈図	1166	476	初	九之助町四丁目
			(E-6-249)※のみ商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1166	477	初	紺屋町五丁目
			[] 阪			1168	416		御小人町(難波鶴)
			[] 阪			1168	417		御小人町(難波鶴)
			(E-6-250)※のみ商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1170	478	初	郡戸町
			(E-6-251)※のみ商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1170	483	初	道頓堀畳屋町
			[91] 阪			1171	426		
			(E-6-252)※のみ商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1172	478		
[文書113]府	[文書113]府	[文書113]府				1173	557		
			[] 阪			1174	450		
			(E-6-253)※のみ商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵 明暦元『道頓堀裏町水帳』	1174	481	明	道頓堀塗師屋町
	[E-6-254](E-6-255)※商	[文書96]府	[345/120-ミナ/297]※市			1175	423	初	南農人町
			[345/120-ミナ/298]市			1175	423	初	南農人町
						1178	531		
						1178	532		
			[92] 阪			1178	454		
			(E-6-256)※のみ商			1180	485	初	毛綿町
			[345/120-ミナ/299]市			1181	460	初	北渡辺町四・五・六丁目

ミヤカワ - ヨシノヤ

浜納屋地 坪帳	町名 よみ 漢字	組	現町名	所蔵データ						
				元和～正徳	享保十一	宝暦三	明和四	安永七		
	みやがわちよう 宮川町	北	西区北堀江四丁目							
	みやざきちよう 宮崎町	南	中央区谷町七丁目							
	めんたいちよう 綿袋町	南	中央区東心齋橋一・二丁目							
	ながほり もざえもんちよう 長堀茂左衛門町	南	中央区島之内一丁目、 東心齋橋一丁目	明暦二 [345/140-ナカ/146] 市						
	もとあいおいちよう 本相生町	北	中央区難波一・二丁目							
	もとうつぼちよう 本朝町	北	中央区伏見町一丁目	寛文二 [] 博						
	もときょうばしちよう 本京橋町	北	中央区難波一・二丁目							
	もとさかいちよう 本堺町	北	中央区難波一・二丁目							
	もてんまちよう 本天満町	北	中央区伏見町二丁目							
	もとふしみさかまち 元伏見坂町	北	中央区千日前一丁目							

もんぜんまち
門前町は「稲荷門前町」(いなりもんぜんまち)を見よ

	たまつくり やおまち 玉造八尾町	北	中央区森ノ宮中央一丁目							
	やなぎまち 柳町	南	中央区心齋橋筋一丁目、 西心齋橋一丁目							
	やまかやちよう 山家屋町	南	中央区上町一丁目							
	やまざきちよう 山崎町	南	中央区東心齋橋一丁目							
	どうとんぼり やまとちよう 道頓堀大和町	南	中央区島之内二丁目							
○	どうとんぼり やまとちよう 道頓堀大和町	南	中央区島之内二丁目							
	たまつくり やまとばしちよう 玉造大和橋町	南	中央区森ノ宮中央一丁目、 玉造一丁目							
	やりやまち 鑓屋町	南	中央区鑓屋町一丁目							
	ゆうこまち 友古町	天満	北区天満橋二丁目、同 心二丁目					[] () ※ 博	[] () ※ 博	[] () ※ 博

よこぼり
横堀からはじまる地名は 横堀七丁目を除き、横堀をはずした地名で配列 例) 横堀炭屋町 ⇒ 炭屋町

よこぼり七ちようめ
横堀七丁目 明治八 『改正拜借浜地帖』は「五幸町」(ごこうまち)を見よ 横堀七丁目は明治以降の町名

	よざえもんちよう 与左衛門町	北	中央区糸屋町二丁目							
	よこぼり よしのやまち 横堀吉野屋町	南	西区北堀江一丁目、南 堀江一丁目							

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社	
	() ※のみ 博					1186	531	初 東伊勢町
			(E-6-257) ※のみ 商			1190	495	明 堀之外戎町
			[E-6-258] ※のみ 商		嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1201	482	明 西清水町
			(E-6-259) ※のみ 商		明暦二『長堀惣水帳』のうち南輪一丁目～五丁目	875	472	初 誉田屋町、宗円町
			(E-6-260) ※のみ 商		角川「元相生町」	1203	500	
			[345/130-モト/171]市			1204	442	初 伏見町筋鞠町
			(E-6-261) ※のみ 商		角川「元京橋町」	1204	500	
			(E-6-262) ※のみ 商		角川「元堺町」	1204	500	
			[93] 阪			1204	443	初 天満町
			(E-6-263) ※のみ 商	明治七 [E-6-282] 商	明治七 [E-6-285] 商 明治七水帳『南大組第十四区西坂町水帳』、『[東阪町地所持主人名録]』	1205	499	

			[94] [95] ※ 阪		角川よみ「やおちょう」	1215	431	替 玉造南新町
			(E-6-264) ※のみ 商			1222	484	
			(E-6-265) ※のみ 商			1225	429	
			(E-6-266) ※のみ 商		角川よみ「やまさきちょう」 嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1228	477	明 初 南紺屋町 紺屋町五丁目
[文書99] ※ 府		[文書99] 府	(E-6-267) ※のみ 商			1237	487	
	[文書100] 府					1237	487	
			[96] 阪			1237	432	
			[97] 阪			1243	420	初 伏見鑓屋町
[] () ※ 博	[] 博	[] 博				1243	552	

			[345/120-ヨサ/300]市		角川よみ「よざえもんまち」	1251	414	初 初 初 極印鍛冶町 新与左衛門町 大工与左衛門町
		[文書101] 府	[文書101] 府		角川「吉野屋町」 嘉永二『坪数高年番定帳』大阪市立中央図書館蔵	1254	528	初 横堀呉服町

リュウケ - リュウハ

浜納 屋地 坪帳	町 名		組	現町名	所 蔵 デ ー タ							
	町 名	よ み			元和～正徳				享保十一	宝暦三	明和四	安永七
	町 名	漢 字			明暦元							
	どうとんぼり	りゅうけいまち	南	中央区道頓堀一丁目、 日本橋一丁目	大 大 阪							
	道 頓 堀	立 慶 町										
○	どうとんぼり	りゅうけいまち	南	中央区道頓堀一丁目、 日本橋一丁目								
	道 頓 堀	立 慶 町										
	りゅうぞうじちよう		南	中央区龍造寺町								
	龍 蔵 寺 町											
	りゅうはんちよう		南	中央区谷町七丁目								
	立 半 町											

所 蔵 デ ー タ					備考	参考資料掲載頁		17世紀旧町名				
寛政十	文化十二	文政八	安政三	明治		角川	平凡社					
	[E-6-268] (E-6-269) ※ 商		[E-6-270] (E-6-271) ※ 商	明治七 [E-6-286] 商	『大大阪』第3巻6号「道頓堀を中心としての町名について 附 明暦元年北南道頓堀水帳の発見」に翻刻掲載 明治七水帳『[東櫓町地所持主人名録]』	819	489	明	南側立慶町			
			[345/140- トウ/115] ※ 市									
			[345/140- トウ/114] 市						819	489		
			[345/120- リュ/301] 市						1264	426		
		(E-6-272) ※のみ 商	(E-6-273) ※のみ 商						1264	495		

大坂水帳所在目録 現町名索引

現町名から大坂水帳所在目録に掲載されている近世町名を引く索引。現町域の一部分のみ現存の場合もある。

【中央区】

現 町 名	近 世 町 名
あ づ ち ま ち 安 土 町 二 丁 目	あ づ ち ま ち 安 土 町 三 丁 目
あ づ ち ま ち 安 土 町 三 丁 目	あ づ ち ま ち 安 土 町 三 丁 目 じょうかくまち 浄 覚 町 ますやまち 升 屋 町
あ わ じ ま ち 淡 路 町 二 丁 目	あ わ じ ま ち 淡 路 町 二 丁 目 きたなべやまち 北 鍋 屋 町
あ わ じ ま ち 淡 路 町 三 丁 目	あ わ じ ま ち ぎ れ ち ょ う 淡 路 町 切 町 きたなべやまち 北 鍋 屋 町
あ わ じ ま ち 淡 路 町 四 丁 目	し ち ろ う う え も ん ち ょ う 七 郎 右 衛 門 町 二 丁 目 つむらきたのちょう 津 村 北 之 町 なかせんばまち 中 船 場 町 は ま ち ょ う 浜 町
あ ん だ う じ ち ょ う 安 堂 寺 町 一 丁 目	う え ほ ん ま ち 上 本 町 三 丁 目 う え ほ ん ま ち 上 本 町 四 丁 目 北 半 さ か た ち ょ う 坂 田 町 さ く ら ま ち 桜 町
あ ん だ う じ ち ょ う 安 堂 寺 町 二 丁 目	う ち あ ん だ う じ ま ち 内 安 堂 寺 町 お わ り さ か ま ち 尾 張 坂 町 は り ま ち ょ う 播 磨 町
い ず み ま ち 和 泉 町 一 丁 目	え ど ま ち 江 戸 町 ふ じ の も り ち ょ う 藤 森 町
い ず み ま ち 和 泉 町 二 丁 目	い ず み ま ち 和 泉 町
い と や ま ち 糸 屋 町 一 丁 目	ま つ お ち ょ う 松 尾 町 み な み か わ や ま ち 南 革 屋 町
い と や ま ち 糸 屋 町 二 丁 目	う ち ほ ね や ま ち 内 骨 屋 町 み な み か わ や ま ち 南 革 屋 町
(右上に続く)	

現 町 名	近 世 町 名
い と や ま ち 糸 屋 町 二 丁 目	よ ぎ え も ん ち ょ う 与 左 衛 門 町
い ま ば し 今 橋 一 丁 目	い ま ば し 今 橋 一 丁 目
い ま ば し 今 橋 二 丁 目	い ま ば し 今 橋 二 丁 目
い ま ば し 今 橋 三 丁 目	あ ま が さ き ち ょ う 尼 崎 町 一 丁 目
い ま ば し 今 橋 四 丁 目	あ ま が さ き ち ょ う 尼 崎 町 二 丁 目 し ち ろ う う え も ん ち ょ う 七 郎 右 衛 門 町 一 丁 目
う え ま ち 上 町 一 丁 目	う え ほ ん ま ち 上 本 町 三 丁 目 う え さ か い ま ち 上 塚 町 か み し み ず ま ち 玉 造 上 清 水 町 き の く に ま ち 玉 造 紀 伊 国 町 し ゆ も く ま ち 玉 造 撞 木 町 に え も ん ち ょ う 玉 造 仁 右 衛 門 町 ひ し や ち ょ う 玉 造 菱 屋 町 や ま か や ち ょ う 山 家 屋 町
う え ほ ん ま ち に し 上 本 町 西 一 丁 目	う え ほ ん ま ち 上 本 町 四 丁 目 北 半
う え ほ ん ま ち に し 上 本 町 西 二 丁 目	う え ほ ん ま ち 上 本 町 四 丁 目 南 半
う え ほ ん ま ち に し 上 本 町 西 三 丁 目	ふ だ の つ じ ち ょ う 札 之 辻 町
う ち あ わ じ ま ち 内 淡 路 町 一 丁 目	う ち あ わ じ ま ち 内 淡 路 町 三 丁 目
う ち あ わ じ ま ち 内 淡 路 町 二 丁 目	う ち あ わ じ ま ち 内 淡 路 町 一 丁 目 う ち あ わ じ ま ち 内 淡 路 町 二 丁 目
う ち あ わ じ ま ち 内 淡 路 町 三 丁 目	う ち あ わ じ ま ち 内 淡 路 町 一 丁 目 う ち ひ ら の ま ち 内 平 野 町
う ち き ゆ う ほう じ ま ち 内 久 宝 寺 町 二 丁 目	す ず き ま ち 鈴 木 町
う ち き ゆ う ほう じ ま ち 内 久 宝 寺 町 三 丁 目	お う て ま ち 追 手 町
う ち き ゆ う ほう じ ま ち 内 久 宝 寺 町 四 丁 目	ま つ や ま ち ょ う 松 山 町
う ち ほ ん ま ち 内 本 町 二 丁 目	う ち ほ ん ま ち 内 本 町 二 丁 目

現 町 名 町 名 漢 字	→	近 世 町 名
		町 名 漢 字
う うちほんまち 内本町二丁目	→	うちほんまちろうざえもんちよう 内本町太郎左衛門町
う うちひらのまち 内平野町一丁目	→	おおさわちよう 大 沢 町
う うちひらのまち 内平野町二丁目	→	うちひらのまち 内平野町二丁目 おおさわちよう 大 沢 町
う うちひらのまち 内平野町三丁目	→	うちひらのまち 内平野町二丁目 うちひらのまち 内 平 野 町
う うちほんまち 内本町一丁目	→	うちほんまち 内 本 町 上 三 丁
お おおてどおり 大手通一丁目	→	にしきまち 錦 町 一 丁 目 にしきまち 錦 町 二 丁 目
お おおてどおり 大手通二丁目	→	おりやまち 折 屋 町
お おおてどおり 大手通三丁目	→	うちひらのまち 内 平 野 町 ぶんごまち 豊 後 町
お おおてまえ 大手前一丁目	→	きょうばし 京 橋 二 丁 目
お おおてまえ 大手前四丁目	→	うえほんまち 上 本 町 一 丁 目
か かわらまち 瓦 町 一 丁 目	→	かわらまち 瓦 町 二 丁 目
か かわらまち 瓦 町 二 丁 目	→	かわらまち 瓦 町 二 丁 目 ひゃっかんちよう 百 貫 町 みなみなべやまち 南 鍋 屋 町
か かわらまち 瓦 町 三 丁 目	→	さぶろうえもんちよう 三 郎 右 衛 門 町 つむらひがしのちよう 津 村 東 之 町 みなみなべやまち 南 鍋 屋 町
か かわらまち 瓦 町 四 丁 目	→	つむらなかのちよう 津 村 中 之 町 つむらにしのちよう 津 村 西 之 町 はまちよう 浜 町
か かわらやまち 瓦屋町一丁目	→	みなみかわらやまち 南 瓦 屋 町 一 丁 目
か かわらやまち 瓦屋町二丁目	→	みなみかわらやまち 南 瓦 屋 町 一 丁 目 みなみかわらやまち 南 瓦 屋 町 二 丁 目 みなみかわらやまち 南 瓦 屋 町 三 丁 目

現 町 名 町 名 漢 字	→	近 世 町 名
		町 名 漢 字
か かわらやまち 瓦屋町二丁目	→	みなみかわらやまち 南 瓦 屋 町 四 丁 目
か かわらやまち 瓦屋町三丁目	→	みなみかわらやまち 南 瓦 屋 町 四 丁 目 みなみかわらやまち 南 瓦 屋 町 五 丁 目
か かんざきちよう 神 崎 町	→	かんざきちよう 神 崎 町 するがまち 駿 河 町
き きたきゅうほうじまち 北久宝寺町一丁目	→	きたきゅうほうじまち 北 久 宝 寺 町 一 丁 目 きたきゅうほうじまち 北 久 宝 寺 町 二 丁 目
き きたきゅうほうじまち 北久宝寺町二丁目	→	きたきゅうほうじまち 北 久 宝 寺 町 三 丁 目 きたきゅうほうじまち 北 久 宝 寺 町 四 丁 目
き きたきゅうほうじまち 北久宝寺町三丁目	→	かみなんばちよう 上 難 波 町 きたきゅうほうじまち 北 久 宝 寺 町 四 丁 目 きたきゅうほうじまち 北 久 宝 寺 町 五 丁 目 げんざえもんちよう 源 左 衛 門 町 でんまちよう 伝 馬 町
き きたきゅうほうじまち 北久宝寺町四丁目	→	にしささまち 西 笹 町
き きたしんまち 北新町一丁目	→	きたしんまち 北 新 町 一 丁 目 きたしんまち 北 新 町 二 丁 目
き きたしんまち 北新町二丁目	→	きたしんまち 北 新 町 三 丁 目
き きたはま 北 浜 一 丁 目	→	きたはま 北 浜 一 丁 目 ひがしよこほりがわか みのくちしんつきじ 東横堀川上之口新築地
き きたはま 北 浜 二 丁 目	→	きたはま 北 浜 二 丁 目
き きたはま 北 浜 三 丁 目	→	かじきまち 梶 木 町 かしょまち 過 書 町
き きたはま 北 浜 四 丁 目	→	おおかわちよう 大 川 町 かじきまち 梶 木 町 しちろうえもんちよう 七 郎 右 衛 門 町 一 丁 目
き きたはまひがし 北 浜 東	→	きょうばし 京 橋 四 丁 目

現 町 名 町 名 漢 字	→	近 世 町 名
		町 名 漢 字
きたはまひがし 北 浜 東	→	き よ う ば し 京 橋 五 丁 目
きゅうたろうまち 久太郎町一丁目	→	か ら も の ま ち 唐 物 町 一 丁 目
		か ら も の ま ち 唐 物 町 二 丁 目 上 半
		き た き ゆ う た ろ う ま ち 北 久 太 郎 町 一 丁 目
		き た き ゆ う た ろ う ま ち 北 久 太 郎 町 二 丁 目
きゅうたろうまち 久太郎町二丁目	→	み な み き ゆ う た ろ う ま ち 南 久 太 郎 町 二 丁 目
		か ら も の ま ち 唐 物 町 二 丁 目 下 半
		か ら も の ま ち 唐 物 町 三 丁 目 上 半
		か ら も の ま ち 唐 物 町 三 丁 目 下 半
		き た き ゆ う た ろ う ま ち 北 久 太 郎 町 三 丁 目
		き た き ゆ う た ろ う ま ち 北 久 太 郎 町 四 丁 目
		み な み き ゆ う た ろ う ま ち 南 久 太 郎 町 三 丁 目
		み な み き ゆ う た ろ う ま ち 南 久 太 郎 町 四 丁 目
きゅうたろうまち 久太郎町三丁目	→	か ら も の ま ち 唐 物 町 四 丁 目
		き た き ゆ う た ろ う ま ち 北 久 太 郎 町 四 丁 目
		み な み き ゆ う た ろ う ま ち 南 久 太 郎 町 四 丁 目
		み な み き ゆ う た ろ う ま ち 南 久 太 郎 町 五 丁 目
きゅうたろうまち 久太郎町四丁目	→	み な み き ゆ う た ろ う ま ち 南 久 太 郎 町 六 丁 目
		さ わ ら ぎ ち ょ う 榎 木 町
こ 高 津 一 丁 目	→	み な み わ た な べ ち ょ う 南 渡 辺 町
		に し こ う づ ま ち 西 高 津 町
		み な み か わ ら や ま ち 南 瓦 屋 町 五 丁 目
こ 高 津 二 丁 目	→	に し こ う づ ま ち 西 高 津 町
		み な み か わ ら や ま ち 南 瓦 屋 町 五 丁 目
こ 高 津 三 丁 目	→	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 五 丁 目
		に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 六 丁 目
		に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 七 丁 目
		に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 八 丁 目
		に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 九 丁 目

現 町 名 町 名 漢 字	→	近 世 町 名
		町 名 漢 字
こ 高 津 三 丁 目	→	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 九 丁 目
こ 高 麗 橋 一 丁 目	→	こ う ら い ば し 高 麗 橋 一 丁 目
		こ う ら い ば し 高 麗 橋 二 丁 目
こ 高 麗 橋 二 丁 目	→	こ う ら い ば し 高 麗 橋 二 丁 目
		こ う ら い ば し 高 麗 橋 三 丁 目
		こ う ら い ば し 高 麗 橋 三 丁 目
こ 高 麗 橋 三 丁 目	→	し け ん ま ち 四 軒 町
		し ょ う に ん ま ち 上 人 町
		し け ん ま ち 四 軒 町
こ 高 麗 橋 四 丁 目	→	し ち ろ う え も ん ち ょ う 七 郎 右 衛 門 町 一 丁 目
		し ち ろ う え も ん ち ょ う 七 郎 右 衛 門 町 二 丁 目
		ま め の は ち ょ う 大 豆 葉 町
		こ か わ ち ょ う 粉 川 町
こ 粉 川 町	→	じ ゆ ら く ま ち 聚 楽 町
		ま つ や ま ち ょ う 松 山 町
こ 石 町 一 丁 目	→	こ く ま ち 石 町 一 丁 目
		こ く ま ち 石 町 二 丁 目
さ ざ い も く ち ょ う 材 木 町	→	の う に ん ば し ざ い も く ち ょ う 農 人 橋 材 木 町
		し ま ま ち 島 町 一 丁 目
し 島 町 二 丁 目	→	し ま ま ち 島 町 二 丁 目
		あ ぶ ら ま ち 油 町 一 丁 目
し 島 之 内 一 丁 目	→	い し は い ま ち 石 灰 町
		う な ぎ だ に 鰻 谷 一 丁 目
		う な ぎ だ に 鰻 谷 二 丁 目
		か じ や ま ち 鍛 冶 屋 町 一 丁 目
		く の す け ち ょ う 九 之 助 町 一 丁 目
		く の す け ち ょ う 九 之 助 町 二 丁 目
		こ に し ま ち 小 西 町
		せ き ま ち 関 町
		せ き ま ち 関 町
		せ き ま ち 関 町

現町名	近世町名
町名よみ字	町名よみ字
漢字	漢字
しまのう 島之内一丁目	どうにんまち 道仁町
	なかつちよう 中津町
	ぼくはんまち ト半町
	みなみこめやまち 南米屋町
	もざえもんちよう 長堀茂左衛門町
	あぶらまち 油町二丁目
しまのう 島之内二丁目	あぶらまち 油町三丁目
	かじやまち 鍛冶屋町二丁目
	こうづまち 高津町
	どうにんまち 道仁町
	みなみたけやまち 南竹屋町
	みなみといやまち 南問屋町
	やまとちよう 道頓堀大和町
	いわたまち 岩田町
しんさいばしすじ 心齋橋筋一丁目	こびきちょうなかのちよう 木挽町中之丁
	しんさいちよう 長堀心齋町
	すおうまち 周防町
	たかまちよう 高間町
	ながほり 長堀拾丁目
	みなみこんやまち 南紺屋町
	やなぎまち 柳
	きくやまち 菊屋町
しんさいばしすじ 心齋橋筋二丁目	こびきちょうみなみのちよう 木挽町南之丁
	すおうまち 周防町
	そうえもんちよう 道頓堀宗右衛門町
	ほていまち 道頓堀布袋町
	みつでらちよう 三津寺町
	みなみたたみやまち 南畳屋町

現町名	近世町名	
町名よみ字	町名よみ字	
漢字	漢字	
し せ	しんさいばしすじ 心齋橋筋二丁目	みなみもめんまち 南毛綿町
	せんにちまえ 千日前一丁目	なんばしんち 難波新地一丁目
		なんばしんち 難波新地二丁目
	せんばちゆうおう 船場中央一丁目	もとふしみさかまち 元伏見坂町
		からものまち 唐物町一丁目
	せんばちゆうおう 船場中央二丁目	からものまち 唐物町二丁目上半
からものまち 唐物町二丁目下半		
からものまち 唐物町三丁目上半		
せんばちゆうおう 船場中央三丁目	からものまち 唐物町三丁目下半	
	からものまち 唐物町四丁目	
せんばちゆうおう 船場中央四丁目	さわらぎちよう 椀木町	
	みなみわたなべちよう 南渡辺町	
そ	そうえもんちよう 宗右衛門町	あぶらまち 油町三丁目
		おまえまち 道頓堀御前町
		さかべちよう 酒辺町
		そうえもんちよう 道頓堀宗右衛門町
		ほていまち 道頓堀布袋町
		みなみぬしやまち 南塗師屋町
た	たにまち 谷町一丁目	たにまち 谷町二丁目
		たにまち 谷町三丁目
	たにまち 谷町二丁目	うちほんまち 内本町上三丁
		すずやまち 錫屋町
	たにまち 谷町三丁目	たにまち 谷町三丁目
		きたたにまち 北谷町
たにまち 谷町四丁目	みなみたにまち 南谷町	
たにまち 谷町五丁目	いこまちよう 生駒町	
たにまち 谷町六丁目		

現町名	近世町名
町名よみ漢字	町名よみ漢字
た たにまち 谷町六丁目	たまきちょう 玉木町 まんねんちょう 万年町
たにまち 谷町七丁目	いこまちょう 生駒町 かしはらちょう 柏原町 たしまちょう 田島町 みやざきちょう 宮崎町 りゅうはんちょう 立半町
たまつくり 玉造一丁目	いなりしんまち 稲荷新町 いなりなかのちょう 稲荷中之町 しもしみずまち 玉造下清水町 ひらのぐちちょう 玉造平野口町 ふしみさかまち 伏見坂町 やまとばしちょう 玉造大和橋町
たまつくり 玉造二丁目	いなりしんまち 稲荷新町 いなりなかのちょう 稲荷中之町 いなりもんぜんまち 稲荷門前町 おかやまちょう 玉造岡山町 かせやまち 玉造栲屋町 かやのきちょう 玉造栲木町 にえもんちょう 玉造仁右衛門町 ねぎまち 禰宜町 はんにゅうまち 玉造半入町 ひしやちょう 玉造菱屋町
つ つりがねちょう 釣鐘町一丁目	つりがねちょう 釣鐘町 つりがねかみのちょう 釣鐘上之町
つりがねちょう 釣鐘町二丁目	おうみちょう 近江町 つりがねちょう 釣鐘町
て てんまばしきょうまち 天満橋京町	きょうばし 京橋三丁目

現町名	近世町名
町名よみ漢字	町名よみ漢字
と どうとんぼり 道頓堀一丁目	きちざえもんちょう 道頓堀吉左衛門町 くろうえもんちょう 道頓堀九郎右衛門町 こうづごうえもんちょう 高津五右衛門町 りゅうけいまち 道頓堀立慶町
どうとんぼり 道頓堀二丁目	くろうえもんちょう 道頓堀九郎右衛門町
ときわまち 常磐町一丁目	ときわまち 常磐町一丁目 ときわまち 常磐町二丁目
ときわまち 常磐町二丁目	ときわまち 常磐町三丁目 ときわまち 常磐町四丁目
とくいちょう 徳井町一丁目	とくいちょう 徳井町
とくいちょう 徳井町二丁目	うちほねやまち 内骨屋町 おおつまち 大津町 まつえちょう 松江町
どしょうまち 道修町一丁目	どしょうまち 道修町一丁目 どしょうまち 道修町二丁目
どしょうまち 道修町二丁目	どしょうまち 道修町三丁目
どしょうまち 道修町三丁目	どしょうまち 道修町三丁目 どしょうまち 道修町四丁目
どしょうまち 道修町四丁目	しちろうえもんちょう 七郎右衛門町二丁目 どしょうまち 道修町五丁目 ふるてまち 古手町
な 難波一丁目	もとあいおいちょう 本相生町 もときょうばしちょう 本京橋町 もとさかいちょう 本堺町
な 難波二丁目	もとあいおいちょう 本相生町 もときょうばしちょう 本京橋町 もとさかいちょう 本堺町
な 難波三丁目	なんばしんち 難波新地二丁目

現町名	近世町名
町名よみ字	町名よみ字
漢字	漢字
な 難波四丁目	な 難波新地三丁目
に ししんさいばし 西心斎橋一丁目	お の え ち よ う 尾 上 町
	か ざ り や ま ち 錆 屋 町
	す お う ま ち 周 防 町
	す み や ま ち 横 堀 炭 屋 町
	そ う え も ん ち よ う 道 頓 堀 宗 右 衛 門 町
	た い ほう じ ま ち 大 宝 寺 町
	な が ほ り 長 堀 拾 丁 目
	へ い え も ん ち よ う 長 堀 平 右 衛 門 町
	ま つ ば ら ち よ う 松 原 町
	や な ぎ ま ち 柳 町
	き ゅう ざ え も ん ち よ う 道 頓 堀 久 左 衛 門 町
	す お う ま ち 周 防 町
	す み や ま ち 横 堀 炭 屋 町
そ う え も ん ち よ う 道 頓 堀 宗 右 衛 門 町	
ほ て い ま ち 道 頓 堀 布 袋 町	
み つ で ら ち よ う 三 津 寺 町	
み な み も め ん ま ち 南 毛 綿 町	
に っ ぽ ん ば し 日本橋一丁目	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 一 丁 目
	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 二 丁 目
	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 三 丁 目
	に っ ぽ ん ば し 日 本 橋 一 丁 目
	に っ ぽ ん ば し 日 本 橋 二 丁 目
	に っ ぽ ん ば し 日 本 橋 三 丁 目
	り ゅう け い ま ち 道 頓 堀 立 慶 町
に っ ぽ ん ば し 日本橋二丁目	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 四 丁 目
	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 七 丁 目
	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 八 丁 目

現町名	近世町名
町名よみ字	町名よみ字
漢字	漢字
に っ ぽ ん ば し 日本橋二丁目	に し こ う づ し ん ち 西 高 津 新 地 九 丁 目
	に っ ぽ ん ば し 日 本 橋 四 丁 目
の う に ん ば し 農人橋一丁目	に っ ぽ ん ば し 日 本 橋 五 丁 目
	の う に ん ば し 農 人 橋 一 丁 目
の う に ん ば し 農人橋二丁目	の う に ん ば し 農 人 橋 一 丁 目
	ふ し み り よ う が え ま ち 伏 見 両 替 町 二 丁 目
	み な み の う に ん ま ち 南 農 人 町 二 丁 目
	の う に ん ば し 農 人 橋 二 丁 目
の う に ん ば し 農人橋三丁目	の う に ん ば し 農 人 橋 二 丁 目
	の う に ん は し づ め ち よ う 農 人 橋 詰 町
	ふ し み り よ う が え ま ち 伏 見 両 替 町 四 丁 目
	み な み の う に ん ま ち 南 農 人 町 一 丁 目
は ば く ろ う ま ち 博労町一丁目	の う に ん は し づ め ち よ う 農 人 橋 詰 町
	か な ざ わ ち よ う 金 沢 町
	か な た ち よ う 金 田 町
	い ば ら き ち よ う 茨 木 町
	か な た ち よ う 金 田 町
は ば く ろ う ま ち 博労町二丁目	か み な ん ば ち よ う 上 難 波 町
	ば く ろ う ま ち 博 労 町
は ば く ろ う ま ち 博労町三丁目	に し さ さ ま ち 西 笹 町
	う え ほ ん ま ち 上 本 町 一 丁 目
は ば く ろ う ま ち 博労町四丁目	う ち ひ ら の ま ち 内 平 野 町
	う ち り よ う が え ま ち 内 両 替 町
は ば ば ち よ う 馬場町	お う み ち よ う 近 江 町
	ふ な こ し ち よ う 船 越 町
ひ が し し ん さい ば し 東心斎橋一丁目	あ ぶ ら ま ち 油 町 一 丁 目
	い わ た ま ち 岩 田 町
	う な ぎ だ に 鰻 谷 二 丁 目
	じ ょ う ち ん ま ち 常 珍 町
ひ が し し ん さい ば し 東心斎橋一丁目	し ろ が ね ま ち 白 銀 町

現町名	町名	よ漢	み字	→	近世町名			
					町名	よ漢	み字	
ひがししんさいばし 東心齋橋一丁目					じろべえ	ちよう	う	長堀次郎兵衛町
					しんさい	ちよう	う	長堀心齋町
					たかま	ちよう	う	高間町
					たまや	ま	ち	玉屋町
					なかつ	ちよう	う	中津町
					みなみか	さ	や	みなみかさやまち
					みなみこ	め	や	みなみこめやまち
					みなみこ	ん	や	みなみこんやまち
					めんたい	ちよう	う	綿袋町
					もざえ	もん	ちよう	もざえもんちよう
					やまざ	き	ちよう	山崎町
					あぶら	ま	ち	油町二丁目
					あぶら	ま	ち	油町三丁目
					おまえ	ま	ち	道頓堀御前町
ひがししんさいばし 東心齋橋二丁目					さかべ	ちよう	う	酒辺町
					じょうち	ん	ま	常珍町
					たまや	ま	ち	玉屋町
					みなみか	さ	や	みなみかさやまち
					みなみ	た	た	みなみたたみやまち
					みなみ	ぬ	し	みなみぬしやまち
					めんたい	ちよう	う	綿袋町
					かめ	や	ま	かめやまち
					ひらの	ま	ち	亀山町
					ひらの	ま	ち	平野町一丁目
ひらのまち 平野町一丁目					ひらの	ま	ち	平野町二丁目
					ひらの	ま	ち	平野町三丁目
ひらのまち 平野町二丁目					ひらの	ま	ち	平野町二丁目
					ひらの	ま	ち	平野町三丁目
ひらのまち 平野町三丁目					ぜんざ	え	もん	ぜんざえもんちよう
					ひらの	ま	ち	善左衛門町
ひらの	ま	ち	平野町三丁目	ひらの	ま	ち	平野町三丁目	

現町名	町名	よ漢	み字	→	近世町名				
					町名	よ漢	み字		
ひらのまち 平野町四丁目					かめい	ちよう	う	亀井町	
					しちろう	え	もん	ちよう	七郎右衛門町二丁目
					びんご	ま	ち	びんごまち	
					びんご	ま	ち	備後町三丁目	
					ます	や	ま	ますやまち	
					びんご	ま	ち	升屋町	
					みどう	ま	え	みどうまえちよう	
					御	堂	前	御堂前町	
					つむら	み	な	つむらみなみのちよう	
					津	村	南	津村南之町	
ふし	み	ま	ち	→	もと	う	つ	もとうつぼちよう	
					本	鞆	町	本鞆町	
ふし	み	ま	ち	→	もと	て	ん	もとてんまちよう	
					本	天	満	本天満町	
ふし	み	ま	ち	→	ご	ふ	く	ごふくまち	
					呉	服	町	呉服町	
ふし	み	ま	ち	→	ふ	し	み	ふしみまち	
					伏	見	町	伏見町	
ふし	み	ま	ち	→	ご	ふ	く	ごふくまち	
					呉	服	町	呉服町	
ふし	み	ま	ち	→	し	け	ん	しけんまち	
					四	軒	町	四軒町	
ふし	み	ま	ち	→	ふ	し	み	ふしみまち	
					伏	見	町	伏見町	
ふな	こ	し	ち	→	き	た	か	きたかわやまち	
					北	革	屋	北革屋町一丁目	
ふな	こ	し	ち	→	き	た	か	きたかわやまち	
					北	革	屋	北革屋町二丁目	
ふな	こ	し	ち	→	き	た	か	きたかわやまち	
					北	革	屋	北革屋町二丁目	
ふな	こ	し	ち	→	ふ	な	こ	ふなこしちよう	
					船	越	町	船越町	
ほう	え	ん	ざ	→	う	え	さ	うえさかいまち	
					上	塚	町	上塚町	
ほう	え	ん	ざ	→	え	っ	ち	えっちゆうまち	
					玉	造	越	玉造越中町二丁目	
ほう	え	ん	ざ	→	き	の	く	きのくにまち	
					玉	造	紀	玉造紀伊国町	
ほう	え	ん	ざ	→	す	ず	き	すずきまち	
					鈴	木	町	鈴木町	
ほん	ま	ち	→	ほん	ま	ち	ほんまち		
				本	町	一	本町一丁目		
ほん	ま	ち	→	ほん	ま	ち	ほんまち		
				本	町	三	本町三丁目		
ほん	ま	ち	→	ほん	ま	ち	ほんまち		
				本	町	三	本町三丁目		
ほん	ま	ち	→	ほん	ま	ち	ほんまち		
				本	町	四	本町四丁目		
ほん	ま	ち	→	きた	わ	た	きたわたなべまち		
				北	渡	辺	北渡辺町		
				ほん	ま	ち	ほんまち		
ほん	ま	ち	→	ほん	ま	ち	ほんまち		
				本	町	四	本町四丁目		
ほん	ま	ち	→	ほん	ま	ち	ほんまち		
				本	町	五	本町五丁目		

現町名	近世町名
町名よみ漢字	町名よみ漢字
ほ ほんまち 本町四丁目	→ みなみわたなべちょう 南渡辺町
ほんまちばし 本町橋	→ うちひらのまち 内平野町 うちほんまちはしづめちょう 内本町橋詰町 ぶんごまち 豊後町
ま まつやまち 松屋町	→ たんばやちょう 丹波屋町 まつやまちおもてちょう 松屋町表町 まつやまちうらまち 松屋町裏町 みなみかわらやまち 南瓦屋町一丁目
まつやまちすみよし 松屋町住吉	→ ぐそくやまち 具足屋町 すみよしやちょう 住吉屋町
み みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町一丁目	→ みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町一丁目 みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町二丁目
みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町二丁目	→ みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町三丁目 みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町四丁目
みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町三丁目	→ かみなんばちょう 上難波町 みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町四丁目
みなみきゅうほうじまち 南久宝寺町四丁目	→ にしささまち 西笹町
みなみしんまち 南新町一丁目	→ みなみしんまち 南新町一丁目
みなみしんまち 南新町二丁目	→ うちほねやまち 内骨屋町 まつえちょう 松江町 みなみしんまち 南新町三丁目
みなみせんば 南船場一丁目	→ あんどうじまち 安堂寺町一丁目 あんどうじまち 安堂寺町二丁目上半 あんどうじまち 安堂寺町二丁目下半 しおまち 塩町一丁目 しおまち 塩町二丁目 じゅんけいまち 順慶町一丁目 じゅんけいまち 順慶町二丁目

現町名	近世町名
町名よみ漢字	町名よみ漢字
み みなみせんば 南船場一丁目	→ はしもとちょう 長堀橋本町
みなみせんば 南船場二丁目	→ あんどうじまち 安堂寺町三丁目 あんどうじまち 安堂寺町四丁目 しおまち 塩町三丁目 しおまち 塩町四丁目 じゅんけいまち 順慶町三丁目 じゅんけいまち 順慶町四丁目 じろべえちょう 長堀次郎兵衛町
みなみせんば 南船場三丁目	→ あんどうじまち 安堂寺町四丁目 あんどうじまち 安堂寺町五丁目 くるままち 車町 しおまち 塩町四丁目 じゅんけいまち 順慶町四丁目 じゅんけいまち 順慶町五丁目 しんさいちょう 長堀心齋町 ながほり 長堀拾丁目 みなみかんしろうまち 南勘四郎町
みなみせんば 南船場四丁目	→ きたかんしろうまち 北勘四郎町 ごこうまち 五幸町 さわらぎちょう 榎木町 じょうこくじまち 浄国寺町 ながほり 長堀拾丁目 はつせちょう 初瀬町 へいえもんちょう 長堀平右衛門町 みなみかんしろうまち 南勘四郎町
みなみほんまち 南本町三丁目	→ みなみほんまち 南本町四丁目
みなみほんまち 南本町四丁目	→ みなみわたなべちょう 南渡辺町
も もりのみやちゆうおう 森ノ宮中央一丁目	→ こくぶちょう 玉造国分町

現町名	よみ字	→	近世町名	
			よみ字	漢字
もりのみやちゅうおう 森ノ宮中央一丁目			まるはちょう	丸葉町
			やおまち	八尾町
もりのみやちゅうおう 森ノ宮中央二丁目			やまとぼしちょう	大和橋町
			えっちゅうまち	越中町二丁目
やりのやまち 鎗屋町一丁目			やりのやまち	鎗屋町
りゅうぞうじちょう 龍造寺町			りゅうぞうじちょう	龍蔵寺町

【西区】

あ	あわぎ	→	ふるかねまち	立売堀古金町
	あわぎ	→	あわばしちょう	立売堀阿波橋町
い	いたちぼり 立売堀一丁目	→	たちうりぼり(きたがわ)	立売堀(北側)二丁目
	いたちぼり 立売堀二丁目	→	たちうりぼり(きたがわ)	立売堀(北側)二丁目
う	うつぼほんまち 鞆本町二丁目	→	かいふほりかわちょう	海部堀川町
	うつぼほんまち 鞆本町三丁目	→	かいふほりかわちょう	海部堀川町
え	えどぼり 江戸堀一丁目	→	えどぼり	江戸堀二丁目
	かわぐち 川口一丁目	→	えびすじまちょう	戎島町
か	かわぐち 川口二丁目	→	ふるかわ	古川一丁目
	かわぐち 川口三丁目	→	ふるかわ	古川一丁目
き	きたほりえ 北堀江一丁目	→	うわじまちょう	宇和島町
			へいえもんちょう	長堀平右衛門町

現町名	よみ字	→	近世町名	
			よみ字	漢字
きたほりえ 北堀江一丁目			みいけどおり	御池通三丁目
			よしのやまち	横堀吉野屋町
きたほりえ 北堀江二丁目			とんだやちょう	長堀富田屋町
			みいけどおり	御池通三丁目
きたほりえ 北堀江三丁目			しらがまち	長堀白髪町
			みいけどおり	御池通五丁目
きたほりえ 北堀江四丁目			きたほりえ	北堀江五丁目
			たかはしちょう	長堀高橋町
きたほりえ 北堀江五丁目			にほんまつちょう	二本松町
			みいけどおり	御池通五丁目
きょうまちぼり 京町堀一丁目			きょうまちぼり	京町堀二丁目
			みいけどおり	御池通六丁目
し	しんまち 新町一丁目	→	へいえもんちょう	長堀平右衛門町
	しんまち 新町二丁目	→	とんだやちょう	長堀富田屋町
に	しんまち 新町三丁目	→	しらがまち	長堀白髪町
	しんまち 新町四丁目	→	せいべえちょう	長堀清兵衛町
ほ	にしほんまち 西本町二丁目	→	てしまちょう	豊島町
	ほんでん 本田一丁目	→	えびすじまちょう	戎島町
み	みなみほりえ 南堀江一丁目	→	みなみほりえ	南堀江二丁目
	みなみほりえ 南堀江二丁目	→	よしのやまち	横堀吉野屋町
さ	みなみほりえ 南堀江三丁目	→	みなみほりえ	南堀江二丁目
	みなみほりえ 南堀江四丁目	→	みなみほりえ	南堀江四丁目
さいわいちょう 幸町三丁目		→	たちばなどおり	橋通六丁目
			さいわいちょう	幸町四丁目

【浪速区】

さいわいちょう 幸町三丁目	→	さいわいちょう 幸町四丁目
------------------	---	------------------

	現 町 名		→	近 世 町 名	
	町 名	よ み 漢 字		町 名	よ み 漢 字
さ	さいわいちょう	幸 町 三 丁 目	→	さいわいちょう	幸 町 五 丁 目
に	にっぽんばし	日 本 橋 三 丁 目	→	ながまち	長 町 六 丁 目
	にっぽんばし	日 本 橋 四 丁 目	→	ながまち	長 町 七 丁 目
に	にっぽんばし	日 本 橋 五 丁 目	→	ながまち	長 町 七 丁 目
			→	ながまち	長 町 八 丁 目
み	みなとまち	湊 町 一 丁 目	→	みなとまち	道 頓 堀 湊 町

	現 町 名		→	近 世 町 名	
	町 名	よ み 漢 字		町 名	よ み 漢 字
ふ	ふくしま	福 島 二 丁 目	→	どうじましんち	堂 島 新 地 五 丁 目
	ふくしま	福 島 三 丁 目	→	どうじましんち	堂 島 新 船 町

【都島区】

	現 町 名		→	近 世 町 名	
	町 名	よ み 漢 字		町 名	よ み 漢 字
か	かたまち	片 町 一 丁 目	→	あいおいひがしまち	相 生 東 町
	かたまち	片 町 二 丁 目	→	あいおいひがしまち	相 生 東 町

【北区】

	現 町 名		→	近 世 町 名	
	町 名	よ み 漢 字		町 名	よ み 漢 字
て	てんじんにしまち	天 神 西 町	→	なるおちょう	鳴 尾 町
	てんま	天 満 一 丁 目	→	ながらまち	長 柄 町
	てんまばし	天 満 橋 二 丁 目	→	ゆうこまち	友 古 町
と	どうしん	同 心 二 丁 目	→	ゆうこまち	友 古 町
に	にしてんま	西 天 満 三 丁 目	→	にしたるやまち	西 樽 屋 町
			→	みなみとんだまち	南 富 田 町
	にしてんま	西 天 満 四 丁 目	→	おいまつちょう	老 松 町

【天王寺区】

	現 町 名		→	近 世 町 名	
	町 名	よ み 漢 字		町 名	よ み 漢 字
う	うえほんまち	上 本 町 一 丁 目	→	うえほんまち	上 本 町 四 丁 目 北 半
	うえほんまち	上 本 町 二 丁 目	→	うえほんまち	上 本 町 四 丁 目 南 半
	うえほんまち	上 本 町 三 丁 目	→	うえほんまち	上 本 町 四 丁 目 南 半
た	たまつくりほんまち	玉 造 本 町	→	ひらのぐちちょう	玉 造 平 野 口 町
	たまつくりもとまち	玉 造 元 町	→	ひらのぐちちょう	玉 造 平 野 口 町

【福島区】

	現 町 名		→	近 世 町 名	
	町 名	よ み 漢 字		町 名	よ み 漢 字
た	たまがわ	玉 川 一 丁 目	→	どうじましんち	堂 島 新 船 町
ふ	ふくしま	福 島 一 丁 目	→	どうじましんち	堂 島 新 地 五 丁 目

あとがき

半世紀ぶりに「大坂水帳所在目録」を改訂したところ、前目録では 242 地点（浜納屋地坪帳との重複を含む前目録の列の数）、399 冊（本体のみ、絵図のみ、本体と絵図両方を所蔵する略号数）が、今回では 383 地点、761 冊となった。これだけの調査ができたことは、ひとえに各所蔵館の協力なしにはありえないことで、心から謝意を申し上げる。

2016（平成 28）年 6 月に改訂作業の協力を依頼し、目録情報および所蔵状況の提供を受けた。各館の情報の出所について違いがあるのでここに記す。

所 蔵 館 名	目 録 の 元 と し た 所 蔵 情 報
大 阪 商 業 大 学 商 業 史 博 物 館	大阪商業大学商業史研究所編集『大阪商業大学商業史研究所資料目録 第 1 集』 大阪商業大学商業史研究所、1992 年をもとに、前回の「大坂水帳所在目録」と比較し、調査の必要がある一部の資料を直接確認。
大 阪 城 天 守 閣	同館担当者より所蔵情報提供。
大 阪 市 立 大 学 学 術 情 報 総 合 セ ン タ ー	ウェブサイト近世資料室の画像を確認したうえで、全資料を直接確認。
大 阪 市 立 中 央 図 書 館	大阪市立中央図書館デジタルアーカイブに掲載されている画像と書誌データを確認。
大 阪 大 学 大 学 院 経 済 学 研 究 科 経 済 史 経 営 史 資 料 室	大阪大学経済学部経済史・経営史研究室 「大坂市中の人別帳・水帳目録」 p110-115 『大阪大学経済学』 第 28 巻第 1 号 大阪大学経済学部 1978 年をもとに、全資料を直接確認。
大 阪 府 立 中 之 島 図 書 館	仲田熹弘「大坂水帳所在目録」 p73-89 『大阪府立図書館紀要』 第 2 号 大阪府立図書館 1966 年およびその他の目録をもとに、全資料を直接確認。
大 阪 歴 史 博 物 館	同館担当者より所蔵情報提供。館蔵資料のみ。
関 西 大 学 総 合 図 書 館	全資料を直接確認。
九 州 大 学 附 属 図 書 館	WEB-OPAC でヒットした資料を問い合わせして所蔵を確認。
三 井 文 庫 本 館 (史 料 館)	ウェブサイト「三井文庫所蔵資料目録」の三井家記録文書目録（2016 年 3 月 31 日版）に掲載されている資料を問い合わせして所蔵を確認。

翻刻『大阪御城代勤行』（一）

くすりの道修町資料館 佐藤 敏江
中之島図書館 小笠原 弘之・北川 敬子
中央図書館 上村 厚貴・苗村 昌世
日置 将之・八木 美恵
山田 瑞穂

はじめに

原文書は大阪府立中之島図書館蔵（文書／八）一冊（二十七・五×二十四）表・裏表紙各一、本文二〇四丁。

本冊は、大坂城代周辺の業務に関わる事務控である。元禄三年（一六九〇）の各種文書が中心となっているが、末尾には元禄七年（一六九四）の記述もある。元禄四年（一六九二）の年頭に大坂城代の交代があったため、引継ぎ資料として前任の事務控を書写し、その後に後任者が必要事項を加筆したものと考えられる。元禄三年時点の大坂城代は常陸国土浦藩主であった松平因幡守信興で、貞享四年（一六八七）十月十三日から元禄三年十二月二十六日まで大坂城代を務めた。かわつて出羽国上山藩主・土岐伊予守頼殷が、元禄四年一月十四日から二十二年の長きに渡り大坂城代を務めることになる。この任期は、第二代大坂城代・阿部備中守正次と並び、歴代大坂城代の中で最長の在職期間となっている。土岐伊予守は、本冊中では加番として来坂した際の番代手順を記した部分にも登場するが、これは元禄二年（一六八九）から三年の一年間、大坂城本丸を警固する山里丸加番として大坂城に勤仕の後、翌年に大坂城代を拝命したことによるものである。

参考

「徳川大坂城」大阪城天守閣 二〇〇八年

「大坂加番記録」大阪城天守閣 一九九七年

凡例

原本の忠実な翻刻を原則とし、旧漢字はそのまま表記した。

異体字は標準の字体に改めた。但し方（より）・べ（しめ）はそのままとした。

かなの古体・変体は原則として現行の平かなを使用した。但し、江（え）・与（と）・者（は）・茂（も）などの慣用字は、原本のままとし小字で表記した。

反復記号「ゝ」「と」「く」等は原本の通りに表記した。

判読不能の文字は□で、確定できなかつた文字・誤字・脱字・衍字等は原本のまま翻字し、（カ）（ママ）等、その旨傍注を付した。

追筆等は本文中に繰り込み、書き損じ等特にその必要を認めない場合は省略した。

『大阪御城代勤行』 (二)

大阪御城代勤行

元禄三年七月日

御金銀出立
紀州江上使 覺書

- 一 六月廿九日之御奉書七月五日到來 御銀三千貫目御取寄被遊候儀 申來
- 一 兩御番頭江御幸領衆之儀 以御奉書申來

御廻狀

只今從江戶繼飛脚到來 去月廿九日之奉書致拜見候處
 公方様益御機嫌好被成御座之旨被仰下 恐悅御同意奉存候 各江奉書書通參候間為持進之候
 此外御用之儀被仰下候得共 不違儀御座候而 今日中私宅江御出可被成候 以上

七月五日

米津周防守様

酒井右京亮様

- 一 御番頭御出御歸以後

辰巳兩年之御銀下候控字之逐候 幸領衆相極次第可被仰聞候 明後日之次飛脚其段可申上候
 以上

七月五日

御番頭様

但此次飛脚御金計之儀三而
 御立被成候三而看無之候

申渡儀有之候 各之内今日中御出可有之候 以上

七月六日

御金奉行殿

- 一 御金三千貫目兩日三御下可被成由 日限御書付 御番頭江被遣之候
 - 一 御番頭方幸領衆一番立 二番立之書付并宿割泊付之書付來
 - 一 御金初立 四五日前京都江以宿次
- 御朱印之儀被仰遣候

京都江之御運狀

去月廿九日之繼飛脚到來 奉書致拜見候處

公方様益御機嫌能被成御座 恐悅御同意奉存候 將又爰許御藏之白銀就御用 三千貫目大御番

衆之内 為宰領江戸江可差下之由 從御老中被仰越候間 來ル十六日 十九日兩度 當地
出之可遣候 傳馬并宰領衆四人別紙三書付進之候

御朱印式通御越可被成候 依之宿次を以申達候 恐惶謹言

七月九日 四人

内藤大和守様 人々御中

覺

午七月十六日大坂立

銀千五百貫目

此傳馬數五拾四疋

内四疋着宰領兩人三被下之

宰領

酒井右京亮組 天野清右衛門

米津周防守組 跡部傳四郎

午七月十九日大坂立

銀千五百貫目

此傳馬數五拾四疋

内四疋着宰領兩人三被下之

宰領

酒井右京亮組 本間十右衛門

米津周防守組 戸田三右衛門

以上

七月九日

此狀箱老 從大坂京都迄 如例宿次三急令持參 内藤大和守殿江可相居者也

午七月九日

土佐

主殿

撰津

因幡

右宿々年寄

今度差下候 白銀馬數 御金奉行衆方書付被差出候間 内藤大和守殿江

御朱印之儀申遣候 連狀并傳馬數之書付相調 宿次證文差添廻申候 御判形被成 土佐守殿三而

御認 明朝御出し可被成候 已上

七月八日

安部撰津守様

遠山主殿頭様

小田切土佐守様

内藤大和守殿江遣候狀箱 為持進之候 連狀并傳馬數宿次證文者 先刻廻申候而 御認可被遣候

已上

七月八日

小田切土佐守様

御手紙令拜見候 内藤大和守殿方以宿次 連状箱等并箱等 只今参候付而 送状共為持被遣請取
申候連状遂披見 従是廻可申候 送状則令返進候 以上

七月十二日

小田切土佐守様

只今從内藤大和守殿 御朱印式枚参候付而 返礼遂披見 此方方遣候 宿次證文も判形消 差添
廻申候 以上

七月十二日

安部攝津守様

遠山主殿頭様

小田切土佐守様

明後十六日立傳馬先觸之證文相調廻申候御判形被成 土佐守殿方明十五日如例御出可被遣
候 將又宰領衆江 御朱印相渡可申候間 明晚七ツ時御出合可被成候 以上

七月十四日

右三人様

明後十六日立宰領衆江 御朱印相渡可申候間 明十五日七ツ時過御同道可被成候 傳馬先觸之
證文明朝出之被申候様 小田切土州江申達候 以上

七月十四日

明後十六日次飛脚被遊御立候儀

御直談ニ被仰達

御番頭様

一 宰領衆江御渡被成候御連状者御二人御連判也 十五日七ツ時御寄合 御判相渡候付而 御番頭衆
江七ツ時過之被仰遣候御文言者奉書言上之留三有之

明後十六日白銀千五百貫目弥相立可申候 二 番立者来十九日二候間 其御心得可有之候 以
上

七月十四日

御金奉行殿

一 先觸證文

就御用從大坂江戸江白銀差下候 為幸領大御番天野清右衛門 跡部傳四郎兩人 明十六日大坂三出立候 傳馬五拾四疋支度可仕候
御朱印幸領衆持參之事候

道中泊之覺

七月十六日	伏見
同十七日	石部
同十八日	関
同十九日	桑名
同廿日	佐 <small>備</small> 廻 <small>り</small> 宮
同廿一日	御油
同廿二日	煎坂
同廿三日	掛川
同廿四日	藤枝
同廿五日	神原
同廿六日	三嶋
同廿七日	大磯
同廿八日	川崎

右之通宿と泊所昼休三而白銀之番人念可相勤者也

午七月十五日
土佐
主殿
摂津
因幡

右宿之年寄

一 御金幸領衆 御朱印御頂戴以後追付為御礼御出 依之御口上書相調 大御登所御番頭江相渡置 翌朝御門御通候節 出向御口上申上候

口上

此度為御幸領御下候付 御朱印御頂戴難有思召之旨尤存候 依之昨晚者御出被仰置候 趣承届 入御念儀其存候 今日者天氣も好御發足珍重存候 右之段申上候様こと申付置候 由可申候

此御口上書看前日御門しめに被罷越候 御目付へ相渡ス

一 翌朝御立候節 為御暇乞御出候付而 追掛使者を以御口上被仰遣

今日者天氣も好 御出立珍重存候 依之為御暇乞 只今と御出被仰置候趣 承届入御念儀

共存候 被仰置 早々御連候故 不掛御目候付而 以丈と申達候

一次飛脚十九日御立之儀 查前方ニ御約束有之候

明後十九日御金銀之傳馬先觸御證文相調廻之申候 御判形被成 土佐守殿方明十八日如例御
出シ可被成候 將又宰領衆江 御朱印相渡可申候間 明晩七ツ時前御出合可被成候 以上

七月十七日

安部撰津守様

遠山主殿頭様

小田切土佐守様

一宰領衆持參候御連状文言奉書言上之留三有之

明後十九日立之宰領衆江 御朱印相渡可申候間 明十八日七ツ時過御同道可被成候 傳馬先觸
之證文明朝出七被申候様ニ小田切土州江申達候 以上

七月十七日

御番頭様

明後十九日白銀千五百貫目弥相立申候 外三新地之地子金巻箱 町奉行衆方差下被申候 是著
御朱印傳馬之外 人足三而為持差下申候 為御心得申達候

七月十七日

御金奉行殿

就御用從大坂江戸江白銀差下候 為宰領大御番本間十右衛門 戸田三右衛門兩人 明十
九日大坂出立候 傳馬五拾四疋支度可仕候

御朱印宰領衆持參之事候 外三御金巻箱差下候間 人足貳人是又可致用意候

道中泊之覺

七月十九日 伏見

同廿日 石部

同廿一日 関

同廿二日 桑名

同廿三日 佐饗廻り

同廿四日 宮

同廿五日 御油

同廿六日 煎坂

同廿七日 掛川

同廿七日 藤枝
 同廿八日 神原
 同廿九日 三嶋
 八月朔日 大磯
 同二日 川崎

右之通宿と泊所昼休三而御金銀之番人念可相勤者也

午七月十八日 土佐
 主殿
 摂津
 因幡
 右宿之年寄

十六日 十九日 両日 次飛脚相立 御文言書奏書言上之留三有之

- 一 内藤大和守様江御再報あなた方参候 御朱印箱之封印御返し
- 一 大和守様江之御再報者相認 土佐守様方過量便三被遣候事

京都江之御再報

去十二日 午御報御連書致拜見候

公方様益御勇健被成御座 恐悦御同意奉存候 将又今度御用之白銀兩度三差下申候付而傳馬 御朱印之儀申進候處 式枚被遣 慥請取 則宰領衆四人江相渡申候白銀者 十六日 今十九日相立申候 右之 御朱印於江戸差上候様三与申合候 此段為可申述 如此御座候 恐惶謹言

七月十九日 四人
 内藤大和守様
 御再報

追啓 御朱印箱之御封印五返進仕候 爰許方之送状御返請取申候 以上

七月十九日 四人
 内藤大和守様

紀州江 上使

- 一 紀州江 上使被 仰出候節 御樽着之儀以御奉書申来 其節に買物方役人被召寄被 仰渡候事
- 一 上使伏見到着之節 明何時到着可有之由 先達而御状到来 是者大形及暮来候付而 御即報無

之但時三可依事

一上使何比御到着可在之儀 先達而宿觸之證文 當地馬借方町奉行所江申來候付而 土佐守様
方右之様子申來 依之御廻狀

猶以到着 次飛脚も相立可申候 為御心得申渡候 以上

明廿四日之朝 青山信濃守着船之由ニ付 拙者於下屋敷遂對話候間 五ツ時前御出可被成候
未信濃守方方者不申越候得共 先為御案内申達候 信濃守方方左右次第 追而可申達候 以上

七月廿三日

安部撰津守様 遠山主殿頭様 小田切土佐守様

明廿四日之朝 青山信濃守着船之由付 其外右同断

七月廿三日

御番頭様 御加番様

此廻狀前方方相調置 但翌朝被遣候儀も有之

只今青山信濃守方方飛札到來 今七ツ過伏見出船 明朝當地可為着岸之由申來候 弥拙者下
屋敷江 明朝五ツ時前御出合可被成候 以上

七月廿三日

御定番 町御奉行 御番頭 御加番

此御廻狀前方方相調置 但翌朝被遣候儀も有之

紀州江之 上使青山信濃守 明廿四日之朝可為着岸之由申越候 依之明日繼飛脚相立申候
間 御狀被遣候者 小田切土州迄可被差越候 已上

七月廿三日

小濱民部様

此御口上書前方方相調置

一御到着前 御旅宿迄以御使者御口上有之

御口上

今度紀州江之 上使被 仰出 道中御無事御到着目出度存候 昨日着從伏見預御飛

札入御念儀共存候 及暮候付御報不申渡候其 弥今朝拙者於下屋敷何茂御參合之事御座
節御報三申渡候通

候間 御勝手次第御出待存候 何茂面上可申述候

右御口上書前晚方御使者江相渡 御到着前より御旅宿江相詰 御着候時分御口上申上

候様ニと被 仰付候

一紀州江之御樽着 宿次證文下屋敷江御寄合之節出之 但證文包紙程付折掛にして 上に宿次
證文と書之

紀伊中将殿江為 上使青山信濃守 今日大坂被罷連候 御樽寄荷御者 三種被遣之候

間 宿次人足扨式人 杖突卷人 無滯出之 宰領次第 和哥山迄可相屆者也

午七月廿四日

土佐印

主殿印

摂津印

因幡印

大坂方和哥山迄
宿之年寄

一 上使於御下屋敷御參會 御料理出 御立 御旅宿江御歸之跡方以御使者御口上有之

一 言上之御文言留三有之

一 御老中方御傳言 大方御三人江有之候得共 御四人と二通認置之

一 紀州方御歸之節 當地御通之時分 御旅宿迄御使者被遣候

一 堺御止宿之節 以御使者御言信有之候事

是者御由緒有之付而也 御到着之時分も御旅宿迄以御使者御言信事

一 御下屋鋪江御寄合之節 先紀州江之宿次證文并上包之紙相添 御座敷江出候事

一 於御下屋敷御參會之節 上使之衆江戸田山城守様 土屋相模守様御傳言 其外御傳言之趣 切紙三相調御渡被遊候事

以手紙致啓上候 然者青山信濃守殿紀州御仕廻 只今私宅江御出 宿次證文御持參候間為 持進上仕候 以上

七月廿七日

小田切土佐守

松因幡守様

御手紙令拜見候 青山信濃守紀州相仕廻 只今御宅江立寄 宿次證文御持參付而為持被遣 請取申候 各消判之儀 明日廻可申候 以上

七月廿七日

小田切土佐守様

以手紙令啓上候 仍而青山信濃守紀州相仕廻 昨晚土佐守殿迄 宿次證文持參付而 各為御 消判廻之申候 以上

七月廿八日

安部摂津守様

遠山主殿頭様

小田切土佐守様

土佐守様方御判御消不被成候趣 付而此時も御名書加之被遣候

殿様

卯十月十三日御城代被 仰付

- 一 貞享四年卯十二月十三日江戸御發駕三付而 同十日之日付三而 何茂江連状之事

- 一 寒中故 尾州熱田ヨリ江府江御届之御状被遣之
- 一 十二月廿二日大津方京都江御立寄 夫方伏見江御下り 常之御供廻り之外 村上源太夫 菅谷段之助 大嶋清二郎御供 右之外者大津方直伏見江被遣之
- 一 廿二日伏見江御到着 廿三日大坂御到着可被成候旨 飛札被遣之
- 一 伏見江從小濱民部様為御迎御 船被差候事
- 一 同所江大坂御在番之御衆方御使者參候事
- 一 御引渡 上使大久保淡路守様 大坂江廿二日之朝御着船之事
- 一 廿三日子ノ后刻 大坂備前嶋江御着船 直御下屋鋪江被遊御越候 翌廿四日朝御着之為御案内 何茂江御使者被遣候事 但船場方御下屋敷迄之道筋江向町奉行所与力 同心為辻固罷在候事
- 一 廿四日御下屋敷江御定番 御町奉行衆 御目付衆 小濱民部様御出 何茂染小袖 麻上下 其以後御番頭 御加番衆御出
- 一 上使大久保淡路守様御出 廿五日御城入可被成之旨被仰合候事
- 一 廿四日安部撰津守様江御寄合 次飛脚相立候事
- 一 但御城代三者御出座無之事
- 一 同廿五日御城入三付而 寅ノ下刻 御定番 御目付衆 追手御番所江御出合 太鼓之六打御門之封印為切御門明候故 上屋敷為請取之 深井茂兵衛麻上下着之 其外役人御城入 其跡方弓鉄炮長柄者頭 番頭山本菅助御城入 御番所請取之人代相濟 御城代御羽織袴三而御手廻計三而御城入 一之御門迄何茂御出向 夫方御上屋敷江御同道御寄附 上之間三而熨斗出 則御退去之事
- 一 同日太鼓之四打候而 御定番 御番頭 御加番 御目付衆 町奉行衆 小濱民部様 熨斗目上下三而御出之事 上使淡路守様撰津守様三而被待合 四ッ半時分撰津守様方御時分之御左右有之而御城代江御出候 其節玄關縁之側迄 御城代御迎三御出候事
- 一 上使書院上之間縁側之内三御着座 中仕切柱方下座 御番頭 御加番衆御着座 床之方三御城代御定番衆 町奉行衆 御目付衆御列座 小濱民部様者此時者御加番衆之次御着座也
- 一 最初熨斗出 其後御料理三汁九菜同話 肴三種吸物何茂木具曳物 御城代御引被遊候土器取肴一種出ル 上使御初御城代江被進 則御返シ御盃之臺 町奉行衆御取次有之 其御土器 御定番衆町奉行衆迄參
- 一 上使江返り御城代御納候 御番頭 御加番衆江互不參候 御茶菓子出候而 上使御退出三付而御城代御式臺迄御送候 何茂物持中麻上下着 御勝手江職人共相話候事
- 一 追手御門者廿八日方出入管三御申合候事
- 一 同廿七日辰ノ中刻 御定番 御番頭 町奉行衆 御目付衆 染小袖麻上下三而御城代江御出 四ッ

時分御城代御同道ニ而御本丸江御越 御番頭者先江被參 桜之御門ニ而被待合 夫ら両御番所江
御上り御番衆御列座ニ而鬨斗出 それら御本丸御廻り被成候事

一同廿八日御城御用ニ掛り候役人 両御定番之与力 両町奉行衆之与力 御城代江參 御城代之役
人互申談候様ニと御申合候事

追手御番所

大御番所 西丸仕切御門 大敷櫓下御門

大御門下 舛方 張御番所

足輕番所

右七ヶ所御城代と勤之

張番所上番三人 歩行組外格之内ニ而申付ル
此番人物書候者ニ差置之

御判鑑差置 御門出入之礼見合 何人互讀之 人数ハ足輕見改之 足輕五人 掃除中間
式人

一 棒 五本

是着突棒 サスマタ モチリノ脇ニ立掛置之

一 突棒 サスマタ モチリ 是ハ御番附ニ而有之

一方とら御使者 御使等張御番所迄參候付為待置 誰様と致書付 舛形御番所足輕ニ為持 夫ら
大御番所江遣之 其書付御番頭見候而 上屋敷江遣之 使者は張番所上之間ニ為待置之使役之者
罷出請取之 但先様之御仁躰ニより取次役之者請取申儀も有之候 飛脚ハ状箱張番所ニ而請取
之 足輕もたせ 舛形番所江遣之 夫ら大御番所江足輕持參 上屋敷江差越候大御番頭衆 御加
番衆 御目付衆ハ方とら御付届も張御番所迄參候而 誰様とたれ様江之御使者 飛脚と致書付足
輕ニ為持 御小屋江越申候 御家来罷出請取申候 飛脚之状箱ニ而茂此方之者ハ請取不申候 右
之通申通シ仕候迄御座候 惣而張番所ハ書付差越候儀 又口上ニ而申通シ之儀 張番所ハ舛形番
所迄傳達 舛形大御番所江相達 番頭承届 夫ら三通シ申付候

舛形番所 給人式人 足輕五人 掃除中間式人
帳付壹人

是ハ大御番所ニ語居候内ニ而昼之内一時代り相勤候由 前とら傳達候得共 番人定置相勤之
但方とら參候御判鑑 御門出入之礼見合 何人と讀 人数書足輕見改 尤夜中共右之番人此番所
ニ泊ル

一 鑓 三本 内壹本番鑓

一 鉄炮 五挺 一棒五本 是ハ鑓掛ニ立掛置之

一 突棒 差候 戻り 水溜井手桶 此分は以前より御番所附ニ而有之

大御門下番所足輕五人 内小頭壹人

此小頭并足輕者 足輕番所ニ相詰居候内ニ而 一時代リニ勤申候 但方々參候判鑓掛置 御門出入之札見合 何人と讀之 人数者足輕見改ル 夜中ハ足輕老入宛 此御門下不寢之番相勤ル 半夜代り也

一 棒 五本 是ハ足輕並居候間ノニ置之

足輕番所 足輕小頭老入
足輕 七人

一 数鑓 廿本

一 棒 廿本

是ハ足輕並居候後ニ掛置

一 棒 廿本

是ハ鑓掛之間ニ立掛置之

一 突棒 差俣 辰 水溜 手桶

是ハ以前より御番所付ニ有之

大番所 番頭 壹人
物頭 壹人 面ノ持鑓老本宛
目付 壹人
給人 五人
帳付 壹人

是ハ御門出入之切手等參候付 帳面ニ記置候

品により上屋敷江書付差越窺之

通シ番 五人

是ハ長柄者方勤之

掃除中間三人

一 鉄炮 三拾挺 小道具玉箱

一 弓 貳拾張 鞆 矢箱

一 幕 壹走

一 はしこ

一 燈灯臺

一 水溜并手桶

是ハ御番附有之

一 屏風 壹雙

一 衝立障子 貳

此ニ色着青山因幡守様方被殘置候

太鼓櫓下御門 者頭壹人
給人壹人 面々持鍵壹本宛

是ハ大番所詰居候内ニ而 昼之内ニ時代リ相勤候由前々傳達候得共 右之番人定置 相勤之
尤夜中共ニ右兩人此番所ニ泊ル 出入之者札之改無之

足輕五人

此内式人ハ番所次之間 三人ハ御門之脇番所ニ罷在候

掃除中間式人

- 一 鉄炮 五挺 小道具玉箱
- 一 棒 五本 是ハ鍵掛之脇ニ掛置之
- 一 幕 片走打之
- 一 突棒 差俣 辰水溜 手桶

是ハ前々御番附有之

一同所御門之外 平番所中間式人 夜中計

是ハ暮六ツ時仕切御門へ 上屋敷江鑑取上ケ置申候 自然夜中用事有之候得者 右之中間 大
御番所江申通之候為ニ候 但此御門ニ相詰候掃除中間之内を差置候

西丸仕切御番所出入之者札改無之

上番三人中小性申付ル

足輕 五人

掃除中間式人

- 一 鉄炮 五挺
- 一 番鑓 三拾本
- 一 棒 五本 是ハ鍵掛之脇ニ立掛置之
- 一 幕 片走打之
- 一 突棒 差俣 辰水溜 手桶

是者以前方御番所附有之

右七ヶ所番所ニ行燈以前方御番所附ニ而有之 公儀方油渡ル 油渡 南市兵衛

一 公儀御役所江御城代之家来立合候 役人何茂給人也 不断白衣ニ而相勤

御破損方役人 式人 下役人當附

御蔵方役人 壹人

小買物并鬮所方役 壹人 下役人壹人

御味噌方役人 壹人 下役人壹人

石役人 壹人

一所々番代之次第 朝五ツ時當番之者罷出請取 九時迄相勤為代 其朝番渡候もの 九ツ時罷出

七ツ時迄勤申候 七ツ時方當番之者罷出請取 翌朝五ツ時迄致勤番候 番頭と給人同道 一同ニ代ル者頭ハ諸番所之足輕共召連 一同ニ代ル 但不断諸番所番代之者其不殘以札出入一所ノ御門不斷ハ潜計明置申候 毎日御門明たて之儀 朝六ツ時已前上屋敷當番之家老老人御寢間ニ有之候鑑取出シ大目付老人同道 大御番所江罷越 番頭と三人立合三而明六ツ之太鼓打切追手一之御門之くゝり明させ 鑑ハ大番所ニ差置之 太鼓槽下御門江は大番所ノ給人老人足輕ニ鑑為持参り 御門下を鑑通シ遺之者頭御門之くゝり明させ申候 鑑ハ大御番所江給人為持参差置之 西丸仕切三者大御番所ノ者頭老人 鑑足輕ニ為持参 御門之くゝり明させ 鑑ハ為持帰 大御番所ニ差置候 晩者 暮六ツ以前上屋敷方家老 大目付 大御番所江参 朝之通番頭立合 暮六ツ之太鼓打切候而 御門ベさせ申候 右同時太鼓槽下御門者 其所ニ罷在候者頭御門ベさせ 西丸仕切御門者 大御番所ノ者頭罷越 御門ベさせ申候 三ヶ所之鑑ハ家老 大目付 上屋敷江持参 大和守手前ニ差置之申候

一夜中江戸ノ次飛脚ニ而御奉書又ハ長崎奉行衆ノ御状箱等到来候得者 町奉行衆ノ御手紙被差添之 追手張番所迄被遣候 御状箱ちひさく候得者 一之門くゝらせ大番所罷在候番頭上屋敷江持参申候 御状箱かさ高ニ而通り不申候時ハ 町奉行衆ノ御手紙計番頭持参申候 御門之鑑 手前方家老請取 大目付同道 番頭も立合 舛形番所ニ泊り居候 給人兩人 是又出合 御門之鑑を明させ 御状箱通し 早速御門ベ 右之御状箱上屋敷江持参申候 此時番頭者大御番所ニ罷在上屋敷江も不参候 ケ様ニ夜中御門明候節 張番所ハ勿論舛形御門下之番所 足輕番所 大番所之番人 右不殘起居申候 御状箱 持候て町奉行衆ノ御手紙之返事認 上屋敷當番之中小姓ニ為持 大番所迄遺之 町奉行衆ノ御丈渡シ越申候 勿論返事不相濟内者使之者張番所ニ為待置申候

御城内御普請之材木石等 惣而御門潜ヲ通り兼候もの出入之時ハ 其役所ノ御城代江御断有之付而 當番之家老 大目付同道 大御番所江参 番頭与三人立合 一之御門 大御門ハ何茂片扉開之家老 大目付ハ上屋敷ハ罷歸 右出入相済候以後又家老 大目付御門江相越 番頭立合 御門ベさせ申候 且又太鼓槽下西丸仕切御門ニケ様之儀有之節 太鼓槽下御門江ハ大番所ノ給人老人足輕ニ鑑為持罷越 太鼓槽下御門當番之者頭江相渡シ罷歸候 者頭御門片扉開かせ申候 鑓者太鼓槽下御門ニ罷在候 給人大番所ノ持参申候 右出入相済候以後 者頭御門ベさせ申候 西丸仕切御門ハ大番所當番之者頭 鑑足輕ニ為持参 御門片扉開かせ罷歸 其以後又者頭参 御門ベさせ申候

御定番 御番頭 御加番 町奉行衆 御目付衆 御船手 境奉行衆 御番所御通り候節ハ 番人不殘 下座仕候 此外者下座無之

追手舛形之内御西門江市日ニ町人共参候 是ハ毎年御番代以後 御番頭衆御吟味被成 何町誰ト与名を可書付 此分者御番衆御用承ニ 市日御多門迄参答候間 前ト通出入有之様被成度之由 御城代江御番頭衆より御断御座候 市日ニ町人共参候得者 札なしに御門通シ申候

但大御番頭ハ参候御書付之写 張番所 舛形番所江出シ置之 其書付ニ引合 今日者誰ト御多門

江參候と帳面記置相通之候 御多門不斷ハ狭間をもと錠をおろし 錠者大御番所ニ差置之市
日之前日掃除申付候

但町人之名書付不來 何月も毎月如跡と 商人市日ニ御多門江罷越候付 両組御番衆
被罷出候間 御番所江被仰付可被下候由 申來候儀も有之

一 御本丸御金納拂有之節ハ 前方ニ御金奉行衆方人足之員數 以手紙御城代迄申來候 口上ニ而返
事濟 右人數御城代 御定番之知行高ニ割付 此分人足出候様 御定番衆江御城代方以手紙 御
金奉行衆之手紙も相添 觸遣之 人足拾五人迄著御城代方出ル 拾六人方御城代 御定番と 三
人之割合三成申候 桜御門人足出入之手形入申候付 御金日早朝ニ御番頭衆 今日御金運候 人
足御本丸江人候段 以手紙申達 手形之鑑札相添 以使者差越候 破損方役人一人 上下三人
中間小頭 人足召連 桜御門江手形持參 鑑札被引合致出入候 罷歸候節鑑札手形共 右破損方
之役人請取 上屋敷江持參申候 御定番衆方出候人之御斷ハ勿論 御定番衆方御番頭衆江被仰
遣候 但納拂共ニ追手御多門迄御金奉行衆御出 御金運 御差引被成候 御金通り切り候内者 立
番之足輕出し置 御番所出入之人を留申候

但御城代 御定番差合候節著 人足不出候 又八月御番代之節茂 其日ニ當り候方ハ人
足御除候事 御本丸江人足召連參候 破損役人之外 歩行目付上下式人 人足之外 多
少ニ依テ添肩之人足二人三人外三出之

一 毎年御具足虫干有之節著 御具足奉行衆方前方ニ人足之儀 以手紙申來候 御口上ニ而返事相濟
置 其日者頭一人 上下四人 足輕小頭一人 足輕式拾人 帳付一人 中間小頭一人 中間式拾人
召連 御本丸江相越 御役所方御差函次第虫干仕候 大方ニ三日置程ニ虫干仕廻候迄人之儀度
と申來候 桜御門相通り候様子 御金納拂之時之格ニ而御座候 御定番衆方之人者別格ニ出申候
故 人足割合三者不仕候

一 毎年御鍵 長刀等掛申候節 御本丸方追手多門まで運出之候 右人足之儀 前方御弓奉行衆書付
御持參 御斷御座候付 至其日破損方役人一人 上下三人 中間小頭式人 中間召連罷出 運せ
申候 此時著太鼓櫓下御門 大御門 此両所片扉開之 桜御門通り候儀 前ニ同

一 御本丸ニ有之候 御墨印 長持 御奉書 長持 上屋鋪江御取寄之時 家老一人 裏付上下着之
上下四人 破損方役人三人 中間小頭一人 長持連候 中間召連參候 桜御門之内御番頭衆之与
力 番所ニ而請取之 大御番衆之内破損方役人 御出合御渡し被成候 右之長持 御本丸江納候
時茂同前 桜御門罷連候儀 右同

一 追手方掃除場 御城内外ニ有之候 破損方役人 中間小頭并中間召連罷出度と致掃除候

一 追手御堀之内江身なけ死人等有之節ハ 破損方之役人 早速取上ケさせ置 町奉行江御使として
右之役人參申達候 御奉行衆方番人被仰付 追手近所迄生にさらし置申候 番人參候迄ハ此方
之もの附置申候 人主有之候得者 町奉行所江人主御斷申 夫と三片付申候 御城方取上ケ候時
水心有之下と又ハはしこ 繩など入候時 兼而其心得ニ而申付置候 但生候て有之者ハ
衣類等被遣之

一 大御番所 舁形張番所 太鼓櫓下 西丸仕切 此五ヶ所江著 帳前と外硯紙等遣置之

- 一 右五ヶ所江大燈灯遣置之
- 一 大御番御組頭衆并御番衆 御城江御出之時 其御組之御番頭方先達御切手被遣之 大御番所へ差越 其以後御通り候
- 一 大御番衆之内 御役人常々御門出入之儀 毎年御番代之節 御番頭衆方銘々御名御書付 御城代江被遣 其御書付亨 御番所江出し置候而 御在番中不及御切手御門出入
- 一 御番頭 御加番 御目付衆御家来 其主人之御名判札ニ而出入 大御番御組頭并御番衆御家来へ 而御番頭御連判之札ニ而出入 或へ御城内江入来候諸職人 其外在とら入来候掃除之者へ其参候先より迎送之札ニ而出入 何レ之御家来ニ而日歸ニ不罷成所 惣而遠方江被遣候ものへ送迎札ニ而出入 是へ人数何人何月何日何方江送札ニ而罷出候と帳に記置 縦へ其月不帰還り帰候共 迎札ニ而入候節承届 右之帳面見合 於相違者通し入ル 其節帳面ニ点かけ何月何日罷歸と書付置候
- 一 御番衆御小屋破損之節 職人御呼入候時 於御番所 是へ山村与助方江被仰遣 与助申付 前々御城中江入来候職人ニ而候哉 札持ニ相尋 職人ニも与助申付入来候ものにて候哉と尋候而無相違者町之名 其ものへ名書留置通し申候
- 一 上方御代官所方毎年追手舁形之内 御多問ニ而上納銀有之候 其節へ張番所 舁形御番所江御奉行衆方御断御座候 御代官衆之手代 其外御金ニ附参候もの共 右両御番所ニ而様子承届 人数帳面記置之 納金時明候以後 人数御城外江出し 帳面ニ点掛出申候 右之外御代官所などより 上納金之在之時着御城代江 御金奉行衆方御断御座候 其趣當番之番頭申付 張番所 舁形番所江相違 右之御金銀納ル 帳面ニ人数記置候儀 前々同納借金銀上納有之時分も此格也 但ケ様之改り候儀有之時 致混乱難見分候故 別帳ニ仕置能御座候 送札ニ而出ルと書付置申候 此帳茂別帳ニ而能候
- 一 大御番衆江奉公人女古来方入来候 是等不及御切手 迎札迄ニ而入候 誰様御組付様江振袖之女留袖之女食焼とか下女とか 其品を帳面ニ記置 右之女送迎ニ而御出し候節 最前之帳面点掛 何月何日送札ニ而出ルと書付置申候 此帳も別帳ニ而能御座候
- 一 大御番衆御知行所之者参候節 又へ江戸 二条方御親子 兄弟 祖父 伯父 甥 舅 賀孫 姉 妹 賀迄之御家来 飛脚として参候もの 御番頭之御切手ニ而迎送之札を以出入之 但飛脚之者へ 縦令親子之間方来候共 一切御城内江入不申候
- 一 大御番衆江御知行所方之者 其外之年季被召抱 御城中江入候時 御番頭之切手ニ而迎札ニ而入之
- 一 御番衆江江戸御宿并御子息様方参候飛脚者 不及御切手 迎送之札ニ而出入之 且又御家来何方へ飛脚ニ被遣候にも 迎送之札計ニ而出入之 縦令御子息様ニ而茂他家江養子ニ御越被成候得者 其飛脚へ御城内へ入不申候
- 一 大御番衆御家来永々暇被遣 御城外へ出申ニへ 其御組之御番頭方御切手ニ而送札を以出之御番頭之御家来も同前 御切手是又御一判也
- 一 大御番頭之与力同心 江戸方登り 御城中江入候節 又は江戸へ下り候時も 不及御切手 迎送之

札三而出入之不斷ハ勿論出入之札を以通也

一 御番代り之節 御番頭 御加番衆 江戸御宿 又ハ御在所より御迎ニ參候もの十人迄ハ不及御切手拾壹人以上ハ御切手三而入申候 十人方内ニても御切手被遣候得者 請取置申候而迎札ニ而入ル也 御城中ハ江戸御宿或ハ御在所江人被遣候時も 右之格也 惣而何れにても御切手參候ニも 迎送之札無之候得者 御門通し不申候

一 御番頭衆 御加番衆 御目付衆御家来 病人御城外江御出し 町屋ニ被差置候時 駕籠カ乗物ニ而罷出申ニ者 御切手入申候 おわれ出申候カ 歩行ニ而出候病人者不及御切手候 若被遣候得者 其通り候 為看病付罷出候ものには御切手入不申候

一 御番代之節 御番頭衆 御加番衆 大御番衆御家来 病人町屋ニ被差置 御代り以後御城中江入候時 十人迄者不及御切手迎札三而入 御切手參候得者 其通候 拾人余者御切手三而迎札を以入也 御目付衆御代り之時 御家来病人ケ様之儀有之候得者 右同前候

一 死骸御城外江出候時者 御切手參大番所江差越其以後通也 死骸ニ付罷出候人数ハ 出入之札を以通也 死骸駕籠カ乗物ニ而出候得者 其断御切手ハ載候者也

一 御番頭衆 御加番衆 御目付衆馬おち候て御城外ハ出候時者 札計ニ而馬持出ス人足出入

但御城代江以使者御断計ニ而 馬ニ者手形も入不申候

一 伏見御本陣江為用諸町人參候門帳付差置之 但玄關江言通之用儀有之者ハ各別之事

是ハ本陣狭ク候故 右之通ニ而惣而伏見江ハ見廻使者多候付而 兼而其心得仕候事

大津泊江も使者見廻多有之事

一 同所にて御船手ハ御座船為迎被差替候付 御乗船 尤前方道中迄 其段御船手ハ使者ニ而申来候事

一 御座船ニ付參候与力ニ者 船中ニ而料理振廻 惣水主には こわ飯酒肴為給候 与力江著大坂入代以後 以支着時服式被遣候事

是ハ大坂江御着以後 於彼地承合

一 同所ハ御座船ハ早ク候付 家中之面々ハ先江出船ニ而能候

一 道中迄飛脚參候時者 御手前人ニ而候得者鳥目遣之候 町飛脚にて候得者不遣候事

道中覚書

一 銀貳枚宛 御泊り之御宿江被下候

一 同亭枚宛 御昼休御宿江被下候

一 所々船渡シ井川越等ニ者被下物無之

一 問屋同断

一 品川 河崎迄御一門様方御使者參候節ハ 其人ニより時服羽織 或銀貳枚カ亭枚カ 金貳百疋カ 御歩行丈ニ者百疋 足輕飛脚ニ者鑿壹貫文 中間ニ者鑿五百文被下候事

一 外之御方様方之御使者ニ者被下候物無之候事

一 同御進物者御受納被遊候事

一 御代官衆方来候進物者返之候事

一 宮之渡之には船頭水主江こわ飯酒被下候事

一 京都江御立寄之節 所司代江御太刀 馬代 黄金壹枚御持參候付而 兼而致支度 道中明候長持江入候事

八月御番代

是八前日御材木奉行衆方書付御持參候事

一 各井御番衆小屋後之御櫓 如例御番代前二付三橋右衛門九郎

一 門奈物右衛門 来廿二日可有見分由候 雨降候者 廿三日可罷出之由候間 為御心得如此候以上

七月十八日

御城代
御定番

岡部丹波守様
菅沼主木様

但御月番を口二書也

一 山里御櫓御多門 此外之御文言右同断

七月十八日

右御三人

小笠原土佐守様

一 先登御加番土岐伊豫守様 道中草津方飛脚到来 町奉行衆方御状御届 此御状御報者 御着前當地町御宿迄御着前二被遣之 但餘日無之付而 不被遣候事も有之

但御奉書御持參候由被仰遣之

一 土岐伊豫守様御到着二付而 為御案内張番所迄御使者来ル 御即答相済 追付此方も御使者被遣之

一 酒井石見守様 屋代越中守様 前田宮内様 段々御到着御届右同断

一 二日御城内外之御加番衆 御城代江御寄合有之事

明二日五時過御城入 私宅ニ而出来合之料理參候様ニ御出待存候 尤御城内御加番衆江も申達候間 御出合御番所御交代之儀可被仰談候 以上

八月朔日

御参人

土岐伊豫守様

酒井石見守様

但八朔御本丸御出仕二付下り

屋代越中守様

御加番江者不及御廻状候事

前田宮内様

一 御城内之面々并町奉行江者八朔御出合被成候付 二日御出合之儀 御直被仰達候付而不及廻状候

是八御證文 土岐伊守様御持參付而也

明二日登御加番衆御合力米之御證文可相渡候間 五時過如例御出可在之候 以上

八月朔日

御参人

御藏奉行殿

一 御加番衆御小屋附御石火矢改并小屋為見分 二 日御家來御城入三付而 前日御切手來少御場所
江致仰付候事 但御加番御四人不殘右之通之事

一 二日御定番 御番頭并御城内之御加番衆 町奉行衆 御目付衆御出合 土岐伊豫守様御持參之
御奉書御請有之

御奉書 從享六年記之

一 筆令啓候

公方様益御機嫌好被成御座候間 可被心易候 將又其許為御加番代松平遠江守 西尾隱岐守
堀長門守 井上筑後守被差遣候 可被相談候 恐惶謹言

七月十三日 四御老中

松平因幡守殿
安部撰津守殿
遠山主殿頭殿
小田切土佐守殿

覚

役高三万式十石 松平遠江守
役高貳万石 西尾隱岐守
役高壹万石 堀長門守
役高壹万石 井上筑後守

右四人為大坂御加番代被差遣候付 御合力米之儀 以書面之高四ノ物成之積 當年与来年間
度半分宛手形取之相渡候様 御藏衆江可被申渡候 以上

元禄三年

七月十三日 相模印
山城印
豊後印
加賀印

松平因幡守殿
安部撰津守殿
遠山主殿頭殿
小田切土佐守殿
熊勢出雲守殿

右之通程付紙横折ニ相調參候故 前方何万石と御名之所 月日明置 至其時書入申候
是者御本紙御列座ニ御渡被遊候故 手間取不申ために候事

右御奉書御請

猶以御加番衆御合力米之御證文 御威奉行衆江相渡之申候 以上

先月十三日之御奉書 松平遠江守今二日持參 拜見仕候 公方樣益御勇健被成御座之旨 恐
悅奉存候 然者當地為御加番代 松平遠江守 西尾隱岐守 堀長門守 井上筑後守被差遣候間
万事相談可仕之由 奉得其意候 追々到着 今日於因幡守宅參会仕候 從明三日段々御番所
請取候等御座候 當御城内無異 御番衆無恙勤仕 町方迄相替儀無御座候 恐惶謹言

八月二日

四人

四御老中樣

参人々御中

右之御請者御奉書之日付不相知候付而 日付書人候程明置 至其時書人申候 乍去先月
者計相調一行之字積致了簡明置候而調能候事

追而啓上仕候

公方樣益御機嫌能被成御座 恐悅奉存候 然者松平遠江守江御懇之御傳言之通申被聞 忝奉存
候 各樣弥御堅固御座候由 珍重奉存候 當地別条無御座 私共無異罷在候 猶奏期後音之時候
上所

八月二日

三人 但御傳言之御方承合

四人 二通之内出之

四御老中樣

参人々御中

右御傳言者町奉行衆江無之儀有之付而 御状二通相調置可然候事

一筆啓上仕候

公方樣益御機嫌好被成御座 乍恐目出度奉存候 然者當地為御加番代 松平遠江守 西尾隱岐
守 堀長門守 井上筑後守追々致到着 今日於因幡守宅參会仕候 從明三日段々御番所請取之
管御座候 當御城内町方迄相替儀無御座候 猶奏期後音之時候 上所

八月二日

四人

牧備後守樣

参人々御中

右之御状者御文言相究候故 前方三調之候

一二日次飛脚相立候節 江戸方參候奉書御請被遣候節者 御加番衆御持參之奉書御請二當御城内
無異 御番衆無恙と有之文言人候付 次飛脚三參候奉書御請三者除之 猶奏期後音之時候と留
申候 是八同日被遣候付而也

一 登御番頭 江戸御屋鋪江御出 又者御狀參御方様杉原半切三調之 御登候以後御逢被遊候節 為御挨拶御前辻差上ル

一 御加番衆御出御狀之儀 是又同前之事

一 御組頭御番衆御出之儀著 御城人之為御届 御出之節御小屋江御使者被遣候時 御口上三書入遣之候事

七月廿八日 御到着 松平遠江守様

為御案内張番所迄御使者来 尤御奏書 御證文等御持參之儀 御口上三有之

右御返答相濟 從是茂先刻者御使者遣中御無事御上着珍重存候 来月二日可得御意候由被仰進候事

七月廿八日 御到着 井上筑後守様

為御案内張番所迄御使者来ル 右同断 但奉書御持參之儀無之

七月廿九日 朝御到着 西尾隱岐守様

右同断

七月晦日御到着也

八月朔日御到着 堀長門守様

右同断

一 為八朔之御祝儀 登御加番衆 張御番所迄御使者来ル 從是も御返礼旁御使者被遣候事

以御使者山里丸御門之鍵二本御返進 土岐伊豫守様

去年御登之時分 右之鍵御請取之節 御家来方此方之御使者迄請取手形相渡候付而 右之御使者三返ス

二日

一 六ツ半時 御定番土佐守様御出 是ハ御請御判形被成候付而也

一 御城内外御加番并御目付衆 而御番頭御出 何茂麻上下御着 御料理三汁五菜

一 御威奉行衆御出候付而 於大廣間御合刀米之御證文御渡レ被遊候 即刻御退出也

一 御連狀御判形相濟 町奉行所江被遣候目錄

覺

一 御請 宍封又ハ宍通其但御覺書ニ而も入候時ハ宍封也

是ハ美濃紙ニ而折掛ニ包之上ニ御請ト書之

一 御老中江 宍通 是ハ御覺書之御札故前ニ出之

一 牧野備後守殿 宍通

一 能勢出雲守殿 宍通 是ハ次飛脚之度ニ相極リ被遣之

一 宿次證文 宍通

外ニ

一御老中江 忝通 登御加番衆。

一牧野備後守殿江 忝通

以上

八月二日

右之通相調候 七百 茂同断
十二百

一三日京橋口方山里丸御番交替付而 夜不明前極楽橋御目付徳永平兵衛様御番所江御出被成候
付而 仕切御門平兵衛様御断次第明申候様ニ可被仰付之旨 土岐伊豫守様江一日之晩被仰遣之

一御料理過河茂被仰合 先下之御番頭 御加番四人江為御暇之御越被遊候 此時御羽織也

一右之為御札御使者来ル 但家老中被參候時ハ御直答也

一土岐伊豫守様 三日御交替ニ付而 為御暇之御出 即刻從是為御禮御使者被遣之

一伊豫守様方去秋中方八月二日迄參候御切手目録ニ記之 御返シ被遊候事 但御覽札者御城外
為御用御差置 暮合御返シ被遊候

以手紙令啓上候 然者去秋方被遣候 追手御番所御切手目録之通 為持進之候御鑑札者未
御用も可有御座亭存 先留置申候 晩程返進可申候 以上

八月二日

土岐伊豫守様

一御切手目録相認様

覚

御切手 已八月六日方 八通
午八月二日迄

以上

八月二日

右御目録者杉原半切ニ認之 員數之所明置 何枚と相知し申候時 書加申候事

三日

一京橋口御番交替 土岐伊豫守
松平遠江守

一御番代相濟 為御用遠江守様御出 即刻為御札御使者被遣之

明四日五日六日七日十二日 追手 玉造口方交替ニ付 夜不明前 徳永平兵衛殿御番所江
被罷出候間 右五ケ日断次第仕切御門明申候様ニ可被仰付候 且又明四日酒井石見守交替付
而 追手御門者六ツ打明之候得共 西之丸迄晝夜不明前 石見守家来繰出候様仕度候 仕切之
御門晝夜中ニ而も不苦候間 拙者左右次第御明させ可被成候 已上

八月二日

松平遠江守様

右晝夜明候而 御家来御くり出し候得者 よほとの間御座候故 如此被仰遣候哉之事

一京橋口御交替相濟 遠山主殿頭様方御届之御使者来ル 御即答濟 従是も御使者之序而
候得者 右之御挨拶も被仰遣候事

一山里御櫓御多門之鍵二本 遠江守様江以御使者被遣之

一遠江守様方追手御門江御出し被成候鑑札三枚来ル 御手紙并御報別条無之

一明四日御交替付 酒井石見守様御出 殿斗出之
即刻御使者被遣之

一追手御門御切手石見守様江御返し被遊候事
御手紙目錄別条無之 前三記之

一井上筑後守様 四日追手方御交替付而 従是御使者被遣之

御口上

明四日御交替以後 御小屋御取込三而可有御座候間 朝之料理於私宅進可申候而 御小屋
御見分以後御出侍人候

四日

一御番代三付而 御在所方時分を御考被遊候御口上書 是ハ三日之晩相調御前江上ル

御時分能候御番所迄御出可被成候 下條長兵衛様
拙者儀先刻方御番所ニ罷在候 徳永平兵衛様

未夜明候得共 酒井石見守家来
西之丸仕切御門迄繰出し候様ニ仕 松平遠江守様
度候而 両仕切御門御明させ可被成候

一四日曉七ツ時分 井上筑後守様方御切手来ル 是等御小屋為請取 御家来御人被成
候御断 御口上三而来候故 御即答にて相濟 但御證文可然ク

未夜明不申候得共 西之丸仕切之御門迄 酒井石見守様
御家来衆御くり出し可被成候 但大御番所江御上り
候時殿斗出ル

右着御番所方以御使者被仰遣之 尤前方方

此御口上奉書紙半切ニ調之置之

酒井石見守様御家来衆御城外江 井上筑後守様
出拂申候御家来衆御城中江御入 但大御番所へ御上り
可被成候 候時殿斗出ル

右同断 調置之

右御交替相濟 御目付衆御同道三而御座敷江被入為筑後守様御小屋へ御入 早刻御出 御料理
出ル

御交替候日来ルも右暨紙目録

御太刀 一腰

御馬 一疋

松平遠江守様

干鯛 一籠

以上

御口上

昨日交替首尾好相済候 為御祝儀 目録之通致進上之候

右御即報結御状ニ而被遣之

御文言右之趣計 何茂期面上御礼可申述と調之

一 右御返答以後 従是も御使者 先刻者何と

被逐御意忝存候 其節御返答者申入候得共 為御礼以使者申達候

一 屋代越中守様 明五日御交替為御暇之御出 熨斗出ル

即刻為御礼 従是も御使者被遣之

一 右御同人様江御在番中之御切手御返シ 鑑札ハ御城外江為御用及暮御返シ被遊候事 但あなた方取ニ参候事も有

右御切手目録手紙等前記之

一 玉造口方御番交替ニ付而

明五日方来ル七日迄 玉造口御門方御番交替付而 御目付衆不夜明前 玉造口江被相通

候間 岩岐坂御門断次第 早速被明候様ニ可被仰付候 以上

八月四日 是ハ四日御交替之日方御番御
勤被成候付而如此

井上筑後守様

一 筑後守様方御交替之為御祝儀 御太刀 馬代 御肴一種来ル 御即報御礼使者前三有之

一 水野周防守様方御連状到来 御披見御廻シ被成候事

水野周防守殿方連状到来 遂披見廻申候如例

明五日可為到着候由申来候 則返書相認廻之申候 以上

八月四日

安部撰津守様

遠山主殿頭様

小田切土佐守様

右者御報無之事ニ有之

明五日水野周防守殿到着可在之由 只今飛札到来申候 御合力米之御證支持参可被申候而 明日御城人之案内有之候者可申入候条 其節如例御出可有之候

先為御心得申達候 以上

八月四日

御藏奉行殿
御金奉行殿 御證文等計相調之

五日 玉造口御交替
西尾隱岐守
屋代越中守

水野周防守様御到着之為御案内 御使者張御番所迄来ル
右御城入 西御番頭小屋江御越 其以後御城代江御出被成候付而 下り御番頭を御門御断之御手
紙来ル

以手紙致啓上候 然者水野周防守就到着 御城人之案内先達而申越候處 通之遅成及延
引 只今御城入候得共 如例人数別紙書付致進上候 御番所江被仰付可被下候 後刻同道
仕可 得實意候 以上

八月五日 米津周防守
酒井右京亮
松平因幡守様

覚 水野周防守
別紙切紙三書之 供之者拾人
以上

右者御到着先達而 張御番所迄為御案内御使者張御番所迄来ル 御番頭も右之書付御城代江来り
其以後御城人之筈候得共 周防守様無程御城人被成候故 右之通御断延引候 前兼御番所江茂
被仰置候故 無相違連し申候 其上御奉書御持参之躰家来共及見候付 通し申候と御返答有之
一 周防守様御出 御奉書御持参御證文も御持参被成候

下り御番頭御向人御同道麻上下也
但此節御定番御町奉行衆御出合無之

水野周防守殿到着 追付御城入可有之由候之間 只今如例御出可有之候 以上

八月五日
御金奉行殿
御藏奉行殿

右之御證文毎年相究有之候故 下書相調置不知所明置候而 御持参之時書入申候 此御證文早
速御金御奉行衆江御渡し被成候付而 其時写して八手間取申候付而也

一 右御持参之奉書写之廻し申候

水野周防守殿今朝到着 奉書被致持参致拜見候處 公方様益御機嫌好被成御座恐悅御
同意奉存候 御老中へ傳言有之候 則奉書写廻申候 御合力米御證文二通参候間 御金
御藏両奉行衆江相渡申候 以上

八月五日

安部撰津守様
遠山主殿頭様
小田切土佐守様

一 西尾隱岐守様 今日玉造口より屋代越中守様と御入替被成候付而為御届御出早速御使者被遣之御口上別條無之

一 御同人より御交替為御祝儀以御使者

大高櫛紙

御太刀 一腰
干鯛 一籠
御馬 一疋

以上

從是着御状三而御返答相済 自是も即刻為御礼御使者被遣 但御使者へ御状三而御礼被遣候儀馬代等も有之付而也

一 前田宮内様方 去秋中方被遣候御切手目録之通被遣之 鑑札ハ為御用及暮御返レ被遊候筈文言前三有之

六日 玉造口御交替 堀長門守様
前田宮内様

一 堀長門守様御交替以後為御届御出 從是も御使者被遣之

一 御同人方御交替為御祝儀以御使者

進上

御太刀 一腰
干鯛 一籠
御馬 一疋

以上

堀長門守

右御口上別條無之 從是着御状三而御即答有之

追付為御礼從是も御使者被遣之

一 明七日御繼飛脚相立候付而御廻状

明七日如何次飛脚相立 從長崎之御用物 状箱も差下可申候間 料理參候様 五ツ之太鼓御聞候而御寄合可被成候 以上

八月六日
安部撰津守様
遠山主殿頭様
小田切土佐守様

明七日繼飛脚相立申候付而五ッ時過何茂寄合申候 玉造口交替相濟申候ハ、料理參候様ニ御出合可被成候 以上

八月六日

下條長兵衛様

徳永平兵衛様

猶以酒井右京亮殿江着不申入候而 御參會之節 次飛脚相立候儀 御心得可被下候 以上

明七日江戸江次飛脚相立申候付而 何茂寄合申候間 料理參候様 五ッ時過御出合可被成候 以上

八月六日

米津周防守様

明七日御交代以後 江戸江次飛脚相立申候付而 何茂寄合申候間 五ッ時過料理參候様ニ御出待存候 以上

八月六日

水野周防守様 是ハ御旅宿江遵之

明七日江戸江次飛脚相立申候付而 何茂寄合申候間 料理參候様ニ 五ッ時過御出合可被成候 以上

八月六日

松平遠江守様

西尾隱岐守様

堀長門守様

井上筑後守様

明七日江戸江次飛脚相立申候間 御狀被遣候ハ、小田切土州迄可被差越候 弥御無事可為御勤仕 珍重存候 御加番代も今日迄首尾好相濟申候 以上

八月六日

小濱民部様

鍋屋平三郎

明石屋嘉兵衛

坪屋利右衛門

二本一屋七五郎

安臺屋平兵衛

神田屋八郎右衛門

大嶋屋治兵衛

油屋助五郎

鉛屋治左衛門

右披露御供番

辰巳町濱側江

大坂御用達

大津屋新助

右披露御郡代名計被成下

御意

右同所へ

灘御銀主

惣名代忝人

右披露御郡代名計被成下

御意

右同所へ

大坂御用達

泉屋六郎右衛門

泉屋次郎右衛門

泉屋七十郎

右披露御郡代名計被成下

御意

右同所へ

御雁之間御礼之者

本咲利兵衛

加藤利(九)兵衛

灘屋新右衛門

奥田吉左衛門

太田吉兵衛

塩津屋治左衛門

豊嶋屋治兵衛

鍋屋平三郎

油屋長兵衛

直物屋吉右衛門

右披露御郡代

御意無之

右同所へ

大坂御用達

小橋屋長兵衛

右披露御郡代名計被成下

御意

御帰城之節 辰巳御船上候へ御郡代此所へ罷出

御目見申上 小橋屋長兵衛方大津屋新助迄披露仕置ニ御先へ拔

東大手先へ罷越 嘉納彦右衛門披露仕

右披露御供番

雁屋六兵衛

魚崎屋豊吉

大坂屋市右衛門

碓屋庄右衛門

風呂辻町大道北側江

時友村

嘉兵衛

鴻池村

玄次郎

五毛村

弥左衛門

濱田村

新七

藤嶋岩右衛門

右披露御供番

右同所江

御城下御仕送方

廣嶋屋有助

七松屋新右衛門

小豆嶋屋治兵衛

竹屋五郎兵衛

野間屋喜右衛門

塚口屋五郎兵衛

油屋喜兵衛

右披露御供番

右同所江

御城下新融通方

柏屋弥兵衛

船屋休右衛門

能見屋新兵衛

和泉屋庄兵衛

油屋庄兵衛

丹波屋七兵衛

坪屋平右衛門

嶋尾屋平兵衛

加嶋屋善兵衛

名塩屋庄兵衛

梶屋源右衛門

安臺屋太郎兵衛

梶ヶ嶋屋善右衛門

毛馬屋喜兵衛

大津屋平兵衛

大和屋伊兵衛

大和屋儀兵衛

右同所江

御城下新融通方

奥田吉左衛門

平野屋吉兵衛

豊嶋屋治兵衛

市庭町大道北側江
魚問屋共

名塩屋庄右衛門

天野屋市兵衛

名塩屋庄兵衛

手ノ平屋清七

中屋九右衛門

引穴屋清七

手平屋初三郎

碓屋五郎兵衛

畑中屋甚八

直物屋吉右衛門

手ノ平屋清藏

名塩屋太次兵衛

右披露御供番

右同所江

御城下過書坐年寄

岩井武兵衛

同見習

岩井厚之助

右披露御供番

右同所江

御城下御用達町人共

鯛屋吉右衛門

油屋幸右衛門

船屋伊兵衛

北濱屋源右衛門

荒牧屋吉左衛門

木屋平兵衛

樽屋市右衛門

塩屋清兵衛

船屋休右衛門

木挽屋勝十郎

土佐屋宇之助

木屋弥兵衛

竹中屋喜八

綿屋喜兵衛

廣屋藤十郎

柳屋甚次郎

蟹屋久四郎

大石屋利三郎

二本一屋七五郎

八百屋宇兵衛

本買屋喜兵衛

八百屋平兵衛

小蜷屋八兵衛

本買屋市兵衛

御別當

御普請方小役人

惣組小頭

右御普請奉行之所ニ而 何茂与被成下 御意

中御門外形之内江

堀小三郎

右名計被成下

御意 益御機嫌能御旅行被遊候様申上ル 其方も息災ニ与被成下

御意

東大手橋詰南之方江

御家老

御中老

右名計被成下

御意

東大手先町家北側へ

御物頭

御使番

右何茂与被成下 御意

東大手筋江

御郡代忝人

右名計被成下 御意

同所秋田養元前江

灘御銀主

嘉納彦右衛門

右披露御郡代名計被成下

御意

此御郡代披露相濟 直ニ御先拔 辰巳御銀主共出候所へ罷越

東大手突當

別所町江

大庄屋共

右披露御供番

右同所江

初嶋新田開發人

小山屋半七

道意新田開發人

鍵屋玄章

右披露御供番

市庭町通筋東側へ

名川慶仲

堀江如圭

田邊慎常

右披露御供番

市庭町通筋江

御目付忝人

右名計被成下

御意

御帰城之節ハ御目付

御目見仕 直ニ御駕籠之先へ立 御玄関迄御先立

一御参府之節ハ御先立無之

右同所江

御徒目付一人

右何茂与被成下 御意

西之方江

表御家老

御取次

御玄關外

御臺所之方江

御臺所目付

御帳付

御薪藏請込

御料理人

御臺所附小役人

御藏方附小役人

御新坐敷番人

御子様御部屋番人

右御意無之

御玄關脇江

月番御徒目付

太鼓御門外形内江

御郡代兩人

右名計被成下 御意

太鼓御門橋詰江

御徒目付壹人

太鼓御門外方御船場迄

御行列之先江立

御普請吟味役

右羽織踏込着用 御意無之

御帰城之節ハ辰巳御船揚場方太鼓御門御橋際迄

一十三方御乗船之節ハ太鼓御門外方北ノ口町外迄

御帰城之節 十三御船上リニ候得ハ北ノ口外方太鼓御門橋際迄

五軒町明屋敷前江

寺社奉行

武具御藏奉行

御勘定奉行

樋方役

御祐筆

御勘定吟味役

判帳改役

御納戸御買方

御代官

山方支配

会所御勘定人

同臺所兩小役人

右寺社奉行江名計ニ成下

御意 直ニ何茂与被成下 御意

作事小屋前江

御徒目付壹人

同所江

御普請奉行

同吟味役

能被遊 御旅行候様申上ル 其方ニも随分息災ニ与被成下 御意 直ニ留
守中政事向入念候様被成御意 御中老も右同断

一 御供之御側御用人 御近習 御側医師見計

御前江罷出 窺御機嫌 御先へ罷越候段申上 御船へ罷越

一 十三方御乗船之節へ 東大手へ御先江罷越 是方御行列帳之通御臨
被立

一 御新坐敷江被為入 役如初御暇乞申上ル

一 御供揃以前御側御用人一同ニ罷出 御機嫌能御旅行被遊候様申上ル

其方ニも随分足才ニ与被成 御意

一 御近習一同罷出 右同断

一 御供揃 御目付申上ル

御熨斗

鬼打豆

右御臺所支配差上之

一 御側御用人 御近習 不残御玄関江御供

御通筋江罷出候面々

上溜之間江

大坂御留守居

遠藤権三郎

大小姓目付

御新坐敷附

御側医師
御茶道頭

右何茂と被成下 御意

御帳之間西御唐紙際江

右御意無之

御子様方御附

御廣間當番

御物頭

給人

大小姓

右御物頭江名計被成下 御意

御玄関下坐筵敷出

東之方へ

御目付老人

右名計被成下 御意

御居間方御式臺迄御供

御側御用人

御臺所支配

御初方

御近習

右御駕籠ニ被為 召何茂与被成下

御意
下坐筵敷出

下 御意 御銀主者名計被成 御意

目錄

一 御参府前方江戸御着坐迄并御道中一件

一 御帰城御着座一件

一 十三御乗船御道筋江罷出候出場所

一 淀川差支之節 枚方通御出一件

一 山崎通御往来荒間増

一 参州桜井菩提寺江御参詣一件

御参府

御帰城 一件

一 御参府前為御暇乞 大小姓已上御礼被為請 式日之通

御發駕 當日御道筋江罷出候 役々并御見送 御供之給人 大小姓御礼不被為請

一 御帰城後 初而御礼之為請候節も右同断

右両様御礼 五節句又者式日之御序ニ兼而被為請候得共 不殘御礼申上ル

一 御發駕前々日於

御座之間 御留守中之義 被 仰付 御意 左之通

留守中家老共請差函 入念可相勤

御側御用人一同

御役人一同

御臺所支配 一同
御勤方 一同

遠藤權三郎

大小姓目付 一同

御新坐敷附 一同

右御家老御取合

一 右畢而浦廻役一同罷出

御意左之通

常々勤方致出精 太儀ニ候 留守中諸事入念 可相勤候

右御請御家老御取合

一 御近習江御留守中相慎 猥ニ外様付合不致候様 御側御用人を以被

仰付之 於御頭申渡

一 御側醫師江御留守中相慎 可相勤之旨被仰付候段 御側御用人諸席ニ而申渡

一 源正院并江田伊与守為 御暇乞 御礼被為請 席例之通

一 御菓子一折 深正院

右披露御家老被成下 御意

一 御肴 江田伊豫守

御礼

右披露御側御用人進物 何茂御近習役之

一 御發駕前日 御道筋江罷出候 名前御手控 御目付方御頭迄差上之

一 御發駕當日 御支度被遊候而 御家老御逢御平日之通 此節益御機嫌

一 神前之神酒神主下之 御目付江差出 御目付方御近習江渡之

御前江差上之 神主被遊御戴

御中老壱人
御側御用人壱人

一 先例之通取計候様 御近習へ被仰付 御目付へ申傳 御目付 御近習神

酒頂戴 夫方御供番江御造酒被下候段 御目付申談 御供番初 御徒

士迄頂戴 右相濟 御供揃ニ而次之宮へ御参詣

一 外様迄御造酒被下へ初之宮計 跡ニ社ニ而者不被下 御目付 御近習へ

三社共被下之

一 今日御供服穢 御改

公儀御代替之節

諸國為御巡見御通

當國御巡見之節西

大手江御出

御慰所へ御出

一 伊丹錢屋八左衛門方へ御出之節 鮎漁之節者 河原へ為御馳走御小屋

建之

一 八左衛門宅ニ而出

御目通八左衛門へ御酒被下之 此節八左衛門与被成下

御意 彼是世話之趣 御相應之御詞被下之 御召下御服被下之 御家

老御供之節へ御家老御取合 御家老御供無之節者御側御用人御取合

一 御他領江御出之節 御宿柄ニより御目通ニ而御酒被下

御詞被下之

一 御巡見之御方様

御使番方御壱人

兩御番方御壱人ツ、

大坂御屋敷ニ而御館入

与力 御銀主 御目見

一 御居間御唐紙開置 差上物扇子 御側御用人持出 御敷居之外ニ差上

之披露名計被成下御意 初而逢候 足才ニ被勤 一段之事存候与被成

一 御通行之節 高札場南江

御家老壱人

御臺所支配老人

御近習式人

寺社奉行

一 御出之節 和尚門前へ罷出 源正院与被成下 御意

一 寺社奉行門内江罷出 名計被成下 御意

一 御目付 御臺所支配 御近習下坐敷へ罷出

一 御家老玄閑敷居内へ罷出 此節 御意

一 御手水御臺所支配差上之 惣御位牌江御拝礼 但御一拝

一 御臺所支配 御先立三而御坐之間江被為 入

一 御着座之上 和尚御手掛昆布差上之 御礼申上 昆布引之

一 御家老御逢 此節被成下御意 直二東之方江着坐

一 御雑煮出 御家老江も出

一 御吸物出 御家老江も出

一 御三方 土器出 御爛鍋出 壺献被召上 御家老江も

御意三而御酌 御近習次之

一 御肴御臺所支配差上之 御家老江茂御肴 御臺所支配引之 壺献被召

上 御肴御家老へ引直三

御前江差上置 尤御挟肴三成 御三方持 御臺所支配三疊目下江下り

和尚呼出 御盃被下之 御肴頂戴之和尚御盃持下改候而御臺所支配

請取之 御三方江戴献盃 和尚御礼申上 御家老御取合

一 御挟肴 御吸物 御三方土器御銚子入 御雑煮引

一 改而御吸物出 塗御盃 御肴二種献進 合五献三而御銚子入 御家老同

断酌御前小僧

一 御菓子出

一 御帰之節 御家老 寺社奉行 和尚出場所 御出之節之通

一 御墓所へ御参詣 御供番 御目付御先立 御刀番 御近習老人御供 御

帰之節 和尚 寺社奉行 御意無之

一 御平日御参詣之節 御臺所支配老人 御近習老人御先番 和尚之出場

所玄閑敷居之内 御往来共

一 御参府前御暇乞(カ)

御帰城後初而御参詣之節 和尚へ御盃被下之 年始之通御雑煮無之

御吸物 御肴 御挟肴共三種

三社御参詣

一 正月九日三社御参詣 御祈願所より前方 御吉方書付差出之

一 恵方之方初ニ御社参跡 二社へ御順路次第

一 御目付老人 御近習一人 三社共ニ御先江相詰

一 御郡代老人 初御参詣之宮江罷越 鳥居外ニ而 御目見 名計被成下

御意 鳥居外ニ惣町名主罷出 御郡代披露

一 寺社奉行三社共御先へ相廻り 鳥居内ニ而 御目見 名計被成下御意

初之宮之節計 跡ニ社御意無之

一 神主鳥居内江罷出 寺社奉行披露 御意無之

一 社内中程ニ而被遊御下乗 御供番御先立 拝殿下方御目付御先立 御

目付御手水差上之 御拝礼之節御目付幣差上之 夫より拝殿之内屏

風仕切之内へ被為入

四月廿日

大猷院様御祥月 天王寺へ御参詣

四月晦日

有章院様御祥月 専念寺へ御参詣

五月八日

厳有院様御祥月 天王寺へ御参詣

一 今日天王寺御帰之節 御途中ニおゐて御供番被為召 供廻り笠免スト
被成下御意

六月十二日

惇信院様御祥月 専念寺へ御参詣

六月廿日

有徳院様御祥月 天王寺へ御参詣

七月十四日

盆中ニ付 天王寺 専念寺惣御佛殿江 御参詣

此(分)参詣無之 御使者ニ而多分相濟

九月八日

浚明院様御祥月 天王寺へ御参詣

十月十四日

文照院様御祥月 専念寺へ御参詣

御城代様江御勤

一年始御勤 正月四日両御定番様 両町御奉行様へ茂御勤

一 六月土用中御勤御城代様計

暑中ハ多分御出無之

一 御参府前被仰入 為御對話御出

一 御参府前為御暇乞(カ)御出 尤両御定番様 両町御奉行様へも

一 御帰城後四五日之内ニ御出

一 御帰城後被仰入 為御對話御出

一 寒中御勤御城代様計

一 江戸表ニ而御吉凶共惣御出仕有之候得者 御城代様へ御勤

一 御城代様御出府ニ而御留守之節ハ 御月番御定番様へ御勤

御老中様大坂江御出之節

御勤

一 御老中様 大坂松平隠岐守様御屋敷御旅宿ニ付 右御屋敷へ公儀為窺

御機嫌 御出

大坂出火之節

御出馬

一 御出馬被遊 御城代様江御案内被仰遣 御差凶次第ニ而御詰場へ被成

御出 御人数計之御差凶も有之 消火之上御直勤被遊

深正院江御出

一年始初而御参詣之節 御先へ左之通相詰

御家老壹人

御目付壹人

常安院様御挨拶へ御立なから御腰之辺へ御手御下ケ被成候俣ニ而御挨拶被遊候様 相伺候

一天王寺廣小路松原之辺ニ御使番控罷在 御出被遊候節 御使者相勤候段申上ル 太義と被成下 御意

但御左之方

御勤順ニ寄 専念寺方所ニ御勤被遊 天王寺御打留ニ相成候節へ御使番御出相待居候而へ御目付江之御届難相成候付 其節へ御出不相待御届ニ罷越

一天王寺御宿坊修禅院 御側御用人 御近習一人御先番ニ罷越

一御出之節 御宿坊修禅院玄関式臺へ御出迎 玄関方座敷へ御側御用人

御先立 座敷江御通被遊候後御宿坊

御前江罷出 窺御機嫌 此節相應被成下 御意

一御支度被遊

御靈屋江御参詣 御宿座敷路次方被遊御出 御宿坊御案内 御供番御先立

一御靈屋御囲外ニ而大小姓御供落ス 御手水鉢之所迄御臺所支配 御近

習御供番御供 御臺所支配御手水差上之

一御参詣相済御帰之節 御先立同断

一御宿坊ニ而御湯漬差上之 先方之給仕相断 御近習御給仕

一御支度被遊 夫方所ニ御勤

御城代様

兩御定番様

兩御町奉行様

右相済 御屋敷江御帰

一御帰之節 御船迄御歩行之節へ御先立 御側御用人

一佃通陸地御往来之節 御小休 大仁村

一神崎通陸地御往来之節 御小休 十三村

正月十日

常憲院様御祥月 天王寺へ御参詣 近年正月十日御参詣無之

正月十七日

東照宮御宮 天満建国寺へ御参詣

一建国寺手前江御使番控罷在 御出之節御使者相勤候段申上ル 太義と被成下 御意 但御右之方

一建国寺門内へ御駕籠御乗込 御宮之前柵門之前ニ而御下乗 是方御供

番御先立

一御宮御門前番所下坐被遊 御会釈

一御門内手水鉢之辺ニ而大小姓御供落ス

一御臺所支配 御手水差上之 御臺所支配 御近習 御供番御鳥居外ニ而御供落ス 是方御壺人被遊御出 白張着之者御草履差上之 雨天之節 御鳥居内御手傘

正月廿四日

台徳院様御祥月 専念寺へ御参詣 近年正月廿四日御参詣無之

二月廿四日

孝恭院様御祥月 天王寺へ御参詣

四月十七日

東照宮御祭礼 建国寺へ御参詣

『大阪城代勤方條々記』(一)

大阪城出門次第書

目錄

- 一大坂御出之部
 - 但天王寺 專念寺
 - 御城代様御勤
 - 御老中様大坂御出之節御勤
 - 一大坂出火之節御出馬
 - 一源正院江御出
 - 一三社御参詣
 - 一公義御代替諸國御巡見之節 當国御巡見ニ者西大手江被成御出御挨拶
 - 一大坂御出之節御忍ニ而所々御出
 - 一為御慰所々御出
 - 一大坂御屋敷ニ而与力御銀主御目見
- 大坂御出之部
 - 一正月四日年始為御勤 天王寺 專念寺 其外所々御勤 御往來御乗船
- 一御供御側御用人 御臺所支配計 御船中も熨斗目 麻上下 其外平服 御側醫師野袴
- 一壹町目御船場江御船奉行御往來共罷出 名計被成下御意
- 一大坂川口荻分ヶ橋 御番所前御通船之節 御召船御障子少計明ヶ置
- 一大坂市中ニ而格別之御親類様 御屋敷ニ而御門下座有之節ハ 御側御用人 御臺所支配之内ニ而御縁江罷出下座請之
- 一御屋敷前御船場江為御出迎罷出
 - 大坂御留守居
 - 同添役
 - 小橋屋長兵衛
- 右御通掛 銘々名計被成下御意
- 一御船場方御歩行之節者 御側御用人御先立
- 一御屋敷江被為入候上 御留守居より御勤御順書差出
- 一專念寺江御参詣御近習一人 御先番ニ罷越
- 一專念寺少手前 同心町入口之辺ニ御使番控罷在 御出被遊候節 御使者相勤候段申上ル 太義と被成下御意 但御右之方
- 一專念寺御内江和尚罷出 御右之方御会釈被遊 和尚直ニ御先へ拔玄 関方御先へ御案内申上 御臺所支配御手水差上之 惣 御位牌江御拝礼 但御一拝直ニ和尚ニ案内申上
- 一正覺院様御位牌江被遊御拝礼 座敷へ御通 御休足被遊候様和尚申上ル 此節忝所々相勤候間 重而弥無御障も珍重ニ存と被成御意 直ニ御帰 和尚以前之通御内へ罷出 被遊御会釈 座敷江御通被遊 御休足候様和尚申上候節

翻刻『大坂城代勤方條と記』(一)

くすりの道修町資料館 佐藤 敏江

中央図書館 八木 美恵

はじめに

底本は大坂府立中之島図書館蔵(四九六/七〇)一冊(十三・五×二十cm)表・裏表紙各二、本文六十八丁。

末尾に書かれた記述によると、本冊は摂津国尼崎藩第六代藩主・松平遠江守忠栄の命を受け、御側御用人・谷郷右衛門が業務上のしきたりを調査し、まとめたものである。前藩主の早世により、文政十二年(一八二九)、忠栄は急遽藩主の座に就いたが、業務についての書留が無かったため、初めて国入りするに当たって作成させたようである。本冊では、かなりの部分が大坂での業務に割かれている。その背景には、畿内において尼崎藩が担った特殊な役割が関係している。

尼崎藩は、和泉国岸和田藩とともに、幕府の西国支配の軍事拠点であった大坂城の守衛―大坂で有事の際には軍勢を引き連れて大坂入りし、大坂城を警固―の任を負っていた。そのため、両藩の藩主が畿内から同時に不在にならないように、両藩の参勤交代は組み合わされていた。また大坂城代着任の際には両藩に通知をする決まりとなっており、大坂城代の大坂城入りの儀式には畿内譜代大名のうち両藩主のみが招待された。このように、尼崎藩は岸和田藩とともに大坂城代や

在坂役人と平時から緊密な関係にあったため、本冊冒頭に「大坂御出之部」が置かれたのは必定であった。

尼崎藩主は近世を通じて大坂の火災などの異変の際に、何度も大坂入りをしている。本冊を作成した松平遠江守忠栄の場合も、幕末の動乱期にあつて、大塩平八郎の乱、大坂湾の警固など、実際に軍勢と共に大坂入りし、尼崎藩の本分である大坂城守衛という軍事的役割を果たした。

参考

「近世畿内・近国支配の構造」岩城卓二著 柏書房 二〇〇六年

「新編物語藩史」新人物往来社 一九七七年

凡例

原本の忠実な翻刻を原則とし、旧漢字はそのまま表記した。

異体字は標準の字体に改めた。但し方(より)はそのままとした。

かなの古体・変体は原則として現行の平かなを使用した。但し、江

(え)・与(と)・者(は)・茂(も)等の慣用字は、原本のままとし小字で表記した。

反復記号「ヽ」「と」等は原本の通りに表記した。

判読不能の文字は□で、確定できなかった文字 誤字 脱字 衍字等は

原本のまま翻字し、(カ)(ママ)(虫損)等、その旨傍注を付した。

活字のない文字は□にルビで表記し、()内に文字の説明を付した。

本文において朱で記された部分はそのまま朱で表記した。

編集後記

大阪府立図書館紀要第45号をお届けします。

図書館の蔵書評価については、先行事例がほとんどない中、試行錯誤を重ね、まとめたものです。蔵書数日本一を標榜する中央図書館ですが、その内容について府域図書館の御協力をいただいたうえで分析し、結果を報告できることは、意義あることと考えています。今後も府域図書館からの資料提供にかかる期待に応え、府民のニーズに結びつくサービスを提供していきたいと思えます。

大坂水帳所在目録は、江戸期の大坂の町の土地台帳ともいえる資料群を検索することができるものです。水帳を所蔵する各機関の協力を得、昭和41年刊行の「紀要第2号」以来、51年ぶりに改訂することができました。江戸期の町の様子や法秩序などを調べる方のお役に立つことを期待しています。

また、中央図書館の20年、中之島図書館での「図書館を学ぶ相互講座」年表と、図書館の活動についても報告しております。職員有志による所蔵資料の翻刻についても掲載しました。

今後とも府立図書館の充実のため、及び職員の資質向上のため、日々研鑽に励んでまいりますので、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当紀要に掲載された著作物に係る著作権は執筆者に属し、その著作の使用に関しては、大阪府立図書館は著作権者の了解を得ています。

編集委員（◎は編集長）

中之島図書館 ◎美濃部尚之 宇田田陽子 坂本弥生 辻 沙樹 袋井龍成
中央図書館 吉川逸子 山岡直子 小杉裕枝

大阪府立図書館紀要 第45号

2017年3月31日

編集・発行

大阪府立中之島図書館

〒530-0005 大阪市北区中之島1-2-10

大阪府立中央図書館

〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1

<http://www.library.pref.osaka.jp/> <無断転載を禁ずる>